

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム

令和元年度 最終事業報告書

目 次

はじめに

事業概要

事業概要	8
事業協働機関	9
五年間の事業実施計画概要	10
運営委員会等	11

地方創生教育プログラム

21

- 地方創生教育プログラムの整備と実施
- 地方創生インターンシップ、地方創生フィールドワークの実施
- 海外インターンシップの検討と促進
- 単位互換制度の検討と実施（各大学の連携の強化）
- 各大学の取組み等

産業創生・育成 / 農林水産業の競争力強化

57

- 県内企業訪問、共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業導入支援
- 産業創生・復興等のシンポジウムの開催
- COC+特別プロジェクト等による産学官連携及びフィールドワーク等
- 農林水産業の成長事業（六次産業化育成連絡会による活動）
- 各大学の取組み等

雇用創出・就職支援

105

- 雇用創出プログラムの実施と検証
 - ・ 熊本県と連携した県内就職支援
 - ・ 各大学・高専による県内就職支援等
- 各大学の取組み等
- 首都圏大学に進学した熊本県出身学生に対するUターン就職支援と検証
- COC+事業終了後の取組の取組の継続

COC+特別プロジェクト

141

- 2016年度（平成28年度）の取組み
- 2017年度（平成29年度）の取組み

はじめに

近年、我が国では、地方と首都圏の経済格差が拡大し、東京一極集中が若者の地方からの流出を招いておりますが、これらの問題解決に向けスタートした事業が文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生事業（COC+事業）」です。

ここ熊本におきましても、2015（平成27）年度より5年間の計画で、「“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム」がCOC+事業に採択され、「オール熊本COC+推進協議会」の下、熊本大学、熊本県立大学、熊本学園大学、崇城大学、東海大学、尚綱大学・尚綱短期大学部、九州看護福祉大学、熊本高等専門学校、熊本県、熊本市、熊本県工業連合会、熊本経済同友会、熊本県商工会議所連合会、熊本県商工会連合会、熊本県中小企業団体中央会、熊本県農業協同組合中央会の各機関が一致団結し、「地方課題を解決できる人材養成」、「若者に地元志向を促す教育カリキュラム開発」、「学生にとって魅力ある就職を創出するための産業創生や雇用創出」に取り組んで参りました。本報告書は、補助事業期間5年間の成果をとりまとめたものです。

本事業開始後、平成28年の熊本地震では、二度にわたり立て続けに震度7の地震が襲い、農業、製造業、観光業をはじめとする熊本地域経済が打撃を受け、熊本の抱える課題・ニーズは、震災復旧・復興にシフトしましたが、熊本地震から3年が経ち、多くの方々のご支援を受け、熊本地方の復旧・復興は、着実に前進しております。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。熊本地方COC+推進協議会におきましても、震災復興及び地域産業の振興のため、「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム」を3回開催（平成28年度～平成30年度）し、産学官を中心に多数のご参加をいただくことができ、熊本地方COC+事業への関心・期待の表れであると自負しております。

平成27年度から取り組んで参りました本事業も、令和元年度末をもって終了となり、その成果が少しずつ出始めているところですが、熊本における地方創生に向けた道のりは、多くの課題・困難があり、さらに震災によるダメージや新型コロナウイルスの影響、首都圏を含む全国的な人材不足の情勢が加わり、先は相当長いものと考えております。

本事業終了後は、これまでに得た貴重で有意義な経験を活かして、来年度以降も本事業を受け継ぐ形で同様の内容を継続的に実施していくとともに、さらなる改善を行い、発展させていく予定です。熊本創造的復興のため、今後とも皆様のご理解とご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

熊本地方COC+推進協議会議長
熊本大学長 原田 信志



事業概要

事業概要

熊本県人口ビジョン（平成 27 年 10 月報告）によると、15 歳から 34 歳までの転出超過が目立ちます。住民基本台帳年齢階層別（平成 26 年）の調査において、20 歳から 24 歳の人口移動が最も多く 1,990 人の社会減、15 歳から 19 歳では、1,754 人の社会減となっています。進学・就職等を理由に県外に転出していると考えられ、熊本の地方創生を担う若者が県外へ流出していると言えます。

熊本県の若者の流出を抑制し、能力ある若者を県内に留めるためには、雇用の受け皿としての産業振興と地元志向を促す教育が必須です。本申請では、県を代表する産業である製造業及び農林水産業の振興、並びにその施策に絡めた人材育成教育を行い、雇用創出することを目的としており、最終的には学卒者の地元定着率を 46.5%から 56.5%に引き上げることとしています。

主に県中央と県北地域の製造業を中心とした産業育成・創生事業については、熊本大学がリードし、主に県南に位置する農林水産業成長事業に関しては熊本県立大学がリードします。これらの事業は互いに強く連携し、さらに他大学・高専、自治体、企業、関係事業団体等が参加する”オール熊本”の組織の元、一致団結しながら、人材育成を行います。

構築する教育プログラムは、熊本を知るための地域志向科目、熊本を創生する地方創生科目、インターンシップ・フィールドワークなどの実践科目からなり、必要単位数の取得に加え熊本創生企画を発表する地方創生プレゼンテーションの審査に合格すれば”くまもとプレマイスター”の称号を授与します。



事業協働機関

■事業協働機関

本事業では、熊本大学を COC+大学として、“オール熊本”の組織により、県を代表する産業である製造業及び農林水産業の振興、並びにその施策を絡めた人材育成教育を行い、雇用創出を図るため、次の機関を事業協働機関として取り組みます。

○参加校

熊本県立大学、九州看護福祉大学、熊本学園大学、尚綱大学・尚綱大学短期大学部、崇城大学、東海大学、熊本高等専門学校

○参加自治体

熊本県、熊本市

○参加企業等

熊本県工業連合会、熊本経済同友会、熊本県商工会議所連合会、熊本県商工会連合会、熊本県中小企業団体中央会、熊本県農業協同組合中央会



(事業協働地域と教育連携校の位置)

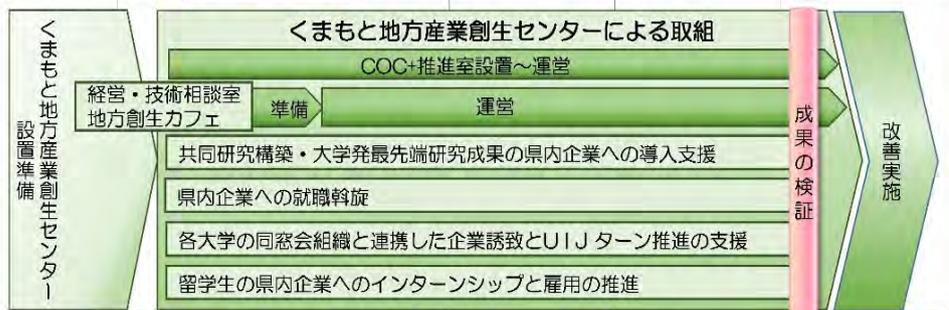
五年間の事業実施計画概要

5年間の事業実施計画の概要						
事業目標	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業協働地域就職率	46.5%	48.5%	50.5%	52.5%	54.5%	56.5%
イターアップ	1111人	1192人	1272人	1336人	1375人	1415人
寄付講座	11	11	12	13	14	14
雇用創出	0人	7人	15人	23人	31人	38人

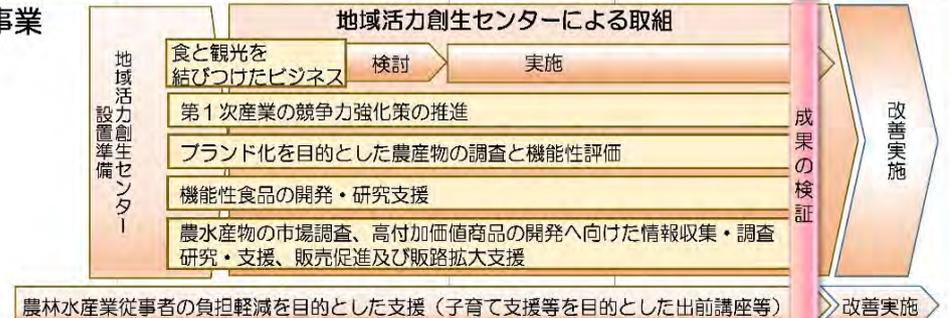
地方創生教育



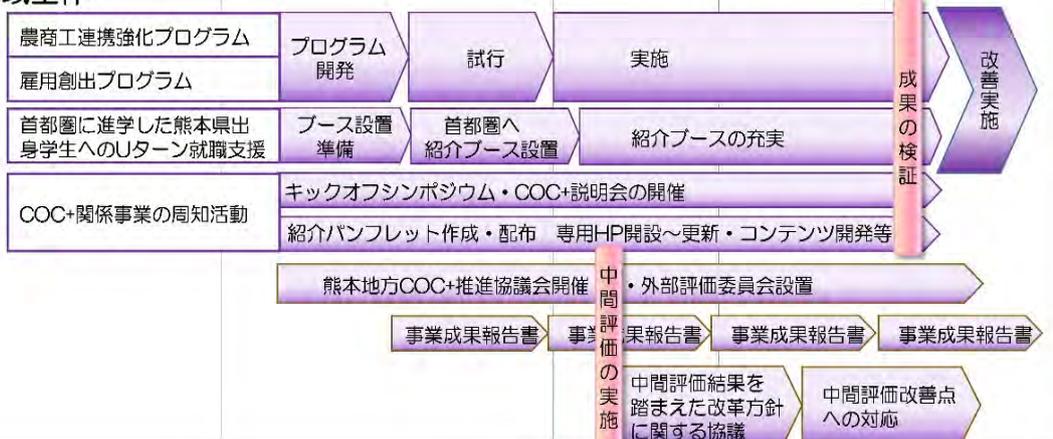
産業創生事業



農林水産業の成長事業



事業協働地域全体



運営委員会等

○熊本地方 COC+ 推進協議会企画委員会及び3部会

事業協働地域が一体となって地方創生に取り組むための協議の場として、全事業協働機関で構成する熊本地方 COC+ 推進協議会を設置します。議長は、熊本大学長が務める。

また、本事業全体にわたる企画運営の提案を行う企画委員会を設け、さらに取組を実現していくために、教育全般に関する検討を行う教育プログラム開発部会、雇用に関する雇用推進部会、産学官の共同研究等を推進する産学官連携推進部会の3つの部会を平成27年度に設置した。



○熊本地方 COC+ 推進協議会等による事業の促進および進捗管理

平成 27 年度 熊本地方 COC+推進協議会

第 1 回 平成 27 年 10 月 29 日 (木) 15:00～16:00

場所 熊本大学事務局大会議室

- ・ 熊本地方 COC+推進協議会規則について
- ・ 熊本地方 COC+推進協議会及び関係委員会等の委員選出について
- ・ 熊本県と地（知）の拠点大学による地方創生推進事業参加校との地方創生推進に関する協定の締結について
- ・ 主な事業概要及びスケジュールについて
- ・ その他

平成 28 年度 熊本地方 COC+ 推進協議会

第 1 回 平成 28 年 5 月 24 日 (水) (メール審議)

第 2 回 平成 29 年 3 月 16 日 (木)

- ・ 議題 1：平成 27 年度・平成 28 年度実績の検証について
- ・ 議題 2：平成 29 年度事業計画（案）について
- ・ 報告 1：平成 27 年度実績に係る外部有識者評価委員会の評価結果
- ・ 報告 2：平成 28 年度事業計画の進捗状況

平成 29 年度 熊本地方 COC+ 推進協議会

第 1 回 平成 28 年 3 月 8 日 (木) (メール審議)

第 2 回 平成 29 年 3 月 16 日 (金)

場所 熊本大学本部棟 1 階大会議室

- ・ COC+ 中間評価結果及び今後の改善方策について
- ・ 平成 29 年度実績の検証について
- ・ 平成 30 年度事業計画（案）について
- ・ 平成 28 年度実績に係る外部有識者評価委員会の評価結果

平成 30 年度 熊本地方 COC+推進協議会

第 1 回 平成 31 年 2 月 26 日 (火) 14:00～16:00

場所 熊本大学本部棟 1 階大会議室

議題

- (1) 平成 30 年度実績の検証について
- (2) くまもとプレマイスターの称号授与について
- (3) 平成 31 年度事業計画（案）について

報告

- (1) COC+平成 30 年度フォローアップ報告書
- (2) 平成 29 年度実績に係る外部有識者評価委員会の評価結果

令和元年度 熊本地方 COC+推進協議会（メール審議） ※新型コロナウイルスの拡大防止として

第1回 審議期間 令和2年3月6日（金）～3月13日（金）

議題

- (1) 令和元年度実績の検証について
- (2) くまもとプレマイスターの称号授与について
- (3) 熊本地方創生推進協議会の設置について
- (4) 国立研究開発法人科学技術振興機構と熊本地方創生推進協議会との平成28年熊本地震からの早期復興に向けた連携及び協力に関する協定締結について

報告

- (1) COC+令和元年度フォローアップ報告書
- (2) 平成30年度実績に係る外部有識者評価委員会の評価結果

○企画委員会および熊本大学 COC+推進室会議

平成27年度（設置・準備）

平成28年度

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 第1回 平成28年5月25日（水） | 第2回 平成28年6月29日（水） |
| 第3回 平成28年7月29日（金） | 第4回 平成28年9月21日（水） |
| 第5回 平成28年10月19日（水） | 第6回 平成28年11月25日（金） |
| 第7回 平成28年12月26日（月） | 第8回 平成29年1月25日（水） |
| 第9回 平成29年2月24日（金） | 第10回 平成29年3月15日（水） |

平成29年度（※はメール審議）

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 第1回 平成29年4月19日（水） | 第2回 平成29年5月17日（水） |
| 第3回 平成29年5月24日（水）※ | 第4回 平成29年6月21日（水） |
| 第5回 平成29年7月18日（火）※ | 第6回 平成29年8月30日（水） |
| 第7回 平成29年9月20日（水） | 第8回 平成29年10月17日（火）※ |
| 第9回 平成29年11月15日（水） | 第10回 平成29年12月20日（水） |
| 第11回 平成30年1月17日（水） | 第12回 平成30年2月21日（水） |
| 第13回 平成30年3月14日（水） | |

平成30年度（※はメール審議）

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 第1回 平成30年4月18日（水） | 第2回 平成30年5月16日（水）※ |
| 第3回 平成30年6月20日（水）※ | 第4回 平成30年7月18日（水） |
| 第5回 平成30年8月22日（水） | 第6回 平成30年9月19日（水）※ |
| 第7回 平成30年10月17日（水） | 第8回 平成30年11月21日（水） |
| 第9回 平成30年12月19日（水） | 第10回 平成31年1月16日（水） |
| 第11回 平成31年2月21日（木）※ | 第12回 平成31年3月22日（金）※ |

令和元年度

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 第1回 平成31年4月22日（月） | 第2回 令和元年6月19日（水） |
| 第3回 令和元年8月21日（水） | 第4回 令和元年10月16日（水） |
| 第5回 令和元年12月18日（水） | 第6回 令和2年2月19日（水） |

○熊本大学 COC+推進室 COC+教育委員会 (H28 年度設置)

第 1 回 平成 28 年 7 月 28 日 (木)

第 2 回 平成 28 年 12 月 9 日 (金)

○教育プログラム開発部会

平成 27 年度 (設置・準備)

平成 28 年度

第 1 回 平成 28 年 6 月 17 日 (金)

第 2 回 平成 28 年 12 月 12 日 (月)

第 3 回 平成 29 年 3 月 6 日 (月)

平成 29 年度

第 1 回 平成 29 年 4 月 21 日 (金)

第 2 回 平成 29 年 11 月 22 日 (水)

第 3 回 平成 30 年 1 月 12 日 (金)

平成 30 年度

第 1 回 平成 30 年 7 月 12 日 (木)

第 2 回 平成 31 年 2 月 1 日 (金)

令和元年度

第 1 回 令和元年 6 月 19 日 (水)

第 2 回 令和 2 年 1 月 17 日 (金)

○産学官連携推進部会

平成 27 年度 (設置・準備)

平成 28 年度

第 1 回 平成 28 年 6 月 17 日 (金)

第 2 回 平成 28 年 12 月 12 日 (月)

平成 29 年度

第 1 回 平成 29 年 6 月 9 日 (金)

第 2 回 平成 29 年 11 月 22 日 (水)

平成 30 年度

第 1 回 平成 30 年 7 月 11 日 (水)

第 2 回 平成 30 年 11 月 16 日 (金)

令和元年度

第 1 回 令和元年 6 月 10 日 (月)

第 2 回 令和 2 年 1 月 24 日 (金)

○雇用推進部会

平成 27 年度 (設置・準備)

平成 28 年度

第 1 回 平成 28 年 6 月 10 日 (金)

第 2 回 平成 28 年 11 月 25 日 (金)

平成 29 年度

第 1 回 平成 29 年 5 月 24 日 (水)

第 2 回 平成 29 年 10 月 25 日 (水)

平成 30 年度

第 1 回 平成 30 年 5 月 30 日 (水)

第 2 回 平成 30 年 11 月 9 日 (金)

令和元年度

第 1 回 平成 30 年 5 月 30 日 (水)

第 2 回 平成 30 年 11 月 9 日 (金)

○産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会（H28 年度設置）

平成 27 年度（設置・準備）

平成 28 年度

第 1 回 平成 28 年 6 月 8 日（水）

第 3 回 平成 28 年 8 月 5 日（金）

第 5 回 平成 28 年 11 月 10 日（木）

第 7 回 平成 29 年 1 月 26 日（木）

第 2 回 平成 28 年 7 月 8 日（金）

第 4 回 平成 28 年 10 月 6 日（木）

第 6 回 平成 28 年 12 月 1 日（木）

第 8 回 平成 29 年 3 月 16 日（木）

平成 29 年度

第 1 回 平成 29 年 4 月 20 日（木）

第 3 回 平成 29 年 6 月 16 日（金）

第 5 回 平成 29 年 9 月 22 日（金）

第 7 回 平成 29 年 11 月 17 日（金）

第 9 回 平成 30 年 1 月 26 日（金）

第 11 回 平成 30 年 3 月 16 日（金）

第 2 回 平成 29 年 5 月 19 日（金）

第 4 回 平成 29 年 7 月 21 日（金）

第 6 回 平成 29 年 10 月 13 日（金）

第 8 回 平成 29 年 12 月 1 日（金）

第 10 回 平成 30 年 2 月 16 日（金）

平成 30 年度（※はメール審議）

第 1 回 平成 30 年 4 月 13 日（金）

第 3 回 平成 30 年 6 月 7 日（木）

第 4 回 平成 30 年 8 月 22 日（水）※

第 6 回 平成 30 年 10 月 26 日（金）

第 2 回 平成 30 年 5 月 17 日（木）

第 3 回 平成 30 年 7 月 19 日（木）

第 5 回 平成 30 年 9 月 28 日（木）

令和元年度

第 1 回 令和元年 6 月 5 日（水）

第 2 回 令和元年 10 月 4 日（金）

OCOC+外部有識者評価委員会

平成 28 年度（平成 27 年度実績に係る熊本地方 COC+推進協議会外部有識者評価委員会）

○日 時：平成 28 年 12 月 16 日（金）

○委員長：熊本保健科学大学長 崎元達郎 氏

○委 員：八代市政策審議監 波村多門 氏

九州経済産業局地域経済部地域経済課長 知識芳秀 氏

熊本日日新聞社常務取締役 浜田浩生 氏

鹿児島大学産学官連携推進センター長 福島誠治 氏

○総合評価結果

A（全会一致）：「計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」

平成 29 年度（平成 28 年度実績に係る外部有識者評価委員会）

日 時：平成 29 年 11 月 13 日（月）13:00 ～ 15:00

場 所：熊本大学イノベーション推進機構会議室

委員長：熊本保健科学大学長 崎元達郎 氏

委 員：八代市政策審議監 波村多門 氏

九州経済産業局地域経済部地域経済課長 知識芳秀 氏

熊本日日新聞社業務顧問 浜田浩生 氏

鹿児島大学理工学研究科教授 福島誠治 氏

総合評価結果

A（全会一致）：「計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」

総合評価結果「A」を頂いたが、各委員のご意見等から本事業の取組みについて適宜見直し、改善させながら進める。

平成 30 年度（平成 29 年度実績に係る外部評価結果）

日 時 平成 30 年 8 月 27 日（月） 13:00～15:00

場 所 熊本大学共用棟黒髪 1 の 3 階 大会議室

委員長：熊本保健科学大学長 崎元 達郎 氏

委 員：九州経済産業局地域経済課長 福島 裕幸 氏

熊本日日新聞社論説・編集顧問 田端 洋昭 氏

鹿児島大学理工学研究科教授 福島 誠治 氏

○総合評価結果

A（全会一致）：「計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」

令和元年度（平成 30 年度実績に係る外部有識者評価委員会）

日 時：令和元年 7 月 1 0 日（水） 1 3：0 0～1 5：0 0

場 所：熊本大学共用棟黒髪 1 の 3 階 大会議室

委員長：熊本保健科学大学長 崎元 達郎 氏

委 員：九州経済産業局地域経済課長 福島 裕幸 氏

熊本日日新聞社論説・編集顧問 田端 洋昭 氏

鹿児島大学理工学研究科教授 福島 誠治 氏

○総合評価結果

A（全会一致）：「計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」

○キックオフシンポジウム

地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）

“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム

平成 2 7 年 1 1 月に、文部科学省平成 2 7 年度大学教育再生戦略推進費「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」への採択を受け、「地方創生を推進する大学の新しい取り組み」を発信するために、事業協働機関の団結式をかねて「～くまもと地方産業創生センター設置～“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム（COC+）キックオフシンポジウム」を開催しました。

文部科学省高等教育局 大学改革官 山口良文氏及び熊本県副知事村田信一氏による挨拶に続いて、株式会社日経 BP 特命編集委員 宮田満氏による「地方創生とイノベーション」と題した特別講演や「地方創生における教育機関の役割」をテーマにパネルディスカッションが行われ、COC+に参加する 7 大学の学長及び高専校長がパネリストとして登壇し、活発に意見を交わしました。

当日は大学関係者、学生及び一般市民など約 200 名が参加し、「くまモン」も登場して、COC+について、クイズ形式で理解を深めるコーナーもあり、シンポジウムは盛会のうちに幕を閉じました。

日時：平成 2 7 年 1 1 月 4 日（水）

会場：くまもと県民交流館パレア

共催：一般社団法人国立大学協会



団結式で握手を交わす事業協働機関代表者

<プログラム>

1. 開会挨拶 原田 信志（熊本大学長）
2. 挨拶 山口 良文氏（文部科学省高等教育局大学改革官）
3. 来賓紹介及び団結式
4. 来賓代表挨拶 村田 信一氏（熊本県副知事）
5. 事業概要説明 松本 泰道（熊本大学理事・副学長、くまもと地方産業創生センター長）

6. 特別講演 宮田 満氏 (株式会社日経 BP 特命編集委員)
7. くまモン登場
8. COC+参加校代表挨拶 古賀 実氏 (熊本県立大学長)
9. パネルディスカッション (熊本大学及び COC+参加校の学長等)
10. 閉会挨拶: 松本 泰道 (同上)



パネルディスカッション



COC+事業広報

企業訪問、フォーラム、シンポジウム等の際に、COC+ 事業の説明や普及活動をおこなった。

また、本事業のホームページ、Facebook や Instagram などのコンテンツと連携させ、取組みに関するイベントなどの情報更新をおこなった。



学生のみならずへ



企業とつながる



ひろがるCOC+

くまもと COC+ の専用ホームページ

<http://www.kumamoto-cocplus.jp/>



くまもと COC + FaceBook

<https://www.facebook.com/kumamotoCOCplus/>

熊本地方 COC+最終事業報告



募集中のイベント

平成32年春卒業予定者に係る地域企業説明会（技術系）

就職情報の提供（技術系） 熊本県内への就職を希望するみなさんへ、熊本県内魅力的な事業所の企業情報の提供・説明をおこないま

一覧はこちら ▶

登録のはこちら

地方創生プログラム登録フォーム (COC+)

修了証発行の際には、地方創生プログラム (COC+) 修了の要件を満たしたことを承認するため、熊本大学くまもと地方産業創生

声を寄せる

本取組組みに対する、地域の皆さまの声を募集しております。

募集中のアンケート

募集中のアンケートはこちら

↑くまもと COC + kikiyuru
<https://kikiyuru.kumamoto-u.ac.jp/cocplus/>



↑ 地方創生プログラム (COC+) 履修の手引き 2017~2019

← 地方創生プログラム (COC+) 履修の手引き 2020~

地方創生教育プログラム

地方創生教育プログラム

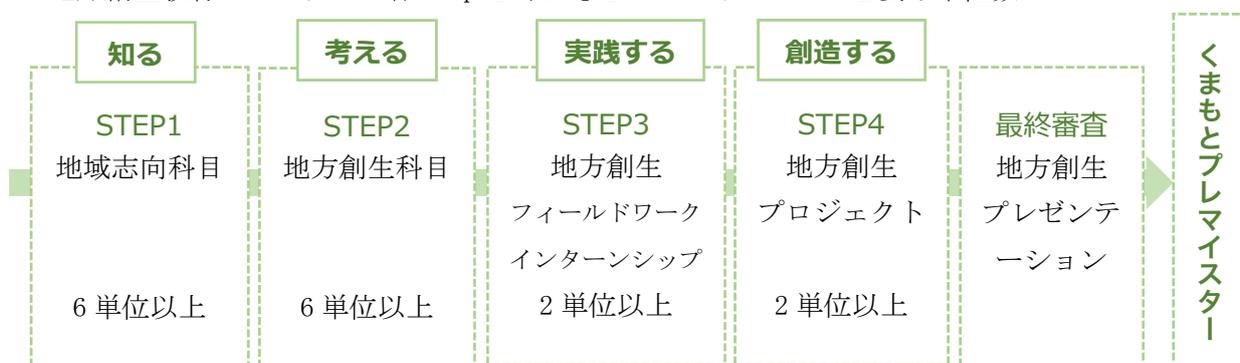
COC+事業期間中の主な計画

- ・地方創生教育プログラムの整備と実施
…地方創生インターンシップ、地方創生フィールドワークの実施
- ・海外インターンシップの検討と促進
- ・単位互換制度の検討と実施（各大学の連携の強化）

1. 地方創生教育プログラムの実施

①各大学・高専の教育プログラムの整備状況

地方創生教育プログラムの各 Step とくまもとプレマイスターに必要な単位数



COC+大学・COC+参加大学・高専の地方創生教育プログラムは平成 30 年度に整備を完了した。令和元年度の各 STEP の指定科目数は下記の表の通り。また、総延べ履修者数も下記の表の通りで多くの学生が履修した。

	STEP1	STEP2	STEP3	STEP4	総延べ履修者数(人)
熊本大学	40 科目	64 科目	35 科目	1 科目	31,615
熊本県立大学	ポイント制による「もやいすと評価制度」を実施 プレマイスターへと接続する仕組みを整備				16,759
熊本学園大学	48 科目	84 科目	55 科目		4,120
崇城大学	3 科目	3 科目	4 科目	5 科目	4,484
東海大学	12 科目	18 科目	2 科目	16 科目	5,458
尚綱大学	16 科目	20 科目	8 科目	4 科目	540
九州看護福祉大学	5 科目	6 科目	26 科目	4 科目	2,500
熊本高等専門学校	3 科目	7 科目	2 科目	1 科目	862

・各大学・高専の地方創生教育プログラム（COC+教育プログラム）の内容と特徴

【熊本大学】

既存科目（教養と専門）を中心に各 Step の対象科目を選定し、目的に合わせた新規科目を立ち上げるなど、下記の step1～step4 について、学生の知識や能力の育成のための教育プログラムを構成した。

Step1：地元の魅力や特徴について幅広い知識を深める科目群
（地元定着に向けた住む場所となる環境について知る）

Step2：自身の専門科目の中で社会との関わりのある科目、さらに地元企業等から講師を招聘し最先端の取組みについて学ぶ科目群（新規科目「地方創生実践論 1、2」及び「地方創生企業戦略論 1、2」に関しては、学生の地元志向を高めるため、多分野の地元企業人を講師として招聘した。）

Step3：インターン科目、フィールド科目では実際の地域課題などをテーマとして扱い、実践的な能力を養い、経験を蓄積する実践科目群

Step4：これまでの知識や経験を基に総合的な能力の向上を目指す科目

【熊本県立大学】

既に COC 事業で構築がスタートしていた「もやいすと育成システム」との整合性を取り、一貫性のあるカリキュラムとすること。そのために、ポイント制による「もやいすと評価制度」を開始、プレマイスターへと接続する仕組みを整えた。その他、地域志向科目及び地方創生科目に関し、学内での議論を経て明文化した定義を定め、毎年シラバス作成時に教員がチェックする仕組みを整えることで、カリキュラムの質が継続的に担保されるようにした。

【熊本学園大学】

○すべての学部学科の学生が履修できるように COC+教育プログラムを編成した。

○既存科目の中から各 STEP の対象科目を選定した。STEP 1 から STEP 4 について COC+事業の目的に沿った内容の科目を選定した。

○平成 28 年度以降の入学生を対象とし、年次進行で STEP 1 から STEP 4 へ対象科目の履修を段階的に行うこととした。（STEP 1：1 年次、STEP 2：2 年次、STEP 3/4：3・4 年次）

【崇城大学】

平成 28 年 3 月に作成した COC+教育プログラムは、30 年度から全学的にカリキュラムを改訂し、さらに 31 年度からは SOJO プロジェクト科目群を新設した。この科目群では、PBL 型講義・実習を多く導入し、特に 3 年次には地域社会・企業から課題を提供していただき、教養科目や専門科目で修得した知識・技術を主体的に利用して、課題を解決することを試み、プレゼンテーションを行った。この科目群の中で「熊本を知り、熊本で生きるための課題に挑戦し、熊本を創生していく」経験を培うことで、COC+に寄与してきたと考えている。令和 2 年度までは、ステップ毎に次の内容を目標としている。

STEP 1	地域試行科目群「熊本を知る」	STEP 2	地方創生科目群「熊本を創生する」
STEP 3	実践科目「熊本で生きる・実践する」	STEP 4	地域創生プロジェクト

【東海大学】

2018年度入学生より、カリキュラム改訂を実施した。今回のカリキュラム改訂のコンセプトは東海大学P A型教育（パブリックアチーブメント）の教育方針の展開である。このP A科目は、1990年代のアメリカで開発された新しい市民性教育（シティズンシップ教育）であり、公的課題の解決を目的として教育機関と地域が連携してアプローチするという方法を取っている。この教育姿勢を本学に導入する背景として、「社会の構成員である自覚」を持たせ「社会と係わろうとする自発的な意識の熟成」を目指すものである。

このカリキュラム改訂に合致する科目として、「シティズンシップ（必修・1単位）」、「ボランティア（必修1・単位）」、「地域理解（必修・1単位）」、「国際理解（必修・1単位）」がある。これらをプレマイスターの科目に配置することで、全学的に取得に対して門戸が開かれたことになり、また本制度の趣旨との合致も図れる。また、他の科目においても他学部・他学科の垣根を外したことにより、多くの学生に対して履修の機会を与える事が出来ることとなった。

【尚綱大学】

○文化言語学部（平成27年度～平成30年度）

1. 文化言語学部の学生を主な対象として、教養科目から専門科目に至るまで幅広い科目を設定した。また、低年次科目では必修科目を対象とすることで、入学後の早い時期から地域社会・熊本への関心を高める科目を受講できるよう編成を工夫した。
2. 既存の科目のうちでとくに熊本に関する知識や実践的な学修方法を取り入れている科目を中心に、新規科目も配置した。

Step1(地域志向科目)：必修科目である「熊本学」をはじめ、熊本の文化・言語及び地域社会の現状について基礎的な知識を学ぶ科目群。

Step2(地域創生科目群)：「地域振興論」や「地域政策論」などの地域社会の現状と課題について理論的に学ぶとともに、「熊本国際交流史」など熊本の文化や歴史について多角的に学ぶ科目群。

Step3(実践科目群)：「地域プロジェクトワーク」など、近隣自治体や公的団体・民間企業と連携して実践的な課題解決に取り組む科目群。

Step4(地方創生プロジェクト)：ここまで学修した知識と実践的授業(サービスマーケティング)の経験、また語学力を生かして総合力を向上させる科目。

○現代文化学部（平成30年度～）

1. 平成30年度より文化言語学部から改組された新設の「現代文化学部」についても、新しい教育プログラムを編成した。専門領域として設定された「観光文化」や「日本・東アジア社会文化」の専門科目を中心として、地域社会・熊本の魅力と可能性を探求し、熊本と世界との関係に関心を持てるプログラム編成となっている。
2. 既存の科目で、熊本をテーマとする科目をはじめ、熊本の事例を取り上げる科目や実践的な学修方法を取り入れている科目を中心に配置した。

Step1(地域志向科目)：「観光文化学入門」や「熊本の文化Ⅰ・Ⅱ」など、熊本の文化や地域社会の現状について基礎的な知識を学ぶ科目群。

Step2(地域創生科目群)：「観光産業論」や「コンテンツ・ツーリズム論」などの観光文化領域の科目を中心に編成し、熊本の文化や歴史についても多角的に学んで地域の魅力を

探求する科目群。

Step3 (実践科目群) : 「課題探求プロジェクト演習 I」、「観光実務」など近隣自治体や公的団体・民間企業と連携して実践的な課題解決に取り組む科目群。

Step4 (地方創生プロジェクト) : 「地域マネジメント研修 I」など、ここまで学修した知識と実践的授業の経験、また語学力を生かして総合力を向上させる科目。

前述のとおり、現代文化学部の地方創生教育プログラム関連の科目に加え、令和元年度より、熊本学、日本伝統文化入門を全学共通教養科目として全学へ展開した。

【九州看護福祉大学】

○保健・医療・福祉分野の専門性の習得と多職種との連携、協働についての理解

Step1 : 地域の魅力や特徴について幅広い知識を深める科目 (地域を知る、地域で学ぶ)

Step2 : 多職種協働の実際について学ぶ (各分野の特別講師による講義・演習 (医師・保健師・訪問看護師・訪問薬剤師・管理栄養士・特老施設長・介護福祉士・弁護士))

Step3 : フィールドワーク (臨地実習科目)

Step4 : これまでの知識や経験を基に総合的な能力の向上を目指す科目

【熊本高等専門学校】

○高等専門学校の特徴を考慮しつつ、できるだけ多くの学生が受講できるように COC+教育プログラムを編成した。

○既存科目 (教養と専門) から各 Step の対象科目を選定し、以下の Step1~Step4 について学生の知識や能力の育成のための教育プログラムを構成した。

Step1 : 地元の魅力や特徴について基礎知識を得る科目群 (本科 (大学の学部 2 年までに相当) の全学生が対象)

Step2 : 自身の専門科目の中で社会との関わりのある科目群 (専攻科 (大学の学部 4 年までに相当) の全学生が対象)

Step3 : 実践的な能力を養い、経験を蓄積する実践科目群 (専攻科の一部学生が対象)

Step4 : 地場企業との共同研究等により総合的な能力の向上を目指す科目 (専攻科の一部学生が対象)

②くまもとプレマイスターについて

くまもとプレマイスター修了者は下記のとおり。同年度の熊本地方 COC+推進協議会にて正式に授与者を認定する。修了書は右図。

平成 29 年度

熊本大学：1 名

平成 30 年度

熊本大学：2 名、熊本県立大学：2 名

令和元年度

熊本大学：2 名、熊本県立大学：3 名、尚綱大学：4 名



2. 地方創生インターンシップ、地方創生フィールドワークの実施

○地方創生インターンシップ・地方創生フィールドワークの科目数及び履修者数

地方創生インターンシップ・地方創生フィールドワークは STEP3 にあたるため、平成 29 年度に整備完了し、平成 30 年度から履修が始まった。熊本大学では、平成 28 年度に整備し、平成 29 年度から履修が始まった。

■平成 29 年度

【熊本大学】・・・36 科目 履修者 1,127 人

■平成 30 年度

【熊本大学】・・・37 科目 履修者数 1,008 人

【熊本県立大学】・・・「もやいすと認定制度」と連携して実施

【熊本学園大学】・・・55 科目 履修者数 1,120 人

【崇城大学】・・・4 科目 履修者数 993 人

【東海大学】・・・2 科目 履修者数 49 人

【尚綱大学】・・・8 科目 履修者数 37 人

(※4 科目は 3 年次開講予定のため H30 は未開講)

【九州看護福祉大学】・・・26 科目 履修者数 1,326 人

【熊本高等専門学校】・・・2 科目 履修者数 126 人

■令和元年度

【熊本大学】・・・36 科目 履修者数 1,329 人

【熊本県立大学】・・・「もやいすと育成システム」と連携して実施

【熊本学園大学】・・・55 科目 履修者数 1,612 人

【崇城大学】・・・4 科目 履修者数 1,260 人

【東海大学】・・・2 科目 履修者数 38 人

【尚綱大学】・・・4 科目 履修者数 116 人

【九州看護福祉大学】・・・26 科目 履修者数 1,538 人

【熊本高等専門学校】・・・2 科目 履修者数 172 人

○事業協働機関へのインターンシップ参加者数

平成30年度の学部・高専生の事業協働機関インターンシップ参加者数は、事業全体では1,341名となり、事業開始後、最多となった。学校別【下表参照】では、COC+大学を中心に着実に増加している。（令和元年度の集計は令和2年度に実施予定）

【表. 事業協働機関へのインターンシップ参加者数（学校別）】

単位：人	熊本大	熊本 県立大	九州看護 福祉大	熊本学園 大	尚綱大・ 尚綱短大	崇城大	東海大	熊本 高専	全 体
26年度	172	215	136	290	65	85	48	100	1,111
27年度	164	187	145	279	57	68	25	71	996
28年度	341	227	114	250	58	93	5	78	1,166
29年度	443	155	92	214	118	67	71	53	1,213
30年度	516	156	114	235	153	64	38	65	1,341

3. 海外インターンシップの検討と促進

■平成27年度

平成27年度は初年度でもあり、海外インターンシップは、国内インターンシップの整備を優先させるため、方針についてのみ検討するにとどまった。具体的な検討事項については来年度実施していくこととした。

■平成28年度

平成28年度では、海外インターンシップの検討・準備を行った。

- ① 海外インターンシップ先の開拓を進めた。
- ② 平成28年度トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム「地域人材コース」派遣留学帰国者（熊本大学法学部3年）に対し、留学動機や活動内容等を調査し、情報収集を行った。

■平成29年度

①（株）杉養蜂園との連携

熊本大学 COC+学長特別補佐及び COC+推進コーディネーターが、（株）杉養蜂園を訪問し、COC+登録学生の海外派遣を依頼した。同社は、熊本大学グローバル教育カレッジ学生への海外インターンシップ（香港 Food Expo）も実施しており、COC+登録学生も併せて、平成30年度のインターンシップ実施計画を検討されている状況。

②トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースとの連携

熊本県担当者と熊大 COC+関係者で協議を実施し、トビタテも COC+も地元定着の目標は共通しているため、COC+卒の創出までは行かずとも、COC+教育プログラムの履修学生が、トビタテ！留学 JAPAN 地域人材コースに積極応募するよう、計画書作成等を含め、COC+推進コーディネーター等が支援することとした。

■平成 30 年度

○トビタテ！留学 JAPAN「地域人材コース」との連携

平成 30 年度後期（第 9 期）熊本県の「地域人材コース」（「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成事業）の学生募集概要については以下の通り。

1. 地域人材コースの概要：アジア諸国をはじめとする世界各国と熊本とのつながりの促進・強化を目指し、新たな産業の創出や販路開拓による国際競争力の向上、さらには国際交流の更なる促進と拡大を目的とした、実践型海外留学と地元企業でのインターンシップを組み合わせた留学プログラムを支援する。
2. 支援する留学プログラム
 - (1)熊本と上海をつなぐ“ビジネスマッチングプロジェクト”
 - (2)熊本と中国をつなぐ“観光客増大プロジェクト”
 - (3)熊本とマレーシアをつなぐ“熊本良品販路拡大プロジェクト”
 - (4)熊本と韓国をつなぐ“観光客増大プロジェクト”
 - (5)熊本と台湾・高雄市をつなぐ“交流促進プロジェクト”
 - (6)熊本と香港をつなぐ“熊本良品販路開拓プロジェクト”
 - (7)熊本と欧米をつなぐ“交流促進プロジェクト”
 - (8)新たな産業の創出や販路開拓による国際競争力の向上、国際交流の更なる促進と拡大につなげる学生オリジナルのプロジェクト

※平成 30 年度トビタテ留学 JAPAN「地域人材コース」の派遣留学生は 8 名であった。

熊本県立大学：1 名、熊本大学：5 名、尚絅大学 2 名

■令和元年度

○トビタテ！留学 JAPAN「地域人材コース」との連携

令和元年度熊本県の「地域人材コース」（「熊本と世界をつなぐ」グローバル人材育成事業）の学生募集概要については以下の通り。

1. 地域人材コースの概要：世界と熊本とのつながりを促進・強化し、新たな産業の創出や販路開拓による国際競争力の向上、さらには国際交流の更なる促進と拡大を目指した、実践的な海外留学と地元でのインターンシップを組み合わせた留学プログラムを支援。
2. 支援する留学プログラム
 - (1)熊本と上海をつなぐ“ビジネスマッチングプロジェクト”
 - (2)熊本と中国をつなぐ“観光客増大プロジェクト”
 - (3)熊本とマレーシアをつなぐ“熊本良品販路拡大プロジェクト”
 - (4)熊本と韓国をつなぐ“観光客増大プロジェクト”
 - (5)熊本と台湾・高雄市をつなぐ“交流促進プロジェクト”
 - (6)熊本と香港をつなぐ“熊本良品販路開拓プロジェクト”
 - (7)熊本と欧米をつなぐ“交流促進プロジェクト”
 - (8)新たな産業の創出や販路開拓による国際競争力の向上、国際交流の更なる促進と拡大につなげる学生オリジナルのプロジェクト

※令和元年度トビタテ留学 JAPAN「地域人材コース」の派遣留学生は 5 名であった。

熊本大学：1 名、熊本県立大学 2 名、崇城大学 1 名、熊本高専 1 名

4. 単位互換制度の検討と実施（各大学の連携の強化）

■平成 27 年度

熊本地方 COC+推進協議会、教育プログラム開発部会及び熊本大学 COC+推進室会議にて、単位互換制度構築のため、一般市民及び学生が参加できるような「地方創生公開講座」を単位取得できる科目として準備し、COC+大学及び COC+参加校で単位互換の可能性について協議した。

■平成 28 年度

事業協働機関による教育プログラム開発部会などで単位互換制度について協議し、本事業計画の実施・運用に向け、必要に応じた制度案の構築に向け準備する。

- ① COC+校が、参加校を訪問し、単位互換制度の導入可能性等についてヒアリングを実施。
- ②次のとおり、協議及び単位互換制度（案）の構築準備を行った。（教育プログラム開発部会（平成 29 年 3 月 6 日開催）及び企画委員会（平成 29 年 3 月 15 日開催）了承内容）
 - ・ 各校は、平成 29 年度第 1 回教育プログラム開発部会の開催（4 月）までに、COC+科目のうちから、他大学等に無料で開放可能な科目候補を提供すること。（1 科目でも可。提供困難な場合は、その旨連絡）
 - ・ 上記科目候補を元に、まずは、単位認定がない無料聴講科目として、検討・整備を進めていき、各校で受け入れ可能な無料聴講科目を「単位互換制度の試行科目」と位置付けること。
 - ・ なお、単位互換制度の試行科目は、4 月～5 月中旬に検討・整備を進めること。
 - ・ 無料聴講受け入れのため、各校での条件の整理が必要であるため、秋学期（後期）からの COC+無料聴講科目の導入を視野に検討していくこと。
 - ・ 各校から提供され、各校内でもコンセンサスを得られた COC+無料聴講科目については、各校において周知し、学生の受講希望があった場合は、提供元の大学等へ参加学生の情報を連絡するとともに、科目受講できるよう支援すること。
 - ・ COC+無料聴講科目の導入を進めながら、単位互換についても可能な科目は、平成 30 年度の単位互換制度の実施に向け、平成 29 年度に準備を進めていくこと。
 - ・ 単位互換協定などの必要な手続きについては、平成 29 年度中に完了を目指し、平成 30 年度の「単位互換制度の実施」を目標に COC+事業を推進していくこと。
 - ・ 以上の無料聴講制度及び単位互換制度は、全大学・高専間で行うものではなく、対応可能な大学等間で進めていくこと。

③平成 28 年度検討結果

【熊本大学】

- ・ 第 2 タームの「地方創生実践論 1」及び「地方創生企業戦略論 1」並びに第 3 タームの「地方創生実践論 2」及び「地方創生企業戦略論 2」の 4 科目を無料聴講科目として開放する。

【熊本県立大学】

- ・ 熊本大学法学部、熊本県立大学総合管理学部及び熊本学園大学商学部・経済学部の単位互換協定が既にあるため、これを活用する予定。

熊本地方 COC+最終事業報告(教育プログラム開発部会)

【尚絅大学・尚絅大学短期大学部】

- ・「課題探求プロジェクト演習」、「東アジア近代史」及び「熊本国際交流史」の3科目が無料開放可能である。(ただし、「東アジア近代史」及び「熊本国際交流史」は29年度不開講)
- ・なお、女子大であるため女子学生限定とする。

【熊本学園大学】

- ・熊本大学法学部、熊本県立大学総合管理学部及び熊本学園大学商学部・経済学部の単位互換協定が既にあるため、これを活用する予定。

【東海大学】

- ・単位互換制度については、議論中。

【熊本高等専門学校】

- ・「企業家と社会」(前期)が無料開放可能。(ただし、現状では委員の私案状況)

■平成 29 年度

○無料聴講科目の実施

熊本大学の STEP2 「地方創生実践論 1」「地方創生実践論 2」を無料聴講科目として、COC+参加校に開放した。



■平成 30 年度

「地域の魅力発掘プロジェクト」熊本大学×熊本学園大学 (COC+特別プロジェクト) 大学間の連携や今後の単位互換の試行を含め、熊本大学及び熊本学園大学において、教育プログラムを実施した。また、本プロジェクトは、COC+事業特別プロジェクトの採択を受け実施した。KNT-C Tホールディングス株から講師を招聘し、観光資源の抽出、商品企画の考え方等の講義から学び、熊本市内及び阿蘇地域でのフィールドワークとワークショップを行った。地域の魅力の発掘など具体的な旅行商品企画案を作成した。



最終成果物 地域の魅力発掘の企画ポスター

■平成29年度～令和元年度

○三大学単位互換協定の活用

三大学単位互換に関する連絡会議にて、熊本大学法学部、熊本県立大学総合管理学部、熊本学園大学商学部・経済学部の3大学学部間単位互換協定の科目のうち、COC+ 科目を、COC+ 教育プログラムの単位互換科目に指定し、実施した。

(平成29年度～令和元年度単位互換科目一覧表)

熊本大学提供の COC+ 単位互換科目		熊本県立大学提供の COC+ 単位互換科目		熊本学園大学商学部提供の COC+ 単位互換科目	
熊本県立大学 総合管理学部	「法社会学Ⅰ」	熊本大学 法学部	「参加・協働論」 「経営組織論」	熊本大学 法学部	「マーケティング論Ⅰ」
熊本学園大学 商学部	「行政過程論Ⅰ」	熊本学園大学 商学部	「参加・協働論」		「マーケティング論Ⅱ」
熊本学園大学 経済学部	「行政過程論Ⅰ」	熊本学園大学 経済学部	「参加・協働論」		「商業論Ⅰ」 「商業論Ⅱ」

5. 参加校のこれまでの地方創生教育の取組みと特徴的な取組

■平成27年度

熊本大学

地方創生セミナーの開催

くまもと地方産業創生センター主催で、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」地方創生公開講座 Inspire セミナー「県内中小企業の創業者・社長の生き様に学ぶ」を開催した。参加者：学内21名、学外24名



地方創生セミナー開催の様子



地方創生セミナー リーフレット

■平成 28 年度

熊本大学

地方創生教育プログラムの整備・試行

平成 27 年度より準備を進めてきた地方創生プログラムの整備について、29 年度に本格実施できるよう継続して取り組む。また、準備が整った地方創生教育プログラムの一部を試行する。

STEP1～STEP4 の地方創生教育プログラムの整備を進めた。

STEP1：地域志向科目について

- ① 地域を題材として扱う内容や、身近な生活について考える科目などを平成 29 年度版地域志向科目として、教養教育に 36 科目整備した。
- ② COC+担当教員が実施する科目として、学際科目 2「地方創生文化論」（第 1 ターム）を COC+として科目新設した。
- ③ 全学必修科目の「肥後熊本学」について、平成 28 年度に試行的に 4 クラス実施した。平成 29 年度の本格実施に向け準備を進め、年度末に 6 分野 12 テーマとして 12 クラスの準備を完了させた。
- ④ 教養教育科目の見直しやターム制の導入に伴い、平成 28 年度と平成 29 年度の実施科目が変更となった。その中で、平成 28 年度に開講している地域志向科目（STEP1）が平成 29 年度も開講するか否かを確認し、さらに新たに開講する科目の中で、該当する科目の有無を確認し、35 科目（平成 29 年度開講科目）を整えた。
- ⑤ 平成 27 年度に準備・整備した地域志向科目について、平成 28 年度履修者は、延べ 3,507 人、1 科目平均 103 人（34 科目）であった。
- ⑥ ステップ修了ごとに修了証書を発行することとし、平成 28 年度は、ステップ 1 修了者 287 名に修了証を発行することとした。



“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム

地域志向科目一覧（平成28年度に準備・整備及び平成29年度に実施）

カテゴリ	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業テーマ	授業科目名
熊本の歴史、文化、産業、医療、環境といった広範な現代社会の諸課題への理解を深める	1	第1ターム	火	4	1	熊本の芸術文化	肥後熊本学
	1	第1ターム	木	4	1	水俣病の社会史：水俣病を知っていますか	肥後熊本学
	1	第1ターム	金	4	1	医療と社会－医療における情報共有と個人情報・遺伝子情報－	肥後熊本学
	1	第2ターム	水	4	1	自然：植物(薬科学)「蕃滋園・伝統野菜・本草学」	肥後熊本学
	1	第2ターム	木	4	1	幕末維新熊本人物列伝	肥後熊本学
	1	第3ターム	水	3	1	ハンセン病差別とその克服に向けて	肥後熊本学
	1	第3ターム	木	4	1	夏目漱石とラフカディオハーン	肥後熊本学
	1	第3ターム	金	4	1	永青文庫の史料にみる戦国・近世初期の肥後熊本	肥後熊本学
	1	第4ターム	火	4	1	熊本の水環境	肥後熊本学
	1	第4ターム	火	3	1	まちづくりと地域課題を知る	肥後熊本学
	1	第4ターム	水	3	1	希少野生動植物	肥後熊本学
1	第4ターム	水	3	1	自然災害(科学と技術)	肥後熊本学	
地域のまちづくりについて学び・考える	1	前期	木	4	2	減災リテラシー入門	持続可能な都市と地域づくりA
	1	第2ターム	月・木	5	2	都市まちづくり学入門	地域づくりと科学技術A
	1	後期	月	4	2	認知症になっても安心して暮らせるまちづくり入門	心身の健康と看護C
	1	後期	金	5	2	社会参加とはどのようなことか	キャリア科目4
	1	第3ターム	火・金	5	2	まちの基盤づくり	持続可能な都市と地域づくりB
地域の歴史・文化について学び・考え	1	前期	金	4	2	五高と近代日本	地域づくりと科学技術F
	1	第1ターム	月	3	1	地方創生文化論	学際科目2
	1	第1ターム	木	5	1	熊本の伝説を探る1	最前線の社会文化研究g
	1	第2ターム	木	5	1	熊本の伝説を探る2	最前線の社会文化研究h
	1	後期	月	5	2	映像・博物館人類学の現在	最前線の社会文化研究A
	1	後期	金	5	2	芸術文化考	芸術への招待C
	1	第4ターム	木	3	1	世界遺産の社会学(続)	最前線の社会文化研究f
	1	第4ターム	火・金	3	2	日本建築を歴史的にみる	地域づくりと科学技術C
自然環境と地域の暮らしについて学び・考える	1	第1ターム	月	3	1	火山を究める(1)	地球環境科学の最前線g
	1	第1ターム	月・木	3	2	現代日本の地域構造と地域問題	自然と人間の地理学A
	1	第2ターム	月	3	1	火山を究める(2)	地球環境科学の最前線h
	1	後期	金	3	2	生活と教育	現代教育について考えるB
	1	第3ターム	水	3, 4	2	環境と化学物質	化学と環境C
	1	第3ターム	木	3, 4	1	実験で知る青い惑星 その1	地球環境科学の最前線c
	1	第4ターム	木	3, 4	1	実験で知る青い惑星 その2	地球環境科学の最前線d
地域の身近な生活の中の技術について学び・考える	1	第1ターム	火	3, 4	2	福祉住環境コーディネーター	豊かさを持続させるものづくりB
	1	第1ターム	火・金	5	1	暮らしの中の化学	ものづくりの科学と技術G
	1	第2ターム	火	3, 4	2	新技術開発史	ものづくりの科学と技術B
	1	第3ターム	火・金	3	2	身近な科学技術がわかる基礎化学	ものづくりの科学と技術F
地域問題と事例から社会や技術について学び・考える	1	前期	火	5	2	熊日 新聞制作講座	キャリア科目1
	1	前期	金	4	2	現代社会と地域医療－医療現場からのメッセージ	現代社会と医学B
	1	第1ターム	木	3, 4	2	人間と環境	自然と人間の地理学B
	1	第1ターム	木	4, 5	1	熊本地震1年後の被災地を歩く	自然と人間の地理学C
	1	第1ターム	金	4, 5	2	生活に関わる環境・資源・地域力	地域づくりと科学技術B
	1	第2ターム	月	4	1	人権と性を考える	現代世界の形成と課題a
	1	第2ターム	水	3	1	ポランディア論	キャリア科目52
	1	第2ターム	水	4	1	ジャーナリズム論・世界の水銀問題と水俣条約	現代政治の諸相c
	1	後期	火	4	2	女性と職業	キャリア科目3
	1	第3ターム	月	4	1	ハンセン病講座	現代世界の形成と課題b
	1	第3ターム	水	4	1	ジャーナリズム論・九州グローバル化の課題	現代政治の諸相d

STEP2：地方創生科目について

- ① 地方創生科目として平成 29 年度の実施にむけ、教養教育・専門科目を合わせ 67 科目準備・整備した。
- ② 以下 5 科目について、COC+担当教員が実施する科目として教養教育に新設した。
 - キャリア科目 54「地方創生実践論 1」第 2 ターム
 - キャリア科目 55「地方創生実践論 2」第 3 ターム
 - キャリア科目 56「地方創生企業戦略論 1」第 2 ターム
 - キャリア科目 57「地方創生企業戦略論 2」第 3 ターム
 - キャリア科目 58「地方創生未来発明入門」第 2 ターム
- ③ 地方創生公開講座（平成 28 年度 6 月～2 月）を計 12 回実施した。その内、雇用推進部会との共同開催が 1 回、熊本高専との共同開催 2 回である。加えて、産学官連携推進部会との共同開催で「システム思考ワークショップイベント」を開催した。また、この地方創生公開講座をベースに、下記 4 科目（再掲）を新設し、地方創生科目に設定した。
 - キャリア科目 54「地方創生実践論 1」第 2 ターム
 - キャリア科目 55「地方創生実践論 2」第 3 ターム
 - キャリア科目 56「地方創生企業戦略論 1」第 2 ターム
 - キャリア科目 57「地方創生企業戦略論 2」第 3 ターム
- ④ 上記科目は、平成 29 年度授業開放科目に指定し、COC+参加校学生については、無料聴講できることとした。

○平成 28 年度「地方創生公開講座」実績一覧

開催回 開催日	講師	テーマ	参加者数
第 1 回 6/25 (土)	第 1 部 (株)ユウシステム代表取締役 入江英也 氏	日本人がブルーオーシャン市場「アジア」で働く魅力とメリット	学生：計 9 名（熊大：文学部 1、法学部 2、教育 2、熊本高専 3 名その他不明 1 名） 一般：計 17 名（高専教職員 6 名、熊大教職員 2 名、尚絅大学教職員 1 名、その他：5 名、COC 関係者 3 名）合計：26 名
	第 2 部 (株)くまもと健康支援研究所代表取締役 松尾 洋氏	ヘルスケアビジネスと地方創生	
第 2 回 7/2 (土)	第 1 部 オオクマ電子(株)社長 大隈恵治氏	楽しい仕事の見つけ方 ～私が歩んできた道から考えてみる～	学生：計 14 名（熊大 14 名、法学部：2 名（1 年男子、1 年女子）、教育学部：1 名（1 年女子）自然科学研究科 1 名（男子）、その他不明）一般：13 名（熊大教職員 3 名、その他 10 名）合計：27 名
	第 2 部 株式会社プレシード社長 松本修一氏	ローカルから世界へ先端へ～事業を興そう（エキサイティングに）～	
第 3 回 7/9 (土)	エモ・トランス・ジャパン (株)九州営業所代表取締役 橋本光男氏	世界の中の日本 ～これからどのように生きていきますか？	学生：計 8 名（熊大 7 名 文学部：1 名（1 年男子）、法学部 1 名（1 年男子）、理学部 2 名（1 年男子）、自然科学研究科 1 年（男子）、その他不明 2 名、他大学：1 名（不明） 一般：8 名（熊大教職員 1 名、県立大学教職員 1 名、その他 4 名）合計：16 名
第 4 回 7/16 (土)	五木食品(株) 開発本部経営企画室 兼コンプライアンス課 原田真宏氏	熊本から世界へ ～私の就職活動～	学生：計 11 名（全て熊大生、文学部 1 名（4 年女子）、法学部 2 名（いずれも 1 年男子）、理学部 1 名（1 年男子）、その他不明）一般：6 名 合計：17 名
第 5 回	中止		

“オール熊本” で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム

第6回 10/15 (土)	第1部 織月酒造(株) 代表取締役 社長 堤 純子氏	伝統産業の継承と発展 ～ 地域性の活用と新しい視点 ～	学生：計3名(熊大生) 一般：11名、 合計：14名
	第2部 株式会社ニフコ製造企画部 部長 堀内 一輝氏	グローバルに展開する企業 の戦略から見た地方子会社 への期待と展望	
第7回 10/27 (木)	有限会社チェンジ・エージェ ント代表取締役社長兼 CEO 小田理一郎氏	システム思考ワークショップ ～個別の論理的思考を超 えて、大局、根本をいかに捉 えるか～	学生7名(熊大院生)、 一般：12名(熊大教職員4名、学外者8 名) 合計19名
第8回 11/19 (土)	熊本高等専門学校八代キャン パス 講師 時松雅史氏	天草下浦石工の活動	一般市民11名
第9回 11/19 (土)	第1部 (株)ナレッジコミュニケー ション 奥沢 明氏	とにかく、あれこれやってみ る	生：計8名(熊大法1年1名、崇城大1 名、熊本保健科学大1名、 その他熊大5名) 一般：5名 合計13名
	第2部 sitateru inc. CEO 河野秀和 氏	人とテクノロジーの力で実 現するシームレスな経済	
第10回 12/10 (土)	熊本高等専門学校教授 古江研也氏 熊本高等専門学校准教授 松上 優氏	熊本市周辺の湧泉巡り	学生：計11名(熊大生1名(工学部2年 情報電気電子)、熊本高専10名) 一般：計5名(高専教員2名、熊大関係 者3名) 合計：16名
第11回 12/17 (土)	(株)エフエム熊本 編成技術 部編成担当部長 伊佐坂 功親氏	地域情報発信メディアとし てのFMラジオの役割	学生：計1名(熊大文2年) 一般市民：計5名、(熊大教職員3名、学 園大職員1名、その他1名)、合計6名
第12回 1/20 (金)	平田機工(株) 代表取締役社 長 平田雄一郎 氏	熊本から世界へ ～GM 受注のすべて失敗と絶 望の日々～	工学部学生対象に実施 (約200名参加)
第13回 2/18 (土)	高橋酒造(株) お客様創造本 部長 久保田一博氏	造るのは酒文化。文化を知れ ば酒は断然うまくなる。	学生：計1名(熊大生1名(法学部1年)) 一般市民：計25名(一般19名、熊大職 員5名、東海大職員1名)、合計26名

地方創生公開講座のリーフレット



“オール熊本”で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラム

地方創生科目一覧（平成28年度に準備・整備及び平成29年度に実施）

設置部	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業テーマ	授業科目名
教養教育 教養科目	1	第2ターム	月	4	1	地方創生企業戦略論1	キャリア科目56
	1	第2ターム	水	3	1	地方創生未来発明入門	キャリア科目58
	1	第2ターム	金	4	1	地方創生実践論1	キャリア科目54
	1	第3ターム	月	4	1	地方創生企業戦略論2	キャリア科目57
	1	第3ターム	金	4	1	地方創生実践論2	キャリア科目55
設置部	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業科目名	備考
文学部 専門科目	1	前期	水	1	2	地理学概論	総合人間学科
	1	前期	水	3	2	地域社会学概論I	総合人間学科
	1	後期	月	4	2	民俗学概論 I	総合人間学科
	1	後期	火	3	2	社会学概論 I	総合人間学科
	2	前期	火	3	2	社会学概論 II	総合人間学科
	2	前期	火	3	2	文化人類学概論II	総合人間学科
	2	前期	水	3	2	地域社会学概論II	総合人間学科
	2	前期	木	4	2	地理調査法概説	総合人間学科
	2	前期	木	4	2	社会調査法概説	総合人間学科
	2	前期	集中	集中	2	地域科学特殊講義A	総合人間学科
	2	後期	水	2	2	地域社会分析演習	総合人間学科
	3	前期	月	3	2	地域環境論演習	総合人間学科
	3	前期	火	3	2	現代社会分析演習	総合人間学科
	3	後期	火	3	2	自然地理学 II	総合人間学科
	3	後期	木	4	2	地域科学特殊講義A	総合人間学科
	2	前期	水	2・3	2	歴史資料学実習B- I	歴史学科考古学
	3	前期	水	2・3	2	歴史資料学実習B- II	歴史学科考古学
	2	前・後	月・水	2・2	2	歴史資料学演習A	歴史学科
	3	前・後	金・月	2・4	2	歴史資料学演習A	歴史学科
	3	前・後	水・金	2・2	2	歴史資料学特殊講義A	歴史学科
	2	前期	水	3	2	比較文化コミュニケーション論	コミュニケーション情報学科
	教育学部 専門科目	2	後期	木	2	2	地域生涯学習論
2		前期	金	4・5	2	地域資源論	地域共生社会課程
2		後期	月	2	2	地域計画論 II (地域経済計画論)	地域共生社会課程
2		後期	木	4	2	地域史	地域共生社会課程
3		前期	木	4	2	地域とことばII	地域共生社会課程
2		前期	金	5	2	人文地理学特講	中学校教員養成課程(社会)
2		後期	木	4	2	日本史概説	中学校教員養成課程(社会)
3		後期	月	2	2	経済学特講	中学校教員養成課程(社会)
法学部 専門科目	3	前期	水	4	2	リハビリテーション論	生涯スポーツ福祉課程
	2	前期	水	4	2	職業選択と自己実現	選択科目
	2	前期	金	3	2	行政過程論I	公法科目
	3	前期	火	4	2	経済政策	経済学科目
	3	前期	木	3	2	経済法1(総論)	社会法科目
	3	前期	木	2	2	行政学	政治学科目
	3	前期	金	3	2	法社会学1	基礎法科目
	3	前期	金	4	2	地域政策	経済学科目
	3	前期	金	2	2	環境経済論	経済学科目
	3	後期	火	5	2	地方自治法	公法科目
3	後期	木	4	2	公共政策論	政治学科目	
理学部 専門科目	3	前期	火	2	2	水文学	地学
2	後期	月	2	2	環境適応学	生物	
医学部保健学科 専門科目	2	後期	金	4	1	老年生活ケア論	老年看護学
	3	前期	火	2	2	在宅看護論	地域看護学
	3	前期	木	4	1	公衆衛生看護活動論 I	地域看護学
	3	前期	木	4・5	2	公衆衛生看護活動論 II	地域看護学
薬学部 専門科目	1	前期			1	薬学概論 I	薬学科、創薬・生命薬科学科
	1	後期			1	医療倫理学 I	薬学科、創薬・生命薬科学科
	1	後期			2	薬学概論 II	薬学科、創薬・生命薬科学科
	1	後期			1	ジェネリクススキル概論	薬学科、創薬・生命薬科学科
工学部 専門科目	2	後期	火	3	2	高分子化学	物質生命科学科
	3	前期	月	3	2	バイオテクノロジー	物質生命科学科
	1	前期	火	2	2	マテリアル工学入門セミナー	マテリアル工学科
	3	後期	金	3・4	1	マテリアル工学実験(創造編)	マテリアル工学科(限定)
	2	後期	水	4	2	精密加工機械	機械システム工学科
	3	後期	水	2	2	成形加工プロセス	機械システム工学科
	1	後期	水	2	2	地球環境工学	社会環境工学科
	2	後期	木	4	2	土木計画学	社会環境工学科
	2	前期	金	2	2	日本建築史	建築学科
	2	前期	水	2	2	都市デザイン論	建築学科
	3	後期	月	5	2	音声情報処理	情報電気電子工学科
3	後期	月	1	2	電力システム工学	情報電気電子工学科	

STEP3：地方創生インターンシップ・地方創生フィールドワーク

- ① 平成 29 年度版として教養教育・専門科目を合わせ 36 科目整備した。
- ② その内、地方創生フィールドワークとして、Area Studies E「多様性と人々の暮らしへの眼差しによる社会課題解決」(第 2 ターム) を COC・COC+共通科目として教養教育に新設した。

地方創生インターンシップ・地方創生フィールドワーク一覧 (平成 28 年度に準備・整備及び平成 29 年度に実施)

設置部	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業テーマ	授業科目名
教養教育 地方創生フィールドワーク	1	第2ターム	火	4	2	多様性と人々の暮らしへの眼差しによる社会課題解決	Area Studies E
	1	第3ターム	金	5	1	地域デザイン論	学際科目3
	1	集中	他	他	1	ボランティア実践	キャリア科目53
教養教育地方創生インターンシップ	1	集中	他	他	1	インターンシップ	キャリア科目51
設置部	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業科目名	備考
文学部 地方創生フィールドワーク	2	前期	集中	集中	2	情報処理A	文学部共通科目
	2・2・3	前期	木・水・金	5・2・5	2	社会調査実習I	総合人間学科
	2・2・3	前期	木・水・金	5・2・3	2	社会調査実習II	総合人間学科 社会調査実習Iとの連続受講
	2	前期	水	4	2	地理調査実習I	総合人間学科 地理調査実習IIとの連続受講
	2	後期	水	4	2	地理調査実習II	総合人間学科 地理調査実習Iとの連続受講
	2	前期	集中	集中	4	歴史資料科学野外実習B-I	歴史学科考古学
	2	前期	木	2	2	歴史資料科学実習A-I	歴史学科
	3	前期	集中	集中	4	歴史資料科学野外実習B-II	歴史学科考古学
	3	前期	集中	集中	4	歴史資料科学野外実習A	歴史学科
	3	前期	火	4	4	キャリアデザイン実習A・B	コミュニケーション情報学科
	3	前期	火	3	2	マーケティング・コミュニケーション	コミュニケーション情報学科
	3	後期	金	4・5	2	コミュニケーション情報学特殊講義B	コミュニケーション情報学科
教育学部 地方創生フィールドワーク	2	後期	金	5	1	基礎地学実験	中学校教員養成課程(理科)
	3	前期	集中		2	日本史調査実習	中学校教員養成課程(社会)
	3	前期	集中		2	文化実地研究IV	地域共生社会課程
	3	後期	金	3	2	火山学	中学校教員養成課程(理科)
法学部 地方創生フィールドワーク		通年				演習I(刑事政策)	
		前期				社会保障法I	
		後期				社会保障法II	
理学部 地方創生インターンシップ	2	後期	金	4	1	理学概論	
	3,4				1	インターンシップA	
	3,4				2	インターンシップB	
医学部保健学科 地方創生インターンシップ	4	前期	集中	集中	4	老年看護学実習	看護学専攻
薬学部地方創生 フィールドワーク	2	前期			1	導入実習	薬学科・創薬・生命薬科学科
薬学部地方創生 インターンシップ	1	前期			1	早期体験学習	薬学科・創薬・生命薬科学科
工学部地方創生 フィールドワーク	3	後期	金	3,4	2	プロジェクト実習第二	機械システム工学科
工学部 地方創生インターンシップ	3	前期			2	化学学外実習	物質生命化学科(限定)
	3	後期			2	マテリアル工学応用セミナー	マテリアル工学科(限定)
	3	前期			2	機械システム応用セミナー	機械システム工学科(限定)
	3	前期			1	インターンシップ	社会環境工学科(限定)
	3	前期			2	インターンシップ	建築学科(限定)
	3	後期			1	インターンシップ第一	情報電気電子工学科(限定)

【授業以外における学生の主体的な活動】

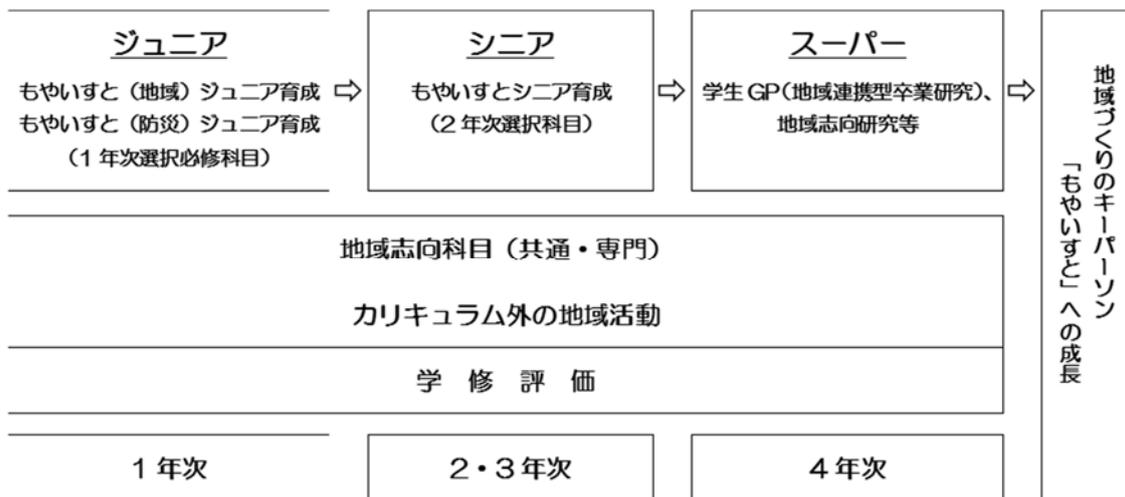
- ① ～企業・大学連携による学内インターンプロジェクト～【COC+事業特別プロジェクト】
- ② ～県内大豆食品業界との連携強化（インターンシップ）～【COC+事業特別プロジェクト】
- ③ COC+推進コーディネーターが、熊大工学部及び大学院自然科学研究科の学生とインターンシップ座談会を開催
- ④ 既設のインターンシップ科目を履修した学生に対し、COC+推進コーディネーターから地方創生に関するプラス α の事前・事後指導を行うため、COC+推進コーディネーターが、地方創生インターンシップに関する教材を作成した。
 - ・注目すべき現象にいち早く気づくためのスキルとツール
 - ・気づいた現象の裏に潜む本質的課題（=解決すべき課題）を洞察するスキルとツール
 - ・発生型、探索型、設定型、それぞれの問題に応じた対策案（アイデア）創出法

STEP4：地方創生プロジェクト

平成 28 年度の計画ではなかったが、早期試行に向け、平成 29 年度版として教養教育にキャリア科目 10「地方創生プロジェクト演習」（2 単位）を新設した

熊本県立大学

（教育プログラム概要）



①熊本県立大学では、ジュニアレベルを STEP1、シニアレベルを STEP2、スーパーレベルを STEP3 及び STEP4 として位置づける予定である。

②地域志向科目、地方創生科目については、平成 28 年度に定義の策定及び科目の選定を進め、平成 29 年度シラバス作成と併せて科目の整備を実施した。

③「もやいすとジュニア育成」成果発表会

12 月 24 日（土）平成 28 年 12 月 24 日、本年度のプログラムの締め括りとなる成果発表会を開催した。全学の 1 年生（約 5 2 0 名）が 1 0 4 班に分かれ、各班 5 分間の発表を行った。発表課題は、「仮設住宅の暮らしを改善するプラン」。仮設団地等での支援活動を含む約 8 か月に渡る学習内容を基にプランを検討した。また、単にプランのみでなく、具体的な課題解決へ向けた「千

円以下の費用で作成可能な道具(もの)を企画・製作し、発表を行った。これら1年生の発表準備については、「もやいすとシニア育成」を受講する2年生が指導を行っている。



地域全体発表会の様子



防災全体発表会の様子

九州看護福祉大学

STEP1 (地域志向科目)

- ・新入生1日学外研修+地域の歴史・文化・産業・農業等(特別講師)(2単位)開講共通科目等により、平成29年度中に選出予定である。
- ・熊本各界の有識者による講義(特別講師)を平成29年度中に選出予定である。

STEP2 (地方創生科目)

- ・「在宅療養支援チーム協働論」を平成28年度に試行し、平成29年度入学生から正式に、看護学科の必修科目として、新設することとした。(下記シラバス参照)
- ・試行では、平成28年10月-11月に講義12コマ、演習6コマを開講した。演習は好評。学生と担当5学科教員の混成グループによる演習は、活発な意見交換に終始し、他(多)職種協働の意義を再確認するものであった。
- ・他の専門職、講義内容、日時はさらに検討予定。
- ・共通専門科目・専門科目等より、平成29年度中に更に選出していく予定。



STEP3 (実践科目)

- ・専門実習科目、フィールドワーク等により2単位を、平成29年度中に選出予定。

熊本学園大学

STEP1 (地域志向科目)

- ① 3科目(各2単位)を選定済み(履修対象者:1年次)。延べ270名が履修登録済みである。
 - 「地域と交通」95名
 - 「地域経済論入門」68名
 - 「地学I」107名
- ② 平成29年度から「キャリアデザイン論I(2単位)」を新たに選定する。

STEP2：地方創生科目

- ① 平成29年度から、以下を選定することを決定した。(7科目(各2単位))
「商業論Ⅰ」「商業論Ⅱ」「流通システム論Ⅰ」「流通システム論Ⅱ」「マーケティング論Ⅰ」
「マーケティング論Ⅱ」「キャリアデザイン論Ⅱ」

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

STEP1（地域志向科目）

- ① 「熊本学」（後期：実施済み）

熊本の歴史、文学、言語、地域貢献（フェアトレードシティ熊本、地域振興と地方自治）等の講義を受けて「熊本」に対する知識を深めながら、グループワークで個々の課題に取り組む授業を進めている。熊本の文化と情報、熊本の芸術、熊本の女性などをテーマとした授業を実施した。

- ② 「課題探究プロジェクト演習」（前期集中、実施済み）

1年次前期にPBLなどの基本を学んだ上で、夏季集中講義として「大津町地蔵祭りでのブース運営」を実施した。地域社会の現状を肌で感じる機会として、今回は「地域のお祭り」である「大津町地蔵祭」の子供向け「お化け屋敷」を中心に運営のサポートに加わった。地域住民とコミュニケーションを取りながら、運営（宣伝、受付、お化け役等）に関わることで地域の課題を理解する機会となった。

STEP2（地方創生科目）

- ① 「日本語史」（前期：実施済み）

日本語の古典文法と歴史的変遷を学ぶ中で、熊本方言の中に中世語が残っていることを理解し、授業のまとめとして、出水神社能楽殿で開催された「金春流能楽」を鑑賞した。（8月6日）

STEP3（実践科目）

- ① 「サービスマナー演習Ⅱ」（後期開講）
- ② ～熊本県中小企業魅力の認識拡散プロジェクト～【COC+事業特別プロジェクト】
- ③ 「サービスマナー演習Ⅰ」（後期開講）
- ④ ～地域の魅力を伝えるためのCM作成プロジェクト in 大津町～【COC+事業特別プロジェクト】
- ⑤ 「地域プロジェクトワーク」（前期集中：実施済み）

（被災者ケア概要）

大津町3ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施した。受講生は、事前に資生堂スタッフにより、3回にわたってLife of Qualityに関する講義及び化粧品療法や高齢者のアテンド方法などの実践的指導を受けた。ケア実践の際には、仮設住宅在住者の方にリラックスしてもらおうと共に、学生の地域理解、復興支援などを促し、高齢者など学外の一般の方との触れ合いを通じてコミュニケーション能力向上を目指した。

（被災者ケア詳細）

受講生は、事前に資生堂スタッフにより、3回にわたってLife of Qualityに関する講義及び化粧品療法や高齢者のアテンド方法などの実践的指導を受けた後、大津町3ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティ

アを実施した。

被災者ケア実践では、仮設住宅在住者の方に多くの笑顔が見られ、リラックスしてもらうことができ、仮設住宅在住者間の交流も促進することができた。実践を通じ、学生の地域理解、復興支援などを促し、高齢者など学外の一般の方との触れ合いを通じてコミュニケーション能力の向上が見られた。

平成 28 年 8 月 20 日 (土)、8 月 25 日 (木) 実施

大津町 3 ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施



ネイルケアの施術方法指導の様子

※「仮設入居者の爪美しく尚綱大生大津町訪問」
 (『熊本日日新聞』2016年8月26日朝刊)
 (RKK「NEWS JUST.」(2016年8月24日放映)でも報道。)



【尚綱大学】COC+教育プログラム科目一覧

2016.11.28

事業	科目群	単位数	科目名	開講年・期	単位	履修者数	履修方法			領域	担当	授業の概要	備考		
							JL	JG	MG						
教育プログラム	地域志向科目群	4以上	文化言語入門	1年・前期	1	54	◎	◎	◎	教養(基礎基礎)	専任教員	自治体の取り組み研究、熊本県警等の講座を実施する。			
			メディア学入門	1年・前期	2	54	◎	◎	◎	教養(社会)	非常勤講師	熊本日日新聞を活用した地域理解。			
			熊本学	1年・後期	2	55	◎	◎	◎	教養(文化)	専任教員	熊本の歴史・文化・言語・文芸・芸術・地域産業・グローバルなど、県内外の講師による講義で学ぶとともに、グループワークを通しての熊本の発展の成り立ちや文化財におけるフィールドワークなど熊本の紹介や発展などを学ぶ。			
			日本文化論	1年・後期	2	50	◎	◎	△	教養(文化)	非常勤講師	講義の一部で「熊本の民俗」を取り上げる。			
			課題研究プロジェクト演習	1年・後期	2	8	△	△	○	サービスラーニング	専任教員	大津町の街づくりと連携して地域の課題を学び、夏休みなどのイベントスタッフとして地域の人と連携して活動する。			
	地方創生科目群	5以上	コンテンツ・ワークショップ	1年・後期	2	—	—	—	—	外部講師 専任教員		漫画や映画などの舞台を通して地域への理解を深める。	卒業単位とせず		
			地域社会論	1年・前期	2	15	△	△	○	社会理解	専任教員	地域社会の構造・現状・課題について学ぶ。			
			日本経済史	1年・前期	2	59	◎	○	△	日本語・日本語教育	専任教員	水前寺公園で開催される「熊旅」の履修。			
			専門基礎演習Ⅱ	2年・後期	2	6	○	△	△	日本文学	専任教員	『日本語学』の中で「熊本方言のスペクトル」の講義を実施する。			
			地域産業論	2年・前期	2	11	△	△	○	社会理解	専任教員	地域産業の現状と課題を、熊本での実例を通して学ぶ。			
			地域政策論	2年・後期	2	17	△	△	○	社会理解	専任教員	地域が発展する上で、国や熊本県の政策がどのように関与しているかにについて学ぶ。			
			キャリアデザインⅠ	2年・後期	1	44	◎	◎	◎	教養(職業基礎)	専任教員 非常勤講師	熊本県内の企業と連携した学習を取り入れる。			
			東アジア近現代史	2年・前期	2	27	△	○	○	社会理解	専任教員	『語文と文明』を取り上げ、東アジア近現代史の中における熊本について学ぶ。			
			熊本国際交流史	3年・前期	2	15	△	○	○	社会理解	専任教員	熊本における国際交流の歴史を学ぶ。			
			地域産業ワークショップ	1年・後期	2	3	—	—	—	—	専任教員	高年次のサービスラーニング科目「地域プロジェクトワーク」などと連携し、地域産業を調査し、ボランティアとして実践可能な取り組みを実施する。	卒業単位とせず		
			地方創生公開講座	全学年	2	—	—	—	—	—	外部講師	県内大学主催の公開講座。	卒業単位とせず		
			実践科目群	2以上	サービスラーニング入門Ⅱ	1年・後期	2	19	△	○	◎	サービスラーニング	専任教員	団章、国際交流協会、ベンチャー企業、地方自治体と連携して、企業の立案、実践などに取り組む。	
					地域プロジェクトワーク	2年・後期	2	9	△	△	○	サービスラーニング	専任教員	自治体(大津町など)の前づくりおよび民間企業の地域貢献事業と連携して活動する。	
サービスラーニング演習Ⅰ	2年・前期	2			13	△	△	◎	サービスラーニング	専任教員	熊旅など地域の子どもたちへの英語教育を実施する。				
サービスラーニング演習Ⅱ	2年・後期	2			12	△	△	◎	サービスラーニング	専任教員	『ビジネス』とフィールドとする学習を地域の企業等と連携して行う。				
地方創生プロジェクト	2	2	2017年度(履修者数)	△	△	○	サービスラーニング	専任教員	1,2年次で実施したサービスラーニングを応用し、語学力を生かした地域連携活動を実施する。						
			履修者総数			473									
	地方創生プレゼンテーション	履修													

【注】
 履修方法について◎=必修、○=選択必修、△=選択

【2016年度前期の履修状況および後期の履修者数】
 *地域志向科目群について、JL、JG、MGとは、必修科目の履修で要件の6単位を修得可能。
 *地域創生科目群について、すべてのコースで履修可能な科目は、履修で要件の6単位を修得可能。
 *これに加えて、JLは必修科目1単位、JGは必修科目2単位の履修で18単位が要件クリアの見込み。
 JGについて、必修科目1単位、選択必修科目1単位、選択科目1単位が設定されており、4～5年分要件クリアの見込み。
 MGは、必修科目1単位、選択必修科目1単位、選択科目1単位が設定されており、10名が要件クリアの見込み。

崇城大学

STEP1（地域志向科目）

「日本の文学Ⅰ」1年前期 履修者：186名

「日本の文学Ⅱ」1年後期 履修者：128名

STEP2（地方創生科目）

「ベンチャー企業論Ⅰ」1年前期 履修者：312名

「ベンチャー企業論Ⅱ」1年後期 履修者：154名

「イノベーション論Ⅰ」2年前期 履修者：45名

STEP3（実践科目）

「キャリア基礎Ⅱ」2年後期 履修者：589名

「キャリア実践Ⅰ」3年前期 H29年度開講

「キャリア実践Ⅱ」3年後期 H29年度開講

東海大学

2013年度に文科省COC事業に採択されており、その関係上、2018年度に大幅なカリキュラム改訂を予定している。したがって、それに合わせて標記の教育プログラムの整備を完了したいと考えている。今年度より、地域志向科目を1科目導入している。

平成29年度には、以下の項目を行う予定で、平成30年度からの本格的な教育プログラムの始動に備える。

- ① 2016年度に開始した地域志向科目の継続。
- ② 地域志向科目、地方創生科目、地方創生インターンシップ科目、地方創生プロジェクト科目に該当する科目を選定する。
- ③ 地域志向科目、地方創生科目、地方創生インターンシップ科目、地方創生プロジェクトの科目に適する新たな科目の開講についての検討と準備。
- ④ 科目数としては、地域志向科目で6～7科目、地方創生科目で6～7科目、地方創生インターンシップ科目で1～2科目、地方創生プロジェクト科目で3～4科目を予定。（ただし、若干の増加は見込んでいる。）
- ⑤ 学生への「熊本地方COC+事業」の教育プログラムに関する周知の方法、履修のガイダンス等について検討する。

○開講が決定している地域志向科目

科目名	必選別	単位数	準備状況
プロジェクト入門	選	2	平成28年度に開講（秋学期） （平成29年度以降は「肥後学」の名称の予定） （平成29年度には春・秋開講とする）
シティズンシップ	必	1	平成30年度開講予定
ボランティア	必	1	平成30年度開講予定
地域理解	必	1	平成30年度開講予定
国際理解	必	1	平成30年度開講予定

熊本高等専門学校

熊本高専において、以下のとおり、COC+科目群（案）について検討を進めた。

STEP1（地域志向科目）

「地域社会活動一」「地域社会活動二」「専門科目応用第一」「専門科目応用第二」「郷土の文学と人間（専攻科）」

STEP2（地方創生科目）

「企業化と社会（専攻科）」「技術開発と知的財産権（専攻科）」

STEP3（実践科目）

「インターンシップ（4年）」「インターンシップ実習（専攻科）」

※また、熊本高等専門学校では、「人材育成講座」と「地方創生公開講座」をそれぞれ2回開催した。内容は次のとおり。

○人材育成講座及び地方創生講座

講座名	担当教員	実施日	受講者
【COC+事業特別プロジェクト】 ～“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人材育成講座～	人間情報システム工学科 教授清田公保	平成 28 年 11 月 5 日、 11 月 12 日	29 人
地方創生公開講座 「天草下浦石工の活動」	共通教育科教授時松雅史	平成 28 年 11 月 19 日	11 人
地方創生公開講座 「熊本市周辺の湧泉めぐり」	共通教育科教授古江研也 共通教育科教授松上 優	平成 28 年 12 月 10 日	15 人
【COC+事業特別プロジェクト】 ～“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人材育成講座～	人間情報システム工学科 教授清田公保	平成 29 年 3 月 11 日	22 人

■平成 29 年度

熊本大学

STEP1：地域志向科目を教養教育に 36 科目整備・実施済み。

- 地域志向科目（35 科目）履修延べ人数 3,567 人（102 人／科目）
＋肥後熊本学：全学必修科目（1,733 人 平成 29 年度入学者）
- 地方創生文化論を**新設**（受講者数 83 名）

e ラーニングコンテンツも充実

○「肥後熊本学」の授業テーマ

- ・熊本の芸術文化
- ・水俣病の社会史：水俣病を知っていますか
- ・医療と社会－医療における情報共有と個人情報・遺伝子情報－
- ・自然：植物（薬科学）「蕃滋園・伝統野菜・本草学」
- ・幕末維新熊本人物列伝
- ・ハンセン病差別とその克服に向けて
- ・夏目漱石とラフカディオハーン
- ・永青文庫の史料にみる戦国・近世初期の肥後熊本
- ・熊本の水環境
- ・まちづくりと地域課題を知る
- ・希少野生動植物
- ・自然災害(科学と技術)



STEP2：地方創生科目を教養教育・専門教育を合わせ 67 科目整備・実施済み。

- 教養教育に 5 科目新設
- 地方創生科目（67 科目）履修延べ人数 3,919 人（59 人／科目）
- 地元企業から 27 名の実務者を非常勤講師として招聘（地元企業を知る機会）

○新設した教養教育 5 科目の履修者数

- ・第 2 ターム
「地方創生実践論 1」156 名、「地方創生企業戦略論 1」63 名
「地方創生未来発明入門」27 名
- ・第 3 ターム
「地方創生実践論 2」215 名、「地方創生企業戦略論 2」48 名

STEP3：地方創生インターンシップを 12 科目、

：地方創生フィールドワークを 24 科目整備・実施済み。

- 地方創生インターンシップ（12 科目）履修延べ人数 774 人（33 人／科目）
- 地方創生フィールドワーク（24 科目）履修延べ人数 353 人（32 人／科目）

STEP4：地方創生プロジェクトを29年度第3タームから、先行実施。

- 「地方創生プロジェクト演習」を新設。履修延べ人数 6人
- 地元企業2社及び熊本市と連携実施。

最終審査：地方創生プレゼンテーションを先行実施。

- 本事業初となる最終プレゼンを実施した。
- 審査項目「地元に関する教養知識」「国内外及び県内の産業等に関する基礎知識」「地方創生に向けた課題発見・解決能力」「思考力・プレゼンテーション能力」に沿って審査し、総合評価の結果、全会一致で合格とした。

日時：2018年3月7日(水) 10:30~11:00
場所：熊本大学インキュベーションラボラトリー・リエゾン会議室
学生：熊本大学法学部2年生
審査員：教育プログラム開発部会長、同部会委員2名、雇用推進部会長



熊本学園大学

■地元企業から講師を招く「ゲスト講義」の開催

前年度に引き続き熊本県工業連合会の協力による県内主要企業の創業者、経営者、役員等を講師に迎えるゲスト講義を開講した。各企業・業界の状況等について、学生向けの講義が6回行われた。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

■COC+特別プロジェクト「学生の視点を生かした熊本インバウンド観光促進プロジェクト～教育プログラム連携～」

●インバウンド観光受入先進事例「八代市」の見学（「サービスラーニング入門Ⅱ」連携）

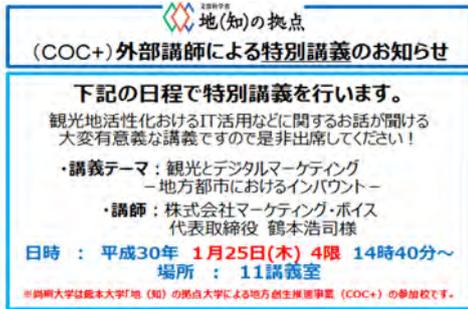
（平成29年12月10日、参加者15名）

大型クルーズ船を受け入れている八代市内の既存の観光名所である八代城跡、松浜軒、八代神社を見学し、若者の視点から見た外国人観光客に新しいアピールポイントなりうる新しいグルメや魅力を再発見することを目的としてフィールドワークを実施した。受入で潤う人々と蚊帳の外に置かれる人々の現状を垣間見える貴重な機会となった。



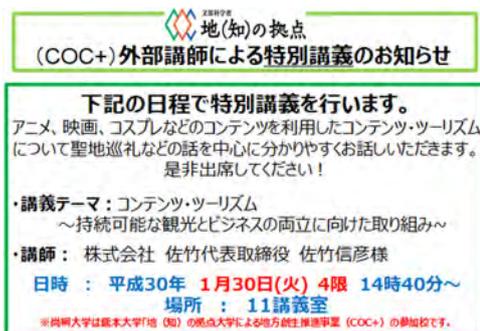
●特別講演会の実施（「サービ斯拉ーニング入門Ⅱ」「サービ斯拉ーニング演習Ⅱ」連携）

その1. インバウンド観光に関する特別講演会の実施（平成30年1月25日）受講者20名
 マーケティングボイス代表取締役の鶴本浩司氏を講師にお招きし「デジタルを活用したマーケティングと熊本インバウンド促進」というタイトルで特別講演を実施した。



その2. コンテンツツーリズムに関する特別講演会の実施（平成30年1月30日）受講者25名
 株式会社佐竹の佐竹信彦氏を講師にお招きし「コンテンツツーリズム～持続可能な観光とビジネスの両立に向けた取り組み～」というタイトルで特別講演を実施した。

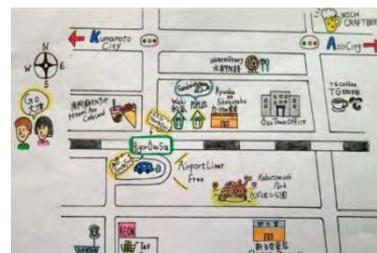
2つの講演を通じ、SNSなどを用いたインバウンド観光促進の現状と課題を把握し、コンテンツツーリズムの可能性を理解することができた。



●大津町外国人旅行者向け情報発信と観光マップ作成（平成29年度中に完成予定）

熊本の魅力を再発見し、外国人旅行者に発信する一つの形として、WEB上（「おるとくまもと」等）で記事を発信し、同時に外国人旅行者向け観光マップを作成している（3月納品予定）。

近年、外国人旅行者が増加している肥後大津駅徒歩圏内のカフェ特集で取材を行い、記事は日英中韓で作成を予定している。この取り組みは次年度以降のSL、PBL系授業と連携して継続していく予定である。



熊本高等専門学校

■COC+特別プロジェクト「“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人財育成講座」

●実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座(ベーシックコース)

平成 29 年 10 月 20 日(金)と 11 月 10 日(金)の 2 回に分け、熊本キャンパスにて「実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座(ベーシックコース)」を開催した。

本講座は、実践的な技術者を養成する高等専門学校の特性を活かし、くまもとの地方創生と地産地消の情報発信の拠点となる人材(財)を育成することを目的としたもので、日本 Wix 振興プロジェクトの代表理事 神戸洋平氏と専務理事 柳澤輝氏を講師として招き、モバイル端末に対応し操作も簡単なソフトウェア(Wix)を教材に、ホームページの作成方法やウェブマーケティングについて講座及び実習を行った。

今回の受講者は約 100 名で、主に高専生が占めたが、熊本県警のサイバー対策課などからも参加があり、受講後は分かりやすく満足したとの感想が多数寄せられた。



●サイバーセキュリティ・トレーニング

平成 30 年 1 月 29 日(月)、熊本キャンパスにて「サイバーセキュリティ・トレーニング」を開催した。

本講座も、秋季に開催したネットワークスペシャリスト人財育成講座と同様、本校 COC+事業の一環として情報発信の拠点となる人材の育成を目的としたもの。

当日は、主に校外から 21 名の受講者があり、最初に鶴岡高専創造工学学科教授の佐藤淳氏から「サイバーセキュリティの動向とサイバー人材教育」と題し講演が行われ、昨今の情報インシデントの傾向を踏まえると、最初から多種多様化するインシデントの全てに対応できる人材の育成は難しく、種々の問題を見据えつつも、まずは専門分野を持たせて教育を行っていくしかないなどの話があった。

講演に続き、世界的にも最高クラスのセキュリティソフトを有するカスペルスキー社のビジネスディベロップメントマネージャーである松岡正人氏から、同社のゲーミフィケーション理論に基づく教材を用いた演習が行われた。演習では、リスクの予見、攻撃の発見、攻撃からの防御、インシデントへの対処など様々な場面において自己のセキュリティ対応レベルがどの程度あるのかなど、セキュリティ意識の底上げがゲーム方式で行われ、受講者からは能動的に学べ、理解を

深めることができ、実践を交えたもので今後の仕事に活かすことができるなどの感想が寄せられた。



■平成 30 年度

熊本高等専門学校

“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人材育成講座 (COC+特プロ)

熊本の地方創生に必須となる、熊本の魅力を再認識し発信できる人材の育成を目的に、Wix.comを使用した演習を実施。第4回では佐藤 淳 氏（鶴岡高専教授）を招き、Web 発信の際に必要な情報セキュリティとその重要性について講義を実施。（Web 発信のための CMS 演習の開催）

（第1回）平成30年10月9日（火）13:00-16:00

- 熊本高専ヒューマン演習室・熊本高専 HI 科学生等 42 名

（第2回）平成30年11月6日（火）13:00-16:00

- 熊本高専ヒューマン演習室・熊本高専 HI 科学生 41 名

※1~2回は一連のものとして実施

（第3回）平成31年1月10日（木）13:00-15:30

- 熊本高専 ICT 演習室・熊本高専 TE 科学生 31 名

（第4回）平成31年1月18日（金）13:00-15:30

- 熊本高専 CI 科 PC 室・熊本高専 CI 科学生 39 名参加



■令和元年度

熊本高等専門学校

“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人財育成

熊本県警察ポリスフェスティバルにサイバーセキュリティボランティアとして参加

令和元年12月22日(日)、熊本市桜町のシンボルプロムナードにて、熊本県警察による第2回ポリスフェスティバルが開催された。本校からは、サイバーセキュリティボランティア活動の一環として、熊本キャンパスと八代キャンパスから学生が参加した。

担当ブースでは、本校学生(熊本キャンパス電算部)と県警がそれぞれ制作したサイバーセキュリティに関するゲームを展示し、来場者の方に体験していただいた。



4年生対象のインターンシップ講演会を開催

令和元年8月9日(金)午後、熊本キャンパスにおいてインターンシップ講演会を開催した。これは、各界から招いた講師の方に「働く」意義について語っていただく内容で、4年生が夏季休業中に体験するインターンシップに先立って実施するものである。今年は、森敬博氏(熊本日日新聞社 業務推進局 地域創成推進部)による「これからのキャリア形成とライフプラン」というタイトルで、「就職に関する熊本の概況」「高専生の就活事情」「ワークライフバランスを実現するために知っておいてほしいこと」「地元の就職情報の紹介」について講演していただいた。



6. COC+終了後の教育プログラムとその取り組みについて

【熊本大学】

COC+教育プログラムを「地方創生プログラム」と名称を改め、教育目的と概要を次のように定める。

1. 目的と概要

どの地域でも活躍できる幅広い教養を持ち、課題解決や地方創生に向き合い貢献できる人材が求められている。更に、我が国が直面する地域課題や地方創生には、複雑に課題が絡み合うため、解決策の提案や効果的な実践は単純ではない。まずは身近な地域を事例に、幅広い知識や経験を蓄え、多様な能力を向上する事が地域と国際社会の理解や貢献にもつながる。また、世界のどの地域でも共通に抱える課題への解決能力の育成となる。そこで地方創生プログラムとして、基礎的な知識の修得と課題解決のための思考力を養う地域志向科目、社会的な知見に根差した社会力を養う地方創生科目、インターンシップ・フィールドワークを通じた実践力を養う実践科目等を設定する。また、地方創生プログラムの修了者には、くまもとプレマイスターの称号授与（修了証書）を発行する。

2. くまもとプレマイスター称号授与の条件

	Step1	Step2	Step3	Step4	専門単位
くまもと プレマイスター	1 単位	2 単位以上	1 単位以上	2 単位	10 単位以上

3. 地方創生プログラム（令和2年度）に関連する教養教育科目を以下とする予定。

STEP	カテゴリ	開講年次	開講区分	曜日	時限	単位数	授業テーマ	授業科目名
STEP1	地域志向科目	1	第1ターム	火	3	1	芝居からみる熊本の芸能史	肥後熊本学
		1	第1ターム	水	3	1	永青文庫の史料にみる戦国・近世初期の肥後熊本	肥後熊本学
		1	第1ターム	水	3	1	水俣病を知っていますか	肥後熊本学
		1	第1ターム	水	4	1	蕃滋園・伝統野菜・本草学	肥後熊本学
		1	第1ターム	金	3	1	医療と社会—医療における情報共有と個人情報・遺伝子情報—	肥後熊本学
		1	第2ターム	火	3	1	肥後熊本で荘園を体感する	肥後熊本学
		1	第2ターム	火	5	1	肥後の温泉科学	肥後熊本学
		1	第2ターム	水	3	1	夏目漱石とラフカディオハーン	肥後熊本学
		1	第3ターム	水	4	1	自然災害	肥後熊本学
		1	第2ターム	水	4	1	希少野生動植物	肥後熊本学
		1	第2ターム	木	3	1	裁判例を通して知る熊本における権利保護	肥後熊本学
1	第2ターム	金	5	1	地域課題を知り地域を創る仕組みを考える	肥後熊本学		
STEP2	地方創生科目	1	第1ターム	水	3	1	ボランティア論	キャリア科目52
		1	第2ターム	火	3	1	地方創生企業戦略論1	キャリア科目56
		1	第2ターム	金	3	1	地方創生実践論1	キャリア科目54
		1	第3ターム	火	3	1	地方創生企業戦略論2	キャリア科目57
		1	第3ターム	金	3	1	地方創生実践論2	キャリア科目55
STEP3	実践科目（基礎）	1	第3ターム	水	3	1	地域魅力開発プロジェクト	学際科目4
		1	第3ターム	金	4	1	地域デザイン論	学際科目3
		1	集中	他	他	1	インターンシップ	キャリア科目51
STEP4	実践科目（応用）	1	集中	他	他	2	地方創生プロジェクト演習	キャリア科目10

【熊本県立大学】

くまもとプレマイスター制度に接続する「もやいすと育成システム」については、COC 事業終了を受け、全学教育推進センター内に継続実施体制（もやいすと部会）の整備を完了し、2019 年度より新実施体制にてスタートした。

・地元企業等と連携した教育の継続

1 年次選択必修科目「もやいすと（地域）ジュニア育成」及び「もやいすと（防災）ジュニア育成」では、従来から自治体等との連携のもと実施している。加えて、3～4 年次が参加する「学生 GP（地域連携型卒業研究）」では、2019 年度に団体・企業と連携した 11 の研究事業を予定している。

学生 GP（地域連携型卒業研究）一覧

	連携先企業・団体	学部	担当教員	研究テーマ
1	玉名市役所	総合管理学部	津曲隆	玉名市を対象にした地域広報戦略～You Tuber としての話題性を利用した地域広報の展開～
2	熊本県立美術館	総合管理学部	津曲隆	熊本県立美術館及び熊本城周辺施設の魅力発信及び熊本県立美術館ファンの造成
3	NPO 法人熊本まちなみトラスト	環境共生学部	鄭一止	歴史的市街地における町屋に関する実践的研究 改修事例と不動産に注目して
4	山都町役場	環境共生学部	佐藤哲	熊本地震応急仮設住宅の用途変更に伴う室内環境の改善
5	八代市役所	総合管理学部	小菌和剛	シトラス観光圏における観光情報の拡散について
6	八代市役所	総合管理学部	小菌和剛	食を通じた五家荘地区の地域活性化について ～You Tube を利用した情報発信～
7	公益社団法人熊本県栄養士会	環境共生学部	中嶋名菜 谷村綾子 南久則	地域ケア会議への管理栄養士の参画効果を評価するための環境整備に関する調査研究
8	一般財団法人熊本市国際交流振興事業団	文学部 総合管理学部	馬場良二 飯村伊智郎	熊本に住む外国人のために 日本語教室ボランティアのためのパンフレット作成
9	株式会社ジェイコム九州熊本	総合管理学部	宮園博光	コミュニティチャンネルによる地域発見ー藤崎宮・奉賛会・市民の視点から見る藤崎八幡宮秋季例大祭のこれからー
10	一般財団法人熊本市国際交流振興事業団	総合管理学部	宮園博光	国際スポーツ大会開催を契機にした熊本市の国際化・多文化共生社会推進事業の実施 ～飲食店・物販店を対象とした指差し会話帖の製作～
11	八代市役所	総合管理学部	宮園博光	ワークショップを通じたイグサ製品の需要獲得

【尚綱大学・尚綱短期大学部】

引き続き、熊本コンソーシアムのインターンシップ事業への継続して参加するとともに地域創生プログラムとして授業に組み込まれた「熊本学」、「日本伝統文化入門」ほか、現代文化学部の関連する科目を継続して開講する。

・地元企業等と連携した教育の継続

現代文化学部において、地元企業等との連携による実施を予定している授業科目として次の科目がある。

- 熊本学（2019年度前期開講）
 - ・地域の特性、歴史等について学修する。
 - ・2019年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。
- 日本伝統文化入門（2019年度後期開講）
 - ・日本の伝統文化、多様な文化を学びつつ、地域貢献について学修する。
 - ・2019年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。
- 地域コミュニティ創造論演習Ⅰ（2020年度後期開講）
 - ・地域や自治体の課題についての学外学修を取り入れた科目である。本年度は南小国町の黒川観光旅館協同組合と連携し、当該地域の観光振興について学修する。
 - ・2018年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。
- 地域コミュニティ創造論演習Ⅱ（2020年度後期開講）
 - ・地域や自治体の課題についての学外学修を取り入れる。とくに地域の観光協会による地域振興策などを素材とする。
 - ・2018年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。
- 地域マネジメント研修Ⅰ（2021年度後期開講）
 - ・地域の企業での研修（インターンシップ等を含む）を実施する。
 - ・2018年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。
- 地域マネジメント研修Ⅱ（2021年度後期開講）
 - ・地域の企業での研修（インターンシップ等を含む）を実施する。
 - ・2018年度以降入学者対象の教育プログラム・地方創生プロジェクト科目として設定。

【崇城大学】

平成30年度からの大幅なカリキュラム改訂に伴って、STEP1「地域志向科目群」（6単位以上）の科目が不足したため、下記のとおり改訂した。

STEP1「地域志向科目群」（6単位以上）

- ・「日本の文学」1年後期、2年前・後期（2単位）
- ・「人間と環境」1年後期、2年前・後期（2単位）
- ・「現代の社会と法」1年後期、2年前・後期（2単位）（人権問題の例として熊本を扱う）

STEP2「地方創生科目群」（5単位以上）

- ・「アントレプレナーシップ入門」1年前期集中（2単位）
- ・「ベンチャービジネス」1年後期（2単位）
- ・「イノベーション入門」2年前期（2単位）

STEP 3 「実践科目群」(2単位以上)

- ・「SOJO 基礎Ⅱ」1年後期(2単位)
- ・「キャリアプレコオプ」2年前・後期(2単位)
- ・「キャリアセミナー」3年後期(1単位)

STEP 4 「地方創生プロジェクト科目群」(2単位)

- ・「地域・都市計画」1年後期(建築学科専門科目2単位)
- ・「地域計画設計」3年前期(建築学科専門科目3単位)
- ・「地域文化特論(九州)」3年後期(美術学科専門科目2単位)
- ・「デザインプロジェクトⅢ」2年前期(デザイン学科専門科目2単位)
- ・「デザインプロジェクトⅣ」2年後期(デザイン学科専門科目2単位)

・地元企業等と連携した教育の継続

「キャリア基礎Ⅲ」(工・情報・生物生命学部),「キャリア実践Ⅱ」(工学部機械工学科)及び「キャリアデザインⅠ」(芸術学部)3年次前・後期における授業実施状況

県内企業・団体から提供された課題に対し,学生はグループ単位に提案内容をまとめてプレゼンテーションし,企業・団体から評価・コメントを受ける。

学科		企業	課題提示	中間 質問会	発表 評価	受講生数 (グループ数)
機械工学科	A	タイヘイテクノス (機械)	6月25日		7月18日	41名 (6)
	B	オジックテクノロ ジーズ(化学)	6月4日		7月9日	41名 (6)
機械工学科 (「キャリア実践Ⅱ」)		<u>エイジェックキャ リア(技術派遣)</u>	12月5日	12月12・ 19日	1月9・16・ 23日	82名 (12)
ナノサイエンス学科		同仁化学研究所 (化学)	4月25日		5月30日, 6月13日	53名 (8)
建築学科		南栄開発(不動産)	10月17日		11月6・14 日	81名 (12)
宇宙航空システム工 学科		オジックテクノロ ジーズ(化学)	10月30日		12月4日	46名 (6)
情報学科	A	<u>KIS(情報・通信)</u>	5月8日	5月15・22 日	5月29日, 6月5日	73名 (11)
	B	九州ソフタス(ソ フトウェア)	5月15日		6月5・19 日	72名 (11)
応用微生物工学科	A	五木食品(食品)	10月9日		11月13日	37名 (6)
	B	フンドーダイ五葉 (食品)	10月9日		11月13日	36名 (6)
応用生命 科学科	A	日本リモナイト (鉱業・環境)	10月10日		11月7・28 日	56名 (9)
	B	カネリョウ海藻 (食品)	10月24日		11月21日	55名 (9)
美術学科・デザイン 学科(芸術学部)		<u>KIS(情報・通信)</u>	6月25日	7月2・9日	7月16・23 日	66名 (10)

※各企業・団体より 3名40回講義を実施。

そのうち、COC+算より3名16回分を支出。(上記下線部分)

【熊本高等専門学校】

・地元企業等と連携した教育の継続

(1)熊本キャンパス本科情報通信エレクトロニクス工学科3年生科目「電子通信工学実験」において、PBLの項目において、地元企業と連携し、企業の課題を解決するというテーマで約9週にわたって行っている。また、八代キャンパスにも同様な取り組みがある。この中で優秀な班は、「新・閃きイノベーション」と呼ぶ本校・熊本県工業連合会共催の会において発表している。

<https://kumamoto-nct.ac.jp/update/2019/05/20190508a/>

(2)専攻科電子情報システム工学専攻1年生科目「創生技術デザイン実習Ⅰ」（前期）、「創生技術デザイン実習Ⅱ」（後期）において、年間合計30時間、地元企業が有する課題を解決する取り組みを行っている。

7. COC+事業の地方創生教育プログラムの成果と検証等

① 主要な成果

各大学で整備した地方創生教育プログラムでは、履修者も年々増加傾向にあり、履修した学生は地域づくり・人づくり、経営や経済的など総合的な経験及び知識を深めることにつながり、地方創生について考え・提案できる姿勢が身についてきた。

- ・ 地域志向科目により、地域特性をより深く理解することができた。
- ・ 地方創生科目により、地域企業や企業CSR活動などキャリアデザインを考えるきっかけとなった。
- ・ 実践科目により、経験・体験を蓄積する事によって地域課題に向き合い、主体的に学ぶ姿勢を身に付ける事ができた。
- ・ 地方創生へ向けた複雑な社会課題解決への提案・企画を体験する事によって、地域分析力・プレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の育成となった。
- ・ 地元や地域について考えるきっかけとなり、地域にとっての関係人口の増加につながった。

② 課題

地方創生のためには、地域づくり・人づくり、経営や経済的など総合的な経験・知識が必要であり、地域企業・団体、自治体との協力・連携が必要不可欠である。大学へ講師招聘や企業へのインターンシップ、地域自治体へのフィールドワークなど最低限の経費が必要になる。引き続き地方創生の取組みを促進させながら、地域企業・自治体と相互にメリットが生れるように取り組んでいく必要がある。

- ・ 継続的な取組みによる地元企業の周知をおこない、連携・協力が必要
- ・ 自治体・企業などと連携した教育（フィールドワーク等）のための移動費等の支援
- ・ 実践経験を積むため、外部資金の獲得

産業創生・育成

農林水産業の競争力強化

産業創生・育成 / 農林水産業の競争力強化

COC+事業期間中の主な計画

- ・ 県内企業訪問、共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業導入支援
- ・ 産業創生・復興等のシンポジウムの開催
- ・ COC+特別プロジェクト等による産学官連携及びフィールドワーク等
- ・ 農林水産業の成長事業（六次産業化育成連絡会による活動）

《産業創生・育成》

【全期間を通じた取組】

1. 産学連携推進部会の活動

産学連携推進部会を設置し、情報共有を進めるとともに、参加大学及び協働機関と連携すべき事項を協議した。

(1) 参加機関:COC+参加大学(8校)、協働機関(7団体)

(2) 開催実績:平成27年度に部会の設置を決定し、平成28年度から令和元年度まで年2回ずつ定例会を開催した。

2. 県内企業訪問、共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業導入支援

企業訪問、経営・技術相談室、地方創生カフェの運営など

COC+推進コーディネーターを中心に企業、関係団体、市町村等を精力的に訪問し、本事業の周知・協力依頼を行った。コーディネーターが減少した平成30年度の訪問数は減少したが、事業の周知が進んだこともあり、相談室への来訪者が増加した。令和元年度は、事業終了後の仕組みづくりに注力したために数値は減少している。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
企業訪問実績	191件	213件	143件	82件
自治体訪問実績	12件	32件	30件	43件
団体訪問実績	52件	33件	40件	23件
経営技術相談室対応実績	123件	244件	342件	192件
学生の地方創生カフェ利用実績	46件 415名	94件 1,228名	44件 324名	52件 337名

(2020. 1.31 現在)

3. 各年度の取組み

各年度の取組をCOC+推進協議会総会資料に基づいて整理した。

《平成27年度》

地方創生インターンシップ等

1. 既存の教養科目及び専門科目で実施しているインターンシップの状況を把握した。
2. 事業協働機関へのインターンシップ参加者数

平成27年度の各校の事業協働機関（熊本県内企業）へのインターンシップ参加者数は次のとおりであり、合計は996人（前年度：1,111人）であった。

連携校	熊本	熊本県立	九州看護	熊本学園	尚綱	崇城	東海	高専
H26	172人	215人	136人	290人	65人	85人	48人	113人
H27	164人	187人	145人	279人	57人	68人	25人	71人

九州看護福祉大学を除き、微減・減少となった。課題として、「地元大学の学生が県内企業を知る機会が少ないこと」「地元就職の利点などが十分に理解されていない事」等があげられる。これらの課題を受け、今後整備を進める地方創生インターンシップや地方創生フィールドワークを活用し、地元企業と連携を深め、体験・経験を蓄積できる様な内容とし、インターンシップの参加者数の増加に向け取り組むこととした。

3. 企業訪問の際にCOC+事業説明及びインターンシップ受け入れの可能性について検討を依頼。
4. 地元大学の学生が県内企業を知る機会が少なく、地元就職の利点などが十分に理解されていないといった現状を受け、COC+推進コーディネーター（産学官連携担当）及び特定事業教員（産学連携推進）が、県内企業訪問を実施し、COC+事業の活動内容の紹介及びインターンシップへの協力依頼を行った。

海外インターンシップ・地方創生フィールドワークの検討

1. 海外インターンシップは、国内インターンシップの整備を優先させるため、本年度は方針についてのみ検討するにとどまった。具体的な検討事項については来年度実施していくこととした。
2. 平成 28 年度に実施可能とするため、STEP3「地方創生フィールドワーク」に該当する科目を専門教育から選定した。

地方創生フィールドワーク (STEP3) 9 科目

文学部	年次	開講区分	曜日	時限	単位数	備考
1 地理調査法概説	2	前期	金	4	2	総合人間学科
2 社会調査実習I	2・2・3	前期	木・水・金	5・2・5	2	総合人間学科
3 歴史資料学野外実習A	3	前期	集中	集中	4	歴史学科
4 キャリアデザイン実習A	3	前期	火	4	2	コミュニケーション情報学科
5 マーケティング・コミュニケーション	3	前期	火	3	2	コミュニケーション情報学科
6 情報処理A	2	前期	集中	集中	2	文学部共通科目

教育学部	年次	開講区分	曜日	時限	単位数	備考
1 基礎地学実験	2	後期	金	5	1	中学校教員養成課程(理科)
2 火山学	3	後期	金曜	3	2	中学校教員養成課程(理科)

工学部	年次	開講区分	曜日	時限	単位数	備考
1 マテリアル工学応用セミナー						マテリアル工学科(限定)

地方創生セミナーの開催

1. くまもと地方産業創生センター主催で、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」地方創生公開講座 Inspire セミナー「県内中小企業の創業者・社長の生き様に学ぶ」を開催した。参加者：学内 21 名、学外 24 名



地方創生セミナー開催の様子

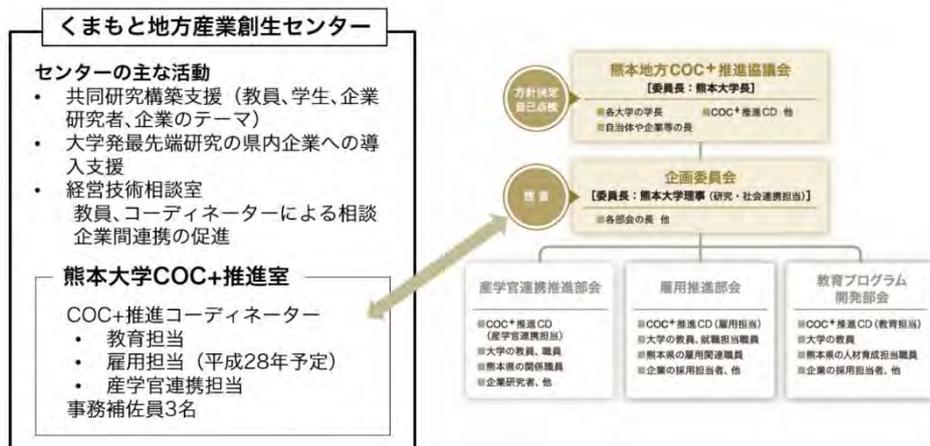
地方創生セミナー リーフレット

くまもと地方産業創生センターの設置

1. 産業創生事業を推進する「くまもと地方産業創生センター」を設置した。(8月)

COC+推進室の設置 (事業拠点)

1. COC+事業を推進するため、くまもと地方産業創生センターに熊本大学 COC+推進室を設置した(3月)。
2. COC+事業を推進する人員として、教育担当 COC+推進コーディネーター(前述した教育プログラム開発部会長)1名、産学連携担当 COC+推進コーディネーター(後述)1名、事務補佐員3名を配置した。



経営・技術相談室及び地方創生カフェの準備

1. 平成28年4月の熊本県からの職員配置に備え、経営・技術相談室の設置を準備した。
2. 学生を含め、企業や自治体など、誰もが気軽に足を運べる場の提供をおこなう地方創生カフェを設置した。



地方創生カフェにて学生と企業の意見交換会の様子

共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業への導入支援

1. COC+推進コーディネーター(産学官連携担当)を採用した。(1月)
2. 学内措置の特定事業教員(産学連携推進)を配置した。(10月)
3. 企業訪問や県内企業からの技術相談の際に、共同研究の打合せ等を実施した。
4. 県内各地域や企業等を訪問し、現地の実態やニーズを把握するとともに、共同研究や商品開発をはじめとした産学官連携に関する情報収集及び意見交換を実施した。

《平成 28 年度》

地方創生インターンシップ

- ① (株) プレシードと情報技術を活用した学内インターンシップ試行
- ② マルキン食品(株)と業務体験と企業の課題解決を組合せた地方創生インターンシップ試行
- ③ 熊本大学工学部及び自然科学研究科の学生とインターンシップ座談会を開催
- ④ 熊本大学文学部 2、3 年生「インターンシップ(2 単位)」文学部において検討中
「問題発見・問題解決」基礎編及び実践編教材作成

地方創生フィールドワーク

- ① [牛深] 熊本大学と熊本県立大が、牛深水産加工組合青年部と連携し、「雑節」の知名度向上に向け、学生参画で、調査研究・マーケティングを検討し、成果発表会実施

〈雑節工場見学〉



〈情報収集〉



〈検討会議〉



〈成果発表会〉



- ② [南小国町] 熊本大学と崇城大学が、(株) フォレックや阿蘇郡南小国町と連携し、学生参画により、南小国町に建設中のファブラボ阿蘇での商品について検討

〈阿蘇森林組合見学〉



〈Fablab 阿蘇の説明〉



〈杉油の取得実習〉



〈調査結果検討会〉



- ③ [人吉] 崇城大学と熊本県立南陵高校 (SPH)、球磨焼酎酒造組合が連携し、南陵高校でセミナーを、中小企業大学校で技術講習会をそれぞれ実施。

〈南陵高校〉



〈南陵高校〉



〈南陵高校〉



〈中小企業大学校〉



- ④ (株) フィールドワークス知的資産経営研究所と協業に関する覚書締結。
→「留学生/日本人学生/地元企業」によるインバウンド獲得プロジェクトの準備

海外インターンシップ検討・準備

- ① 海外インターンシップ先を開拓 (ユウシステム チャイナ (上海))
- ② 平成 28 年度トビタテ! 留学 JAPAN 日本代表プログラム「地域人材コース」派遣留学帰国者 (熊本大学法学部 3 年) に対し、留学動機や活動内容等を調査

県内企業訪問等による産学間連携の取組推進

- ① 平成28年度訪問企業数：165社（延べ数）
- ② 共同研究等実現例
 - ・熊本大学が平田機工株式会社と包括連携協定を締結（H27.8.8）
→薬学部／平田機工：薬草工場及び共同研究所設立へ
 - ・熊本大学先端科学研究部（物質生命化学）／A社（熊本県内企業）と共同特許出願へ
 - ・熊本大学先端科学研究部（機械）／B社（熊本県内企業）へマイクロバブルマシン販売

熊本震災復興フォーラム

- ① 北陸先端科学技術大学院大学－熊本大学：「熊本地震からの復興支援に向けた連携及び協力に関する協定」を締結（H28.7.27）
- ② 熊本震災復興支援を科学技術振興機構（JST）に要請。
 - ・熊本震災復興支援事業「全国イノベーションコーディネータ・フォーラム2016」（H28.11.29－30）メルパルク
 - ・「熊本発！震災復興フォーラム」（H29.3.2）富士ソフトアキバプラザ
同時開催：くまもとCOC+参加校が誇るシーズ（8件）のプレゼン
- ③ 「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム2017」（H29.2.28）
〈講演会場〉 〈マッチングイベント〉



その他シンポジウム等

- ① 地域イノベーションシンポジウム（H28.11.28－29）
- ② Matching HUB Kanazawa 2016（H28.11.1－2）

イノベーションリーダー育成セミナー等

「起業家マインドを持って企業等で活躍する人材」の育成に取り組んでいるMOT特別教育コースが実施する「クリエイティブ・マインドセット・セミナー」などを共催。

- ① 公開セミナー「経営視点のデザインマネジメント」 講師：橋口寛氏（株）（慶応大学SDM非常勤講師、ユーフォリア社長）
- ② 公開セミナー「システム思考ワークショップ ～個別の論理的思考を超えて、大局、根本をいかに捉えるか～」 講師：小田理一郎氏（有）チェンジ・エージェント社長兼CEO
- ③ 公開講座「実践アントレプレiership養成塾『ベンチャー企業論』」
学生時代に起業した若手経営者5名による公開講義、パネルディスカッション
- ④ 平成28年度MOT特別教育コース「ビジネスプラン発表会」（公開）
*H29年度、「クリエイティブ・マインドセット・セミナー」の講師の一人として、リバネスに登壇いただくよう調整

留学生のインターンシップ

熊本大学留学生の県内きぎょうでのインターンシップを実施

⇒松木産業での就業体験を通じ、熊本大学大学院留学生の今春採用決定

＜熊本大学留学生インターンシップアレンジ状況＞

日付	インターンシップ先	留学生人数	狙いと成果
9/20 -9/30	松木産業(株)	中国 1名	・八代港クルーズ船対応に外国人採用 ・熊本大学(文)留学生1名を採用
10/2	ヤマハ熊本プロダクツ(株)	ベニン、南アフリカ、ジンバブエ、タンザニア 各1名	・ヤマハの次世代市場はアフリカ ・1名は日本テクノ(株)に就職した
2/27	ヤマハ熊本(ヤマハ独自企画)	マレーシア、シリア 各1名	・2018 採用にインターンシップ利用を計画 ・別途熊本大学日本人7名参加
3/3	オオクマ電子(株)	アルジェリア 1名	・熊志会と KUMISA との交流会討議 ・iPhone inspection / Medical Inspection system 見学
3/8	アマケンテック(株)	ケニア、コンゴ 各1名	・両名は土木研究生なのでアマケンテックが製造するナノ塗料をアフリカ展開模索
3/15 - 3/28	シークルーズ(株)	中国 1名	・上天草地区に中国人観光客増大のための布石 ・上天草;竜宮、天空の船、リゾテラス連携支援を計画

＜松木産業(株)＞



＜オオクマ電子(株)＞



＜アマケンテック(株)＞

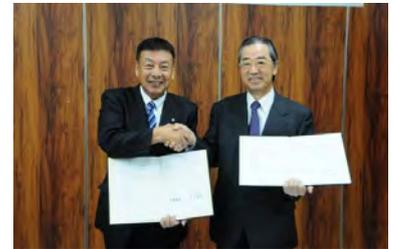


参加大学の特徴的な取組

崇城大学

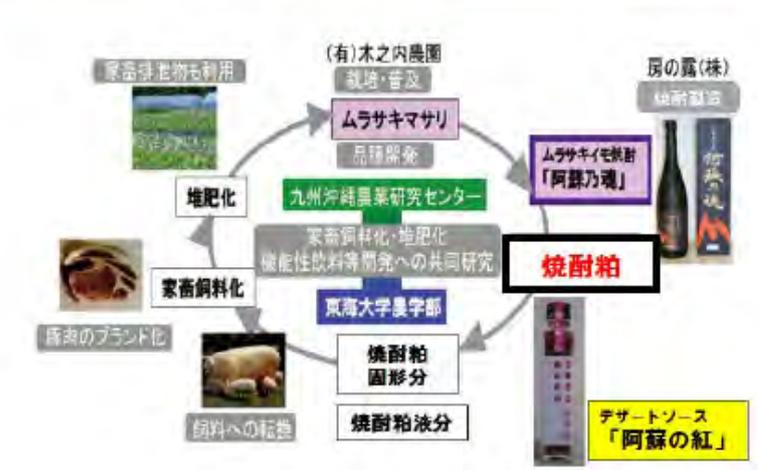
玉名群長洲町との包括連携協定調印 (H28.9.8)

⇒人と地域が輝く町実現のため
相互協力により、地域社会発展
及び人材育成など地方創生の
取組推進



東海大学

◆紫芋を用いた循環型醸造プロジェクトによる芋焼酎とデザートソース



◆美味しさと健康の両立を目指した「スイーツ」の開発

キイチゴの一種、ブラックベリーは、高濃度のアントシアニンを含有しているなど機能性食品として注目されている。栽培試験・有用成分の分析を行うとともに、企業と連携し、ケーキやアイスクリームの開発を行った。



◆ヤーコンの機能性成分に着目したシロップ「阿蘇の秘密」の開発

アンデス地方原産の菊イモ「ヤーコン」は、その塊根にフラクトオリゴ糖やポリフェノールを豊富に含み、低カロリーで便秘解消や脂肪燃焼に役立つ機能性食品として注目されている。
本学では、その品種改良をはじめ、機能性の評価と解明・農産加工品の試作開発。
有効成分を損なわず濃縮し、効率的に摂取できるシロップ「阿蘇の秘密」を、ソースの製造会社と共同で開発した。



尚綱大学・尚綱大学短期大学部

⇒菊池郡菊陽町「すぎなみフェスタ」に出展・参加し、菊陽町の健康づくりを支援し、学生に栄養指導の実際を経験させた。



⇒平成 29 年 3 月 23 日に、「熊本市」と「尚綱大学及び尚綱短期大学部」との包括連携協定を締結。連携事項の中に「食と健康に関すること」が含まれており、食の魅力発信プロジェクト、米食育及び講習会など数項目について連携。

産業振興の間接的な支援と女性の社会進出、地域社会の維持・拡大支援

「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」

- ① 講演会「新任保育者の成長に向けた環境づくり」の開催（H29.3.19 開催。74 名応募）
- ② 県内の子育て環境について実態調査

早期離職者に対する保育環境実態に関するインタビュー調査を実施（対象：県内保育施設の早期離職者 8 名、方法：半構成面接調査）

- ③ 「台湾向け熊本物産品マーケティング戦略に関する調査研究」

台湾向け物産品マーケティングで実績のある（株）ジーリーメディアグループの協力のもと、熊本の魅力開発のために、熊本の物産品及び観光商品（観光ルート）に関する台湾向けマーケティング戦略について調査研究を実施。学生の若者視点を生かし、地元大学生により、熊本物産品及び観光ルートを開拓・選定した。それらの内容を記事に起こし、（株）ジーリーの運営する台湾人向け日本観光情報サイト「ラーチャーゴー」に掲載（H29.3）。

- ④ 「地域の魅力を伝えるための CM 作成プロジェクト in 大津町」

県内外から菊池郡大津町を訪れる人々に、大津町の魅力を伝えるための「CM」を作るという活動を通じ、地域の実情と課題を認識し、地域活性化・復興につながる取り組みを実践して地域理解を深めることを目的に実施。後期授業「サービスラーニング入門Ⅱ」と連携し、CM 作成のプロの指導を受けながら、大津町内の魅力を発掘・撮影し、CM を作成した。



九州看護福祉大学

「地域と九州看護福祉大学との連携調印式（平成 28 年 11 月 2 日）」

荒尾・玉名管内と九州看護福祉大学による「地域と九州看護福祉大学との連携協力に関する協定」を締結。玉名郡長洲町は、平成 22 年度から地域福祉、健康づくりや人材育成などに貢献するための協定を締結し、様々な連携事業に取り組んでいたが、今回の締結によって、地域包括システムの構築、子育てに係る事業等、より広域的な各種事業の連携につながる事が期待される。



《平成 29 年度》

1. 県内企業訪問等による産学間連携の取組推進

① COC+推進コーディネーターによる企業訪問数：189件（H29.4-11）

② 29 年度新設の共同研究講座等（県内企業のみ）

- 「再春館・自然×サイエンス共同研究講座」（株）再春館と熊本大学薬学部
- 「天然物創薬共同研究講座」平田機工（株）と熊本大学大学院生命科学研究部
- 「あつまる新シルク蚕業開発共同研究分野」（株）あつまるホールディングスと熊本大学大学院先端科学研究部

2. COC+特別プロジェクトによる産学官連携、地方創生フィールドワーク等

①COC+特別プロジェクト「地域産業活性化に向けた産業調査及びPRプロジェクト」

■天草の雑節知名度向上に向けた取組

熊本大学・崇城大学が、天草漁協水産加工部会（元牛深水産加工組合）と連携し、天草地域で製造される「雑節」の知名度向上等に向け、産業調査及びPR資料、業界で共通して利用できる商標ロゴ等の作成を行った。

産業調査の結果、天草地域で製造される雑節の国内シェアや当該産業の雇用面での重要性を明らかにできた。調査結果は、県立牛深高等学校等天草地域の高校3校での地方自治体職員等も参加し



熊本地方 COC+最終事業報告(産学連携推進部会)

た出前授業やくまもと産業復興支援プロジェクトフォーラムでのポスター発表で普及を進めた。PR資料や商標ロゴについては、ポスター発表に合わせて業界との協議を進め活用を推進した。

②COC+特別プロジェクト「地域農林水産資源を活用した県内企業等の連携及び連携による商品開発の推進」

■FabLab 南小国を利用した商品開発等

熊本大学が、(株) Foreque と連携し、阿蘇郡南小国町に新たに建設された FabLab 南小国 (指定管理者 (株) Foreque) を利用した商品開発等を企画段階から支援し、試作品の設計及び試作を行った。試作品の1つとして地域産木材を利用した蒸留酒熟成器を試作したが、崇城大学が球磨焼酎酒造組合等と連携実施しているプロジェクトのセミナーで紹介したところ反響があり、連携が拡大している。

実施者は、担当する授業「ものづくりの科学と技術 D」(熊本大学) に、今後、県内企業等の参画による問題解決等を盛り込みたいと考えている。そこで、本プロジェクトでは、FabLab 南小国での商品開発を支援しつつ、当該授業に活用できるノウハウの蓄積や資料の作成も併せて行った。植物精油の活用も含めたバイオマス関連のシンポジウムを開催した。



試作品の設計支援 (3D CAD イメージ)



蒸留酒熟成器 (試作・組立)

また、県内企業等との共同研究開発事業の立案に資するため、シンポジウム「九州特産物を有効活用した産業創生と地域活性化」を開催した (H30.3.2)。



③COC+特別プロジェクト「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援」

■県立南陵高校や球磨焼酎酒造組合との連携

崇城大学が、東海大学、熊本大学、県立南陵高等学校、球磨焼酎酒造組合と連携し、中小企業大学校等でセミナーを5回実施すると共に、地域の焼酎製造業者からの相談に対応した。関係者は次年度に向け共同研究を検討中。(写真：セミナー様子)



④インスパイアのすすめプロジェクト (H29. 10-11, 計 6 回)

■「より多くの家族や子供たちに阿蘇を訪れていただき、より素晴らしい感動を提供できる」アイデア作り

学生・修士生(対象は全ての学部・学科)がチームを組み、企業の方々と一緒に「より多くの家族や子供たちに阿蘇を訪れていただき、より素晴らしい感動を提供できる」アイデアを作り出す。座学やワークショップ、PBLを通して、ロジカルシンキングやデザイン思考の基本的なスキルを習得する。(熊本大学：学部3年1名、博士前期1年4名、博士後期1年1名が参加)

- (主催) 熊本大学くまもと地方産業創生センター、(株) フィールドワークス知的資産経営研究所
- (協力) (株) 阿蘇熊牧場「阿蘇カドリードミニオン」
(株) アイランドリゾート阿蘇「エル・パティオ牧場」



3. 熊本大学留学生の県内企業体験の企画・実施

■県内企業ニーズに基づき、熊本大学留学生の県内企業体験を継続実施した。平成 29 年度は、42 名実施し、4 名の入社が実現した(香港大 1 名、熊本大学大学院生 3 名)。



4. 起業家的技術経営人材の養成

①MOT 特別教育コース「技術経営能力を持つ研究開発リーダーの育成」

■熊本大学大学院自然科学研究科の教育コースをCOC+推進コーディネーターが実施支援

②イノベーションリーダー育成セミナー等【チラシ取得済】

■MOT 特別教育コースが実施する「クリエイティブ・マインドセット・セミナー」などをCOC+が共同開催(計4回)。COC+推進コーディネーターも講師を担当した。



5. 産業復興・産学連携シンポジウム等の開催

① くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム 2018 (主催:熊本地方 COC+推進協議会)

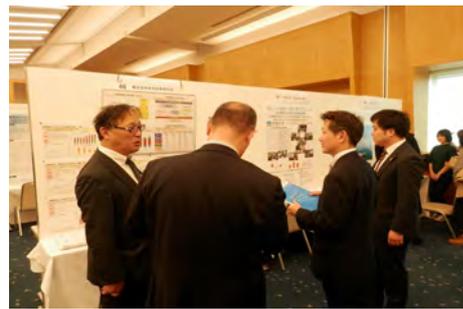
■熊本県の震災復興および地域産業の振興を目的として、講演会、就職支援イベント、産学連携マッチングイベント、研究成果公開イベント、ベンチャー活動報告等を実施。大学シーズの展示や地域企業の技術・製品の展示を行い、産学連携および企業間連携を促進する場を提供した。(H30.3.2 グランメッセ熊本)

- ・出展者 97 : COC+ : 15、産 : 34、学 : 22、官 : 19、金融 : 3、ベンチャー : 4
- ・参加者 487 名 : 企業 175 名、官・金 124 名、大学 126 名、一般 12 名、学生 50 名)



② COC+事業特別プロジェクト(産学連携)シンポジウムの開催(①と同時開催)

■COC+の取り組みについて学内外にPRするため、くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラムにおいて、COC+特別プロジェクトなど16件の発表を行った。会場ではプロジェクトに参画した学生からの発表等が行われ、参加した産学官の関係者と意見交換等が行われた。



6. 経営・技術相談室、地方創生カフェの運営

■くまもと地方産業創生センターに設置している「地方創生カフェ」及び「経営・技術相談室」で、学生や県内企業等からの相談等に対応した。

(対応実績 (H29.11 現在) : カフェ 54 件 (124 名)、相談室 187 件)

7. 参加大学の特徴的な取組

熊本学園大学

■COC+特別プロジェクト「くまもと Festival (仮称) によるDMO 創生プロジェクト」

近畿日本ツーリストと旅行商品の開発、イベント企画を通して、他地域からの誘客、雇用の創出で地域活性化に貢献し、若者の地域定住を目指す。実際にフィールドワークを行い、平成 30 年 3 月 2 日に開催された「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム 2018」でパネルセッションによる活動報告を行った。



崇城大学

■「食と健康とビジネス」セミナーを開催

日 時 : 平成 29 年 9 月 2 日 (土) 13 時～16 時

場 所 : TKP ガーデンシティネストホテル熊本 あそ I

参加者 : 14 名

内 容 : テーマ「食と健康とビジネス」

講演 1 : 「植物油のビジネスへの可能性 - おいしさから健康機能まで -」大東カカオ(株)取締役執行役員研究開発部長兼品質保証管掌
青山 敏明 氏

講演 2 : 「健康寿命延伸を目指した食と栄養」

熊本県立大学 環境共生学部 教授 南 久則 氏



東海大学

■COC+特別プロジェクト「熊本地震からの創造的復興を目指した農業成長戦略」

- ・ 熊本地震の農家被害状況についてのアンケートを益城地域と阿蘇地域の JA を中心とする農家に依頼し、水田や普通畑の多い山都町のアンケート調査を解析。
- ・ 阿蘇地域の農家のダイズの収量調査を実施。また、作付け不可能となった農家の収益を簡易に補填できるような復興への関連商品を開発し、その販売について解析。
- ・ 阿蘇地域のイチゴ農家に定植のボランティアを実施。
- ・ 成果の一部として国内学会発表2課題と国際学会発表1課題を発表した。さらに、農家圃場の雑穀やダイズ、昆虫相の動態について調査を行い、2017 年度の卒業研究として発表した。



■COC+特別プロジェクト「乳酸発酵による熊本県の農畜産物への付加価値の創出と6次産業化への基盤作り」

熊本の農畜産物から乳酸菌を単離・同定し、農畜産物の発酵性試験を行い、新たな発酵食品の提案を行なうと共に、様々な機能性を試験し有用乳酸菌の選抜を行うことで、第1次産業の高付加価値に繋がる研究データの蓄積を行うことを目的に研究を行った結果、TK35株を用いた新たな発酵食品の開発が期待されることがわかった。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

■COC+特別プロジェクト「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」

(1) 早期離職予防及び保育の質保証についての調査

早期離職予防も含めた、職場で保育者をサポートする環境の現状について、ヒアリング調査やアンケート調査（800ヶ所の保育施設に協力依頼）を実施した。

また、平成30年3月10日（日）には、「保育に生かそう！つながりのスキル」というテーマで、「自分力とセルフケア力を高める、共感とコミュニケーション」について、教育学博士の野沢綾子氏より講演と演習を実施した。また、保育の質保証について、40年以上の保育経験をもつ乳児保育の専門家に、指導者からみた保育の現状・課題点をヒアリング調査した。

(2) 子育ての実態把握と安心して子育てできるための出前育児講座

尚綱大学短期大学部附属こども園子育て支援室と連携し、来所者の初回面接アンケートの集計結果から、子育ての悩みを抽出し、「保護者向けの出前育児講座」を開催した。

- ・「お母さんの自己肯定感を高めるワークショップ」
(講師：田中京子氏 H30. 1. 17)
- ・「子どもの口の発達から全身の健康へつなげましょう」
(講師：矢島由紀氏 H30. 2. 5)
- ・「親子でみそ作り」(講師：よかあんばい JAPAN H30. 2. 15)
- ・「こどもの夜更かしはなぜ悪いの？」
(講師：三池輝久氏 H30. 3. 19)

以上のテーマで、今回は、包括連携協定を締結している菊陽町や合志市とも連携し、出前育児講座を開催することができた。今後は、地域の子育て支援センターとも連携しながら、大学の専門知識を活かしてフォローアップできる体制づくりに取り組んでいく。



■COC+特別プロジェクト「杖立温泉地域フードツーリズム支援プロジェクト」

(1)現地調査1回目：平成29年10月22日に道の駅小国ゆうステーション及び薬味野菜の里小国等を訪問し、小国地域の農産品、旬の食材等についての調査を行った。その後杖立温泉共同利用蒸し調理場を利用して、加熱調理時間や食材の組み合わせ等について検討を行った。

(2)現地調査2回目：平成29年11月5日に杖立温泉会館で開催された杖立温泉みちくさ市に参加し、郷土料理の調査や杖立地域振興に関する九州大学田北講師の取組内容について意見交換を行った。

(3)レシピ・調理法検討：フィールドワークでの学習内容を基に、後日小国地域特産農産品を利用した蒸し調理レシピ例「里芋ポタージュ」や「フルーツプリン」等について学生・教員で検討を行った。



検討した蒸し調理レシピ例

《平成 30 年度》

熊本大学 (COC+大学)

1. 共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業導入支援

① 30 年度新設の共同研究講座等 (県内企業のみ)

- 「半導体プロセス評価共同研究分野」(平成 30 年 6 月 1 日)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)と熊本大学大学院先端科学研究部

② 次世代ベンチャー創出支援

- 熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム(熊本県・肥後銀行・熊本県工業連合会・熊本大学。リバネス)による次世代ベンチャーコンテストの開催(2018 年 7 月 21 日(土))

→ パパーナル(熊本大学)「世界初!精子形成障害改善薬の開発」が最優秀賞を受賞



③ スターティアホールディングス(株)との共同研究

- 熊本創生推進機構地域連携部門とスターティアホールディングス(株)で共同研究契約を締結
 - ・ COC+事業の一部(教育プログラム、ベンチャー等の育成)の連携
 - ・ (財)ほしのわ、(社)熊本創生企業家ネットワークによる若者の地元定着、ベンチャー育成・上場での連携
 - ・ 地方創生の推進、さらには COC+事業終了後の事業継続に繋げていくこととしている。

2. 産業創生・復興等のシンポジウムの開催

① くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム 2019

・2019年2月27日（水）開催

熊本県の震災復興及び地域産業の振興を目的として、産学連携マッチングイベント、研究成果公開イベント、ベンチャー活動報告等を開催予定。大学シーズの展示や地域起業の技術・製品展示を行い、産学連携及び企業間連携を促進する場を提供するもの。（展示ブース：約110展示（地域企業・熊本大学・COC+機関・公的機関等）

【主催】熊本大学・熊本地方COC+推進協議会・熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム

【共催】産業技術総合研究所・北陸先端科学技術大学院大学

【協賛】科学技術振興機構

【後援】中小企業基盤整備機構・熊本市・熊本県工業連合会・熊本県産業技術センター



② 熊本大学若手研究者とのWeb交流

大学と県内企業等の連携創出に向け、若手研究者と県内企業関係者とのコミュニケーションの強化に取り組んだ。具体的には、大学教員等が県内企業関係者を対象に自らの研究等について講演し、県内企業関係者と意見交換を行うが、スケジュール的・地理的に参加が難しい企業関係者に配慮して、講演内容を撮影編集の上Web配信し、企業関係者からの質問や意見もWebを通して行えるように体制を構築した。

本件は新たな取り組みであることから、当面は試験的な実施として、熊本大学工学部が実施する「熊本大学工学部の次代を担う研究者ランチョンミーティング」(※)での若手研究者の講演を企業関係者にWeb配信した。配信する企業関係者については、当該取り組みに参加登録した者（9社13名）とした。平成30年度の配信実績7回（平成31年2月5日現在）。

第1回（6/22）は、宇佐川工学部長によるミーティング参加者への主旨説明と研究紹介（講演）を実施し、映像配信は第2回ミーティングでの講演から実施した。

- ①7/27 助教 久世竜司、先端科学研究部 エネルギー科学部門波動情報通信分野
「ウェアラブルデバイスに利用可能な超低姿勢アンテナ」
- ②8/31 助教 山口 信、先端科学研究部 物質材料科学部門 建築材料・施工分野
「コンクリート構造物の耐衝撃性能向上技術」
- ③9/28 助教 田中 茂、パルスパワー科学研究所
「爆発実験施設の紹介と衝撃エネルギーの応用」
- ④10/19 助教 眞鍋雄貴、先端科学研究部（工）情報・エネルギー部門先端工学第4
「テキストからなるビッグデータへの取組」
- ⑤11/30 助教 石田 桂、先端科学研究部 河川環境研究室
「地球温暖化の影響評価」

⑥12/21 准教授 上瀧 剛、先端科学研究部

「三次元画像計測と照合技術」

⑦1/25 助教 中妻 啓、先端科学研究部 ロボット・制御・計測分野

「IoT・ロボットへの応用可能な多機能フレキシブル圧電センサー」



(↑産業界向け案内文書)



(↑配信ウェブサイト)



(↑配信映像 (例) 第5回配信)



(↑第7回配信 冒頭部)

配信した企業関係者を対象にヒアリングを行ったところ、全ての関係者から、「大学で若手の研究者が実施している研究について情報を得る貴重な機会であり、また、Web交流は忙しい企業関係者の都合に配慮したものと感じている。これからも視聴を続けていき産学連携につながることを期待している」との意見を得ている。

3. COC+特別プロジェクトによる産学官連携及びフィールドワーク等

熊本大学（COC+大学）

① 産学連携の強化と学生の地域産業理解の深化（COC+特プロ）

- ・ COC+科目（Step2）「ものづくりの科学と技術 D～資源循環型社会の実現を目指して～」に、太陽光事業の観点から(株)タイヘイテクノス、試薬製造の観点から(株)同仁化学研究所に参画いただいた。
- ・ 参画企業より循環型社会の実現に向けた事業の立案等の課題を提示頂き、学生（43人）がグループに分かれて検討を行った。学生グループは、検討結果を発表して参画企業及び教員等から助言を受けることにより、循環型社会の実現に向けた地域企業の取組等について知見を深めた。

H30. 7. 10	課題提示（(株)タイヘイテクノス）
H30. 7. 13	課題提示（(株)同仁化学研究所）
H30. 7. 17・H30 7. 20	担当教員による指導
H30. 7. 24	検討結果報告（(株)タイヘイテクノス）
H30. 7. 27	検討結果報告（(株)同仁化学研究所）



（↑ 授業風景：検討結果について報告を行う学生グループ）

- ・ 産学連携の推進に向け、循環型社会の構築に関係する企業を訪問し、問題や課題についてヒアリングを行った。具体的には、産業廃棄物の処理業者で構成する（一社）熊本県産業資源循環協会より調査の主旨に沿って推薦いただいた会員企業より九州産廃（株）、木材チップ発電に取り組まれている日本製紙(株)八代工場、大型の排水処理プラントを稼働されているマルキン食品(株)、フンドーダイ五葉(株)等を訪問した。これら訪問した企業を対象に、試験的に開設したウェブサイトの紹介等を行い、ウェブサイトを通じた交流も図った。



（↑ 試験的に運営した産学交流 Web サイト）

②COC+事業特別プロジェクトシンポジウムの開催

- ・COC+事業特別プロジェクトで実施した取り組みについて、更なる産学連携の推進を図るため、シンポジウム「バイオマス資源の利活用等による循環型社会の実現に向けて」を開催した。

日時：2019年1月23日(水) 15:00-18:00

会場：熊本大学インキュベーションラボラトリー

主催：熊本大学熊本創生推進機構

参加者：21名(企業等14人、大学関係者3人、学生4人)

■招待講演「竹中工務店によるバイオマス処理研究の取組」

講師：(株)竹中工務店技術研究所 自然・生態環境部

水環境・資源循環Gリーダー 川尻 聡

■県内における取組について

「超臨界流体処理によるバイオマス資源の利活用」熊本大学准教授 佐々木 満

「メタン発酵効率化のための可溶化システム」熊本県立大学教授 石橋 康弘

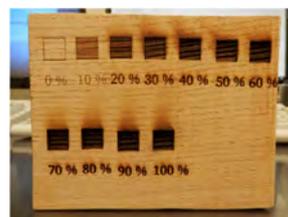
「COC+プロジェクトにおける地域有機資源の利活用」熊本大学 COC+推進 CD 林田 安生



③COC+事業特別プロジェクト等からの調査研究事業(日本酒造組合中央会委託調査研究)

=地域産木材等による米焼酎の熟成とその利用に関する調査研究=

人吉・球磨地域を対象に実施された「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援(H29)(プロジェクト代表 崇城大学 寺本祐司教授)と、阿蘇郡南小国町を対象に実施された「地域農林水産資源を活用した県内企業等の連携及び連携による商品開発」(H29)(プロジェクト代表 熊本大学 佐々木満准教授)等での取り組みを継続して推進するため、プロジェクトを実施した崇城大学と熊本大学が球磨焼酎酒造組合、木材関連業者等と連携して、標記調査研究事業を立案し、日本酒造組合中央会から委託を受けて実施している。



地域産木材のレーザーロースト処理

焼酎熟成器(即モデル型)

平成30年度は、初年度として、地域産木材の表面ロースト処理、焼酎熟成器の検討等を行った。球磨焼酎組合員等を対象に調査研究の進捗報告会を開催したところ、多数の企業から参加があり、本調査研究への業界の期待が窺える。

なお、本調査研究は、球磨焼酎酒造組合をとおして日本酒造組合中央会に申請されているが、球磨焼酎酒造組合は平成31年1月17日に開催した組合定例会で、次年度(平成31年度)も調査研究を実施することを決定し、平成31年度事業を中央会に申請しているところである。



H30.11.27 調査研究の進捗報告(球磨焼酎酒造組合)

崇城大学

①農業現場での光合成細菌投与実証試験（COC+特プロ）

= 球磨焼酎粕で培養した光合成細菌の生産性・品質向上効果の農業現場での検証 =

○農業現場での検証や試験を実施

- ・球磨焼酎粕で培養した光合成細菌の生産性・品質向上効果の農業現場での検証を行った。
- ・自然栽培水田で光合成細菌投与による効果を実証するため、熊本市北区植木地区の水田3枚を使用して試験を実施した。



光合成細菌投与の様子（H30. 8. 9）



水田のドローン調査（H30. 9. 13）



坪刈りの様子（H30. 10. 8）

- ・球磨郡あさぎり町でイネへの光合成細菌投与試験を実施した。投与方法は育苗箱への投与（品種：にこまる）と水田への流し込み（品種：北陸193号）で検討した。



種もみ



光合成細菌を希釈した水



播種から19日目の様子

②地域連携によるCOC+事業推進のための問題解決推進プロジェクト（COC+特プロ）

= 人吉・球磨地域焼酎製造業等の問題解決に向けた課題検討と成果を活用した教材開発 =

○「COC+、SPH微生物実験技術研修」を開催

2016年に文科省よりSPHに指定されている南陵高校食品科学科の生徒を対象に実施した。

1. 平成30年10月4日（木）
2. 平成30年12月3日（月）
3. 平成30年12月11日（火）

講師 崇城大学 応用微生物工学科 教授 寺本祐司
崇城大学 応用微生物工学科 教授 三枝敬明
熊本大学 熊本創生推進機構 COC+推進コーディネーター 林田安生



熊本地方 COC+最終事業報告(産学連携推進部会)

○COC+特別プロジェクト講演会(検討会)「焼酎製造技術検討会」を開催

日時 平成30年11月27日(火) 15時~17時
会場 球磨焼酎酒造組合、人吉市麓町
参加者 球磨焼酎酒造組合員他(24名)
内容 日本酒造組合中央会委託調査研究「地域産木材等による米焼酎の熟成とその利用に関する調査研究」について
講師 崇城大学 応用微生物工学科 教授 寺本祐司
崇城大学 応用微生物工学科 教授 三枝敬明
熊本大学 熊本創生推進機構 COC+推進コーディネーター 林田安生



⑥八代宮地和紙を次世代につなぐデザインプロジェクト(COC+特プロ)

= 地域産業の活性化、大学間連携 =

- ・紙漉きの里として知られる八代市宮地において、伝統工芸としての宮地和紙の後継者不足により存続の危機に瀕しており、熊本高等専門学校や地元の有志と協力して、紙漉きの里を次世代につなぐプロジェクトに参加した。

尚綱大学

①被災地における地域活性化および若者のシビックプライド向上プロジェクト(COC+特プロ)

○若者のシビックプライド向上に関する講演会開催

日時: 2018年12月1日(土) 15:30~17:00

場所: 尚綱大学 九品寺キャンパス 10階ホール

テーマ: 熊本だからできることその可能性 -熊本に生きる若者のこれからのを考える-

参加者: 45名(大学生、一般)

- ・講演Ⅰ: 「益城町の小さい町工場から世界へ」
講師: シタテル株式会社 代表取締役 CEO 河野 秀和氏
- ・講演Ⅱ: 「若者×地域×仕事 若者の力がこれからの地域をつくる」
講師: 一般社団法人 フミダス 代表理事 濱本伸司氏



○益城町にて「益城歴史資産復興協議会」のメンバーと古民家活用等について意見交換及び現地調査
2018年12月2日（日）益城町を訪問し、古民家の活用、歴史史跡や被災断層フットパスツアーにおけるルート開拓および地元特産品開発など地域資源の活用について若者の視点から多様なアイデアを提供し、益城町における新しい「体験型観光」による地域活性化について地域住民と話し合いや益城町の歴史史跡や被災断層における現地調査を実施した。



古民家活用及び地元特産品開発等に関する意見交換の様子



被災断層における現地調査の様子

○被災地における地域活性化に関するパネルディスカッション実施

日時：2019年2月8日（金）16：00～18：00

場所：尚綱大学 九品寺キャンパス 10階ホール

テーマ：熊本におけるコンテンツ・ツーリズムの可能性

本パネルディスカッションは、「ONE PIECE 熊本復興プロジェクト」における益城町の取り組みや、ONE PIECE のキャラクター像ができる可能性が高い自治体への観光ルートのあり方などを議論しながら、熊本県におけるコンテンツ・ツーリズムの可能性を検討することを目的としている。

- ・講演：「コンテンツ・ツーリズムは何か」
講師：北海道大学大学院 檜水考太氏
- ・パネルディスカッションのテーマ：
「熊本から考えるコンテンツ・ツーリズムの可能性」
- ・登壇者：檜水考太氏（北海道大学大学院）
和田大志氏（熊本県知事公室参事）
浦上英樹氏（株式会社くまもと DMC 事務取締役）
津田聡氏（株式会社フラッグス代表取締役副社長）
佐竹信彦氏（PopTown Project 主催）
畠山真一教授、三浦知志准教授、金承珠講師
(尚綱大学 現代文化学部教員)

熊本から考える
コンテンツ・ツーリズムの
可能性

2/8(金)
16:00 開始
尚綱大学
九品寺キャンパス
1号館10Fホール

パネルディスカッションのスケジュール
15:30 受付開始
16:00 開会挨拶
16:10 講演「コンテンツ・ツーリズムとは何か」 檜水考太氏(北海道大学大学院)
16:50 パネルディスカッション「熊本から考えるコンテンツ・ツーリズムの可能性」
18:00 閉会挨拶

講師 檜水考太氏(北海道大学大学院)
司会 和田大志氏(熊本県知事公室参事)
津田聡氏(株式会社フラッグス代表取締役副社長)
佐竹信彦氏(PopTown Project 主催)
畠山真一教授(尚綱大学)
三浦知志准教授、金承珠講師(尚綱大学 現代文化学部教員)

東海大学

①東海大学と尚絅大学との連携による地域創生型弁当及びデザートの開発

- ・東海大学九州キャンパスと尚絅大学・尚絅大学短期大学部との交流及び連携に関する包括協定を結び、その一つの活動として、学生を中心とした地元の食農の創生に関連する商品開発を通じ、地域への貢献に資することと、地域社会の問題とその解決に強い関心と意欲を有する内的動機の高い学生の能力をさらに育てることを目的とし、熊本の風土と農業を活かした弁当及びデザート商品の開発を行った。

9月	コンセプトおよび使用食材等の検討
10月-11月	レシピ案の作成と試作品の試食・改良、企業との調整
12月	レシピ案の完成、企業との調整
1月	商品完成、お披露目会

熊本学園大学

①DMO 創生プロジェクト「きなっせ！くまもと」(COC+特プロ)

2017年度に引き続き2018年度においても熊本学園大学商学部ホスピタリティ・マネジメント学科及び熊本大学 Kumarism が共同で、DMO旅行商品の開発及び情報発信を行うために、KNT：(株)近畿日本ツーリストの専門家を講師として招き、旅行商品創出に必要なスキルの取得するためのセミナー、フィールドワーク等を実施した。2019年は、本県で「ラグビーワールドカップ」、「2019女子ハンドボール世界選手権大会」が開催される予定であり内外から多くの観光客の来県が見込まれている。学生目線での旅行商品の開発を行うことにより本県の観光振興に寄与することを目的とするものである。

- ・着地型旅行商品開発ワークショップの実施（於：熊本大学） 3回
- ・ワークショップを踏まえた現地調査（2日間：阿蘇・熊本市内）の実施
- ・開発した旅行商品プレゼンテーション 実施
- ・熊本大学ではCOC+事業教育プログラム step4 地方創生プロジェクトの一つに位置付け単位化した。

熊本高等専門学校

①高専4.0イニシアティブ事業「Society5.0の実現に向けた人財還流型高専版オープン・イノベーション基盤の構築」

- ・国立高等専門学校機構の高専4.0イニシアティブ事業として、Society5.0の実現に貢献できるエンジニアの育成と人間中心型社会実現に寄与するオープン・イノベーションの基盤整備を推進。
- ・柱として、地域企業・自治体と本校の学生・卒業生・教員の関係創発の場としての「メガミーティング」、そこで生まれた課題をテーマとした対話探求の場としての「イノベーションカフェ」、さら

にそこから実際に地域課題の解決や産業創生を行う「オープンイノベーションプロジェクト」を展開していくことを目指す。これらのプロジェクトには、熊本高等専門学校の学生や卒業生が参加できる体制を整備することで、地域に根ざした人材還流型のコミュニティを形成することを特長としている。

○メガミーティング

日時：平成 31 年 2 月 21 日（木）10:00-17:00

場所：ホテル熊本テレサ

内容：

1. 基調講演

(1) デジタル・トランスフォーメーション（DX）の真実

小西 一有 氏（デジタルビジネスイノベーションセンター・首席研究員）

(2) 持続可能な共生社会に向けた防災科研の取り組み

酒井 直樹 氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所・主任研究員）

2. 熊本・八代合同ステージ／ポスターセッション／企業ブース

(1) 教員展示（研究・教育活動紹介）

(2) 学生展示（ロボコン・プロコンなど）

(3) 企業ブース（注力取り組み事例など）

参加者（予定）：企業等 100 名、教員 50 名、学生 160 名、企業ブース 20

○イノベーションカフェ

1. 高専生による自由研究！！（平成 30 年 10 月 27、28 日）
2. 県立大 COC+プロジェクト、山都町スマート農業懇談会（平成 30 年 11 月 15 日）
3. AT の実線スキルに学ぶ共生社会シンポジウム（平成 30 年 12 月 8 日）
4. OB/OG ネットワーク座談会（平成 30 年 12 月 1 日）
5. 同窓会出張ミニワークショップ（平成 31 年 2 月 1 日）
6. くまもと有機エレクトロニクス産業促進協議会連携イノベーションカフェ（平成 31 年 2 月 8 日）
7. 近隣の工場を見学し学生自ら課題を発見して提案を行う発表会（平成 30 年 11 月 9 日）

○オープンイノベーションプロジェクト

次の 4 テーマがスタートしており、来年度も継続実施予定である。

1. 福祉支援・防災プロジェクト
2. スマート農業プロジェクト
3. 環境モニタリングプロジェクト
4. IoT 共通基盤プロジェクト



《令和元年度》

熊本大学 (COC+大学)

1. 県内企業訪問、共同研究構築及び大学発最先端研究成果の県内企業導入支援

①共同研究講座等 (県内企業のみ)

- 「アグロメディシン開発研究講座」(平成 28 年 7 月 1 日～令和元年 6 月 30 日)
河合興産(株)と熊本大学大学院生命科学研究部
- 「再春館・自然×サイエンス共同研究講座」(平成 29 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日)
(株)再春館製薬所と熊本大学大学院生命科学研究部
- 「あつまる新シルク蚕業開発共同研究分野」(平成 29 年 11 月 1 日～令和 4 年 10 月 31 日)
(株)あつまるホールディングスと熊本大学大学院先端科学研究部
- 「半導体プロセス評価共同研究分野」(平成 30 年 6 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)と熊本大学大学院先端科学研究部
- 「サイエンスファーム生体機能化学共同研究講座」(平成 31 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日)
サイエンスファーム(株)と熊本大学大学院生命科学研究部
- 「再春館・先進老化医学共同研究講座」(令和 2 年 4 月 1 日～令和 7 年 3 月 31 日)
(株)再春館製薬所と熊本大学大学院生命科学研究部

②次世代ベンチャー創出支援

- 熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム(熊本県県・肥後銀行・熊本県工業联合会・熊本大学・リバネス)による次世代ベンチャーコンテストの開催(2019年7月20日(土))
→P&A(発表テーマ:光合成細菌由来の藻類活力剤、
代表者:宮坂均/崇城大学 生物生命学部 応用生命科学科 教授)が最優秀賞を受賞



③スターティアホールディングス(株)との共同研究

- 熊本創生推進機構地域連携部門とスターティアホールディングス(株)で共同研究契約を締結
 - ・COC+事業の一部(教育プログラム、ベンチャー等の育成)の連携
 - ・(公財)ほしのわ、(社)熊本創生企業家ネットワークによる若者の地元定着、ベンチャー育成・上場での連携
 - ・地方創生の推進、さらにはCOC+事業終了後の事業継続に繋げていくこととしている。

2. 産業創生・復興等のシンポジウムの開催

熊本大学若手研究者との Web 交流

- ・大学と県内企業等の連携創出に向け、若手研究者と県内企業関係者とのコミュニケーションの強化に取り組んだ。具体的には、熊本大学工学部が実施する「熊本大学工学部の次代を担う研究者ランチョンミーティング」で若手研究者の講演等を企業関係者に情報提供した。
- ・大学教員等が県内企業関係者を対象に自らの研究等について講演し、県内企業関係者と意見交換を行うが、スケジュール的・地理的に参加が難しい企業関係者に配慮して、講演内容を撮影編集の上 Web 配信し、企業関係者からの質問や意見も Web を通して行えるようにした。
- ・配信する企業関係者については、当該取り組みに参加登録した者（9社13名）とした。本年度の配信実績は11回（2020.1.31現在、通算19回）。
- ・配信した企業関係者から「大学で若手の研究者が実施している研究について情報を得る貴重な機会であり、また、Web 交流は忙しい企業関係者の都合に配慮したものと感じている。産学連携につながることを期待している」との意見を得ている。
- ・本取り組みによって醸成した企業関係者との信頼関係も活用し、産学連携を更に推進していく。

【2019年度実績】

- ① 4/26 助教 北村裕介、先端科学研究部物質材料科学部門（編集により公開5/8～）
「抗体に代わる次世代の分子認識素子・核酸アプタマー
～その創生とバイオ分析への応用～」
- ② 5/31 准教授 杉本 学、先端科学研究部物質材料科学部門
「機能物質開発 by エンジニアリング&エンジニアリング by 機能性物質開発
～熊本大学工学部独自の組み合わせで、新しい価値を生み出せるか？」
- ③ 6/28 教授 北 直泰、先端科学研究部
「エルビウム添加型光ファイバーの数学解析に向けて」
- ④ 7/26 准教授 黒田雅利、先端科学研究部産業基盤部門
「高経年化機器の高度メンテナンス技術の開発（研究事例紹介）」
- ⑤ 8/30 准教授 小林牧子、大学院先端科学研究部
「スプレー塗布で作製する多孔性圧電材料の開発と応用」
- ⑥ 9/27 准教授 竹内裕希子、先端科学研究部社会基盤環境部門
「地区防災計画策定を促すリスクコミュニケーション支援ツール“避難所初動運営キット”の作成経緯と活用について」
- ⑦ 10/25 准教授 友清衣利子、先端科学研究部社会基盤環境部門
「避難所としての体育館の災害時の被害形態と構造」
- ⑧ 11/29 准教授 米本幸弘、先端科学研究部機械・エネルギー創生部門
「固体面上液体の濡れ性評価モデルの構築」
- ⑨ 12/20 助教 古免久弥、先端マグネシウム国際研究センター
「アーク溶接中のプラズマ及び熔融金属挙動のシミュレーション」

- ⑩ 1/31 助教 田邊将之、先端科学研究部 情報・エネルギー部門
「超音波画像を用いた便の性状推定と介護現場における応用」
(その他) 6/18 技術職員 佐藤徹哉、技術部
「微小・薄膜 X 線回折装置 Smart Lab のご紹介」



(↑配信映像冒頭部 (例))

- ・配信した企業関係者を対象にヒアリングを行ったところ、関係者から、「大学で若手の研究者が実施している研究について情報を得る貴重な機会であり、また、Web 交流は忙しい企業関係者の都合に配慮したものと感じている。」との意見を得ている。

3. COC+特別プロジェクト等による産学官連携及びフィールドワーク等

熊本大学 (COC+大学)

①産学連携の強化と学生の地域産業理解の深化 (COC+特プロ、2018) から派生した産学連携

標記プロジェクトにおいては、プロジェクト代表が担当する科目「ものづくりの科学と技術 D～資源循環型社会の実現を目指して～」に関連し、循環型社会の構築に関連する企業への訪問、シンポジウムやWeb サイトでの交流により連携を深めた。そして、関連企業に上記科目に参画いただき、授業分野に関係する課題を提示していただいた。学生は、担当教員の指導の下で課題を検討、検討結果を発表、企業から講評を受けることにより、地域企業及びその課題についての理解を深めた。

実績として、2018 年度に 2 社 (試薬製造、機械製造)、2019 年度に 2 社 (機械製造、食品製造) が参画した。担当教員は、今後も関係企業との信頼関係を大学での活動に活かしていきたいとしている。

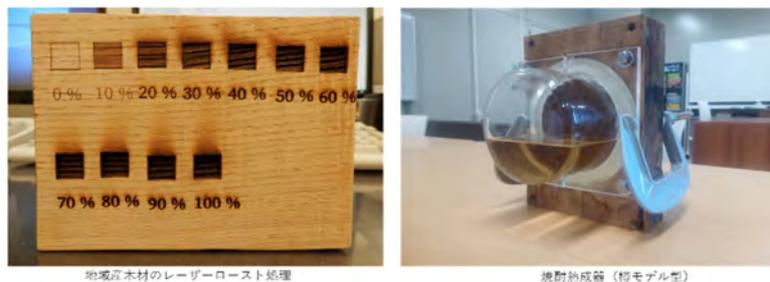


写真 課題を提示する参画企業 (左) と検討結果を発表する学生 (右)

②地域農林水産資源を活用した県内企業等の連携及び連携による商品開発（COC+特プロ 2018）等から派生した産学連携（日本酒造組合中央会委託調査研究「地域産木材等による米焼酎の熟成とその利用」）

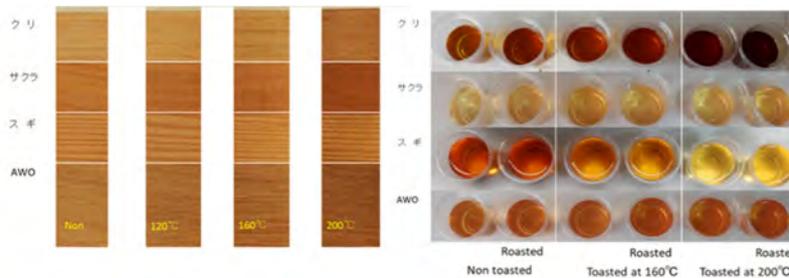
阿蘇郡南小国町を対象に実施された「地域農林水産資源を活用した県内企業等の連携及び連携による商品開発」（H29）（プロジェクト代表 熊本大学 佐々木満准教授）、人吉・球磨地域を対象に実施された「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援（H29）（プロジェクト代表 崇城大学 寺本祐司教授）等での取り組みを継続して推進するため、プロジェクトを実施した熊本大学と崇城大学が球磨焼酎酒造組合、木材関連業者等と連携して、標記調査研究事業を立案し、日本酒造組合中央会から委託を受けて実施している。

本調査研究では、サクラ等の地域産木材を用い、木材表面のレーザー光によるロースト処理、熱気流によるトースト処理、表面処理を施した木材を用いた米焼酎の熟成による酒質の変化等を検討した。現在、県内外の多くの関連企業が当該調査研究の成果に興味を示しており、球磨焼酎酒造組合も調査研究の継続を希望している。



地域産木材のレーザーロースト処理

焼酎熟成器（樽モデル型）



調査研究成果例



H30.11.27 調査研究の進捗報告（球磨焼酎酒造組合）

⑨ 地域産業活性化に向けた産業調査及び PR プロジェクト (COC+特プロ 2017) 等から派生した産学連携 連携した産業団体の取組が全国大会地域活性化部門で水産庁長官賞を受賞

熊本大学は熊本県立大学 (H28)、崇城大学 (H29) と連携し「天草雑節製造業界活性化に向けたセミナー及び PR 資料の開発とマーケティング施策の検討」(H28) (プロジェクト代表 熊本大学 牧野厚史 教授)、「地域産業活性化に向けた産業調査及び PR プロジェクト」(H29) (代表 熊本大学 牧野厚史 教授)により牛深久玉地域の水産加工業者の取組を支援した。

この水産加工業者の取組が 2019 年 2 月 28 から 3 月 1 日まで東京都で開催された第 24 回全国青年・女性漁業者交流大会において同業者によって構成される天草漁業協同組合水産加工部会 (部会長 江良水産 (株) 社長 江良 浩) より「日本のうまみの隠し味「牛深の節」～牛深ハイヤ節と異なるもう一つの節～」として発表され、同大会地域活性化部門で水産庁長官賞を受賞した。

同部会は中村五木天草市長を表見訪問し本件を報告 (R1.5.22)。その際、江良部会長は「熊本大学など産学官や地域が一体となって活動しているところが評価された」とコメントし中村市長から激励を受けた (朝日新聞「隠れた名品、雑節に光。天草漁協牛深総合支所の作り手、水産庁長官賞」記事 (R1.5.24) より)。なお、同部会は、今後も必要に応じて大学等と連携していきたいとしている。

尚綱大学

① COC+「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」事業について (概要報告)

目的：女性の就労者の増加、子育て世代の困難や不安を解消し、安心して働きながら子育てできる環境づくりとして、本年度は一人で子育てをしながら働き生活する「ひとり親世帯」に焦点を当て、より深い子育て支援のあり方について考える。また、子育て支援策の一つとして保育者の保育の質向上及び早期離職予防により保育者不足の解消に向けた取り組みを進めてきた。

1. 「早期離職予防と保育の質向上」に向けた「保育 café」の開催

5 月、7 月、9 月、11 月、1 月の計 5 回 (偶数月は乳児保育研究会終了後開催)

2. 地域との連携「子育て café (ぼちぼち café)」の開催 6 月、7 月、9 月、11 月、1 月の計 5 回

3. 「安心して働きながら子育てできる」ひとり親世帯交流会及び相談会の開催

5 月、6 月、8 月 (2 回)、12 月、1 月の計 6 回

4. 「保育の質向上に関する研究・活動」に関する研修会の開催

日時：7 月 27 日 場所：尚綱子育て研究センター 講師：芦田麗子氏 (大阪歯科大学教員)

テーマ：「ママは十分頑張っているよ～地域・社会で育つ子ども～」

5. 「ひとり親家庭」の生活と子育てに関する聞き取り調査

対象者：シングルマザー 6 人、調査時期：2019 年 11 月～2020 年 1 月

6. 「早期離職予防と保育の質向上」に向けた保育実践相談指導講師の派遣

・12 月～2 月の期間、乳児保育研究会で実践上の悩みを抱えながら保育を行なっている若手保育者の勤務する園で実施し、早期離職予防と保育の質向上に取り組んだ。

まとめ：COC+事業において、熊本の地で子育て世代が安心して働きながら子育てできる環境づくりに取り組む中で、子育てカフェや子育て講演会の開催、ひとり親世帯への相談支援、聞き取り調査を通して子育て支援の質も一般的な子育て世帯から貧困・生活困難を抱えがちなひとり親世帯の課題にまで広く深く取り組むことができた。また、親が安心することにより、子どもも元気になり、熊本の将来の担い手を育てる上でも間接的に貢献できたと考える。

さらに、子育てしながら安心して働く条件として、保育の質向上があげられるが、保育者の早期離職を防止することで、キャリア蓄積が保育の質向上につながるよう、保育カフェや保育実践相談指導講師の派遣を通して取り組むことができたと考えており、今後、この実践を総括して研究としてもまとめたい。

東海大学

①東海大学と尚絅大学との連携による地域創生型弁当及びスイーツの開発

昨年度締結した東海大学九州キャンパスと尚絅大学・尚絅大学短期大学部との交流及び連携に関する包括協定に基づき、その一つの活動として、学生を中心とした地元の食農の創生に関連する商品開発を実施している。これは、地域活性化や他大学との連携に強い関心と意欲を有する内的動機の高い学生の能力をさらに育てることを目的とし、熊本の風土と農業を活かした弁当およびデザート商品の開発を行うものである。

熊本学園大学

- 熊本県立大学の六次産業化育成連絡会に参加することにより、他参加機関と協力しながら、産学官連携に関する事業を行った。

熊本高等専門学校

①高専 4.0 イニシアティブ事業「Society5.0の実現に向けた人財還流型高専版オープン・イノベーション基盤の構築」

- 国立高等専門学校機構の高専 4.0 イニシアティブ事業として、Society5.0の実現に貢献できるエンジニアの育成と人間中心型社会実現に寄与するオープン・イノベーションの基盤整備を推進。
- 柱として、地域企業・自治体と本校の学生・卒業生・教員の関係創発の場としての「メガミーティング」、そこで生まれた課題をテーマとした対話探求の場としての「イノベーションカフェ」、さらにそこから実際に地域課題の解決や産業創生を行う「オープンイノベーションプロジェクト」を展開していくことを目指す。これらのプロジェクトには、熊本高等専門学校の学生や卒業生が参加できる体制を整備することで、地域に根ざした人財還流型のコミュニティを形成することを特長としている。

○メガミーティング

日時：令和2年3月6日(金)10:00-18:00

会場：熊本高等専門学校熊本キャンパス

内容：

1. 基調講演

(1) 熊本県におけるIoT関連施策の取り組みについて

大下 慶 氏 (熊本県商工観光労働部 新産業振興局 産業支援課長)

(2) 低価格K O S E N版簡易ウェザーステーションの開発と実証実験

神田 和也 氏 (鶴岡工業高等専門学校創造工学科 電気・電子コース)

2. 今年度のオープン・イノベーションプロジェクトの活動報告

3. 研究シーズ紹介

(1) 企画運営部 教授 清田 公保

(2) 電子情報システム工学系 教授 島川 学

(3) 電子情報システム工学系 准教授 石橋 孝昭

(4) 電子情報システム工学系 講師 野尻 紘聖

4. 研究室見学

5. ワークショップ(メガ座談会)

(1) 学生主導による福祉支援・防災支援技術プロジェクト

(2) IoT共通基盤プロジェクト

(3) スマート農業プロジェクト

6. ポスター展示、名刺交換会



○イノベーションカフェ

1. くまもと有機エレクトロニクス産業促進協議会連携イノベーションカフェ (令和2年2月14日)

○Web 発信のためのCMS 演習

日時：令和元年11月19日(火)、12月3日(火)

会場：熊本高専熊本キャンパス3号棟1階 ヒューマン演習室

内容：簡単にWeb作成を行えるツールとして、Wix.comを利用し、情報の発信には欠かせないWeb作成の講座を演習方式で行う。

第1回「CMS入門」

第2回「地方創生！地元の宝を情報発信！！」

講師：神戸 洋平 氏 (日本Wix振興プロジェクト 代表理事)

柳澤 輝 氏 (日本Wix振興プロジェクト 専務理事)



4. 農林水産業の成長事業（六次産業化育成連絡会による活動）※熊本県立大学が中心に実施

I 全事業期間を通じた取組

熊本地方COC+推進協議会企画委員会産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会（略称：六次産業化育成連絡会）開催

- (1) 参加大学・高専： COC+事業に参加するすべての大学・高専
- (2) 開催実績： 平成27年度（2015年度） 連絡会設置準備
平成28年度（2016年度） 8回開催 毎回勉強会も実施
平成29年度（2017年度） 11回開催
平成30年度（2018年度） 12回開催
平成31年度（2019年度） 2回開催
- (3) 成果： ①COC+事業の効果的な推進を実現した。
②産学官連携の基礎となる大学・高等専門学校のパラットホームを構築した。

II 各年度の取組

1 平成28年度（2016年度）の取組

- (1) 産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会
年間8回、各回勉強会も開催
- (2) シンポジウム開催（1）
日 時：平成28年（2016年）10月16日（日）
場 所：熊本県立大学CPDセンター
主 催：西日本化学工学懇話会 共催：熊本県立大学
テーマ：「九州産杉の高付加価値化による復興と地域創生」
参加者：約40名



(3) シンポジウム開催 (2)

日時：平成 28 年 (2016 年) 12 月 9 日 (金)

場所：メルパルク熊本

主催：六次産業化育成連絡会

テーマ：「第 1 次産業の競争力強化と 6 次産業化による地方創生」



平成 28 年 12 月 9 日 (金)
 会場/メルパルク熊本
 時間/13:30 ~ 16:30

- 主催者挨拶 半藤英明氏 (熊本県立大学長)
- COC+大学挨拶 松本泰道氏 (熊本大学副学長)
- 第 1 部：基調講演
 「地方創生と地域発イノベーション」
 ～アグリビジネス創出における地方大学の役割～
 山本眞樹夫氏 (帯広畜産大学監事・小樽商科大学前学長)
- 第 2 部：事例報告
 「COC+事業特別プロジェクトによる産学連携の推進」
 林田安生氏 (熊本大学コーディネーター)
 「農産物の輸出促進」
 小園和剛氏 (熊本県立大学准教授)
- 第 3 部：パネルディスカッション
 「第 1 次産業の競争力強化と 6 次産業化」
 モデレーター 松添直隆氏 (熊本県立大学地域活力推進センター長)

参加者：約 150 名 (うち学生約 50 名)

(4) 熊本県むらづくり課との連携事業 (中山間地域サポート推進事業)

事業内容：4 大学 8 組の教員・学生が参加し、県内 8 地区で調査・提言。

全体報告会開催

日時：平成 29 年 (2017 年) 3 月 14 日 (火)

場所：熊本県立大学 CPD センター

天草市や東陽町でも成果の報告会や展示会開催



COC+事業 特別プロジェクト 報告セミナー
 学生チームによる報告

牛深 雑節
 熊本大学 ~歴史~ 温故知新
 熊本県立大 マーケティング
 成果報告会

「解りぶしのやまいち」様 おだし教室 開催

日時 2017.02.19 (日) 13:00-17:00
 場所 天草市本渡南区コミュニティセンター
 参加費 無料

【参加申込】メールアドレス [hayashibito@kumamoto-u.ac.jp] に、登録を
 「希望する報告会(熊本大学または、専攻)に参加希望の氏名、校種、氏名、電話番号」を記載して平成 29 年 2 月 17 日(日)までお送りください。
 ※申し込み多額により参加をお断りする場合がございます。予めご了承ください。

(5) 「ものづくりフォーラム」開催

日 時：平成 29 年（2017 年）2 月 20 日（月）

場 所：熊本県立大学 CPD センター

テーマ：これからの商品開発の取り組み方

基調講演とパネルディスカッションを実施

釜賀精二氏（株式会社釜屋会長）

川野康宣氏（重光産業株式会社顧問）

布井吉治氏（熊本菓房株式会社代表取締役）他



(6) 『シーズ集』作成

COC+事業に参加するすべての大学・高等専門学校の教員（研究者）に呼び掛けて、大学が持つ研究シーズを産業界や自治体等に提供するために、『シーズ集』を作成した。寄稿者は 8 大学・高等専門学校から 50 名。さらに農業系高等学校のうち 6 校から各校の特徴的な教育実践も提供してもらった。

(7) 海外市場調査

台湾・基隆市で晩白柚の市場調査

日 時：平成 29 年（2017 年）2 月 18 日～19 日

場 所：熊本県南フードバレーフェア in 台湾・基隆

参加者：熊本県立大学総合管理学部 宮園教授と学生



2 平成 29 年度 (2017 年度) の取組

(1) 「うまかモン開発プロジェクト」

- ・ 株式会社釜屋の全面的な協力により、学生が加工食品の開発から製造・評価・販売のすべてのプロセスを実際に経験するプロジェクト。
- ・ 参加学生数 29 名。
- ・ 6 月から 9 月まで 6 回製造実習を実施。11 月以降、学園祭等で販売実習。
- ・ 売上金は、株式会社釜屋・釜賀代表の発案により熊本城の復興事業に寄付し、参加学生には「復興城主証」が配布された。

(2) 「地域創生円卓会議 in 天草」

趣 旨：天草地域の産業界、金融機関、行政機関、教育界等から幅広く関係者が一堂に会して「円卓会議」を開催し、地域が抱える課題やその解決方法、今後の連携のあり方等を議論し、天草地域の一層の発展に向けた提言を発信するとともに、今後も継続して天草の将来を考えていくための契機とする。

日 時：平成 29 年 8 月 25 日（金） 午後 1 時から 5 時

会 場：天草信用金庫本店 5 階ホール（天草市太田町 9-3）

主 催：六次産業化育成連絡会

共 催：天草信用金庫

テーマ：「天草の宝物をブラッシュアップ！ー食・農・漁・加工・販売・観光・ものづくりの高収益化を目指してー」

内 容：

①天草の地域資源（雑節、ヒオウギ貝、ボタンボウフウ、観光）の紹介

②ワークショップ「AMAKUSA 未来プランニング」

高校生と大学生、一般社会人（自治体職員や経済界）がグループに分かれて「天草の宝物をどう生かすか」について意見交換し、その後、全体で報告し合った。

③参加者数 148 名（一般 42、大学・高専 32（学生 20、教職員 12）、高校 55（生徒 42、教職員 13）、その他（講師、主催者、メディア等） 19

(3) 「2017 高大連携勉強会」

趣 旨：高等学校と大学・高等専門学校の教育・研究シーズを連携させること、それによって双方の相互理解を深め、教育・研究を刺激し活性化させるとともに、産業界との連携をさらに強化して雇用創出と若者の地元定着に資することを目指す。

日 時：平成 29 年 12 月 1 日 14:30 ～ 17:30

場 所：熊本県立大学 総合管理学部 大会議室

内 容：

①基調講演 「6 次産業化推進と農業教育」

講師：(株)アグリコミュニケーションズ津軽代表取締役社長佐藤晋也氏
(青森県立五所川原農林高等学校 前校長)

②COC+事業報告

③パネルディスカッション

「熊本県の農林水産業の成長を目指す高大連携の意義と課題を考える」

パネリスト：古田陽一氏（熊本県立菊池農業高等学校校長）

後藤至成氏（阿蘇中央高等学校スーパーティーチャー）

他

参加者：67名（高等学校教職員 30、大学・高専教職員 7、大学院・学部学生 14、行政関係 7、その他 1、主催者 8）

(4) 上益城郡山都町シンポジウム

趣 旨：山都町で役場や民間団体が取り組んでいる地域づくりの一つに、農泊の取組がある。この取組をさらに効果的に推進するために、山都町と大学が連携して、山都町にしかないユニークな農泊を実現し、訪問客に高い満足度を保証し、リピーターを確保するとともに、山都町全体の活性化・所得の増加の実現を目指す。その第1歩として、農泊に関する様々な情報収集と共有、他地域における経験等の理解促進、山都町の特色を生かした農泊のあり方を検討する。

日 時：平成29年12月16日（土）13:00～16:30

場 所：山都町 矢部保健福祉センター千寿苑 多目的ホール

テーマ：「山の都で明日への活力増強を！～農泊で癒しと新体験～」

内 容：①基調講演 「農泊で、地域の宝物を活用せよ！」（株式会社地域振興研究所所長 須川一幸氏）

②報 告 「学生とともに探る山都町の魅力」（熊本学園大学経済学部教授 境 章氏）

③事例報告 「農泊と地域の活性化」（九州農政局農村振興部農村計画課課長補佐 浅野弘幸氏）

④パネルディスカッション 「農泊と地域の活性化」

パネリスト：須川一幸氏、境章氏、浅野弘幸氏、後藤孝美氏（山都町棚田復興プロジェクト）、中畠由博氏（なかはた農園代表）

⑤参加者 110名（自治体関係者、市民、学生、講師等、事務局）

(5) 「中山間地域サポート推進事業（大学生等の地域連携支援事業）」

（熊本県農林水産部むらづくり課との連携事業）

趣 旨：大学生と指導教員が熊本県内の特定の中山間地で地域の実情を調査・把握し、活性化に向けた提言を行う。（県内5地区に3大学5名の教員が学生と共にいった。）

報告会開催

日 時：平成30年2月16日 13:30～15:30

場 所：熊本県立大学 CPD センター

参加者：約40名（大学生・高校生・大学教職員・自治体職員）

(6) 「復興応援 キリン絆プロジェクト 郷土の食材開発モデル事業」

(熊本県農林水産部流通アグリビジネス課との連携事業)

趣旨等：キリンと日本財団の寄付による熊本地震復興支援事業の一つ。熊本県内の市町村が地元の特産品を生かした新しい加工食品を開発して地元で販売することによって集客力を高め、地域の活性化を促進して地震の復興につなげる取組で、甲佐町、南阿蘇村、西原村の3町村が参加した。このうち甲佐町は熊本県立大学と尚絅大学・尚絅大学短期大学部が、南阿蘇村は東海大学がそれぞれ町・村の事業推進団体と連携して支援した。

取組内容：

①甲佐町 商品名「虎穴ニラずんば」(食べる辣油)、ニララーメン(乾麺)

②南阿蘇村 商品名「あそのみなみのそばさんど」

③西原村 熟成干し芋

出展・販売：「アグリフードEXPO 大阪」で出展

日時 平成30年2月21日、22日 10:00～17:00

場所 ATCアジア太平洋トレードセンター(大阪市)

主催 日本政策金融公庫

(7) その他

①「2017 くまもと地域振興フェア(WONDER MESSE KUMAMOTO)」出展

日時：平成29年10月27日(金)、28日(土) 9:00～17:30

場所：グランメッセ熊本

②「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム 2018」出展

日時：平成30年3月2日(金) 10:00～17:00

場所：グランメッセ熊本

3 平成30年度(2018年度)の取組

(1) スマート農業推進支援体制の構築

①熊本県農業研究センターと熊本県立大学との協議

日時：平成30年4月16日(月) 15:30～16:30

場所：熊本県農業研究センター(熊本県合志市栄3801)

内容：県内農業の課題、今後の取組、連携等について意見・情報交換

②熊本高等専門学校と熊本県立大学との協議

日時：平成30年4月26日(木) 14:30～16:00

場所：熊本高等専門学校熊本キャンパス

内容：COC+事業及び熊本高専のシーズや教育等に関する情報交換

③山都町における竹粉碎工場・竹林視察と意見交換

日時：平成30年5月23日(水) 13:00～16:30

場所：山都町内の竹林と竹工場(島木地区、長野地区)及び山都町役場

内容：竹粉碎工場と竹林整備状況の視察、説明・質疑応答、地域の課題や問題点及び将来への期待等に関する意見交換

④熊本県農業研究センターと熊本高等専門学校・熊本県立大学との協議

日時：平成30年5月28日（月）10:00～11:40

場所：熊本県農業研究センター

内容：COC+事業の説明、熊本県農業研究センターの概要説明
県内のスマート農業の現状説明

⑤アグリシステム総合研究所（八代）と熊本高等専門学校との協議

日時：平成30年6月13日（水）14:00～15:40

場所：アグリシステム総合研究所会議室

内容：アグリシステム総合研究所の研究内容、県内のスマート農業推進の現状と課題等についての説明及び爾後の連携に関する意見交換

(2) スマート農業推進支援に向けた研究会開催

① 6次産業化推進・意見交換会

日時：平成30年6月19日（火）9:00～11:00

場所：山都町役場 2-1 会議室

内容：山都町における機械化の状況と課題、人材育成等について意見交換
高専のシーズ（竹の利活用法・ドローンの活用等）の説明

② 竹林整備事業視察及び意見交換会

日時：平成30年7月18日（水）13:30～16:30

場所：山都町長野地区（竹伐採現場・質疑応答）及び山都町役場（意見交換会）

内容：竹伐採現場の視察・意見交換、機械化に関するプレゼンテーション



③ スマート農業推進のための研究成果報告会

日時：平成30年9月10日（月）9:30～12:00

場所：山都町役場 会議室

内容：熊本県におけるスマート農業の現状報告、機械化や鳥獣被害を防止する方策に関する研究成果報告、質疑応答・情報交換等

④ スマート農業推進のための研究成果報告会（2）

日時：平成30年10月30日（火）13:30～16:00

場所：山都町役場 会議室

内容：機械化のための研究成果報告

⑤玉名地域スマート農業勉強会

日時：平成 31 年 2 月 20 日 (木) 14:00～16:30

場所：玉名市民会館 第 1 会議室

内容：スマート農業の紹介、熊本県におけるスマート農業の取組、農業現場の取組等に関する学習会及び玉名地域農業教育振興に関する意見交換

⑥講演とワークショップ (玉名市)

日時：平成 31 年 3 月 24 日 (火) 13:30～

場所：熊本県立北稜高等学校

内容：「北稜高校の宝」披露、「たまな未来プランニング」(テーマ「玉名で楽しく働くために」)ワークショップ



4 令和元年度 (2019 年度) の取組

1) 「地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)・中山間農業モデル地区支援に係る県内大学等との連携業務 合同報告会」 開催

COC+事業と、同事業で確立した参加大学・高専間連携 (プラットフォーム) を基盤にして取り組まれた中山間農業モデル地区支援に係る大学等との連携事業の合同報告会を以下のとおり開催した。

日 時：令和元年 11 月 15 日 (金) 13:30～17:00

場 所：熊本県立大学 CPDセンター

テーマ：COC+事業、中山間農業支援事業の成果と将来像～地方創生・持続可能な地域発展の実現を目指して～

対 象：COC+事業参加大学・高等専門学校教員・学生、農業系高等学校教員、自治体職員 (熊本県・熊本市・中山間農業支援事業関係市町村)、中山間農業モデル地区関係者等、87名



次 第： （総合司会 東 勇一氏（熊本学園大学事務次長（学術文化担当））

13:30 開会挨拶・事業説明

松添直隆氏（六次産業化育成連絡会幹事長・熊本県立大学地域活力創生センター長）

13:40 - 14:30 第1部 中山間農業モデル地区支援事業 実施報告・意見交換

（司会 林田安生（熊本大学 熊本創生推進機構 COC+推進コーディネーター））

（1）実施報告

- ①山鹿市岳間地区 井寺美穂（熊本県立大学准教授）
- ②高森町草部南部地区 柴田 祐（熊本県立大学教授）
- ③八代市泉町西部地区 柴田 祐（熊本県立大学教授）
- ④和水町板楠小原地区 木村宏和（尚綱大学准教授）・川上育代（尚綱大学准教授）
・松添直隆氏（熊本県立大学教授）
- ⑤山江村万江地区 戸田真志（熊本大学教授）・久保田真一郎（熊本大学准教授）
・林田安生（熊本大学COC+推進コーディネーター）
- ⑥八代市鶴喰地区 仁科伸子（熊本学園大学教授）
- ⑦八代市鶴喰地区 宮坂 均（崇城大学教授）
- ⑧八代市鶴喰地区 青木振一（崇城大学教授）・堀部典子（崇城大学准教授）

（2）意見交換

14:30 - 14:40 休憩

14:40 - 15:40 第2部 中山間農業モデル地区支援事業 提言検討

（座長）松添直隆氏

15:40 - 16:55 第3部 COC+事業 成果の継承と発展

（司会）山本亜希氏（九州看護福祉大学企画課長）

（1）事業報告

- ①事業成果 山内良一氏（熊本学園大学名誉教授）
- ②スマート農業の取組 小田川裕之氏（熊本高等専門学校教授）

（2）意見交換 （座長）松添直隆氏

「COC+事業の成果の継承と発展」

16:55 - 17:00 閉会挨拶 松添直隆氏



2) 実績報告リーフレット(『シーズ集』『シーズ集 第2集』を含む)制作・配布

5年間のCOC+事業の実績をまとめたリーフレットを作成し、関係機関等に配布した。このリーフレットには、企業、金融機関、自治体、それに県内高等学校と連携して実施した地域創生と若者の地元定着を目指す取組の紹介と共に、8大学・高専に所属する49名の研究者の研究テーマ及び県内農業系高等学校6校の教育実践等を収録して平成28年度に制作した『シーズ集』と、7大学・高専に所属する24名の研究テーマ及び高等学校7校の教育実践等、平成30年度に執筆された『シーズ集 第2集』が、CD-ROMで添付されている。



3) 実績報告リーフレット(簡易版)制作・配布

上記2)の実績報告リーフレットとは別に、イベント会場等で不特定多数に配布することを想定して、CD-ROMを添付しない実績報告リーフレット(簡易版)を制作して配布した。



4) 科学技術振興機構主催「シンポジウム 熊本の未来を考える」ポスターセッション参加

5年間のCOC+事業の成果の一部を、熊本市内で開催された科学技術振興機構（JST）主催のシンポジウムにおけるポスターセッションで報告した。

日 時：令和元年（2019年）12月2日（月）12:30～16:00

ポスターセッションは 10:30～16:30

場 所：肥後銀行本店2階大会議室（ポスターセッションは2階ホワイエ）

主 催：国立研究開発法人 科学技術振興機構

ポスターセッションの内容：JST 熊本復興支援課題成果紹介、熊本COC+ 事業展示 他



Ⅲ COC+以外の外部資金による取組

「中山間農業モデル地区支援に係る県内大学等との連携事業」

1 趣旨

熊本県（農林水産部むらづくり課）からの委託事業。むらづくり課が推進する中山間農業モデル地区の中から、特定の地区を指定し、大学教員（研究者）がその専門的シーズを生かして現地を調査し、地区の一層の発展に資する提言を行う。

2 期間

平成30年度（2018年度）及び平成31年度（2019年度）

3 補助金額（確定）

平成30年度（2018年度）	4,463,837円
平成31年度（2019年度）	3,351,293円

4 参加者と対象地区・テーマ

所属	氏名 職位	対象地区	テーマ
熊本県立大学	井寺 美穂 准教授	岳間 (山鹿市)	農業インターンシップの仕組みに関する研究 —担い手確保の観点から—
	柴田 祐 教授	草部南部 (高森町)	農家レストランの整備と地域の活性化
	柴田 祐 教授	泉西部 (八代市)	地区の発掘と将来像の検討・提案
	松添 直隆 教授	板桶・小原 (和水町)	地域資源を活用した中学校における食農教育活動
尚綱大学 尚綱大学短期 大学部	川上 育代 准教授	板桶・小原 (和水町)	地域資源を活用した中学校における食農教育活動
	木村 宏和 准教授	板桶・小原 (和水町)	地域資源を活用した中学校における食農教育活動
熊本大学	戸田 真志 教授	万江 (山江村)	農産物の生産・加工に対する情報技術の利活用
	久保田 真一郎 准教授	万江 (山江村)	農産物の生産・加工に対する情報技術の利活用
	林田 安生 COC+コーディネーター	万江 (山江村)	農産物の生産・加工に対する情報技術の利活用
熊本学園大学	仁科 伸子 教授	鶴喰 (八代市)	熊本県下における農業と福祉の連携に関する調査研究
崇城大学	宮坂 均 教授	鶴喰 (八代市)	光合成細菌利用の提案
	青木 振一 教授	鶴喰 (八代市)	農作物栽培の情報化及びSNS利用
	堀部 典子 准教授	鶴喰 (八代市)	農作物栽培の情報化及びSNS利用

5 報告会開催

1) 平成 30 年度 (2018 年度) 中間報告会

日時：平成 30 年 11 月 16 日 (金) 13:30～15:20

場所：熊本県立大学環境共生学部会議室

内容：各参加者による報告と質疑応答

2) 平成 30 年度 (2018 年度) 最終報告会

日時：平成 31 年 2 月 15 日 (金) 13:30～16:30

場所：熊本県立大学CPDセンター

内容：各参加者による報告と質疑応答

3) 平成 31 年度 (2019 年度) 地区報告会

①岳間地区 (山鹿市)

日時：令和元年 (2019 年) 10 月 20 日 (日) 13 :30 ~ 15 :00

場所：ほっと岳間 (熊本県山鹿市鹿北町多久 1261)

②万江地区 (山江村)

日時：令和元年 (2019 年) 10 月 23 日 (水) 14:00～16:20

場所：万江コミュニティーセンター (熊本県球磨郡山江村大字山田甲 538)

③鶴喰地区 (八代市)

日時：令和元年 (2019 年) 10 月 29 日 (火) 14:00～15:40

場所：鶴喰生活改善センター（八代市坂本町鶴喰 2220 番地）

④板楠小原地区（和水町）

日時：令和元年（2019年）11月1日（金）17:30～20:00

場所：和水町小原公民館（熊本県玉名郡和水町板楠 767 番地 2）

⑤草部南部地区（高森町）

日時：令和元年（2019年）9月10日（火）20:00～

場所：下切地区公民館

⑥泉町西部地区（八代市）

日時：11月29日（金）

場所：泉町西部地区の栗木古園、栗木野添、栗木杉ノ谷、下竹麻生野集落

4) 平成 31 年度（2019 年度）全体報告会

日時：令和元年（2019年）11月15日（金）13:30～17:00

場所：熊本県立大学 CPDセンター

内容：COC+事業との合同報告会。各参加者による報告と質疑応答及び提言の検討

IV 成果

- ①参加大学・高専のプラットフォームを構築した。
- ②自治体や企業との連携事業が実施できた。
- ③外部資金（別事業）を取り込み、事業を実施できた。
- ④地域住民と大学とが連携した取組が実施できた。
- ⑤産学官金連携を推進した。
- ⑥大学教職員における教育と研究の機会を拡大することができた。
- ⑦学生への教育の機会（特にフィールドワーク・アクティブラーニング等）を開拓・提供できた。
- ⑧大学教職員の情報交換・連携を強化した。

V 課題

- ①COC+事業の成果を如何に持続的に発展させていくか、その体制を如何に組むか。
- ②自治体や地域の諸機関と如何に持続的発展的に連携を維持・拡大していくか。

《COC+事業の産業創生・育成の成果と検証等》

今年度で COC+事業が終了するにあたり、これまで 5 年間の取組について特徴的な点を列挙するとともに今後の課題を整理する。

① 成果

- 1) 熊本県立大学を中心にした六次産業化育成連絡会は、参加大学等が連携して六次産業化に向けた取組を実施した。六次産業化の分野でこのような組織は本県初の取組であり、熊本県農林水産部との連携も図られ、今後の具体的な成果が期待される。
- 2) COC+特別プロジェクトを活用し、学生も参加した共同研究やフィールドワーク等を実施した。COC+特別プロジェクトは、平成 30 年度まで実施し、延べ 53 プロジェクトを実施した。本事業の目的中に、産業創生や農林水産業の成長事業に取組みに資することを掲げ、大学間連携強化促進や地元定着・人材育成（学生参加）に重点を置いて採択した。このため多くのプロジェクトで学生の参加が促され、熊本県の魅力を認識する機会となった。
- 3) 当地域は、COC+事業 2 年目に熊本地震に見舞われた。地域経済に対する被害は甚大で企業活動にも支障がでる事態となった。しかし、国等の復興支援施策も効果を発揮し、過半の企業は V 字回復を達成した。この様な中、様々な県外の機関から復興支援の働きかけがあった。
- 4) 科学技術振興機構、北陸先端科学技術大学院大学、COC+参加機関などの協力を得て実施した熊本産業復興シンポジウム等、参加大学及び協働機関の連携が強化されるきっかけとなった。
- 5) 参加大学と県内事業所による共同研究が着実に実施できた。これまでも県内企業との参加大学との共同研究が実施されてきたが、COC+事業中に開始した共同研究では、学生の参加を積極的に希望する企業があった。このような動きが今後も進められるようにしていくことが重要である。

② 課題

- 1) COC+事業期間中に開始した産学共同研究は、今後、成果が出るのが期待される。引き続き、事業化に向けた関係機関による支援協力が必要である。六次産業化育成連絡会で取組が始まったスマート農業の推進に係るプロジェクトは、タイムリーなテーマであり、関係者が連携して今後とも継続的に取り組むことが望まれる。
- 2) COC+事業期間中に形成された参加大学、協働機関による連携体制の維持、拡充を図る必要がある。六次産業化育成連絡会をはじめ複数の大学等による連携が形成されており、これらの取組が引き続き継続され、成果を生むことが期待される。
- 3) AI、IoTをはじめ SDGs など、新たな課題に対応するための産学官連携体制の構築が必要である。近年、官民を挙げて SDGs に係る取組の機運が高まっている。本県もその例外ではないと考える。SDGs に係る課題は、グローバルな課題であるが、その多くは地域の中小企業でも取り組めるものがある。今後、本県の産業振興を図るうえで、産官学が連携して SDGs に係る課題に果敢に調整していくことが必要であり、そのための産官学連携体制の構築が期待される。六次産業化連絡会が取り組んでいる内容はこのような観点からも注目すべきものである。
- 4) COC や COC+を通じて学生によるフィールドワーク、課題解決型インターンシップに積極的に取り組んできたが、このことにより、学生が地域に目を向ける大切なきっかけになったと考える。このことからこれらの取組は、事業終了後も継続する必要がある、そのための推進体制の構築が熊本地方創生推進協議会の重要な役割の一つになると考える。

雇用創出・就職支援

雇用創出・就職支援

COC+事業期間中の主な計画

- ・雇用創出プログラムの実施と検証
 - …熊本県と連携した県内就職支援
 - …各大学・高専による県内就職支援等
- ・首都圏大学に進学した熊本県出身学生に対する U ターン就職支援と検証
- ・COC+事業終了後の取組の取組の継続

学生の就職支援は、各大学の就職担当部局がそれぞれ工夫を凝らした取組みを実施しており、その活動を尊重しつつ、連携することで相乗効果が期待できるものについて雇用推進部会で合意形成を行いながら実施した。

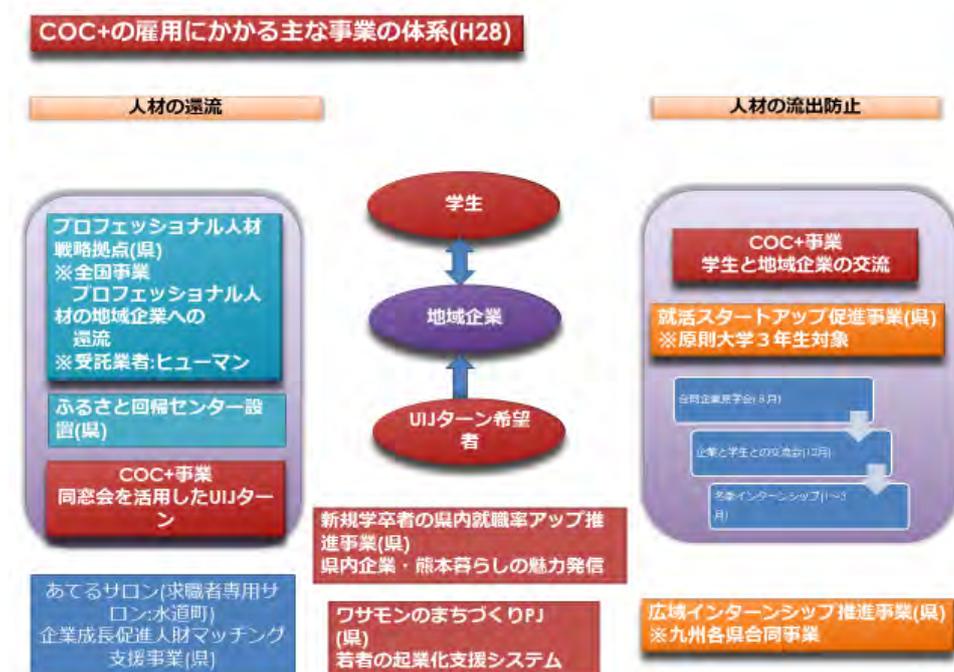
また、事業協働機関である熊本県・熊本市、経済団体等の協力を得ながら若者の県内定着に向けた取組を継続させるための仕組みと拠点整備を行った。

熊本大学及び COC+参加校全体での取り組み

1. 熊本県と連携した県内就職支援

熊本県では、平成 28 年度から本事業と連携できる下記事業を実施しており、人材の環流及び学生の県内就職率向上に向けて連携を図った。

具体的には、COC+雇用推進部会で情報の共有化を図るとともに、県と参加大学が連携して取り組むべき事業は連携して実施した。



「参考」熊本県の主な関連予算一覧（単位：千円）

	事業	所管課	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
U タ I ン	プロフェッショナル人材戦略拠点	産業支援課	55,742	59,965	39,965	37,965	36,366
	人材マッチング支援事業（あてるサロン）	商工政策課	50,295	50,295	40,086	40,086	40,835
	くまもと移住定住支援センター設置業務	地域振興課	13,840	13,840	13,840	-	-
	※H31～は下記の移住定住促進事業に統合						
	人材ネットワーク構築事業	地域振興課	14,503	15,536	15,641	-	-
	※H31～は下記の移住定住促進事業に統合						
	移住定住推進事業（R2～）	地域振興課				167,473	231,195
	※R1は地域づくりチャレンジ事業のうち移住定住促進事業						
	若者の九州ふるさと就職促進事業	労働雇用創生課	10,192	10,311	10,311	10,206	-
	「くまもとではたらく」若者の県内定着促進事業	労働雇用創生課			22,100	59,869	47,813
学 生 向	くまもと復興人材UIターン促進事業	労働雇用創生課	6,323	23,522	17,804	-	-
	※H31は上記の「くまもとではたらく」・・・事業に統合						
	熊本型人材マッチングプラットフォーム事業（新）	企業立地課	-	-	-	15,000	15,000
	熊本県ブライ企業推進事業	労働雇用創生課	22,770	40,810	38,310	30,068	21,726
	ワサモンのまちづくり推進事業	産業支援課	10,994	10,756	6,181	6,181	6,907
	就活スタートアップ促進事業	労働雇用創生課	7,773	5,494	5,493	5,490	4,255
	新規学卒者の県内就職率アップ推進事業	商工政策課	10,251	5,000	5,000	8,000	-
	県内誘致企業の認知度アップ事業	企業立地課			5,000	3,000	-
	「熊本県IoT推進ラボ」事業	産業支援課		8,303	8,694	13,089	9,700
	ふるさとくまもと創造人材奨学金返還等サポート事業	企画課			948	8,044	19,910
合 計		202,683	243,832	229,373	404,471	433,707	

※ 予算額は最終予算額、令和2年度は当初予算額

2. COC+参加校及び協働機関が連携して取り組んだ事業

①就活スタートアップ促進事業（県）（平成28年度から平成30年度）

学生と企業の出会いの場を設けるため、平成28年度から平成30年度まで熊本県とCOC+との共催事業として実施した。また県工業連合会とも連携してバスツアーを実施した。

■ 県内企業見学バスツアー（県）



■ 県工連主催でバスツアー実施



■くまもと春のインターンシップマッチングフェアを開催



■年度ごとの実績

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
企業見学バスツアー	10 回開催し、延べ 180 名参加	10 回開催し、延べ 91 名参加 県工連 1 回開催し 5 名参加	10 回開催し、延べ 129 名参加
春のインターンシップマッチングフェア	企業 65 社 学生参加者 167 名	企業 97 社 学生参加者 121 名	企業 100 社 学生参加者 90 名

②くまもと課題解決プロジェクト(県)(平成 28 年度)

■県内企業が抱える課題を大学生が調査研究し、その解決方法を提案する事業を実施中。

- 昨年 12 月から県内企業と大学のマッチングを行い、4 企業と 4 大学(14 名)が参加。
→熊本大学×(株)アドルーム、熊本県立大学×(株)弘乳舎、
→熊本学園大学×(株)熊本チキン、崇城大学×(株)寺原自動車校
- 学生が商品開発やマーケティング分析などを駆使し、課題解決の方法を導き出す。
- 3/11「くまもと課題解決プロジェクト プレゼン大会」で成果を発表・表彰を行った。



③県内誘致企業等及び大学等との情報交換会(平成 28 年度から平成 30 年度)

県と県誘致連と連携し、平成 28 年度から 30 年度まで県内誘致企業等と COC+参加大学就職担当者との意見交換会を実施した。

平成 28 年度 企業 21 社、大学 8 校 74 名参加

平成 29 年度 H29.11.2 企業 48 社、大学 8 大学 95 名参加

平成 30 年度 H30.10.19 企業 48 社、大学専門学校等 16 校 140 名

※会場はいずれも熊本テルサ

④COC+雇用推進部会の活動(平成 28 年度から令和元年度)

■雇用推進部会の開催

参加大学等と協働機関の連携を強化するために平成 28 年度から雇用推進部会を年 2 回開催し、実施事業に係る情報の共有化、連携して取り組む事業に係る協議を実施した。

また、平成 30 年度からは事業終了後も見据え、地元定着の継続方策の検討、地元雇用促進コンソーシアム設立に係る課題の検討等も併せて実施した。

■熊本労働局の参加

県内就職率の向上を図るため、国との連携を強化するために、平成 29 年度第 2 回雇用推進部会から熊本労働局をメンバーに加え、体制の強化を図った。

3. 各大学・高専による県内就職支援等

参加大学ごとの取組をCOC+雇用推進部会の活動を開始した平成28年度から年度別に記載する。

熊本大学

《平成 27 年度》（準備期間）

県内企業への就職斡旋

1. コーディネーター及び特定事業教員の県内企業訪問により、就職先となる企業側ニーズを把握するとともに、インターンシップへの協力を依頼した。
2. 学生による地元企業訪問（貸切バス利用）を実施した。（熊本学園大学）
3. 学生向け地元企業データブックを作成・配布した。（熊本学園大学）



各大学の同窓会組織と連携した企業誘致と UIJ ターン推進の支援

1. 講演会や新聞掲載記事等で、Uターン就職支援について周知した。

留学生の県内企業へのインターンシップと雇用の推進等

1. 県内企業を訪問し、COC+事業の説明及び留学生の受入れを依頼した。

例：松木産業との中国人留学生のインターンシップの可能性について検討（八代港に多くのクルーズ船が中国・台湾から寄港）



《平成 28 年度》

- 情報産業サービス協会、県企業誘致連絡協議会と連携した地域企業説明会開催 (53 社)
- 工学部学生に、(株) 平田機工社長講演会を開催 (1. 20)



《平成 29 年度》

- (初) 工学部機械システム工学科の県内企業限定見学会 (H29. 9. 21-22、学生 22 名参加)
 - ・ 9/21 : アイシン九州(株)、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株)、東京エレクトロン九州(株)
 - ・ 9/22 : 平田機工(株)、ジャパンマリンユナイテッド(株)、日立造船(株)



座学 (平田機工(株))



工場見学 (アイシン九州(株))



集合写真 (ジャパンマリンユナイテッド(株))

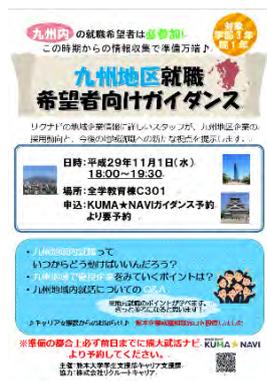
- (初) 県内企業限定業界・企業研究会 (H29. 10. 20- 12. 22)

本学初の地域企業限定の「業界企業研究会」は 38 社から参加申込があり、4 社実施 (参加者 15 名)

- 平成 29 年度県内企業限定企業説明会
 - ・ 技術系 (H30. 3. 14-29、32 社)、
 - ・ 事務・技術系問わず (H30. 3. 5-30、48 社)



- (初) 九州エリア版就職ガイダンス等九州内での就職を希望する学生を対象として11/1に実施。参加学生 58名。



■ 熊本県内就職希望者ガイダンス

今年度は、くまもと地方産業創生センター主催の企業説明会(1/16)を中心にガイダンスを実施。参加学生 70名

- 留学生の県内企業訪問を企画・実施、熊志会とKUMISA(熊大留学生組織)の交流会
29年度は、4名の入社実現(香港大1名、熊大大学院生3名)



■ 留学生就職促進プログラム(CDP+K)との連携

熊本大学が、文部科学省採択を受けた本プログラムについて、日本語・キャリア教育、就職支援を実施している。(CDP+K受講者 37名。)

■ (初) キャリア支援課に「熊本企業就職相談窓口」設置

熊本企業就職相談窓口を設置し、熊本で働きたいと思う熊大生の支援を開始し(H29.8)、各種情報を提供。相談者数17名。その他「先輩キャリア交流会」に県内企業2社を新たに追加。次年度はすべて県内企業出身者で実施予定。また、キャリア支援課主催企業説明会で県内企業枠を15社から27社に拡大して実施。

- ・OB・OGの熊本県内での就職先情報
- ・熊本県内の説明会情報
- ・熊大生を積極的に採用することを考えている県内企業の求人情報 等

<http://www.kumamoto-u.ac.jp/careersupport/shientaisei/kennaishushokushien>

熊本の企業で働きたい学生さんへ！
熊本企業就職相談窓口のご案内

キャリア支援課に、熊本での就職を希望する方のための相談窓口ができました！
県内企業の求人情報はもちろん、県内のインターンシップ情報や県内企業に就職した先輩からのメッセージ情報などもご紹介します。また就職について具体的に尋ねたい先輩の方でも、少しでも「困りごと」に悩む方がおれば、是非気軽に足を運んで下さい！

支援の内容

- ・求人情報提供・企業説明会情報提供
- ・インターンシップ情報提供
- ・就職意向の「フライング企業」や「1期-インターンシップ有給企業」を中心に魅力的な企業を案内します！
- ・熊本県内企業に就職した先輩からのメッセージ公開中！
- ・スタッフによる相談受付

「フライング企業」：熊本県内で社員を大規模に採用する企業として選定した企業
「1期-インターンシップ有給企業」：業界や地域をリードし成長する企業として選定した企業

*** 福岡をはじめ、他県の情報ももろもろにありませう！九州内他県での就職についてもご相談下さい！***

学生支援課：キャリア支援課(熊大北キャンパス 全学教育棟1階)
連絡先：096-342-2120

■ SNS を活用した地域企業情報発信 (Kumarism、MS 社被災地応援ファンド、(株) MARUKU 地方創生 ICT サービスとの連携)

- ・「Kumarism」による熊本の豊かさや優良企業の情報を SNS で発信する取組を開始。今年度内に学生による取材 5 回をもとに KRIDC の facebook、instagram 等で配信予定。
- ・「MS 社被災地応援ファンド」は現在 10 ファンド組成し、8 ファンドが募集中。本学での投資先企業交流会、CF 活用セミナー (熊本県主催)、熊本地震応援ファンドセミナー (MS 主催、9/5 東京、11/2 大阪) 開催。本学学生が投資先ファンド等取材し、MS 社ホームページに記事掲載中。
- ・「(株)MARUKU 等の地方創生 ICT サービス」 H29. 11 月に県と立地協定を締結した同社と SNS マーケティング手法を活用し、潜在的 U ターン人財の掘り起こし、囲い込みの仕組みづくりの協議を開始。

《平成 30 年度》

① 熊大生のための地場企業合同説明会

本学初の取組として就職支援課と地域連携部門との共催で合同説明会を開催。

日時：2019 年 3 月 14 日 (木)
主催：熊本大学就職支援課／熊本創生推進機構
場所：工学部百周年記念館 1F ホール
※地場企業 60 社が参加



② 地域企業限定のミニ合同企業説明会

合同説明会参加希望が多かったため、ミニ合同説明会を開催。

日時：2019 年 3 月 19 日・20 日・22 日
主催：熊本大学熊本創生推進機構
場所：インキュベーションラボラトリー
※38 社が参加



③ 平成 30 年度地域企業限定就職説明会

○技術系向け
日時：2019 年 3 月 12 日・14 日・15 日・25 日・26 日
主催：熊本大学熊本創生推進機構
場所：インキュベーションラボラトリー
※23 社が参加



○事務系・技術系共通

日時：2019年3月7日・13日・18日・22日

主催：熊本大学熊本創生推進機構

場所：インキュベーションラボラトリー

※19社が参加



④就職支援課と連携した就職ガイダンス、県内就職支援窓口の運営

○県内就職希望者向けガイダンス

(1月15日(火)参加者：43名)

就職支援課主催のガイダンスで地域企業の採用情報等を説明するとともに3月に実施する企業説明会参加企業のPRを実施した。



○県内就職支援窓口(相談件数：44件)

今年度は「あつまるHD」とも連携し対応している。

○九州地区就職希望者ガイダンス(11月8日(木)参加者：53名)

県内就職希望者向けガイダンスに先立ち、九州地区就職希望者向けガイダンスを実施した。

○先輩キャリア交流会

県内主要企業5社から、本学卒業生を派遣してもらい経験談等を報告。参加者26名。

⑤留学生の県内企業へのインターンシップと雇用推進

文部科学省「留学生就職促進プログラム(CDP+K)」と連携し、日本語・キャリア教育、就職支援を実施している。今年度は16名が国内に就職し、そのうち4名が県内就職した。

⑥熊本大学生協「FORICO」へのデジタルサイネージの設置

地元企業の魅力や就活情報の提供を行うため、デジタルサイネージを生協内の5箇所を設置し、2019年3月からの運用開始を予定している。【設置及び管理主体】:(株)マイスティア(旧ヒューマン)

《令和元年度》

①熊本大学 FORICO サイネージ掲載企業研究セミナー

熊本大学 FORICO サイネージに掲載している県内の採用実績が多い企業の人事担当者によるセミナーを開催。

日時：2020年2月20日（木）

主催：熊本大熊本創生推進機構地域連携部門

Eggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォーム

場所：熊本大学黒髪北地区 くすの木会館

※サイネージ掲載企業8社が参加



②就活直前！業会・企業研究セミナー

県内就職希望者向けに優良企業から参加を募り、一度で多くの採用担当者から直接説明を聞くことができるセミナーを開催

日時：2020年2月12～25日

主催：熊本大学熊本創生推進機構

Eggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォーム

場所：サクラマチクマモト5階 Eggplant

※全68社のうち、4～5社の担当者から

プレゼンテーション・質疑応答



③就職支援課と連携した就職ガイダンス、県内就職支援窓口の運営

○県内就職希望者向けガイダンス（1月15日（金）参加者：56名）

就職支援課主催のガイダンスで地域企業の採用情報等を説明するとともに3月に実施する企業説明会参加企業のPRを実施した。

県内の中小企業への視点を持たせる場として有効であった。

○熊本県企業合同説明会（3月4日（水））

支援企業や採用実績のある県内企業を中心に70社の合同企業説明会を開催。

○県内就職支援窓口（相談件数：47件 ※2/6時点）

令和元年度も引き続き「あつまるHD」と連携し対応した。

○先輩キャリア交流会

県内主要企業5社から、本学卒業生を派遣してもらい経験談等を報告。参加者17名。



○熊本県企業バスツアー（1月7日（木）参加者：26名）

熊本大学への採用実績の多い県内主要企業へのバスツアーを開催し、熊本地区就職への動機づけを図った。

④留学生の県内企業へのインターンシップと雇用推進

文部科学省「留学生就職促進プログラム（CDP+K）」と連携し、日本語・キャリア教育、就職支援を実施している。令和元年度は14名が国内に就職し、そのうち6名が県内就職した（※2/6時点）。

⑤熊本大学生協「FORICO」へのデジタルサイネージの設置

地元企業の魅力や就活情報の提供を行うため、デジタルサイネージを生協内の5箇所に設置し、2019年3月からの運用を開始した。【設置及び管理主体】：(株)マイスティア → 掲載企業8社

熊本学園大学

《平成28年度》

保護者対象の講演会及び学生対象の県内企業説明会として「就活生・保護者対象就職懇談会」の開催（2.19、参加者数：保護者70名、学生177名（内他 大学25名））
※その他、県内主要企業の経営者等を講師に招き、講義8回実施。



《平成29年度》

■企業と熊本学園大学の就職懇談会

平成29年度熊本地区の「企業と熊本学園大学の就職懇談会」を開催し、地元企業や熊本に支店・支所を置く県外企業など133社189名、学内関係者54名が出席した。（H28.11.28 ホテル日航熊本）

これは、本学の教育をより理解してもらうとともに、採用担当者と本学教職員との意見交換を目的として開催しているもの。



■COC+特別プロジェクト「学生の就職活動支援事業」

昨年に続き、保護者対象の講演会及び学生対象の県内企業説明会を実施した（H30.1.13 熊本パレア）第一部の保護者向けセミナーでは、「就活生との上手な関わり方」と題し、保護者としての就活生（学生）へのかかわり方について講演を行った。講演後は、実際に保護者に企業説明会の会場にも足を運んでもらった。保護者からは、学生の就職について、講演のみならず、実際に説明会に参加することで、県内企業をよく知ることができたと概ね好評であった。今回も本学のみならず、県内の大学にも呼びかけ、参加者を募った。



■熊本県内の優良企業をバスで訪問する企業訪問バスツアー

平成 29 年 11 月 25 日実施分に学生 28 名が、平成 30 年 2 月 27 日実施分には 27 名が参加した。実際に企業を訪問し、現地見学と企業概要について説明を受けた。



《平成 30 年度》

①学生の就職活動支援（COC+特プロ）

○ゲスト講義、就職セミナー

前年度に引き続き、熊本県工業連合会の協力により、県内企業の創業者、役員等を講師として招き、ゲスト講義を実施した。学生に対して業界、各企業の状況についてご講義いただいた。

○平成 30 年度就職懇談会

平成 30 年 11 月に大学主催の平成 30 年度就職懇談会を開催した。地元企業や熊本に支店・営業所を置く企業 133 社が参加し、採用担当者と大学関係者との意見交換を行った。



○企業見学訪問

平成 30 年 7 月に学生 32 名が熊本地方卸売市場（熊本市西区）にある地元企業数社を訪問し、現地見学と企業概要についての説明を受けた。

○学内での学生向け企業合同説明会（3 月開催予定）

地元企業の紹介に特化した（本学独自の）冊子を作成し、配布する予定。

《令和元年度》

①学生の就職活動支援

○就職セミナー

本年度も「学内合同会社説明会」を来る 3 月 10 日、11 日に開催予定。今回は延べ 143 の企業が参加見込みである。毎年、学生動員に力を入れており、前年度は 900 名を超える学生が訪れた。多数の県内企業が参加しており、学生の県内就職への動機づけに大きな貢献が見込まれている。

→ 新型コロナウイルス感染防止のため開催中止

○キャリア形成支援プログラム(熊本県内企業と連携したキャリア教育の推進)

- ・ 県内企業との PBL(課題解決型授業)・・・学生 112 名
- ・ 地域中核人材育成プログラム「PBL 授業」・・・県内企業 1 社、受講学生 30 名
- ・ 地域中核人材育成プログラム「長期インターンシップ」・・・県内企業 7 社、学生 17 名
- ・ 地域中核人材育成プログラム「県内経営者リレー講義(5 回)」・・・学生 25 名×7 回

○就職支援プログラム(対象：3 年次以上)

秋の採用活動を行う企業が、現在就職活動中の卒業見込み者に対して会社説明及び面談を行う Re. スタートセミナーを実施した。県内企業 14 社、学生 43 名の参加であった。



○令和元年度就職懇談会

令和元年 11 月に大学主催の就職懇談会を開催した。地元企業や熊本に支店・営業所を置く企業 131 社が参加し、採用担当者と大学関係者との意見交換を行った。



○就職活動に備えるための集中合宿

就職希望の学生に就職活動に関するノウハウやポイントを伝える機会として合宿研修を実施。地元企業と連携し、採用担当者による集団面接指導やプロのキャリアコンサルタントによるグループディスカッションや面接指導を行った。



○企業訪問バスツアー

県内企業を訪問し、企業の状況や業界の事情を知るために複数の企業を訪問するツアーを実施した。一例として、令和元年7月には23名の学生が青果市場を訪問し、現地見学と企業概要について説明を受けた。(写真)



○地元企業紹介冊子の作成

学生自らが地元企業を訪問取材し、就職活動時に必要な情報をまとめた冊子を作成した。会社情報誌掲載の企業概要はもとより、学生の立場から見た就職活動時に必要な情報を掲載することで、学生が今後の地元企業への就職活動を行う際に大いに役立つものと期待される。

尚綱大学・尚綱大学短期大学部

《平成 28 年度》

専任キャリアコンサルタントを配置し就職指導を強化。学生に、県内中小企業の魅力を認識させるため、「熊本県中小企業魅力の認識拡散プロジェクト」を実施し、県内中小企業に特化したインターンシップ実践及び魅力浸透のための成果発表会開催。



《平成 29 年度》

■COC+特別プロジェクト「熊本県内企業における多文化共生実現のための調査研究」

熊本県内の中小企業等における外国人労働者の受入に関する問題点や取組について、県内企業約400社を対象にアンケート調査及びインタビュー調査を実施した。

■夏季キャリアガイダンスの開催

大学2年生、3年生を対象に熊本市ビジネス体験講座、大学4年生・短大2年生を対象に熊本県中小企業家同友会による講演などを実施。(H29.9.22(金),九品寺キャンパス)

■就職懇談会の実施

企業の人事担当者と大学教職員との就職懇談会を実施。(H29.12.7(木))

■春季キャリアガイダンスの開催

尚綱アリーナにおいて、熊本県内企業を中心に過去最大規模の学内合同会社説明会を実施した。大学2年生を対象に熊本県経営者協会派遣の講師による講演会も行った。(H30.3.14(水)九品寺キャンパス)

《平成 30 年度》

①夏季キャリアガイダンスの開催(平成30年9月21日(金))

- ・ 大学2年生、4年生、短大2年生を対象に、熊本県経営者協会派遣の講師による講演を実施。
- ・ 大学2年生・3年生を対象に熊本市企業立地推進室連携講座として熊本県内企業と大学教職員との討論会を実施。
- ・ 全学年対象に合同会社説明会・企業研究会を実施し、本社又は事業所の所在地が県内の企業86社の参加があった。



②長期インターンシップの検討(平成30年8月~9月)

本年度初めて2週間以上の長期インターンシップを行い、熊本県内6事業所の応募を行ったところ、2事業所に3名が参加した。

③「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」(COC+特プロ)

1) 保育の質向上及び保育者の早期離職防止のための条件整備に関する研究および研修の場の提供

【講演会・研修会】

○平成30年9月22日(土)

「在園児親子及び未就園家庭等の親子を対象とした子育て支援活動について一味噌・味噌玉づくりを通して」



○平成31年1月11日(金)

「味噌作り・味噌玉づくりを通して日本食(ごはんとう味噌汁)の大切さを感じよう、そして広めよう!」(保育者向、(講師:よかあんばい JAPAN・保育士 山之口美穂氏)



○平成31年2月23日(土)

「かみつきやひっかきから保育を見直す~子どもと保護者への対応と保育者同士の伝え合い~」

(講師:京都華頂大学現代家政学部 教授 西川由紀子氏)



【保育の質に関する調査研究】

平成30年12月6日(木) 広島大学附属幼稚園の保育視察及び副園長からの聴き取り調査を実施。

【相談・助言】

○保育者が気軽に相談でき、中立的な立場を保持しながら共感・助言ができる「保育café」の開催を通じた早期離職予防の取り組み。

(平成30年7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日/平成31年1月15日、2月19日、3月5日)



- 保育施設における保育実践の助言・指導・相談活動を通して、保育者の質向上につなげる取り組み
(平成30年11月～1月/計9回)
(支援者：相澤幸代氏：尚絅大学短期大学部幼児教育学科非常勤講師、元二の丸保育園園長)
(連携：尚絅こども園、小さな森の保育園、ひまわり保育園、北合志保育園、ほくぶ幼稚園)

2) 保護者支援、子育て支援に関する調査結果を踏まえた実践的研究及び研修・交流の提供

【講演会・研修会】

- 平成30年9月3日(月) 14:00～
「胎児からの体の育ちと全身の健康」
(講師：ゆきデンタルクリニック院長 矢島由紀氏)



- 平成30年12月18日(火) 14:30～
「味噌作り・味噌玉づくりを通して日本食(ごはんとう味噌汁)の大切さを感じよう、そして広めよう！」
(講師：よかあんばい JAPAN・保育士 山之口美穂氏)



【交流の場の提供・実践的研究】

- 保護者の子育てや生活の不安や困難を共有し、適切な助言ができる「子育て café」の開催を通じた子育て応援体制のモデル化への取り組み
(平成30年6月16日、7月20日、8月31日、9月21日、10月19日、11月16日、12月21日/平成31年1月24日、2月5日、3月12日)



- ひとり親家庭の親子の交流の場の提供と講話・個別相談支援及び専門知識の提供
(平成31年1月26日(土)、2月16日(土)、3月16日(土))
(講師：シンママ熊本応援団 佐藤彩己子氏)

④企業人事担当者と大学教職員との就職懇談会(平成30年12月6日(木))

九品寺キャンパスに本社又は事業所の所在地が県内の企業59社66名を招き、教職員との就職懇談会を開催。

⑤春季キャリアガイダンス(平成31年3月26日(火))

- ・ 大学1年生を対象に、熊本県経営者協会派遣の講師による講演
- ・ 全学年対象に合同会社説明会・企業研究会を実施し、本社又は事業所の所在地が県内の企業約90社参加。

《令和元年度》

①夏季キャリアガイダンスの開催（令和元年9月27日（金））

- ・ 大学2年生、4年生、短大2年生を対象に、熊本県経営者協会派遣の講師による講演を実施。
- ・ 大学2年生・3年生を対象に熊本市企業立地推進室連携講座として熊本県内企業と大学教職員との討論会を実施。
- ・ 全学年対象に合同会社説明会・企業研究会を実施し、本社又は事業所の所在地が県内の企業51社の参加があった。



②インターンシップの継続（授業展開）

事前説明会に昨年度は139名、今年度は148名の参加があり関心の高さが伺える。

なお、実際に、インターンシップに参加した学生は、大学コンソーシアム熊本主催が41名、本学主催が9名、計50名が参加した。

また、地域創生プログラム関連の今年度の一部開講科目では、計49名、上記と併せ、計99名の学生が企業等において実践的な学びを体験した。

③COC+「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」事業（概要報告）

目的：女性の就労者の増加、子育て世代の困難や不安を解消し、安心して働きながら子育てできる環境づくりとして、本年度は一人で子育てをしながら働き生活する「ひとり親世帯」に焦点を当て、より深い子育て支援のあり方について考える。また、子育て支援策の一つとして保育者の保育の質向上及び早期離職予防により保育者不足の解消に向けた取り組みを進めてきた。

1. 「早期離職予防と保育の質向上」に向けた「保育café」の開催
5月、7月、9月、11月、1月の計5回（偶数月は、乳児保育研究会終了後に開催）
2. 地域との連携「子育てcafé（ぼちぼちcafé）」の開催
6月、7月、9月、11月、1月の計5回
3. 「安心して働きながら子育てできる」ひとり親世帯交流会及び相談会の開催
5月、6月、8月（2回）、12月、1月の計6回
4. 「保育の質向上に関する研究・活動」に関する研修会の開催
日時：7月27日 場所：尚綱子育て研究センター 講師：芦田麗子氏（大阪歯科大学教員）
テーマ：「ママは十分頑張っているよ～地域・社会で育つ子ども～」
5. 「ひとり親家庭」の生活と子育てに関する聞き取り調査
対象者：シングルマザー6人、調査時期：2019年11月～2020年1月
6. 「早期離職予防と保育の質向上」に向けた保育実践相談指導講師の派遣
12月～2月の期間、乳児保育研究会で実践上の悩みを抱えながら保育を行なっている若手保育者の勤務する園で実施し、早期離職予防と保育の質向上に取り組んだ。

【まとめ】

COC +事業において、熊本の地で子育て世代が安心して働きながら子育てできる環境づくりに取り組む中で、子育てカフェや子育て講演会の開催、ひとり親世帯への相談支援、聞き取り調査を通して子育て支援の質も一般的な子育て世帯から貧困・生活困難を抱えがちなひとり親世帯の課題にまで広く深く取り組むことができた。また、親が安心してすることにより、子どもも元気になり、熊本の将来の担い手を育てる上でも間接的に貢献できたと考えている。

さらに、子育てしながら安心して働く条件として、保育の質向上があげられる。保育者の早期離職を防止し、キャリア蓄積が保育の質向上につながるよう、保育カフェや保育実践相談指導講師の派遣を通して取り組むことができたと思料する。今後、この実践を総括して研究としてもまとめていきたいと考えている。

九州看護福祉大学

《平成 28 年度》

卒業生の都市部等での実践経験後の地元への転入や大学院進学の促進

《平成 30 年度》

①地域連携推進協議会を開催

日 時：平成 30 年 7 月 17 日（火）14:00～15:30

場 所：本学大会議室

参加者：地域推進員（名市・荒尾市・玉東町・和水町・南関町・長洲町）、大学（学長・副学長（地域連携推進室長）、地域連携推進室運営委員会委員 6 名）



（↑委嘱状交付）



（↑地域連携に関する意見交換）

○地域連携に関する意見交換（自治体が抱える問題に関して大学への意見・要望）の内容

【玉名市】旧庁舎跡地、文化センター及び小中学校の統廃合による旧校舎の利活用について検討しており、大学行事等での活用についても検討してほしい。

【荒尾市】移住・定住の事業で、看護、福祉などの人材を地元に残すことを目的として、国、県の補助金を活用し就職説明会を実施している。また、荒尾市民病院が 2022 年 6 月頃、新病院完成予定であり、卒業生が働きがいのある職場づくりができるのではないかと期待している。

【玉東町】空き家の増加が懸念されており今年度より熊本県立大学と連携し、空き家の利活用について検討している。高齢化率の高い集落における福祉的な利活用として、学生を交えたワークショップ等出来ないかと考えている。2021 年新病院完成のくまもと県北病院は、

学生にとって魅力ある就職先となるために、学生からの意見を聞くことも検討したい。

【和水町】少子化や高齢化に伴い、若者が地域に少なくなり、行政区として成り立たなくなっている。行政区の再編について検討していく中で、大学からの意見等聞かせてほしい。また、大学側から研究者の専門分野等の情報提供があると、より連携活動が身近になるのではないか。

【南関町】サマースクール等での関わりや小・中学校の児童、生徒に対し学生からの講話の機会があれば、子どもたちの学習意欲向上にも繋がると考えているので、今後も協力してほしい。高齢者への口腔保健指導、口腔に関する講話などの機会をつくりたい。

【長洲町】地域包括ケアシステムの構築を実現するためのビジョンのなかには、大学との連携は重要である。長洲町だけでなく他の市、町でもシステムづくりの中に大学の強みを活かせるような情報提供をしてほしい。特に口腔保健の分野で何か連携できることはないかと考えている。

《令和元年度》

①キャリアガイダンス (4月2年次(全学科)、7月1年次(全学科))

低学年よりキャリアガイダンスを実施。自分の学生生活を振り返り、これまでの経験が社会とどのように結びついていくのか、そして、その経験からどのような進路を選択していくのかということをもまえて、今後の学生生活の過ごし方と将来について考える。



②就職と学修に関する保護者との連絡会 (6月全学年、7月1, 2年次・4年次)

学科ごとの就職状況の説明と卒業生講話を行う。卒業生講話では、学生生活、国家試験、就職活動、そして現在の仕事について話をしてもらうので、進路に関して具体的なイメージをもつことができる。また、希望者は教員と学生、保護者との個別面談も実施。

③実習マナー講座・就活マナー講座

(7月実習マナー講座・2年次全学科、12月・2月就活マナー講座・3年次全学科)

2年次には実習に向けたマナー講座、3年次には就職活動に向けたマナー講座の開催。講座では、基本的な言葉遣いや敬語、電話やメールのマナー、そして社会で働くためのルールなどについて、外部講師を招いて講座を実施。

④合同就職説明会 (4月3・4年次(看護・リハ・口腔)、9月3・4年次(社福・リハ・鍼灸・口腔))

九州、関東、関西地区などの病院・施設に多数参加いただく合同説明会を開催。各ブースでは、採用担当者や本学卒業生による事業内容や業務内容、採用に関する説明がある。



⑥就職筆記試験対策講座（3月～6月応用講座、8月基礎講座）

筆記試験については病院等で行われる一般教養や公務員試験に向けた対策講座の実施。希望があれば、1年次の3月から受講可能。

⑥就職ガイダンス（2.3月3年次学科ごと）

学科ごとに開催。最新の就職・進学状況や具体的な就職活動の進め方、履歴書の書き方にいたるまで、実践的なガイダンスの実施。学生と就職スタッフのコミュニケーションを図り、よりきめ細やかな支援の実施。

⑦国家試験対策講座（4年次通年）

看護師・保健師・社会福祉士・精神保健福祉士・理学療法士・はり師・きゅう師・歯科衛生士の国家試験の合格を目指し、通常の講義とは別の対策講座を実施。3年次以上の希望する学生は誰でも参加できる。



熊本高等専門学校

《平成 29 年度》

■熊本キャンパス「キャリアセミナー」(H30.2.23)

本研修会は、地域振興会加入企業や県内外の有力企業の参加のもと、本科2年生～4年生、専攻科1年生の全員が参加して、教室で行う講演会形式で実施。参加企業は、年々増加傾向にあり、今年度は、午前40社、午後83社、計123社の参加があった。

■八代キャンパス「キャリア研修会」(H30.1.13)

本研修会は、OB・OGを中心に、全国各地の企業で働く方々及び熊本県内の企業の方々に来校いただき、本科1～3年生の希望者と本科4年生、専攻科1年生が参加してブース形式で実施した。参加企業は年々増加傾向にあり、今年度は、午前59社、午後59社、計118社、その内、熊本県内企業からは12社の参加があった。

■八代キャンパス「八代圏域雇用促進センターと、八代圏内企業による低学年向けのインターンシップの実施について協議を開始」

今年度開設された八代圏域雇用促進センターと、八代圏内企業による低学年向けのインターンシップの実施について協議を開始し、八代圏域雇用促進センターの開所記念として6月23日（金）に開催された記念シンポジウムおよび交流会において、八代圏域の企業との情報交換を行った。

《平成 30 年度》

| ①熊本キャンパス キャリアセミナーの実施(平成 31 年 2 月 20 日(水))

OB・OG を中心に企業で働く方々、および熊本県内・外企業の方々に来校いただき、本科 2~4 年生、専攻科 1 年生、本科 5 年生の進学希望者が参加し、ブース形式で実施。

| ②八代キャンパス キャリア研修会の実施(平成 31 年 1 月 12 日(土))

キャリアセミナーと同内容

| ③低学年からのキャリアプラン(熊本キャンパス)

講演会や工場見学、英語研修などを通して将来のキャリア意識の涵養を図り、その実践内容と成果をポートフォリオとして記録保存。地元企業の魅力を伝える講演会も実施。

| ④OB・OG 合同企業説明会(八代キャンパス)

県内企業にも参加いただき PR

| ⑤「熊本・地元企業の魅力」について講演会(4 年生対象)

インターンシップ前研修会にて、卒業生の就職先として熊本県内企業を強調して紹介

| ⑥八代圏域雇用促進センターとの連携によるインターンシップ(八代キャンパス)

八代圏域雇用促進センターと、八代圏内企業によるインターンシップの実施を協議し、来年度から本格実施する方向で調整中。

《令和元年度》

| ①熊本キャンパス キャリアセミナーの実施(令和元年 2 月 21 日(金))

OB・OG を中心に企業で働く方々、および熊本県内・外企業の方々に来校いただき、本科②~④年生、専攻科 1 年生、本科 5 年生の進学希望者が参加し、ブース形式で実施。

| ②八代キャンパス キャリア研修会の実施(令和 2 年 1 月 10 日(金)、11 日(土))

熊本キャンパス キャリアセミナーと同内容

| ③低学年からのキャリアプラン(熊本キャンパス)

講演会や県内企業への工場見学、卒業生が赴任している海外企業での英語研修などを通して将来のキャリア意識の涵養を図り、その実践内容と成果をポートフォリオとして記録保存

| ④OB・OG 合同企業説明会(八代キャンパス)

県内企業にも参加いただき PR

⑤「熊本・地元企業の魅力」について講演会（4年生対象）

インターンシップ前研修会にて、卒業生の就職先として熊本県内企業を強調して紹介

⑥八代圏域雇用促進センターとの連携によるインターンシップ（八代キャンパス）

八代圏域雇用促進センターと、連携しながら、八代圏域でのインターンシップ拡充を行う

崇城大学

《平成 28 年度》

■熊本県内企業限定の「企業と大学の人材（財）育成研究会 in Kumamoto」の開催

（9.1、参加者数：26社から36名、大学49名）

■県内企業バスツアーの実施

第1回：2.14、クリエイティブ企業系4社、14名参加

第2回：2.23、食品系企業（6社）、27名参加

《平成 29 年度》

■第4回「企業と崇城大学の人材（財）育成研究会」

・日時：平成29年9月15日 15:00～18:20

・会場：KKRホテル熊本、参加企業：47社（68名）、大学参加教職員：54名

・第一部：研究会 テーマ「企業が求める人材」

→基調講演、大学報告、パネルディスカッション

・第二部：企業と学科教員CAの名刺交換会

■熊本への就職を希望する学生に対し、熊本市の産業構造や熊本県が推奨するブライต์企業についてのガイダンスを実施した。（H29.12.6（水））

■大学に、285社を案内し、崇城大学合同企業説明を実施した。特に3日目は、学生の熊本への就職率向上を期待し、地元企業を中心に案内した。（H30.3.6（火）～8（木））

《平成 30 年度》

①熊本県内企業の魅力と紹介（就職ガイダンス：5月28日～30日）

・例年3年生を対象に12月にガイダンスを開催していたが、早期の情報提供を意識し、今年度は5月に開催した。

・参加学生数は387名（昨年138名）と大幅な増加が見られた。

②人材育成研究会（9月21日）

・実社会が求める大学の教育及び学生の能力に関する基調講演

・学生のプロジェクト成果報告に基づく企業サイドとの現実的な意見交換

③学内合同企業説明会(平成31年3月5日(火)～7日(木))

開催日の1日を県内に事業所を置く企業の企業説明会として開催予定

《令和元年度》

①熊本県内企業の魅力と紹介(就職ガイダンス:令和元年5月21日(火)～22日(水))

熊本県内企業の魅力を紹介する目的で開催した。

対象:学部3年生

参加者:112名

②第5回企業と崇城大学の人材(財)育成研究会(令和元年9月20日(金))

●第1部 企業提供問題解決型授業の実践報告・パネルディスカッション

熊本県内企業より頂戴した課題(問題)に対し解決策の検討を行った授業の実践報告を受講した学生が行った。報告後、課題を提供していただいた企業から講評を頂戴した。

パネルディスカッションでは「正課授業における企業と大学との実学協働教育の可能性」と題し、本学教員と県内企業3社がパネリストとして登壇した。

●第2部 交流会

参加した企業と学生、各学科長および就職担当教員による情報交換会を開催した。

③学内合同企業説明会(令和2年3月3日(火)～5日(木))

開催日の1日を県内に事業所を置く企業の企業説明会として開催

東海大学

《平成29年度》

■東海大学首都圏キャンパス(湘南校舎、代々木校舎、高輪校舎)との連携

- ・個別の事業目標の1つとして「本学が有する8キャンパスの内、若年層流入超過地域所在の首都圏キャンパス(湘南・高輪・代々木)の在籍学生をUターン・Iターン等により熊本県内の企業・団体に就職させるための施策を行うこと」を目標として掲げている。
- ・今年度は、若年層流入超過キャンパス(湘南)の就職担当と熊本県内企業との接触の場を2018年2月1日(木)に熊本キャンパス内で設け、熊本地元企業の担当者に対して、湘南キャンパスにおける熊本県出身者の就職状況の説明及び意見交換を行った。その結果、熊本県内企業の把握ができ、若年層流入超過キャンパスである湘南キャンパスから、熊本県への就職者希望者への適格な情報配信が可能となった。
- ・昨年度に引き続き、東海大学首都圏キャンパスにおいて、相談ブースを開設し、熊本県内の企業・



団体へ就職を希望する学生と直接コンタクトを取る機会を設け情報提供を行った。なお、実施時期については以下のとおり。

- 2018年3月7日(水) 13:00~17:00 湘南キャンパス
- 2018年3月8日(木) 13:30~17:00 代々木キャンパス
- 2018年3月16日(金) 13:30~17:00 高輪キャンパス

■COC+特別プロジェクト「ココプロジェクト(COC+PROJECT)」

熊本キャンパス内で、熊本地元企業(1回あたり3~4社の人事採用担当+先輩社員)を招待し、就職シンポジウムを開催した。

- ・回数:合計4回
- ・時期:12月~2月上旬
- ・対象:熊本キャンパスの経営学部、基盤工学部、農学部の3年次生
- ・招聘企業:13社

健康食品の通信販売業務(えがお)、不動産(コスギ不動産)、ラジオ、テレビ放送(熊本放送)、情報サービス業(K I S)種子・農業資材・農薬などの卸・販売(興農園)、牛乳・乳製品の製造・販売(熊本乳業)、食料品製造業(熊本製粉)、その他の製造業(金剛)、設備工事業(S Y S K E N、電盛社)、広告業(熊日広告社)宿泊業(くまもと新世紀)、観光業(くまもとDMC)。



《平成30年度》

①学内合同企業説明会

- ・平成30年6月2日(土) 経営学部、基盤工学部
- ・平成30年6月9日(土) 農学部
- ・平成30年6月23日(土) 経営学部、基盤工学部、農学部

②ココプロジェクト(COC+特プロ)

○「地元企業の魅力発見!シンポジウム」の開催

ココプロジェクト(COC+PROJECT)では、熊本キャンパス内において熊本地元企業を招待しての就職シンポジウムを、以下の内容で開催した。

◎方法:1回あたり3~4社の人事採用担当+先輩社員を招待し、シンポジウム形式で行った。

◎回数:合計4回

◎時期:12月~1月上旬に開催

◎対象:熊本キャンパスの経営学部、基盤工学部、農学部の3年次生対象。

◎招聘企業:(株)S Y S K E N、金剛(株)、(株)フタバ、(株)電盛社、(株)肥後銀行、



熊本地方 COC+最終事業報告(雇用推進部会)

熊本ホテルキャッスル(株)、九州産業交通ホールディングス(株)、熊本駅前ビル(株)、(株)興農園、(株)果実堂、KMバイオロジクス(株)、熊本県酪農業協同組合連合会、(株)えがおホールディングス、くまもと新世紀(株)ホテル日航 熊本、(株)K I S(株)、熊本製粉の16社。

◎備考：シンポジウムでは、企業内容についての説明、個別面談の場を設けた。

◎各実施日等は下記の通りである。

- ・2018年12月10日(月)17:00~18:30

会場：東海大学 熊本キャンパス 新1号館2階 1207教室

対象：基盤工学部3年生を中心とし実施した。

参加企業：(株)SYSKEN、金剛(株)、(株)フタバ、(株)電盛社

参加学生：19名

- ・2018年12月11日(火)17:00~18:30

会場：東海大学 熊本キャンパス 新1号館2階 1207教室

対象：経営学部3年生を中心とし実施した。

参加企業：(株)肥後銀行、熊本ホテルキャッスル(株)、九州産業交通ホールディングス(株)、熊本駅前ビル(株)、

参加学生：9名

- ・2018年12月19日(水)17:00~18:30

会場：東海大学 熊本キャンパス 2号館4階 2401教室

対象：農学部3年次生を中心とし実施した。

参加企業：(株)興農園、(株)果実堂、KMバイオロジクス(株)、熊本県酪農業協同組合連合会

参加学生：43名

- ・2019年1月9日(水)17:00~18:30

会場：東海大学 熊本キャンパス 2号館4階 2401教室

対象：3学部共通(経営学部・基盤工学部・農学部3年次生を中心とし実施した。)

参加企業：(株)えがおホールディングス、くまもと新世紀(株)ホテル日航 熊本、(株)K I S(株)熊本製粉

参加学生：32名



《令和元年度》

昨年度実施したココプロジェクト（COC+PROJECT）に引き続き、熊本地元企業を招待して「学内合同業界研究会・企業説明会」「熊本県内企業 業界研究セミナー」を開催した。

実施日等は以下の通りである。

①「学内合同企業説明会」を開催

- ・令和元年 6月 8日（土）
会 場：東海大学 熊本キャンパス 2号館
対 象：経営学部・基盤工学部・農学部 4年次生
参加企業：38社（うち熊本県内企業 11社）
- ・令和元年 7月 13日（土）
会 場：東海大学 熊本キャンパス 2号館
対 象：経営学部・基盤工学部・農学部 4年次生
参加企業：38社（うち熊本県内企業 10社）



②「熊本県内企業 業界研究セミナー」を開催

- ・令和元年 12月 9日（月）17：00～18：30
会 場：東海大学 熊本キャンパス 2号館
対 象：農学部 3年生
参加企業：(株)生科研、(株)KMバイオロジクス、
熊本県酪農業協同組合連合会
- ・令和元年 12月 10日（火）17：00～18：30
会 場：東海大学 熊本キャンパス 2号館
対 象：経営学部・基盤工学部 3年次生
参加企業：(株)電盛社、(株)フタバ



③「学内合同業界研究会」を開催

- ・令和 2年 2月 6日（木）
会 場：東海大学 熊本キャンパス 新1号館
対 象：経営学部・基盤工学部・農学部 3年次生
参加企業：64社（うち熊本県内企業 14社）



熊本県立大学

《令和元年度》

①学内合同企業セミナー（令和2年3月9日（月））

- ・大学3年生を対象とした、県内企業47社の採用担当者から説明を聞くことができるセミナーを開催。

②県内企業等へのインターンシップ

- ・大学を通じて実施する県内企業、自治体等への夏季・春季インターンシップについて、70社（団体）に152名の学生が参加（延べ数）。

4. 首都圏大学に進学した熊本県出身学生に対するUターン就職支援

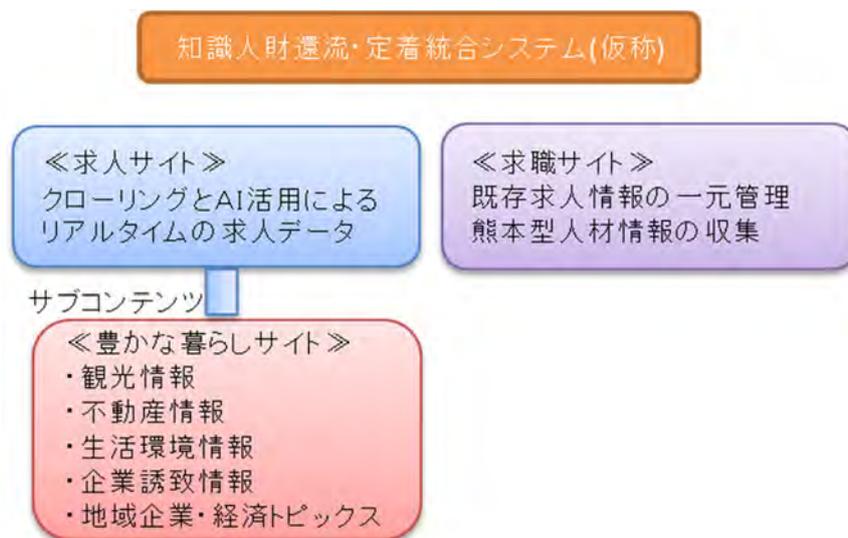
熊本大学及びCOC+参加校全体での取り組み

《平成30年度》

①知識人財還流・定着統合システム（仮称）の構築

大学生やUIJターンを希望する若者等に対して求人・求職情報や熊本の魅力を提供する「知識人財還流・定着統合システム(仮称)」の構築を検討している。

具体的には、クローリングによる求人情報サイト、市町村等の協力による潜在的求職情報も含む求職情報サイト、さらには熊本の魅力、企業動向、不動産情報等を一元的に提供するシステムを構築予定。熊本県、経済団体等との連携を強化し、令和元年度に運用開始した。



1) データ収集検証事業の実施

- ・上記システムの構築にあたり、荒尾市、宇城市、和水町、多良木町等の協力を得て、平成 31 年成人式参加者を対象として、就職意向や人財情報の収集方法に関する検証事業を実施した。
- ・アンケート項目（8 市町の 122 名がアンケートに協力）
 - ①居住地、②所属(学生、仕事又はその他)、③学生に対しては卒業後の就職地、④就職している方には将来熊本に帰る意向の有無、⑤性別、⑥メールアドレス



荒尾市成人式

《令和元年度》

①熊本型人財還流システムの構築

大学生やUIJターンを希望する若者等に対して求人・求職情報や熊本の魅力を提供する「熊本型人財還流システム」の構築を進めている。

具体的には、クローリングによる求人情報サイト、市町村等の協力による潜在的求職情報も含む求職情報サイト、さらには熊本の魅力、企業動向、不動産情報等を一元的に提供するシステムを構築中である。今後、熊本県、経済団体等との連携を強化し、本稼働に向けて整備を行っている。

併せて、県内外の学生やUIJターン希望者と地域企業の交流の場として昨年9月にオープンしたSAKURAMACHI Kumamoto 内にEggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォームを開設した。

東海大学

《平成 30 年度》

①東海大学首都圏キャンパス（湘南校舎）との連携（予定）

COC+事業における最終目標は「熊本県内の産業振興、雇用拡大、学卒者の地元定着率増」となっており、これに基づき、東海大学も個別の事業目標の1つとして「本学が有する8キャンパスの内、若年層流入超過地域に所在するキャンパス（湘南校舎）の在籍学生をUターン・Iターン等により熊本県内の企業・団体に就職させるための施策を行うこと」を目標として掲げている。

そこで今年度も昨年度に引き続き、東海大学首都圏キャンパス（湘南校舎）において相談ブースを開設し、熊本県内の企業・団体へ就職を希望する学生と直接コンタクトを取る機会を設け情報提供を行う予定である。なお、実施時期については以下の通りである。

<訪問日・場所>

2019年3月14日（木）～3月15日（金） ・ 湘南キャンパス

熊本高等専門学校

《平成 30 年度》

①熊本高専地域連携振興会を設立

日 時：平成 30 年 12 月 19 日（水） 16:00-17:00
会 場：ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ
主 催：熊本高等専門学校
参加者：65 名（企業、八代市、合志市、熊本高専教職員等）
内 容：取組の一つとして、従来、個々にあった先輩と後輩、
教員と学生の繋がりを、会員企業との連携強化の下、
組織的に学生及び OB/OG との出会いの場を提供し、U
ターンを含めた就職先企業の拡充を図ることとした。



《令和元年度》

①キャリア教育推進室を中心とした人財還流支援

熊本高専では、Uターンを希望するOB・OGのために、キャリア教育推進室を中心に地元企業を紹介する体制を整備。産学官連携コーディネーターを介して地域連携振興会会員企業とUターン希望者とのマッチングを図る。



4. 数値目標（県内企業等への学卒就職者増）の達成状況

① 県内就職状況（H27年度～H30年度）

平成31年3月の学部・高専卒業生の就職状況を調査したところ、事業全体では県内就職率が46.5%、県内就職者数が1,908人であった。平成29年度に事業開始前年度（平成26年度）と比較し、初めて上昇させることができたが、平成30年度は、特に県外大手企業を中心にOB・OGを活用したリクルート活動が激化しており、横ばいとなった。しかし、着実な事業推進及び熊本地震からの復興に向けた努力により、熊本大学を含む3つの大学では、事業開始後、県内就職率が最高となった。一方で、地域就職者数は、事業開始前年度と比較すると、全体では123人増加（約7%増加）するなど、COC+事業の取組の成果が表れ始めている。

	県内就職率				県内就職者数				就職者全体			
	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度	H30年度	H29年度	H28年度	H27年度
熊本大学	33.00%	30.90%	31.90%	31.90%	328人	301人	291人	313人	995人	975人	911人	982人
県立大学	56.70%	63.70%	58.40%	54.60%	233人	262人	234人	214人	411人	411人	401人	392人
学園大学	71.20%	72.10%	59.20%	62.20%	624人	638人	472人	548人	876人	885人	797人	881人
崇城大学	26.10%	23.80%	20.60%	29.80%	158人	140人	118人	156人	606人	588人	574人	523人
東海大学	25.90%	28.80%	21.60%	21.70%	114人	135人	44人	44人	441人	468人	204人	203人
尚綱大学	90.60%	88.00%	89.00%	79.60%	310人	323人	316人	312人	342人	367人	355人	392人
九看大学	47.40%	47.20%	34.40%	37.30%	119人	126人	105人	109人	251人	267人	305人	292人
熊本高専	11.80%	15.50%	13.60%	12.00%	22人	27人	22人	21人	186人	174人	162人	175人
合計	46.50%	47.20%	43.20%	44.70%	1,908人	1,952人	1,602人	1,717人	4,108人	4,135人	3,709人	175人
目標	54.50%	52.50%	50.50%	48.50%	2,088人	2,011人	1,935人		-	-	-	-
最終目標		56.50%				2,169人			-	-	-	-
26年度		46.50%				1,785人						

② 雇用創出数の状況

COC+推進コーディネーターやCOC+関係者が実施・アレンジした産学官連携活動等による県内機関の雇用創出数について、各年度の実績は下表のとおりである。平成30年度までに18名の雇用創出を図ることができた（令和元年度は報告書作成の3月は集計中）。なお、この18名は、COC+推進コーディネーターが経営・技術指導を行った県内企業において、新事業分野の設立に至り、当該新事業分野に採用された新規学卒者や桜町総合就職プラットホーム設立に向けて緊密に連携して就職支援を行った企業の新規学卒者等である。令和元年度の最終目標（累計：38人）の達成には困難になっているが、事業終了後は、桜町総合就職プラットホームの求職・求人サイトを活用した就職支援が本格化することから、毎年度、KPIを設定して県内企業への雇用拡大を推進していく。また、企業の雇用拡大に直接つながったとは言えないため、上記雇用創出数には計上していないが、キャリア教育の授業やシンポジウムに参加した地元企業に対して、興味関心を持った学生が当該企業へ就職した事例は多数報告を受けている。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
雇用創出目標	7人	15人	23人	31人	38人
〃 実績	0人	7人	16人	18人	—

5. COC+事業期間終了後の体制構築に向けた検討

COC+事業は、令和元年度末で国からの補助期間が終了するが、終了後も地元定着率向上に関する取組を継続する必要があるため、以下のとおり検討を進めている。

①Eggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォーム運用開始

COC+事業の雇用及び産学連携等の一層の推進を図るために、2019年9月に桜町再開発ビル内Eggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォームをオープンした。熊本大学と(株)マイスティアが設置主体となり、運営は(株)マイスティア(代表取締役：工藤正也、益城町)が行う。

この拠点では、地域企業と学生との面談や企業説明会の開催など、地域企業と求職者の交流の場として活用が可能。また、熊本大学の拠点としてだけでなく、COC+参加校並びに協働機関の活動拠点とし、産学連携や企業同士の交流の場としても利用できる。

なお、人財還流システムも併せて整備しており、Eggplant KUMAMOTO と人財還流システムが車の両輪となり、県内大学生の県内就職だけでなく、県外に進学している学生の県内への就職やUIJターンにも積極的に取り組み、人材還流定着の総合的なプラットフォームになることを目指す。

- ・拠点場所：サクラマチクマモト 5階 Eggplant KUMAMOTO
- ・面積：69.95㎡
- ・運用開始：2019年9月
- ・機能：就職促進支援、能力開発支援、産業創生、大学・企業・学生交流 等

熊本型人財還流システムの構築を図るためには市町村の協力が不可欠であり、市町村企業誘致担当者等を対象としたセミナー及び成人式を活用してシステムへの登録促進を行った。

〈市町村企業誘致担当者セミナー〉

県企業誘致連絡協議会の協力を得て市町村の企業誘致担当者に参加してもらい、当システムの活用策等に関する説明を行うとともに下記の成人式を活用した周知に関する協力を依頼した。

〈成人式を活用した桜町総合就職プラットフォームの周知〉

今年1月に実施された29市町村成人式でチラシを配布するとともにサイト登録を促した。

②地元雇用促進コンソーシアム設立

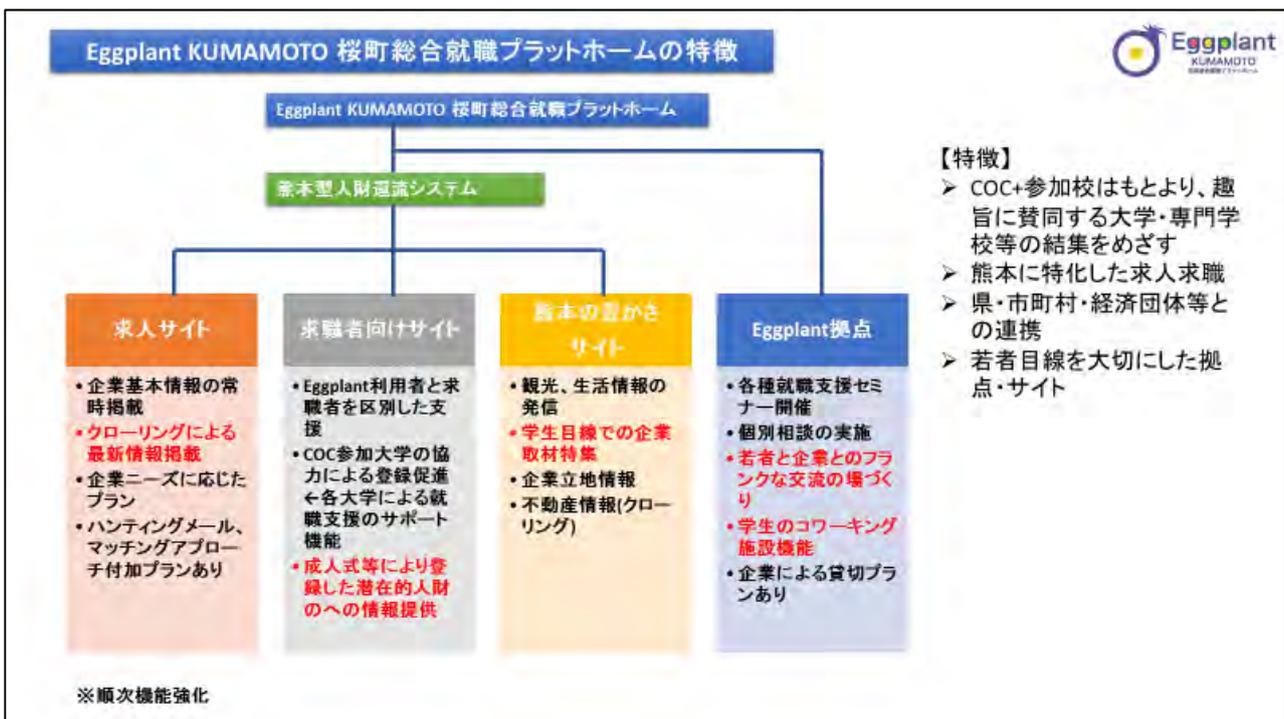
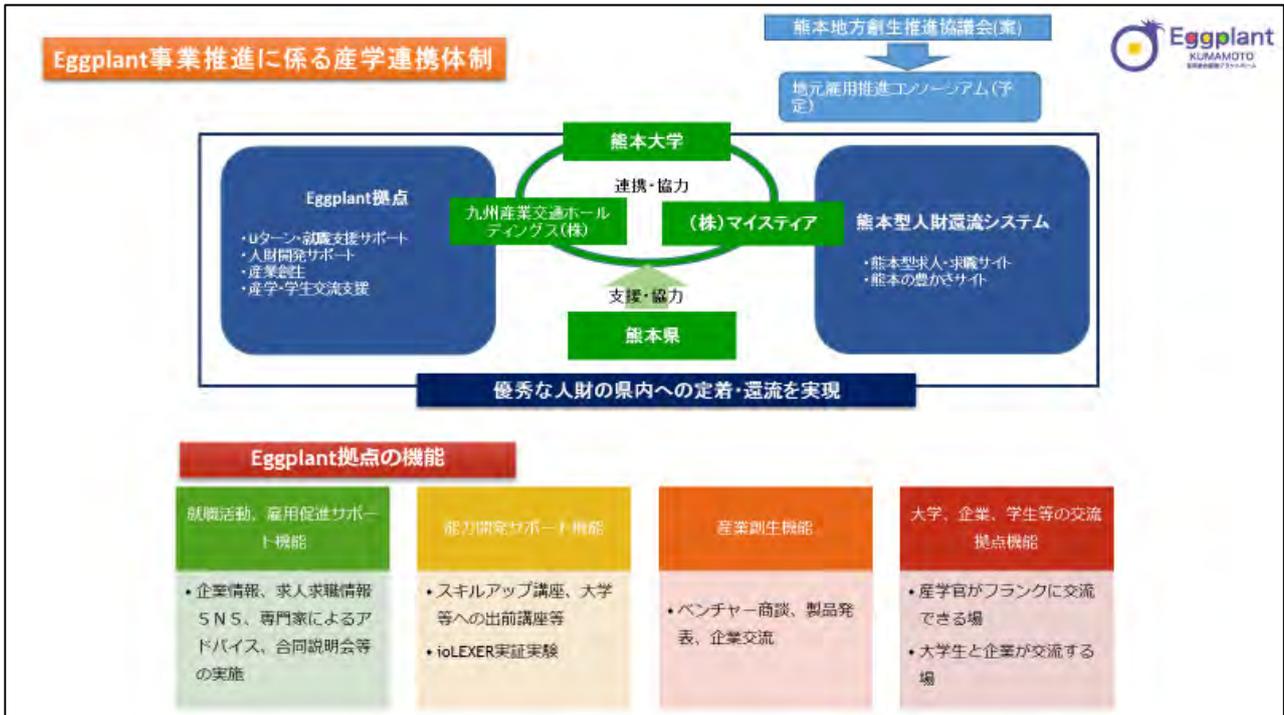
COC+事業終了後も参加大学及び事業協働機関による地元雇用促進の取組を継続するために、令和元年度中にCOC+推進協議会企画委員会雇用推進部会が中心となって、地元雇用促進コンソーシアムを設置することとなった。新たに設置される熊本地方創生推進協議会(仮称)の下部機関として位置付ける。

〈コンソーシアム業務内容〉

- ① COC+参加学生の県内定着を推進するための事業に係る協力、情報交換
- ② 県外に進学している学生の県内定着、UIJターン促進に係る取組協力
- ③ その他若者の県内定着のために必要な事項の協議・協力

＜コンソーシアムの組織及び運営＞

- ① COC+雇用推進部会のメンバーにより設立
- ② 今後、地元定着の推進を強化するために、趣旨に賛同する経済団体、市町村、教育機関の参加を促す。
- ③ Eggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットフォームを事務局とする



6.COC+事業の雇用創出・就職支援の成果と検証等

COC+事業が終了するにあたり、COC+推進協議会で報告した内容をもとに上記のようにこれまで5年間の取組を掲げたが、これらの中で特徴的な点を列挙するとともに、今後の課題を整理する。

① 主要な成果

- 1) 参加8大学等は、各大学の特徴を生かして、県内企業を対象とした説明会の開催をはじめ県内就職率の向上に取り組んだ。平成30年度までのデータでは、県内就職率の目標54.5%に対して46.5%と本事業開始前年度と同水準に止まっている。しかし、この間、全国に人材不足が深刻になる中、事業開始以来低下していた県内就職率が平成29年度から改善に向かった。これは本事業で県内就職率向上に向けた取組を開始した平成28年度に就職活動を迎えた学生が卒業する時期と一致しており、本事業の取組が一定の成果があったものと考えられる。残念ながら平成30年度は再び低下しているが、いくつかの大学では期間中最高値を記録した大学もあり、引き続き、協働機関等とも連携して取り組んでいくことが必要である。
- 2) 県、熊本市では、地方創生の観点から地方創生交付金などを有効に活用して人材の地元定着、育成に向けた予算の拡充強化を図った。これらの取組は、COC+雇用推進部会で情報の共有化を図るとともに、いくつかの事業では参加大学と協働機関の共催による事業も実施できた。また、平成29年度には熊本労働局にも参加していただき、体制の強化を図った。さらに、参加協働機関である経済団体では、人材確保のための組織の設立、独自の取組を開始したところもあった。
- 3) 参加大学等、協働機関が連携した取り組みとしては、県と連携した就職スタートアップ推進事業やくまもと課題解決プロジェクト、県内誘致企業等及び大学等の情報交流会などがある。今後、設立予定の地元雇用促進コンソーシアムも関係機関の連携のもとで運営していく計画である。
- 4) 前述した通り、県内就職率は、人材不足が顕在化する中、事業開始後いったん低下したが、参加機関の協力により、計画開始水準まで回復した。このため、今後とも、県内就職率向上の取組は継続していく必要があり、雇用促進部会では、このことを踏まえ、「地元雇用促進コンソーシアム」を設置し、活動の継続を図ることで合意を得た。
- 5) 熊本県の支援・協力を得て、九州産業交通ホールディングス(株)、(株)マイスティアと熊本大学で連携協定を締結して、昨年9月にSAKURAMACHI Kumamoto内にEggplant KUMAMOTO 桜町総合就職プラットホームを開設するとともに、熊本型人材還流システムの構築を進めている。

② 日本学術振興会によるフォローアップ報告

令和元年度に実施された上記フォローアップにおいて、雇用創出・就職支援関係の評価は次のとおりであった。(抜粋)

1. 進捗状況の概要

■特に順調に進捗している点

・COC+大学において事業協働地域就職者数が増加し、「事業協働地域就職率」もやや向上している。事業全体としては「事業協働地域雇用創出数」が年度を経るごとに上昇している。

■課題(事業終了後に際して改めて確認を必要とする点)

・COC+大学における事業協働地域就職者数の増加及び「事業協働地域就職率」の向上が定着す

るか否かの確認が重要である。

2. 中間評価時に付された留意事項等への対応

■特に順調に進捗している点

・熊本県の補助金、地元企業との共同研究費等の外部資金を、地元定着・地元雇用促進コンソーシアムの事務局設置や地元定着に向けた取組支援に活用しており、補助期間終了を見据え、事業のエコシステム化に熱心に取り組んでいると言える。

■課題(事業終了後に際して改めて確認を必要とする点)

特になし

3. 達成目標と事業内容

■課題(事業終了後に際して改めて確認を必要とする点)

・「事業協働地域就職率」については、平成 29 年度に初めて事業開始前年度と比較し上昇となったものの、平成 30 年度には再び下降している。COC+参加大学のうち、COC+大学を含む三つの大学においては最高値となっていることから、事業全体として成果に結びつけることが期待される。

以上のことから雇用創出に係る取組について、これまでの取組は概ね良好な評価をしていただいていると考えるが、地元定着を定着させるためには関係大学等や協働機関が連携して引き続き取り組んでいくことが要請されている。

③ 課題

COC+事業が終了するにあたり、今後、若者の県内定着を進めるための課題を整理する。

- 1) 今後 18 歳人口の減少等が進むと予想されている一方、長期的には AI や IoT の進展により就業の場が奪われるという予想もある。しかし、そのような中でも優秀な人材の確保は、地域の活性化にとって不可欠であり、若者の県内定着や県外からの還流に向けた取組を継続・強化することが何より重要である。特に、熊本県は熊本地震からの創造的復興を進めている途上であり、取組のより一層の強化が必要である。
- 2) 経団連が就活ルールを廃止したことに伴い、最近、実質的な採用活動の前倒し傾向が見られ、学生の中には戸惑いがあるようである。このようなことは学生、企業の双方にとって良いこととは言えないと考える。もちろん、学生が自らのキャリアプランを形成していく中で、地域社会や企業と接する機会を作ることにより、“就社”ではなく“就職”を考えることは重要である。当面は、学生や県内企業等に対しては、適宜、全国的な動向を踏まえた情報提供を実施する。併せて、国等におかれては、新たな就活ルールの制定が望まれる。
- 3) COC+事業期間を通じて、参加大学のそれぞれの特徴を生かした就職支援活動を行っており、その活動を尊重しつつ、協働で実施したほうが効果的なものは参加大学や協働機関と連携して取り組んできた。今後とも引き続き、設立予定の地元雇用促進コンソーシアムを通じて連携を図ることで若者の地元定着を図ることが適切である。
- 4) 人材の確保定着は、COC+参加大学や協働機関だけの課題ではない。本事業に参加していない大学や専門学校、熊本県経営者協会など人材育成に熱心に取り組んでいる組織、熊本県や熊本市だけでなく県内各市町村など、様々な機関と連携して“オール熊本”の体制を構築し、継続的に人材の定着還流を進める体制を早急に構築することが喫緊の課題である。

COC+
特別プロジェクト
2016年度

企業・大学連携による学内インターンプロジェクト

精密機械製造業との連携による学内インターン及び地域企業見学会の開催

プロジェクトメンバー

熊本大学大学院先端科学研究部（代表）教授 池上知顕

熊本大学自然科学研究科情報電気電子工学専攻 教授 飯田全広

連携機関：株式会社プレシード

プロジェクトの概要・目的

県内企業と連携し、情報技術を活用してインターンシップを主に学内で実施する。具体的には、県内中堅精密機器製造業者である（株）プレシードと連携し、申請者の指導の下、テレビ会議システム等を利用して連携企業との連絡を密に学内で開発等に関するインターンシップを実施する。

インターンシップに先立ち、申請者及び企業担当者を講師に学生を対象とした開発ツール等に関する技術研修も実施すると共に、連携企業での打合せも期間中複数回実施し、情報技術でのコミュニケーションの不足を補完する。更に、連携企業の関係する企業等の見学会も開催し、県内産業への理解を深める。

なお、企業から提示される開発課題等に関しては、連携企業の企業秘密を含むため、連携企業の了解が得られた部分のみ公開。

活動内容と成果・効果

I. 実施内容

1. インターン生募集、採用：インターンシップ説明会（平成29年7月25日）を熊本大学内で実施する他、学内にインターン生募集のポスターを貼り、インターン生を広く募集した。結果、5件（大学院 修士1年生 3名、学部4年生 1名、学部1年生 1名）から問い合わせがあり、（株）プレシードで選考（平成28年9月10日～平成28年11月30日）を行い4名（大学院1年生3名、学部4年生1名）を採用（平成29年1月1日付）した。

2. インターンシップの実施：平成29年2月1日から3月31日（4月1日以降も継続）まで、インターン生4名の研修を実施。今後、インターン生は、研修を平成29年4月末までに完了し、研修を踏まえた実務を行う予定。

3. 今後の予定：平成29年4月以降も（株）プレシードは学内インターンシップを継続して行っていく。研修後の実務で同社業務への貢献が見られると判断した場合は、再度インターン生を募集し人員増を図りたいとのこと。

II. 成果・効果

インターンシップは学生が企業をよりよく知るための重要な機会である。しかし、県内企業、特に製造業は学生にあまり知られていない、郊外を拠点とするため通勤手段の提供が難しい等、様々な理由から中長期のインターン生の採用に苦慮している。そこで、今回の取り組みで学内でインターンシップを実施し通勤しやすくする工夫を行ったところ、4人のインターン生を採用できた。このことは、学生の利便性等を高めることが、インターンシップ参加へのハードルを下げる有効な手段の1つであることを示している。

学生のインターンシップへの参加は、学生が当該県内企業を就職先の選択肢の1つとして見直すことにも役立つことから、このような工夫は、学生の地元定着率の向上を後押しする行動誘発手段の1つになるのではないかとと思われる。



当社社員による3DCAD研修風景、一ヶ月あたり人によるが10時間～40時間程度の研修（自習含む）も行った。

県内大豆食品業界との連携強化（インターンシップ）

学生参画による大豆食品イソフラボンの新規抗肥満・抗アレルギーメカニズムの解明と新商品開発を核とした企業との連携研究を目指したインターンシップ及び企業見学会の実施

プロジェクトメンバー

熊本大学大学院 先端科学研究部 環境科学部門 環境・生命化学分野 助教・太田 広人
熊本大学くまもと地方産業創生センター

連携機関 マルキン食品株式会社、九州大豆食品協業組合

プロジェクトの概要・目的

大豆に含まれる生理活性物質であるダイゼインやゲニステインといったイソフラボン関連物質はその機能性等について多くの研究がなされてきた。申請者は、これらの化合物が人に作用する際に重要な受容体について研究を進め、近年、そのメカニズム解明等に有望な新たな知見を得ている（農芸化学会 2015、生物工学会 2015 等で発表）。

豆腐や納豆、味噌・醤油といった大豆食品の製造は県内で広く行われており、その製造は地域にとって重要な産業となっている。これらの産業は自らの製品の健康への寄与を個々の企業または業界全体で重要視しており、上記知見についても、大変興味深いと考えている。

そこで、本プロジェクトでは、申請者がこれまで実施してきた研究を基盤として、大豆食品業界との連携を深め、地域産業の振興に寄与するため、学生参画による連携研究を目指し、学生が研究内容について成果（中間成果）を企業関係者に報告、更には、工場見学会を実施することで、県内企業との連携強化のみならず県内産業に対する学生の理解を一層深化させる。平成28年度は、県内豆腐、納豆等食品製造大手マルキン食品（株）・九州大豆協業組合をパートナーに連携研究を実施。

活動内容と成果・効果

1. 1 day インターンシップ（平成28年10月13日）

学生 4名（学部4年生 2名、大学院1年生 1名、大学院2年生 1名）がマルキン食品（株）の業務等の説明を受け、工場見学会を行った（マルキン食品（株）阿蘇工場）。また、当該企業の職員と今後取組む課題について意見交換を行った。

2. 課題検討（平成28年10月14日～平成29年3月22日）

学生 2名（学部4年生）が、1 day インターンシップに併せて行った意見交換に沿い、課題に取り組んだ。上記インターンシップに参加した修士学生2名も研究サポートして参画した。意見交換の結果、大豆食品に含まれるイソフラボン成分のうち、どういう構造の成分が、ターゲットとなる受容体に一番作用するかの詳細な解析であったり、大豆に多く含まれる配糖体型のイソフラボンには活性があるのか、といった課題が挙げられた。これらの課題の解決に向け、活性を評価するための実験手法の最適化と、いくつかの代表的大豆イソフラボンとその配糖体について、試験した。

3. 検討結果報告会（平成29年3月23日）

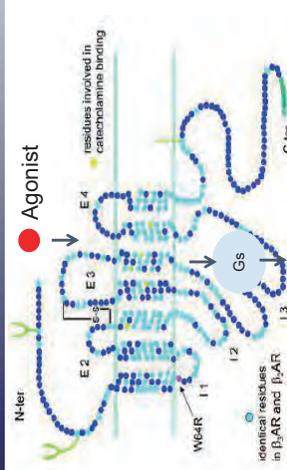
学生3名（学部4年生2名、大学院2年生1名）が、課題の検討結果について報告を行った（マルキン食品（株）本社）。

参加した学生は、企業からの業務説明や見学会、企業の職員と意見交換により設定した課題の検討をとおして、県内企業への理解がより深まったと思われる。また、当該企業においても、意見交換や結果の報告を受けることにより、大学での取組みについての理解を深めていただき、産学連携へ意向を醸成できた。課題解決に向けた実験とその結果については、抗肥満につながる受容体にはゲニステインが、抗アレルギーにつながる受容体にはダイゼインが強く作用し、これら大豆イソフラボンの配糖体はほとんど活性を示さないという結果だった。この結果は、配糖体が製造の過程で分解されることで、イソフラボン本体が多く含まれるような納豆や味噌といった大豆発酵食品の新たな機能性を期待させるものである。マルキン食品の方々からも、この新たな知見が、今後の食品開発に非常に役立つ、というお言葉をいただいた。関わった学生たちも、地元食品企業に大きく関心を持つことができた。



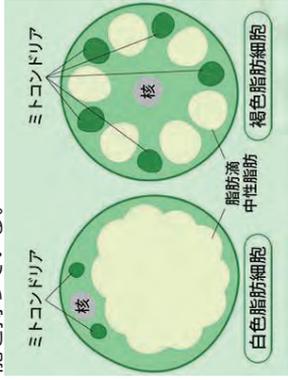
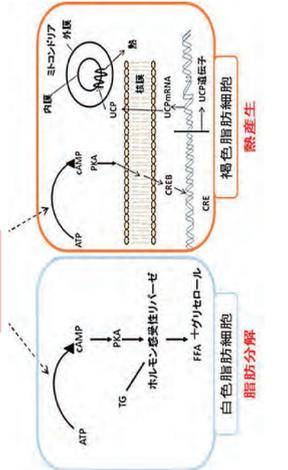
1 day インターンシップ風景

β3ARと抗肥満



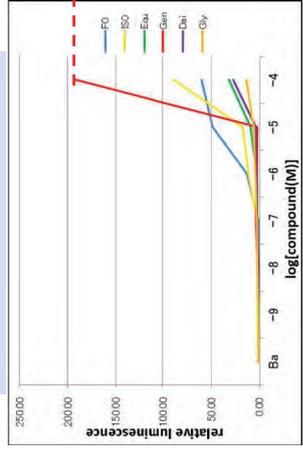
アゴニスト (作動薬)
 ...生体内の受容体分子に働いて神経伝達物質やホルモンなどと同様の機能を示す作動薬のこと。

UCP
 ...ミトコンドリア脱共役タンパク質 (Uncoupling protein) ミトコンドリア内膜での酸化リン酸化反応を脱共役させ、エネルギーを熱として散逸する機能を持っている。

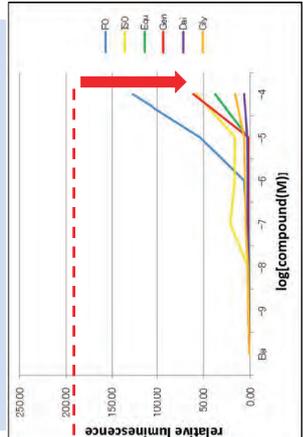


大豆由来成分のアッセイ結果

β3ARを発現させたHEK293細胞



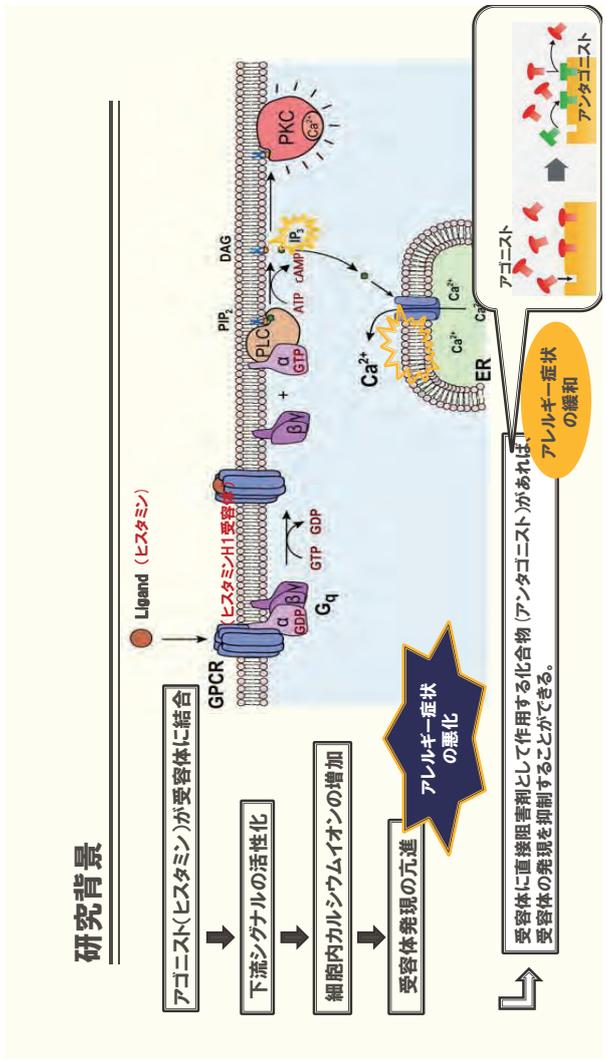
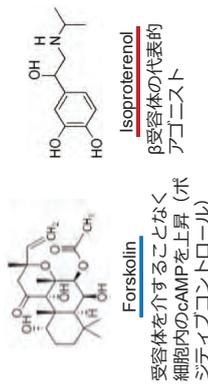
β3ARを発現させていないHEK293細胞



※Ba値を1として相対発光値を算出した。

結果

Genisteinに濃度依存的な活性が見られた。Equol, Daizein, Glycitein, には活性が見られなかった。

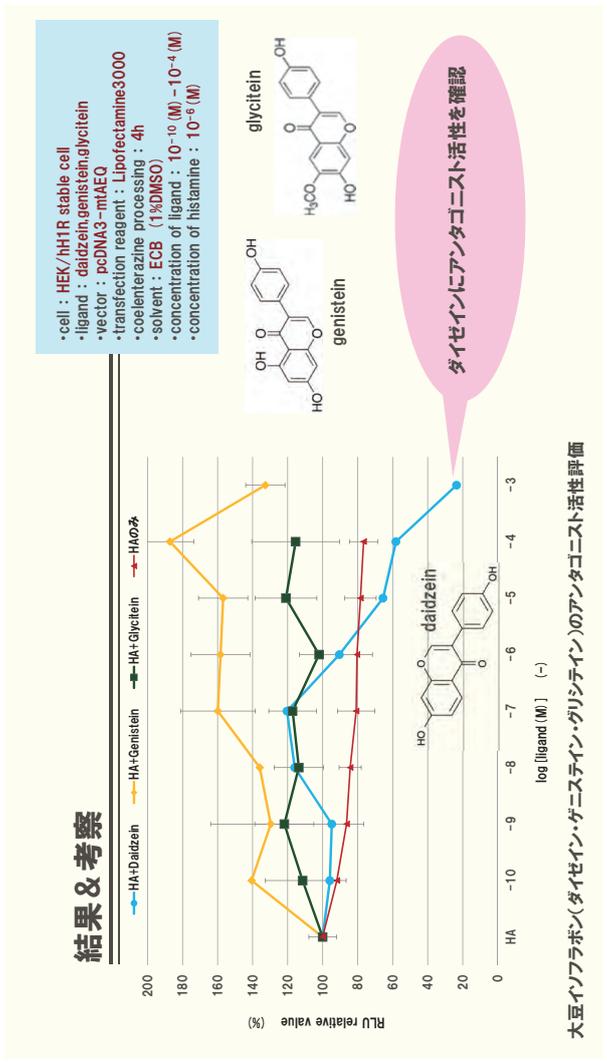


研究背景

- アゴニスト(ヒスタミン)が受容体に結合
- 下流シグナルの活性化
- 細胞内カルシウムイオンの増加
- 受容体発現の亢進

アレルギー症状の悪化

受容体に直接阻害剤として作用する化合物(アンタゴニスト)があれば、受容体の発現を抑制することができる。



結果 & 考察

大豆イソフラボン(ダイゼイン・ゲンステイン・グリシテイン)のアンタゴニスト活性評価

天草雑節製造業界活性化に向けた セミナーおよびPR資料の開発とマーケティング施策の検討

- ・天草雑節PRに活用できる業界歴史資料の作成等（熊本大学）
- ・天草雑節活性化に向けたマーケティング施策の検討（熊本県立大）

プロジェクトメンバー

熊本大学文学部 教授 牧野厚史，熊本県立大学 総合管理学部 教授 丸山泰
熊本大学くまもと地方産業創生センター

連携機関 牛深水産加工協同組合青年部

プロジェクトの概要・目的

雑節は鯖やアジ、イワシといった複数の魚種を原料に製造され、うどんやそばのだし等として主に西日本で使用されている。近年においては、クールジャパンブームによりだしに注目が集まり、その独特の風味等から国内外に市場を広げている。

国内における雑節製造の中心は熊本県天草市であり、牛深地域に製造工場が多く立地している。そして、その製造は地域としても重要な産業となっている。雑節の販売は主に問屋を通して行われるため、雑節製造業者の企業名が消費者の目に触れることは少ない。つまり、B to Bを基調とするビジネスモデルの展開であるが、現在の雑節人気の高まりの中で、業界として更に国内での雑節製品に関する認知度、理解度を高め、市場拡大を間接的に促進することで、業界全体として販売量のみならず付加価値を高めることが課題となっている。

そこで、本プロジェクトでは、学生参画により、①雑節の歴史や特徴をPRするデータ収集および資料作成、②雑節を活性化するためのマーケティング施策の検討を実施する。そのアウトプットは、業界が実施するマスコミや飲食店オーナー等を対象にしたセミナーやPRに使用できる天草雑節製造業界に関する資料等として活用を狙う。また、その資料を活用した雑節に関するPRセミナーを試験的実施にチャレンジする。

具体的には、申請者、連携する大学の教員の指導の下、学生参画によるフィールドワーク等により、雑節業界の成り立ちや歴史、風味等の資料を収集整理し、さらに活性化に向けたマーケティングを検討する。そして、それらの結果をとりまとめて、セミナーに使用する資料としてデザインし、それらを用いて関係者、マスコミおよび申請大学及び連携する大学の学生（3年生、2年生を含む）等を対象に試験的にPRセミナーを開催する。この一連の作業を、申請者の指導の下、学生参画によるフィールドワーク等により行う。

活動内容と成果・効果

1 フィールドワーク

(1) 熊本大学

牛深水産加工組合に加盟する12企業を訪問し、ヒアリングを実施（平成28年10月28日～30日）。学生9名（大学院生4名、学部3年生3名、2年生2名）を2班に分け、各企業の経営者やその家族を対象に雑節の製造工程、家業の歴史に関して質問を行い、あわせて文献の探索を行った。ヒアリング結果および文献調査をもとに、報告会資料（別添パワーポイントおよびポスター）を作成した（平成28年11月1日～平成29年2月18日）。

(2) 熊本県立大学

次のフィールドワークや取材等を通じて、牛深雑節の課題と可能性を抽出し、活性化のための施策案方向性を検討した。

- ・牛深水産加工協同組合青年部とのミーティング（9月14日）
- ・「削り節の山一様」訪問&ミーティング（9月28日）
- ・牛深水産加工協同組合青年部とのミーティング2回目（11月20日）
- ・茅乃舎訪問&取材（12月27日）
- ・「削り節の山一様」訪問&ミーティング（1月17日）

フィールドワークや取材を通じて、牛深雑節の課題と可能性を抽出し、活性化のための施策案方向性を検討した。

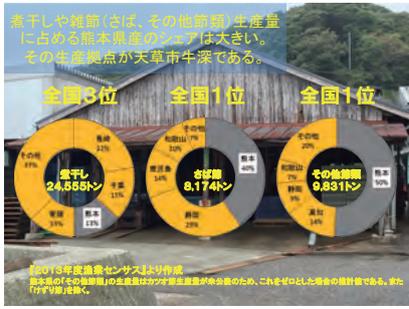
2 牛深雑節関連セミナーの開催

熊本地方COC+推進協議会の主催により「牛深雑節成果報告会」を開催した（平成29年2月19日、天草市本渡南地区コミュニティセンター(天草市本渡)）。学生14名（熊本大学5名(学部2年生1名、学部3年生1名、大学院生3名)、熊本県立大学9名(学部3年生9名))を含め、地域企業やマスコミ、地方自治体、金融機関等70名の参加があった。内容は新聞記事として取り上げられた他、観光客を対象にした地域高級旅館のブログ等にも掲載された。

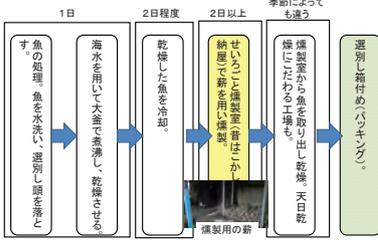
当該取組みをとおして、学生は地域企業の活動等に触れることができ、地域産業への理解が深まった。また、取組みは期間中複数回新聞記事等として取り上げられ、取組みの目的である牛深雑節の知名度向上に貢献できたのではないかと考えている。



上：工場調査風景
下：セミナーでの発表風景



牛深の雑節製造工程(原料はサバ、アジなど)



加工場での聞き取りにより作成。

牛深「雑節」製造の特徴

- 加工場の歴史
 - 本正製菓創業の加工場もあるが、戦後が多い。
 - 若い店主(後継者)が育っている(二代目、三代目多い)
- 製造工程
 - カツオブシ製造があったため基本技術は伝統的だが、品質のばらつきを抑制する部分を機械化し、技術革新に定着
- 製造方法へのこだわり
 - 保存のための乾燥が重要だったが、今は乾燥の過程が重要(主に店主の経験)
- 立地環境・自然資源利用
 - 海・山・川、水利用など総合的資源活用



ダシの国 天草

成果報告

活動報告・雑節マーケティング提案

熊本県立大学 丸山ゼミ 松本・池崎・坂本・白石・平田

目次

1. 雑節とは
2. これまでの活動
3. 牛深の雑節のココがすごい
4. 牛深雑節の課題
5. 雑節活性化のための3つの施策提案
6. 個別施策の紹介
7. まとめ

質問です!!

皆さんは雑節を食べたことはありますか?

アンケート(牛深雑節に関する)

- 日清のどん兵衛を食べたことがある
- 「丸魚製麺」でうどんを食べたことがある
- 「ウエスト」でうどんを食べたことがある
- 「にぼらや」でラーメンを食べたことがある

雑節とは

雑節とは、かつお節以外の節の総称。

これまでの活動

- 9/14, 11/20 牛深工場見学ヒアリング
- 9/28, 1/11 だし教室体験 牛深雑節について
- 12/27 あごダシを販売してる家力会への取材

アンケート(牛深雑節に関する)

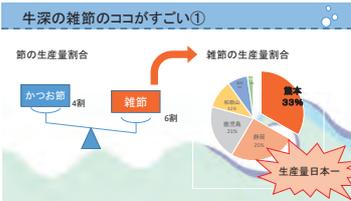
1つでもあてはまったあなた!!

実はあなたは **雑節ユーザー** です。

⇒みんな「知らずに」食べている

課題①: 雑節の魅力に気づいていない&気づけない

雑節をみんな「知らずに」食べている
→雑節という名前すら、どこにも載っていない



- ### 牛深の雑節のココがすごい②
- こだわりのもって生産している
- 生産している種目が豊富 (イワシ・サバ・ソウダガツオ・アジなど)
 - 漁製用の木は、天草の山で調達 (材料も地産地消、選別することで長持ちする)
 - 牛深では海水で煮る (無添加ゆけども塩味がする)

課題①: 雑節の魅力に気づいていない&気づけない

牛深の人たちですら、雑節の魅力に気づけていない

- 牛深の人でも、普段あまり雑節を使っていない
- 牛深でも、ほとんど雑節が売っていない

課題②: 雑のイメージ

大量生産? 低価格? かつお節より劣っている? かつお節じゃダメなの? 獲れた魚のあまりを活用して作る?

牛深の雑節のココがすごい③

わかっている人はわかっている!!!!

- 株式会社山一様
- うだん「たかむら」様

雑節はダシの味を引き立てるんです

雑が深いおだしです! 地産地消をやりたいんです。

牛深の雑節のココがすごい まとめ

- 生産量が日本一
- こだわりの生産
- 味の深さが特徴

牛深雑節の課題: まとめ

- ① 魅力に気づいていない・気づけない
- ② 「雑」(名前)がマイナス

雑節マーケティングの提案

一つでも当てはまった方は「雑節」を食べたことがあります！！

雑節とは、雑節はカツ以外の魚で作られる節の総称です。雑節を料理に使うことで味に「深み」が出ます。

牛深は雑節の生産量が日本一！！

牛深雑節のここがすごい！

1.種類豊富
牛深は取れる魚が多いのでサバ、アジ、イワシ、ソウダガツオなど様々な種類の節を作っています。それぞれの魚に適した機械を使うことにより味が違います。

2.雑節の木は地元の本
漁り木も天草産。雑節で長持ちします。麻紙を使わないので香りがいい！材料の木も地産地消です。

3.湯水吹き
湯水で煮るのには牛深だけ、湯がきれいな牛深だからこそのことです。強いらずの、体に優しいまみりがあります。

ふかだし

ふかだし戦隊
ザツブシニンジャー
フンドするど、さびに深い味になる。それが「ふかだし」です。お料理にあわせたアレンジを見つけてみてください。

サバ
・コクとあまみ
・やや黄色の濃いダシ

イワシ
・香味と酸み
・にごりのあるだし

アジ
・魚臭が少ない
・こく・うま味

ソウダガツオ
・味が濃厚
・色つき良い
・カツオより濃く、強いダシ
・油み、くせー商品は×

都道府県別「雑節」生産量
名産地
熊本 33%
和歌山 21%
徳島 15%
香川県 9%
出典：平成27年農林水産省水産加工統計

～命名～
魅力ある雑節をひきたてる新しい名前を提案します！

味の深い牛深「雑節」
味の深い
ふかだし

生産者の声
「牛深の魅力 味・質への信頼感」
(株)江良水産 江良 さん

雑節だけが「だし」をいんです
【雑節を活かしたレシピ紹介】

うどん
そば

利用者の声
「深い味のおだし」
うどん たか さん

ご協力：株式会社山一節
牛深天草加工協賛組合青年団の雑節
うどん「たから」様

知らないようであつて知っている
牛深の美味しい魅力

雑節 新発見

雑節林験成チェック

- 「昆布」を食べたことがある。
- 「昆布」でうどんを食べたことがある。
- 「昆布」でラーメンを食べたことがある。

結果は次のページへ

COC+事業
特別プロジェクト
報告セミナー

学生チームによる報告

牛深 雑節

熊本大学
～歴史～

温故 知新

熊本県立大
～マーケティング～

成果報告会

雑節は、サバやイワシなどカツ以外の魚で作られた節のことです。うどんやそばのダシなどとして使用されています。熊本県天草市の牛深地域は雑節の製造が日本一です。しかし消費者の目に触れることは少なく、あまり知られていません。そこで今回は熊本大学による雑節の歴史や特徴をPRするデータ収集および資料作成と、熊本県立大学による雑節を活性化するためのマーケティング施策の検討を実施しました。その成果報告会を行います。雑節の可能性を感じてみませんか。

第一部 熊本大学 牛深雑節の歴史
熊本県立大学 雑節マーケティング

第二部 展示会

第三部 「削りぶしのやまいち」様 おだし教室 開催

日時 2017.02.19(日) 13:00-17:00
場所 天草市本渡南地区コミュニティセンター
参加費 無料

【参加申込】メールアドレス(hayashida@kumamoto-u.ac.jp)に、表題を「牛深雑節成果報告会参加希望」とし、本文に「参加者の所属、役職、氏名、電話番号」を記載して平成29年2月9日(金)までに送付ください。
※申し込み多数により参加をお断りすることがございます。予めご了承ください。

「削りぶしのやまいち」様
おだし教室 開催

第一歩 熊本大学 牛深雑節の歴史
第二歩 熊本県立大学 雑節マーケティング
第三歩 展示会
第四歩 「削りぶしのやまいち」様 おだし教室

日時 2017.02.19(日) 13:00-17:00
場所 天草市本渡南地区コミュニティセンター
参加費 無料

【参加申込】メールアドレス(hayashida@kumamoto-u.ac.jp)に、表題を「牛深雑節成果報告会参加希望」とし、本文に「参加者の所属、役職、氏名、電話番号」を記載して平成29年2月9日(金)までに送付ください。
※申し込み多数により参加をお断りすることがございます。予めご了承ください。

21 国内総合

熊本日日新聞 月刊

平成28年(2016年)10月29日 土曜日

ワイカル 県南

雑節 全国に売り出せ

地元と連携 熊本大生、工場見学

天草市牛深の特産品「雑節」を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。

熊本日日新聞 月刊

平成29年(2017年)2月25日 土曜日

国内総合 16

ワイカル 県南

「ふかだし」の名で 全国に売り出そう

天草市牛深特産「雑節」

天草市牛深の特産品「雑節」を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。

熊本日日新聞 月刊

平成28年(2016年)11月21日 月曜日

取材 前編

牛深の雑節と天草五橋

上野 和伝(中津支局)

天草市牛深の特産品「雑節」を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。熊本大学と連携し、地元産の雑節を全国に売り出す。

南小国町における地域資源活用（木材） 関連支援プロジェクト

南小国町「F A B L A B阿蘇」での商品開発等の支援に向けた連携強化

プロジェクトメンバー

熊本大学大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻 准教授 佐々木満、

熊本大学パルスパワー科学研究所

崇城大学芸術学部 教授 岩上孝二、くまもと地方産業創生センター

連携機関 (株) FOREQUE、F A B L A B阿蘇（南小国町）

プロジェクトの概要・目的

南小国町は国が実施する地方創生加速化プロジェクトに採択され、デジタルからアナログまでの多様な工作機械や木質精油を取得できる蒸留器等を備えた実験的地域工房「F A B L A B阿蘇」を設立する。

この取り組みに呼応して、地域企業である(有)穴井木材工場は新会社FOREQUEを設立し、「F A B L A B阿蘇」を活用した商品開発製造販売に取り組む予定。

これら一連の取り組みは、ブランド杉「小国杉」を有する南小国町が地域のネットワークや当該地域資源等を活用し、自由なものづくりの可能性を拡げ、阿蘇地域全体の活性化へ貢献できるものである。

そこで、本プロジェクトは、学生参画により(株)FOREQUEをパートナー企業として、同社が「F A B L A B阿蘇」で実施する商品開発等を技術的に支援する。

具体的には、申請者の指導の下、学生（4年生）がブランド杉「小国杉」から取得できる「小国杉精油」と「小国杉加工製品」について、高品質かつ安定的な精油抽出技術の確立、精油や加工製品の用途開発や使いやすいデザインやパッケージングの探索などに向けた企業等との意見交換や加工体験を行う。また、関係者及び学生を参加者に地域産業の見学会を実施する。

学生（4年生）が小国杉精油の生産技術の開発、加工製品の用途開発や商品デザインに積極的に意見交換や加工体験を行い、(株)FOREQUEが「F A B L A B阿蘇」で行う商品開発等に貢献する。また、地域産業見学会については学生（4年生）が同行して3年生、2年生が参加することにより、地域産業への理解を一層深める。

本プロジェクトにより(株)FOREQUEの商品開発等が推進され、「F A B L A B阿蘇」で製造された商品の市場展開が順調に実施されれば、阿蘇地域の産業振興につながる。また、学生参画による取り組みにより学生の地域への理解が一層深まり、地域への就職を希望する学生の増加にもつながると期待される。

活動内容と成果・効果

1 地域見学会の実施（平成28年9月30日）

学生8名（熊本大学 2名（院2年生2名）、崇城大学 6名（学部2年生5名、学部4年生1名））が、(有)穴井木材工場、及び、阿蘇森林組合南小国支所を訪問し、穴井俊輔 専務取締役、及び、佐藤武弘 支所長から、製材所や森林組合の業務及びその業務環境について説明を受けた。また、その後、黒川温泉べっちゃん館において、学生と穴井俊輔氏との意見交換を行い、今後の作業（「F A B L A B阿蘇」の商品等に関する検討）について確認した。

2 「F a b L a b阿蘇」の商品等に関する検討（平成28年10月1日～平成28年11月17日）

(1) 熊本大学

旅館や一般家庭をターゲットとした小国杉を活用した商品（例えば、スギの衣紋かけ、タンスの防虫・消臭剤など）のアイデアを募るため学科内3年生50名にアンケート調査を実施し、結果を取りまとめた。

(2) 崇城大学

地域活性をテーマにして、次のとおり取り組んだ。

①小国杉の加工品として、その効能を活かした日本酒のブランド「霧くぐり」と小国杉で制作した酒器のアイデアを提案

②黒川温泉の旅館の協力を前提とした、小国杉の特質を活かした「小国杉づくしのスペシャルルーム」のアイデアを提案

3 検討結果報告会（平成28年11月18日～19日）

学生8名（熊本大学 2名（学部4年生2名）、崇城大学 6名（学部2年生6名））が、(有)穴井木材工場にて杉精油の取得研修（技術説明 熊本大学 佐々木准教授）を受けた（平成28年11月18日）。また、「F a b L a b阿蘇」の商品等に関する検討の結果を報告した（平成28年11月19日、木魂館（小国町））。報告会には地域産業界より穴井俊輔氏が参加。報告を受け、穴井氏は「小国杉を用いた商品等について大変興味深い検討結果を聞かせていただいた。今後の開発の参考にしたい」と講評を述べた。

一連の取り組みを通し、参加した学生は地域企業の取り組みへの理解が深まったと思われる。また、「FabLab 阿蘇」の商品等について、学生の視点から新鮮な提案があり、また、その商品開発に向けて技術的な問題課題についてのイメージを掴むことができた。

西九州化学工学懇話会等の主催によりシンポジウム「九州産杉の高付加価値化による復興と地域創生」を実施した（平成28年11月16日、熊本県立大学）。南小国町を始め、杉の産地である大分県日田市、宮崎県日南市からも参加があり、今後、F a b L a b阿蘇を活用した地域振興に向けたプロジェクトにもつなげていく。



地域見学会 穴井木材工場



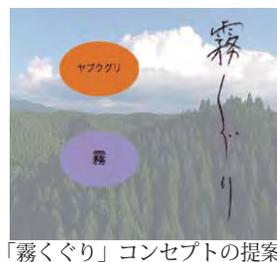
意見交換



精油取得研修



報告会



「霧くぐり」コンセプトの提案



酒器のアイデア提案

九州産杉の 高付加価値化による 復興と地域創生 参加無料

主催：西九州化学工学懇話会 共催：熊本県立大学

日時
場所

2016年
11月16日(水) 13時～17時

熊本県立大学CPDセンター
〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号

第1部

13:00～14:50 「九州産杉の新たな機能性を探

講師: 塩田清二(産業科大学 特任教授)

城戸宏史 (北九州市立大学 教授)

木口 実 ((研)森林総合研究所 研究コーディネーター)

佐々木満 (熊本大学 准教授)

第2部

15:00～17:00

「パネルディスカッションと意見交換会

～各自治体の取組みとこれから～

大分県由布市、宮崎県臼杵市など

ご予約
お問い合わせ

セミナー事務局 (熊本大学 化学工学研究室内)

E-mail: msasaki@kumamoto-u.ac.jp

Fax: 096-342-3665

九州地方は森林の生育に恵まれた地域で、特に杉においては小国、飫肥、日田など有名林業地が形成されています。

このたびの震災により、国土強靱化としての森林の役割が再認識されましたが、一方で海外産製材との競争力激化や国産材価格の下落なども懸念されており、木材の新たな用途開発も喫緊の課題となっていることも事実です。

本セミナーでは、医学的、化学工学的な見地から九州産杉の新しい機能性、加工技術を探り、付加価値の高い商品開発の可能性について、それぞれの専門家より講演いただきます。

さらに杉の高付加価値化に積極的な自治体を交えたパネルディスカッション及び意見交換会を実施いたします。

多くの方のご参加をお待ちしております。

<お申し込み方法>

メールで・・・

お名前、所属、お電話番号をご明記の上 msasaki@kumamoto-u.ac.jp まで御送信下さい。

ファクスで・・・

お名前、所属、お電話番号をご明記の上 096-342-3665 まで御送信下さい。

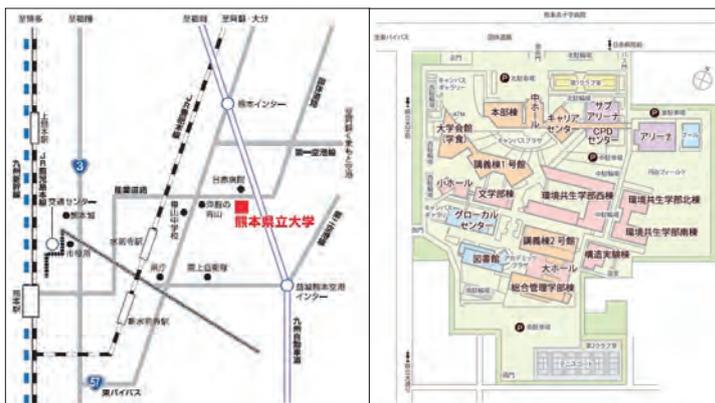
<交通アクセス>

熊本県立大学へのアクセス

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/others/access.php>

キャンパスマップ

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/about/facility/haichizu.php>



事業協働機関による情報発信事業（シーズ集の作成）

第一次産業の六次産業化支援のための大学・高専等シーズ集の作成と配布

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専等

プロジェクトの概要・目的

COC+事業に取り組む8大学・高等専門学校と、熊本県内農業系高等学校のうち6高等学校のシーズを集めた『第1次産業の6次産業化推進に向けた研究・教育シーズ集』を作成した。地域の雇用創出のために、大学・高等専門学校の研究シーズを第1次産業の競争力強化と6次産業化につなげることを目的にしている。そのため、収録した研究シーズは、単に第1次産業の「生産」に関連するものだけでなく、第1次産品の「加工」、それらの「流通・販売」、機能性評価等の「応用」分野、さらに「地域」づくりに及んでいる。

また、従来、各大学等では当該大学等に所属する研究者に関するシーズ集（「研究者総覧」等）は作成されていたが、大学・高等専門学校の枠を超えて特定のテーマで作成された『シーズ集』はほとんど前例がない。その点でこの『シーズ集』は画期的と言える。さらに、農業系高等学校も優れた教育実践や研究を行っているうえ、学校が所在する地域との連携にも積極的であることから、農業系高等学校のシーズも取り上げた。

『シーズ集』は作成することが目的ではなく、産業創生や雇用拡大に資することが目的であるから、今後、この『シーズ集』の積極活用が求められる。

活動内容と成果・効果

今回の『シーズ集』は全64ページ、500部作成した。52名の大学・高等専門学校の研究者から寄稿があった。また、COC+事業の説明と熊本県における実施体制、大学・高等専門学校、県内農業系高等学校の連絡先等も収録した。企業や自治体からの問い合わせに應えるためである。

刊行してまだ日が浅いが、すでに研究者の紹介要請等大きな反響を呼び起こしつつあり、また大学・高等専門学校の教職員からも、これまで知らなかった研究者の存在や研究内容がよく分かって役に立つとの声が聞かれる。今後さらに広く利活用されることはほぼ確実であり、期待される。

(資料)

プロジェクト名: 事業協働機関による情報発信事業(シーズ集の作成)

プロジェクトのテーマ: 第1次産業の6次産業化支援のための大学・高専等シーズ集の作成と配布

○『第1次産業の6次産業化推進に向けた研究・教育シーズ集』

(表紙)



○(下左)『COC+事業 資料集』、(下右)『平成28年度 実績報告』



事業協働機関による情報発信事業（シンポジウムの開催）

第一次産業の六次産業化支援のためのシンポジウムの開催

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専 等

プロジェクトの概要・目的

11月16日熊本県立大学 CPD センターで、西九州化学工学懇話会主催、熊本県立大学共催のシンポジウム「九州産杉の高付加価値化による復興と地方創生」をCOC+事業の一環として開催した。学生5名を含む約40名が参加した。

12月9日メルパルク熊本で、産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会主催のシンポジウム「第1次産業の競争力強化と6次産業化による地方創生」を開催した。学生約50名を含む約150名が参加した。



11月16日開催のシンポジウム「九州産杉の高付加価値化による復興と地方創生」を開催した。学生約50名を含む約150名が参加した。

活動内容と成果・効果

11月16日に開催されたシンポジウムでは「九州産杉の新たな機能性を探る」を共通テーマに、4人の講師による講演の後、大分県日田市、宮崎県日南市、熊本県南小国町の関係者も加わって、「各自治体の取組とこれから」をテーマにパネルディスカッションと意見交換が行われた。それらの中で、カーボン・ナノファイバーに取って代わる可能性のあるものとして近年注目されているセルローズ・ナノファイバーの優れた特性が指摘され、その原材料となる九州産杉の高付加価値化を伴った新たな市場開拓の可能性について指摘があった。雇用促進を実現する案件として、今後の展開が期待される。

12月9日のシンポジウムでは「地方創生と地域発イノベーションーアグリビジネス創出における地方大学の役割ー」をテーマに基調講演が行われた後、COC+事業における産学官連携の取組と農産物輸出促進に関する事例報告、及び「第1次産業の競争力強化と6次産業化ープラットフォームづくりー」をテーマにパネルディスカッションがあった。

熊本県、農協、食品産業における6次産業化の取り組みが紹介され、地域の特産品の高付加価値化とそれによる所得増加・雇用促進のために、産官学金によるプラットフォームづくりの必要性が確認された。

これらを通じて、熊本県における第1次産業の競争力強化と6次産業化による雇用創出にとって必要な体制のあり方や事業を進める上での留意点等を改めて確認することができた。



12月9日開催のシンポジウム「第1次産業の競争力強化と6次産業化による地方創生」

事業協働機関との連携強化事業（先進地研修等）

第一次産業の六次産業化支援のための基礎的調査・研修

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専 等

プロジェクトの概要・目的

平成28年度に実施した先進地研修等は3つのパターンに大別される。

- (1) COC+事業を推進するうえで先進的な取組をしている地域・大学等を対象とする研修。
- (2) 第1次産業の競争力強化と6次産業化を支援する際に必要となる知見を得るための研修。
- (3) COC+事業に関するテーマで開催されるシンポジウム等への参加。

これらはいずれもCOC+事業をよりの確かつ最大の効果をもたらすものにするために、また、COC+事業に取り組む全国の大学とのネットワークづくりのためにも必要な業務であった。

活動内容と成果・効果

上記の3パターンについて主要なもの（一部）を列挙する。

(1) について。

- ①山梨大学・山梨県立大学のCOC+事業に関する調査。（県内すべての大学等が、「参加校」あるいは「協力校」として共通のCOC+教育プログラムを構築している。）
- ②「衣食農連携プラットフォーム」（東京農業大学で開催）出席。（第1次産業の6次化を実現するために有効な、衣食農が連携するプラットフォームづくりは不可欠であるが、その先進的取組等に関する情報収集。）

(2) について。

- ①「新価値創造展2016」（東京ビッグサイトで開催）出席。（中小企業基盤整備機構主催。農林業と製造業の連携に関する最先端の知見が得られた。）
- ②「邪魔者扱いの農（海）産物から新産業の勃興」（滋賀県草津で開催）出席。

(3) について

- ①「全国ネットワーク化事業 COC/COC+全国シンポジウム」（高知大学主催）出席。
- ②「九州・沖縄COC/COC+合同シンポジウム」（鹿児島大学主催）出席。
- ③「熊本発！震災復興フォーラム」及び「オール熊本発！シーズプレゼンテーション」（JST主催）出席。

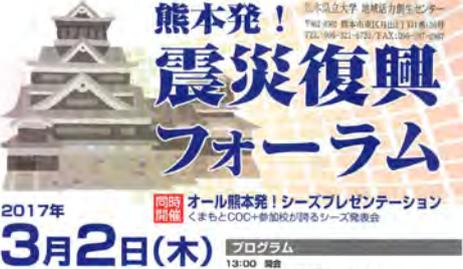
上記以外のもも含めて、これらの研修によって得られた情報・知見は、熊本県におけるCOC+事業の計画立案、実施、評価等の際に活かされた。

(資料)

プロジェクト名：事業協働機関との連携強化事業（先進地研修等）

プロジェクトのテーマ：第一次産業の六次産業化支援のための基礎的調査・研修

○熊本発！震災復興フォーラム（東京）



熊本発！震災復興フォーラム
2017年 **3月2日(木)** 同時開催 オール熊本発！シーズプレゼンテーション
くまもとCOC+参加校が誇るシーズ発表会

会場：富士ソフトアキバプラザ SFアキバホール (東京都千代田区神田錦町3)

主催：JST 独立行政法人科学技術振興機構

後援：文部科学省、復興庁、熊本県、(予定) くまもとCOC+

参加費：無料(事前登録)

プログラム

13:00 開場
13:05-14:00 基調講演
14:00-14:40 研究事例紹介
14:40-14:45 休憩
14:45-16:30 パネルディスカッション
16:35-16:45 休憩
16:45-17:45 質疑応答セッション
17:30 開場
17:40-18:30 シーズホスター展示と個別交際

お問い合わせ
独立行政法人科学技術振興機構
産業連携推進部 産業技術プロモーショングループ
TEL 03-5214-7519
FAX 03-5214-8399
E-mail: tvent@jst.go.jp

○超異分野学会（大阪）



超異分野学会
Be Hyper-Interdisciplinary

超異分野学会とは、多分野の科学技術の融合により人類の知の拡大と地球貢献を実現するべく、異なる分野、業種で研究に関わる人材が集まり、議論する場です。

関西大会テーマ：地の知と結ぶ

2017年大阪フォーラムは「地域」の知恵や課題と参加者とを結びつけ、新たな価値創造のきっかけとなる会を目指します。

主催：株式会社リノリス 共催：立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究所

発表申込登録はこちら (1月31日〆切)

聴講参加のお申し込みはこちら

2017年3月11日(土)～3月12日(日)
立命館大学大阪いばらきキャンパス
〒567-8570 大阪府茨木市 若島町2-150

○全国シンポジウム（高知）



全国ネットワーク化事業
平成28年度COC/COC+全国シンポジウム
地方創生と大学

2017年 **3月6日(月)～7日(火)**

第1日目 3月6日(月) 12:35～18:10 (開場12:00より) ザクラウンパレス新飯倉高知「花の間」(高知市本町4丁目2-50)
第2日目 3月7日(火) 9:00～13:35 (開場8:30より) 高知商工会館「光の間」(高知市本町1丁目6-24)

特別講演
「地方から創生する我が国の未来」 石破 茂氏 (予定)
「日本の課題 - デフレ脱却と地方創生 - (コマツは日本の縮図)」 坂根 正弘氏

基調講演
「先進技術と地方創生」 岩瀬 公一氏
「日本の課題 - デフレ脱却と地方創生 - (コマツは日本の縮図)」 坂根 正弘氏

基調討論
「先進技術と地方創生」 岩瀬 公一氏
「日本の課題 - デフレ脱却と地方創生 - (コマツは日本の縮図)」 坂根 正弘氏

ボスターセッション
「先進技術と地方創生」 岩瀬 公一氏
「日本の課題 - デフレ脱却と地方創生 - (コマツは日本の縮図)」 坂根 正弘氏

懇話会
「先進技術と地方創生」 岩瀬 公一氏
「日本の課題 - デフレ脱却と地方創生 - (コマツは日本の縮図)」 坂根 正弘氏

申し込み方法
右に掲載の申込フォームに必要事項を入力し、http://www.kochi-coc.jp/

問い合わせ先
高知大学地域連携推進センター 地方創生推進室 TEL:088-844-0293 E-mail:ikt10@kochi-u.ac.jp

産学官連携部会六次産業化育成連絡会の設置・運営

COC+申請大学・参加校等による情報交換・共有と他の事業協働機関との連携強化

プロジェクトメンバー

熊本県立大学 地域活力創生センター センター長・松添直隆

連携機関 熊本大、熊本学園大、崇城大、東海大、尚絅大、九州看護福祉大、熊本高専 等

プロジェクトの概要・目的

COC+事業の本旨のひとつである地域協働機関間の連携によって、第1次産業の競争力強化と6次産業化支援を実施するために、COC+事業に関わるすべての大学・高等専門学校を構成員とする「熊本地方COC+推進協議会企画委員会産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会」を設置した。

平成28年度はとくに大学・高等専門学校間の意思疎通を確実にする“チーム・ビルディング”を重視し、原則として月1回の定例会を開催した。そこでは第1次産業に係るすべての取組について意見交換を行い、共通認識の形成を目指した。また同時に、より深い視点から事業を進めるために、連絡会でほぼ毎回、勉強会を開催した。

活動内容と成果・効果

平成28年度に実施したシンポジウム、シーズ集の作成、自治体や企業との連携事業、高等学校との連携の試み等すべての取組を成功させることができたのは、連絡会での意見交換と方針確認に因るところもあると考えられる。勉強会は、6次産業化の意味・意義、自治体の取組の現状等のテーマで行った。第1次産業の強化に関する最新の知見を得ることができ、具体的な取組の検討に大いに役立った。

勉強会のテーマと話題提供者は以下のとおり。

第1回「農工連携&観光連携の紹介」(熊本大学・池崎健介氏)

第2回「6次産業化について」(熊本学園大学・山内良一氏)

第3回「熊本県における第1次産業の6次化について」(熊本県流通アグリビジネス課・大王龍一氏)

第4回「熊本における6次産業化推進の現状とサポート体制」(熊本農協中央会・猪本浩幸氏)

第5回「まち・ひと・しごと創生 山の都人口ビジョン・山の都総合戦略」(山都町・山下公司氏)

第6回・第7回 勉強会無し

第8回「地方創生と高大連携」

また、熊本県が実施する事業を各大学・高等専門学校に周知する場としても有効な機能を果たした。具体例としては、熊本県むらづくり課が推進した「中山間地域サポート推進事業」への参加団体を連絡会で募ったところ、前年度の2大学2グループから、28年度は4大学8グループに増加した。さらに、COC+事業をより着実に推進するために、農業系高等学校との連携を重視し、3月16日に開催した第8回連絡会では農業系高等学校校長にも参加してもらい、大学・高等専門学校との意見交換を行った。その際、文部科学省初等中等教育局の調査官にも出席してもらい、現状と今後の方向性等に関する説明・助言を受けた。

連絡会が主催した事業のひとつに、2月20日に開催した「ものづくりフォーラム」がある。加工食品製造メーカーと連携して、ものづくりの楽しさ・厳しさと県内企業の魅力を学生に理解してもらうことが目的だった。出席した学生から「非常に興味深い内容だった」との感想が多く聞かれた。

(資料)

プロジェクト名：産学官連携部会六次産業化育成連絡会の設置・運営

プロジェクトのテーマ：COC+申請大学・参加校等による情報交換・共有と他の事業協働機関との連携強化

○熊本地方 COC+推進協議会企画委員会産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会の様子



○平成29年2月20日熊本県立大学 CPD センターで開催した「ものづくりフォーラム」の様子。



熊本県企業と大学および在学生の相互理解

熊本県企業と大学の相互理解による就職ミスマッチの防止

プロジェクトメンバー

崇城大学 就職部 就職部長 土橋 和之

連携機関

プロジェクトの概要・目的

【熊本に拠点を置く企業と崇城大学との情報交換会】

「企業と崇城大学との人財育成研究会 at kumamoto」と題して情報交換会を行う。本学からは主に各学部学科の教員が参加し、企業に向けて各学科の教育内容や学生の特色、昨今の就職状況等について説明を行う。目的は主に熊本の企業に本学の各学科を理解してもらうことであるが、特に一見学科名だけでは採用対象に当てはまらなくても、教育内容や学生の特色を理解してもらうことで本学学生の可能性を感じてもらい、結果として極力幅の広い求人募集に繋がるのが重要である。後半は各学科の就職担当教員と企業との名刺交換会を行い、より具体的な内容について情報交換を行う。

【熊本県内企業へのバスツアー】

昨今リクナビやマイナビ等の就職サイトを介した求人情報が溢れており、学生は地元の優良企業に目が向きにくい傾向にある。そこで大学発着で県内企業のバスツアーを実施し、実際に企業を訪問して雰囲気を感じることによって、学生に地元熊本にも目を向けさせることが目的である。

【卒業生向けアンケート調査】

各種雑誌やインターネット上には、企業の求める人材等の情報が多数掲載されているが、本学卒業生に対してアンケート調査を行うことで、より説得力のある情報を収集する。収集した情報は熊本への就職を希望する学生のガイダンスにて活用する計画である。

活動内容と成果・効果

【熊本に拠点を置く企業と崇城大学との情報交換会】

今回は時間的な都合もあり、全ての学科の説明を行うことが出来なかったが、参加企業へ実施したアンケート調査結果では「今まで知らなかった学部・学科について知ることが出来た。」「聞けなかった他の学科についても説明を聞きたかった。」等の意見があり、当初の目的達成に即した取り組みになったと考えている。次回の課題としては、参加企業から学生や大学への要望を伺うような仕組みが必要であると感じた。

【熊本県内企業へのバスツアー】

就活直前の時期であった為に参加者数が少ないのではないかと懸念されたが、大学発着という手軽さもあり参加者数も40名と予想範囲内の実施となった。内容的にも地元企業の雰囲気が十分伝わるものであり、学生も積極的に参加していたように思われる。また、求人票等の書面からは伝わらない事柄もたくさんあり、地元企業への理解を深め、職業適性や将来設計について考える大変有意義な取り組みとなった。

【卒業生向けアンケート調査】

アンケート結果では、就職に関するアドバイスというよりは在学中にやっておいた方がいいこと等、より本学に即した内容の回答が多く、本学学生には影響力のある大変有効な情報が収集出来た。10月には熊本への就職を希望する学生へのガイダンスを実施する予定であるが、早速アンケート結果を反映したガイダンスを計画する予定である。

「企業と崇城大学の人材(財)育成研究会」会次第

平成28年9月1日(木) 15:30~18:30

開催場所:第1部 3F「鳳凰(東)」
第2部 3F「鳳凰(西)」

理事長・学長挨拶

COC+挨拶:氏名

第1部 崇城大学の教育のご紹介 15:45~16:40

芸術学部

ナノサイエンス学科

崇城大学専門学校

就職部長補足説明

企業様から人材についてのご提案

休憩・移動

第2部 意見交換会・懇親会 17:00~18:30

就職部長挨拶

意見交換と懇親会

各学科の教員がテーブルでお待ちしております。

以上

見よう! 触れよう! 熊本の中小企業!

参加費
無料

2017年第1回 企業見学バスツアー

クリエイティブ系
企業 etc...

定員
40名

デザインや映像制作などクリエイティブな分野で
事業に取り組む熊本の企業を見学します。
今後の就職活動にも役立つはずです!



株式会社 ユーツー

熊本・福岡・鹿児島で
CMの企画・制作、CG
の制作、映像制作、VP
の企画・構成・制作な
どを行っています。



凸版印刷株式会社 玉名工場

印刷テクノロジーを
ベースに、情報コミュ
ニケーション、生活・産
業、エレクトロニクス
の分野で幅広く事業
展開しています。



株式会社 ゆうプランニング

広告やCM、パンフレ
ットやホームページの
制作を通して、さまざ
まな課題の解決策を立
案する総合広告代理
店です。



株式会社 吉田設計

「建物をたてるとい
うことは、その人の歩ん
できた人生を表現するこ
と」をコンセプトに、安
稳な建物のづくりを目
指す設計事務所です。



2017
日時 2/14 [tue]
9:00-17:00
8:40 崇城大学正門前集合

●昼食はお弁当を用意しております



..... ぜひ、お気軽にご参加ください!

お問
い合
わせ

崇城大学 就職課「企業見学バスツアー」係

☎ 096-326-3416

見よう! 触れよう! 熊本の中小企業!

参加費
無料

2017年第2回 企業見学バスツアー

食品系企業 etc...

定員
40名

熊本で食品製造に携わる企業を見学します。
企業の魅力を、見て、聞いて、知る、貴重なチャンス。
就職活動にも役立つはず!



株式会社 山内本店

(醤油・味噌)

梅屋の屋号で創業し、
260年以上の歴史を誇
る山内本店。味噌・醤油
調味料を通して、健やか
でおいしい食生活を提
案しています。



熊本ワイン 株式会社

(ワイナリー)

平成11年設立。「地産地
消」をモットーに最新の
醸造技術を取り入れ造
るワインは、コンクール
で入賞するなど高い評
価を得ています。



【上記2社と、下記いずれか2社の見学を予定しています。】

重光産業 株式会社

(製糖)

株式会社 コッコファーム

(卵、お肉、加工品の直売店)

株式会社 生科研

(土壌用肥料等の製造・販売)

株式会社 ヒライ

(お弁当・惣菜等の製造・販売)

2017
日時 2/23 [thu]
9:00-17:00
8:40 崇城大学正門前集合

●昼食はお弁当を用意しております



..... ぜひ、お気軽にご参加ください!

お問
い合
わせ

崇城大学 就職課「企業見学バスツアー」係

☎ 096-326-3416

地域企業及び教育機関と連携した米焼酎関連技術検討会の実施

米焼酎製造に係る技術セミナーの開催、及び技術開発の推進

プロジェクトメンバー

生物生命学部 応用微生物工学科 教授・寺本祐司、 教授・三枝敬明

連携機関 県立南稜高校、くまもと地方産業創生センター 等

プロジェクトの概要・目的

熊本県球磨地方で主に製造される米焼酎は県を代表する産品（酒類）であり、その製造は地域にとって重要なものとなっている。スコットランドのスコッチウイスキーやフランスのボルドーワインと同様に地域名を冠した酒類である球磨焼酎は日本では、珍しい酒である。

本プロジェクトでは、当該産業に対する県内学生の理解を深めると共に、大学と業界及び地域との共働による県内産業の振興を推進するため、申請者の指導の下、米焼酎製造技術等を学習した学生の参画による米焼酎関連技術検討会を球磨焼酎製造業界及び地域の教育機関と連携して実施する。

具体的には、申請者の指導の下、参画した学生が、球磨焼酎製造業者及び地域で焼酎製造を学ぶ高校生を対象に研究内容を発表する。併せて、申請者及び参画した学生等による米焼酎製造技術セミナー（実習を含む）を他機関とも連携し実施する。

活動内容と成果・効果

1 地域企業及び教育機関と連携した米焼酎関連技術検討会

(1) 教育機関対象 日時：平成 28 年 11 月 1 日（火）、会場：南稜高等学校 球磨郡あさぎり町、対象：南稜高等学校の生徒と教職員、実施者：崇城大学 2 名、学生 5 名、熊本大学くまもと地方産業創生センター 2 名

講演：「麴の機能性について」 崇城大学 応用微生物工学科 三枝敬明

実験：「ATP フォトメーター、酵母の分離」 崇城大学 応用微生物工学科 寺本祐司

実験：「食品の抗酸化能測定」 崇城大学 応用微生物工学科 三枝敬明

(2) 地域企業対象 日時：平成 28 年 11 月 2 日（水）、会場：中小企業大学校 人吉校、対象：球磨焼酎酒造組合および関連企業の方々、南稜高等学校教職員、実施者：崇城大学 2 名、学生 5 名、熊本大学くまもと地方産業創生センター 2 名

講演：「音響製麴と発酵食品への可能性」 応用微生物工学科 三枝敬明

講演：「世界の珍しい酒と発酵食品」 応用微生物工学科 寺本祐司

2 工場見学会の開催 日時：平成 28 年 11 月 2 日（水）、参加者：崇城大学 2 名、学生 5 名、熊本大学くまもと地方産業創生センター 2 名、見学場所：人吉アサノ電機株式会社、白岳酒造研究所、球磨焼酎ミュージアム白岳伝承蔵

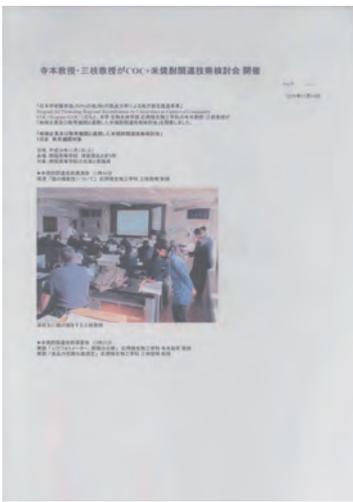
Ⅱ 成果・効果 焼酎関連技術検討会の実施により、大学と焼酎製造業界、地域の教育機関との連携が深まった。また、参画した学生は熊本県を代表する産業の 1 つである米焼酎製造業界に関する知識、そして地域産業の理解を深めた。取り組みは継続的に実施することとなり、焼酎製造関連の新たな技術成果による県内産業の振興、そして、県内の雇用創出と、県内企業の学生等の雇用にもつながると期待される。

資料 1. 米焼酎関連技術検討会

資料 2. 崇城大学ホームページ記事 2016 年 11 月 04 日

http://www.sojo-u.ac.jp/faculty/department/microbial/news/161104_007483.html

資料 3. 人吉新聞記事



実習「ATPモニター」観察の中、 応用生物工学科 教授 寺本和司 氏
 実習「食品の乾燥化実習」 応用生物工学科 教授 三枝明司 氏



実験の説明をする三枝教授



3限生に実験指導する応用生物4年西田君（右から2番目）。



専任教員・三任教員がCOC・地域創成技術研修会開催

【日本学生協会の「大学教育の質の向上に関する調査報告書」 Program for Promoting Regional Revitalization by Universities as Centers of Community COC（Program COC）のもと、応用生物工学科専任教員・三任教員が「地域創成技術研修会」と連携して本学期間技術研修会を開催しました。

「食品の乾燥化実習」 1日 実習指導

日時：平成28年11月1日（火）
 会場：南校高等学院 研修部3号3号9号
 対象：南校高等学院の生徒と教職員

○本学期間技術研修会 11時 49分
 講師「食品の乾燥化について」 応用生物工学科 教授 三枝明司 氏



講師する三枝教授

○本学期間技術研修会 13時 25分



実験指導をする応用生物の学生達と熱心に実験する南校生徒たち。

「食品の乾燥化実習」 2日 実習指導

日時：平成28年11月2日（水）
 会場：中企業大学 入館1
 対象：南校高等学院の生徒と教職員

○本学期間技術研修会 9時 30分
 講師「食品乾燥化実習」 応用生物工学科 教授 三枝明司 氏
 講師「乾燥の新しい流れと乾燥食品」 応用生物工学科 教授 寺本和司 氏



講師の一角に方角の話を三枝教授。

○本学期間 13時 29分
 入館1/A号館、食品乾燥化実習、情報科とユースダム自由研究の発表を行いました。



写真前列より、三枝教授、応用生物4年の西田くん、今山くん、西田君、西田君、応用生物2年の山崎さん、後列化より南水大学総務コアマネージャー、専任教員。



地域の魅力を伝えるための CM 作成プロジェクト in 大津町

CM 作成を通じた熊本理解の促進

プロジェクトメンバー

尚綱大学 文化言語学部 准教授・北口英穂

連携機関

プロジェクトの概要・目的

内外から大津町を訪れる人々に大津町の魅力を伝えるための CM を作るという活動を通して、地域の実情と課題を認識し、地域活性化・復興につながる取り組みを実践して地域理解を深めることが目的である。教育プログラム適応授業「サービスマーケティング入門Ⅱ」と連携し、CM 作成のプロの方の指導を受けながら、大津町内の魅力を発掘・撮影し、CM を作成する。また、熊本地震からの復興も今後の熊本の地域活性化に欠かせないことから、被災者ケアのプロジェクトを別の教育プログラムの授業（集中講義「地域プロジェクトワーク」）と連携し実施し、その様子についても CM 作成の素材とし、被災者ケアを通じた学生の地域理解、復興支援を促す内容とする。

活動内容と成果・効果

CM 作成に関する主な活動内容は以下の通りである。①オリエンテーション、PR や CM について、大津町の基本情報の把握②大津町のリサーチ、ロケハン③絵コンテ作成④撮影⑤編集作業⑥まとめ。また、被災者ケアについては以下の通りである。受講生は、事前に資生堂スタッフにより、3 回にわたって Life of Quality に関する講義および化粧療法や高齢者のアテンド方法などの実践的指導を受けた後、大津町 3 ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施した。

CM については当初予定していた長さの CM には至らなかったが、試作品として次の CM が製作された。(https://youtu.be/rf9-l1_tuIo)

内容、質ともに十分なものではないが、CM 製作を通じた地域理解促進の目的は達成できたと思われる。今後も継続して実施する予定である。

CM 作成の参加学生は慣れない機材や PC での編集作業に悪戦苦闘していたが、CM の作成を通じて、取材する側だけではなく、取材される側の視点、そして CM を見る側の視点、多角的に物事を見る重要性を理解すると共に、熊本の地元を再認識するきっかけになったと思われる。今後も地域理解の一つの有効な方法として、CM 作成を通じたプロジェクトは継続していく予定である。

被災者ケア実践では、仮設住宅在住者の方に多くの笑顔が見られ、リラックスしてもらうことができ、仮設住宅在住者間の交流も促進することができた。実践を通じ、学生の地域理解、復興支援などを促し、高齢者など学外の一般の方との触れ合いを通じてコミュニケーション能力の向上が見られた。

■ 地域の魅力を伝えるためのCM作成プロジェクト in 大津町 (写真)

尚綱大学・尚綱短期大学部

平成 28 年 8 月 20 日 (土)、8 月 25 日 (木) 実施

大津町 3 ヶ所に設置された熊本地震の被災者用仮設住宅の入居者に対し、ハンドケアマッサージやネイルケアの施術ボランティアを実施



ネイルケアの施術方法指導の様子



『熊本日日新聞』2016年8月26日朝刊

平成 28 年 10 月 22 日 (土)、11 月 12 日 (土) 実施

- ①オリエンテーション、PR や CM について、大津町の基本情報の把握
- ②大津町のリサーチ、ロケハン
- ③絵コンテ作成
- ④撮影
- ⑤編集作業
- ⑥まとめ



CM 作成の撮影指導の様子



CM 作成の絵コンテ作成指導の様子

尚綱大学文化言語学部
准教授 北口 英穂

安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト

行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証に向けた取り組み

プロジェクトメンバー

尚綱大学 尚綱子育て研究センター センター長・増淵千保美

連携機関 熊本県内の保育施設（中九州学園、中九州第二学園、清水ヶ丘保育園、認定こども園やまなみ、認定こども園双羽幼稚園、なぎさ保育園、三気の里など）

プロジェクトの概要・目的

- ①「安心して働きながら子育てできる環境づくり」の一環として、保育者の早期離職予防に関する実態調査（熊本県内保育施設約 800 ケ所を対象）の結果から、新任保育者に求められる知識・技術・態度、研修等について分析を行う。
- ②熊本県内で本学卒業生の早期離職が少なかった 10 施設に対するインタビュー調査の結果から、新任保育者への研修、相談体制や対応、新任保育者に必要な知識や技術について分析を行う。
- ③①②の分析結果を踏まえ、離職した当事者からの聴き取り調査を実施する。
- ④行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証に向けての取り組みをすすめていくために、「新任保育者の成長に向けた環境づくり」に関する講演会・セッションを開催する。

活動内容と成果・効果

- ①施設管理者側に対する調査の結果分析では、労働環境、保育内容、職員研修の体制が課題としてあげられ、熊本県内の保育施設の新任保育者育成の現状と課題を明らかにすることができた。
- ②離職の少ない保育施設に対するインタビューでは、各園で独自に行っている新任保育者の育成の取り組みや姿勢・心構えについての共通項目を把握することができ、今後の新任保育者育成にむけての課題が明らかになった。
- ③離職者インタビューでは、当事者が語る離職要因から、「勤務環境」「子どもへの対応を含む保育観の違い」「職場の人間関係」「相談体制」「施設内の新任保育者への研修体制」「新任保育者理解」「自信喪失」「就職活動の不十分さ（ミスマッチ）」「職場の意志決定の仕組み」など、今後の離職予防の課題を把握することができた。
- ④これらの成果を報告した講演会では、113 名（73 保育施設）の参加があり、本プロジェクトへの理解を広げることができた。

■ 安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト（写真）

尚綱大学・尚綱短期大学部

平成 29 年 3 月 19 日（日）開催

『新任保育者の成長に向けた環境づくり～認定こども園 せんりひじり幼稚園に学ぶ～』

1. 早期離職予防プロジェクトの取り組み 発表 横山博之
2. 【講演】「やりがいを感じる職場のあり方」

講師：安達かえで氏（認定こども園せんりひじり幼稚園副園長）

山中友里氏（ ” 保育教諭 10 年目）

浪岡ふじ恵氏（ ” 保育教諭 2 年目）



本プロジェクト研究の報告



講師：せんりひじりこども園の先生方



せんりひじりこども園副園長先生



100 名以上の参加がありました。



講演の後は活発な質問も頂きました。



セッションでは意見交換を行いました。

尚綱子育て研究センター
センター長 増淵 千保美

台湾向け熊本物産品マーケティング戦略に関する調査研究

若者視点を生かした熊本物産品のマーケティング戦略

プロジェクトメンバー

尚綱大学 文化言語学部 准教授・北口英穂

連携機関

プロジェクトの概要・目的

インバウンド観光が加速する日本において、熊本も例外ではなく対応が迫られているが、十分なものではないのが現状である。本プロジェクトでは、台湾向け物産品マーケティングで実績のある株式会社ジーリーメディアグループ（以下ジーリー）の協力のもと、熊本の魅力開発のために、熊本の観光に関する台湾向けマーケティング戦略について調査研究を行う。

具体的には、若者の視点を生かし、地元の大学生により熊本の観光ルートや物産品を開拓・選定し、マーケティング戦略を策定する。ジーリーの日本人スタッフはマーケティング戦略の策定支援、台湾人スタッフは現地目線での支援を行う。ジーリー社員が複数回熊本を訪問し、学生とのワークショップを行う。

活動内容と成果・効果

株式会社ジーリーメディアグループ（以下ジーリー）の協力の下で、吉田氏による台湾人向け観光ルートや物産品を開拓・選定するためのレクチャーを受け（H28年10月13日）、まずは学生目線でそれぞれの地元で調査を行った。その後、それぞれ収集した材料を持ち寄り、ジーリーの吉田氏、胡氏指導の下でワークショップを行った（H28年12月1日）。具体的な観光ルートや物産品について検討したものの、学生自身の熊本への理解が不足していることが浮き彫りとなった。その後、学生でグループを形成し、熊本を改めて見直すために、実際に中心部を中心に散策した（H29年2月27日）

以上の活動より、オリジナルの観光ルートを検討し、まずは日本語で記事を作成した（別紙参照）。現在実際にジーリーが運営している台湾人向け観光サイト「ラーチャーゴー」で掲載するか、ジーリーで内容を検討している。掲載後はその効果を図るべく、活動は継続予定である。

上述の活動内容に示した①から③の結果、学生達は、台湾人の観光行動などについての基本を学ぶと同時に、いざ熊本の何を台湾人にお勧めするかを考えた時、そもそも熊本の理解が不足していることに気が付くことができた。熊本の「外」から客観的に見ることで、学生自身が地元熊本の魅力を再発見するきっかけとなった。また、学生の視点による記事は通常の観光記事には無い魅力的な内容となっており、今後も継続的に実施し、追跡調査することで有力な誘客の一手段になることが期待できる。

ぶらり熊本

～地元尚綱大学の女子大生がおススメする熊本の穴場スポット～

熊本は熊本駅ではなく、熊本城を中心に発展を遂げしてきました。熊本の繁華街は熊本城の周辺に位置し、城下町を生かした町おこしも盛んにおこなわれています。今回は、定番の「上通・下通」ではなく、「古町・新町」に代表される熊本の古い町並みやレトロな雰囲気を感ぜられるルートについて、熊本の伝統校尚綱大学の女子大生が自ら回ったスポットを取り上げつつ、ご紹介いたします！

熊本の路面電車

熊本の中心部にはバスの他に路面電車が走っていて、とても便利！

今回は繁華街に近い「熊本市役所前」から乗車します。

熊本の路面電車には、A-Line（熊本駅行き）と B-Line（上熊本駅行き）の 2 線あります。

今回は B-Line に乗ります。

料金一律 170 円



①兵庫屋本店

創業 300 年余り、今でも郷土の皆様にあまられているお醤油・お味噌のお店。

パナマ運河開通記念博覧会に出品した際の表彰状や古い帳簿など貴重な資料も見られます！

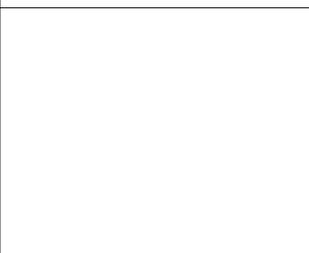


兵庫屋本店から南に歩いていくと、総菜屋さん、お餅屋さん、小さな神社などが現れます。更に行くとなりのスポット「むろや」です。

②むろや

江戸時代から続く老舗「むろや」は、日本の伝統行事 3 月 3 日の「ひな祭り」に欠かせない「ひな人形」、5 月 5 日の「端午の節句」に欠かせない「鯉のぼり」や「五月人形」を主に扱っています。小さいサイズのものもあり、お土産にもおススメです。

しかし、このお店はそれだけではありません。お店の中ほどまで進んでいくと…「駄菓子」「おもちゃ」が所狭しと並んでいる倉庫にたどり着きます。ここは駄菓子や子供玩具の間屋さんでもあり、昔懐かしい駄菓子や子供向けのオモチャが沢山あります。しかも間屋さんなので格安で大量に購入可能です。ばらまき系のお土産にもピッタリ！



むろやを後にし、東に歩くと路面電車と道路の交差点にぶつかります。これを南下すると老舗のパン屋さんがありますが、今回はその道向かいにあるこだわりの酒屋さんを紹介します。

木村屋酒店

店先にはお酒のラベルや瓶が飾られていて、外からでもお酒を取り扱っているお店だと分かります。熊本のお酒「米焼酎」をはじめ、日本全国のこだわりの日本酒、焼酎、ワインなどが店内所狭しと並んでいます。ふと地震は大丈夫だったのかと聞いてみると、聞かれることが多いそうで写真が飾ってありました。やはり多くの瓶が割れたようですね…。

また、お酒だけじゃなく、熊本産のミカンチップスや、通だけしか知らない熊本の醤油や味噌まで置いてあり、「特別な」お土産選びにもピッタリのお店です。



森からし蓮根

その隣には…熊本の郷土料理「からし蓮根」の老舗「森からし蓮根」があります。蓮根の穴にからしの効いた味噌をぎゅうぎゅうに詰め、衣をつけて揚げた料理です。日持ちもしますので、お土産にも。



少し来た道に戻り、「新町電停」を過ぎ、「洗馬橋」駅から南下しますが、その橋には大きな「狸像」があります。

洗馬橋

「あなたがたごさ 肥後さ 肥後どこさ 熊本さ
熊本どこさ 洗場さ 洗場山には理が居ってさ
それを狸師が鉄砲で撃ってさ
煮てさ 焼いてさ 食ってさ
それを木の葉でちよいとがぶせ」

「洗馬橋」は日本人なら誰でも知っているこの日本の童謡「あなたがたごさ」のゆかりの地です。撮影スポットとしていかがでしょうか。



狸像から南下すると木村屋さんで教えてもらったお店でランチです。

グルメ亭

オムライスを頼んだところ、超巨大なオムライスが！通常の2倍以上はありそうです。これで840円！食べ盛り
の若い男性でも食いしん坊さんでも満足できます。私たちは半分食べたら満腹になったので、お持ち帰りさせて
いただき、さらに満足しました。（日本では最近お持ち帰りできるお店は珍しいです）
日替わりランチが680円、スパゲッティナポリタンが650円、カツカレーが750円と全部1000円でお約りが来
ます。二人で1つでも十分かもしれません。



お腹を満たしたら…グルメ亭から南下し、小さな橋を渡ったらすぐに右折、この界限は古い町屋が残っており、
それを生かしたお店が立ち並び雰囲気のある場所です。オーガニックなお店、下駄屋、喫茶店などこだわりのあ
る店が多くありますが、今回は食後のデザートに相応しいお店を紹介します。

ソルトファーム

熊本の天草で取れる貴重な塩を扱う塩の専門店です。さまざまな塩に加えて、塩の石鹸、ギフトセットなど色々
なものが売られていますが、デザートに塩アイスがピッタリです。黒糖のアイスクリームに塩味がほどよく効い
てとてもアッサリと食べられます。店内でも食べられます！（1個315円）



豆腐屋、こんにやく屋などを見物しながら、終点の「呉服町」到着です。再び路面電車に乗って熊本市役所へ帰
ります。

熊本県中小企業魅力の認識拡散プロジェクト

中小企業に特化したインターンシップの実践とパネルディスカッションの開催

プロジェクトメンバー

尚綱大学 文化言語学部 教授・所吉彦

連携機関 熊本県中小企業診断協会

プロジェクトの概要・目的

地元就職率の向上のためには、大都市圏流出を抑えるべく、新たに県内に魅力ある就業先を創ることが必要である。その一方、県内には数多くの中小企業および創業間もないベンチャー企業も多く存在している。新たな就業先を創るより即効性のある、これらの就業先を多くの学生に魅力あるものとして認識してもらう環境を整え、県内就職率向上に貢献する。熊本県中小企業診断協会主催、熊本県、熊本市、商工会議所連合会、商工会連合会、くまもと産業支援財団等が後援する平成 28 年度新入社員研修講座に参加協力する企業等を中心に、余り例のない中小企業に特化したインターンシップ実践と中小企業魅力浸透のためのイベントを開催した。延べ 15 回の企業訪問の結果、報告書を取りまとめ、その要旨について 2016 年 11 月 19 日に成果発表を行った。

活動内容と成果・効果

本プロジェクトの具体的成果として次の 2 点とする。①地元中小企業のインターンシップに特化し、大企業と比較検討させ、その魅力を認識させることができた。②インターンシップ体験を個々の学生個人に留まらず、全員の成果発表、およびその後の質疑応答、中小企業の魅力を討議、振り返りの場を持ったイベントを開催し、地元中小企業の魅力を拡散、浸透させるきっかけをつくることができた。

具体的な成果発表会の場合には、菊陽町商工会事務局長、理事始め、近隣中小企業者、学生等数十名が参加した。内容は、学生が 6 企業団体にそれぞれ複数回訪問し、入社年度の浅い若手社員へのインタビュー調査を行い、地元中小企業の魅力、働き甲斐をまとめたものを報告した。大企業へインターンシップを行った学生とのミニ討論会も開催し、地元中小企業の魅力、働き甲斐を模索するきっかけの場を提供した。

平成 28 年 11 月 19 日（土）開催

『県内中小規模企画に就業する魅力とは？』 —学生による公開プチ討論会—



プチ討論会ちらし



学生による成果発表の様子



成果発表を聴講する様子

熊本学園大学就職支援プロジェクト

学生の就職活動を最大限に支援する。

プロジェクトメンバー

熊本学園大学 学術文化部

プロジェクトの概要・目的

本事業の主旨は、「地元志向の涵養と地元での定着・就業」であることから、本学の平成28年度の「COC+」対象事業の特別プロジェクトとして就職活動支援に重点を置いた活動を行うこととした。そこで、従来から実施していた会社説明会に加え、学生が就職活動を行う際に地元企業がその選択肢となるよう情報提供の仕方にも配慮した。具体的には、学生が地元企業の情報を十分把握していない面も見受けられるため、情報提供の機会として地元企業から講師として招く「ゲスト講義」や採用関係者を招いた講演会・セミナー等を実施するとともに、更に主な地元企業が参加する企業セミナーを開催した。

また、最近の学生の就職に関する意思決定には保護者の意見が強く反映される傾向があるため、保護者に対する働きかけや支援の必要性を考慮し、保護者を対象とする就職セミナーを就職カウンセラーであり保護者として同じ経験を持った専門家を招いて開催することとした。

活動内容と成果・効果

県内の各業界の現状を把握するため、昨年に引き続き熊本県工業連合会の協力の下に地元企業の社長、役員等を講師に迎えて計7社・延8回に亘り「ゲスト講義」を実施した。講義では、直接経営者からの声を聴くことで学生にとっては大きな刺激となり、今後の就職活動や企業情報の収集に役立ったと思われる。

また、学生・保護者を対象とした就活準備セミナーに関しては、他大学の就職関連部署にも学生への周知を依頼し、当日は他大学からの参加者もあった。

同セミナーでは、保護者向けの講演会と学生向けの企業セミナーに分けて実施し、講演会では最近の企業の採用動向や保護者としての学生への係わり方等に関する内容であった。

尚、保護者には同時開催の企業セミナー会場へも足を運んで頂くことで、実際に学生が取り組んでいる就職活動の様子が窺えるような企画とした。実施後、参加した保護者の感想として、学生の就職活動の様子が体感できたということで概ね好評であった。



就活準備セミナー（保護者向けセミナー）の様子（2月開催）



合同会社説明会の様子（3月開催）

ココプロジェクト (COC+PROJECT)

地元企業の魅力発見！シンポジウム

プロジェクトメンバー

東海大学 経営学部 教授 (就職委員長)・小野 豊和 東海大学キャリア就職センター

連携機関

プロジェクトの概要・目的

【概要】

- ◎東海大学熊本キャンパス学生の就職先として熊本地元企業を紹介、その魅力から熊本県内就職率アップを目指す。
- ◎シンポジウムを通じて、地（知）の拠点の大学として地元企業の活性化に寄与・貢献する人材を育てる。
- ◎シンポジウム形式で1回3~6社の人事採用担当+先輩社員を呼び学部別に4回開催する。
- ◎開催時期：11月以降4回に分けて開催。
- ◎対象：熊本キャンパスの経営学部・基盤工学部・農学部（熊本地震以降同じキャンパスとなる）の3年次生を中心に1、2年生も可とする（200~400人）
- ◎招聘候補企業は、不動産、金融、証券、生保、自動車、エネルギー、通販、放送、精密機械、機械加工、金型、プラスチック加工、半導体、農業、乳業、製粉業など

【目的】

- ◎学生に熊本地元企業の認知度を高め、地元就職しようという意識高揚を図り地元就職希望者アップを目指す。
- ◎地（知）の拠点としての強みを生かして、卒業生の地元就職率アップを目指す。
- ◎全国に展開する東海大学の特徴を活かしJターン、Iターン、Uターン就職先としての熊本を印象付ける。
- ◎地元企業側に東海大学学生の魅力に直接触れてもらい本番（会社説明会）前に知り合いとなる。
- ◎入学・卒業・就職の太い流れを構築する（卒業生、後援会組織の活用）。地元就職率の向上のためには、大都市圏流出を抑えるべく、新たに県内に魅力ある就業先を創ることが必要である。その一方、県内には数多くの中小企業および創業間もないベンチャー企業も多く存在している。新たな就業先を創るより即効性のある、これらの就業先を多くの学生に魅力あるものとして認識してもらう環境を整え、県内就職率向上に貢献する。熊本県中小企業診断協会主催、熊本県、熊本市、商工会議所連合会、商工会連合会、くまもと産業支援財団等が後援する平成28年度新入社員研修講座に参加協力する企業等を中心に、余り例のない中小企業に特化したインターンシップ実践と中小企業魅力浸透のためのイベントを開催した。延べ15回の企業訪問の結果、報告書を取りまとめ、その要旨について2016年11月19日に成果発表を行った。

活動内容と成果・効果

- ・『業界研究 地元企業発見 就活シンポジウム』と銘打って経営学部・基盤工学部・農学部学生を対象に4回開催。就活を控えた3年生のほぼ全員に当たる約450人の学生が参加。「会社概要の説明」+「先輩社員による働く現場の話」を聞き、その後のフリーディスカッションを通じて合同企業説明会では聞き難い細部にわたる質疑応答の機会を実現することができた。
- ・就活解禁の3月中旬に開催した学内合同企業説明会ではシンポジウム参加企業のブースに一番に行く学生もあり、本企画の効果を確認できた。
- ・運営方法としては1回当たり3～6社の人事採用担当+先輩社員を招聘、学部別を実施。特に農学部は就活出陣式に併せて実施した。
- ・招聘企業は(株)えがお、(有)木之内農園、(株)熊本放送、(株)KIS、(株)コスギ不動産、日本生命(相)、オムロン阿蘇(株)、小森プラスチック(株)、金剛(株)、野田市電子(株)、平田機工(株)、(株)興農社、熊本乳業(株)、熊本製粉(株)、熊本酸素(株)、(株)エムロード、熊本トヨタ自動車(株)の17社
- ・シンポジウムの模様を熊本キャンパスのホームページに掲載し、本COC+助成金を活用した活動を全学及び一般に知らせた。さらに3月下旬に開催された全学就職委員長会議で熊本での成功事例として報告した。

【添付資料】

- ①ホームページ掲載内容（経営学部）
- ②ホームページ掲載内容（経営学部・基盤工学部）
- ③参加学生の感想（経営学部）
- ④参加学生の感想（基盤工学部）
- ⑤4回の案内ポスター

『熊本キャンパスで「業界研究 地元企業発見～就活推進シンポジウム」を開催しました』

【経営学部ホームページに 2016年12月08日掲載】

熊本キャンパスで11月29日と12月5日に、熊本県内の企業から人事担当者や本学卒業生を招いて「業界研究 地元企業発見～就活推進シンポジウム」を開催しました。本学では昨年度に熊本県と就職支援に関する協定を締結。また、文部科学省「平成27年度 大学教育再生戦略推進費 地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に採択された静岡大学と熊本大学による取り組みに事業協働機関として参画しており、熊本地区では、熊本大による「オール熊本」で取り組む熊本産業創生と雇用創出のための教育プログラムに参加しています。今回のシンポジウムは、本キャンパスにある経営学部と基盤工学部の就職委員会が、COC+による「地元企業への就職率10%増の取り組み」に応募した企画案がトップで承認され、助成金を得て実施したものです。

29日は経営学部の3年次生116名が出席し、(株)えがお、(有)木之内農園、(株)熊本放送、(株)KIS、(株)コスギ不動産、日本生命(相)熊本支社の経営者や採用担当者が登壇。5日は基盤工学部3年次生を中心に出席を呼びかけ、2年次生や経営学部生も含む53名が、オムロン阿蘇(株)、(株)KIS、小森プラスチック(株)、金剛(株)、野田市電子(株)、平田機工(株)の人事担当者や現場のエンジニアらの言葉に熱心に耳を傾けました。両日も経営学部就職委員長の小野豊和教授の司会で、まず参加企業がそれぞれ5分間で企業について紹介。続いて東海大生に期待することや先輩としての一言、学生へのメッセージが寄せられました。最後には、就職活動の本格的なスタートを目前にした3年次生から活発に質問があり、企業側から励ましの言葉も送られました。

実際の就職の現場を知る担当者や先輩からの言葉を、目を輝かせて聞いていた学生たちは、「先輩による実際の仕事の現場の話が聞けて、新鮮で有意義でした。熊本地区での就職を真剣に考える機会となりました」「企業の特徴が聞けてとてもよかった。どのような仕事をしていた、他の企業とどのようにつながっているのか、会社がどのような人材を必要だと考えているかなど、社会に出るために必要なことが聞けました」「インターンシップや就活を通じて、どのように行動し、考え、企業を見るべきかなど、自分が一生働く会社を選ばなければならないので、そのための勉強になりました」「仕事をするといいことはただ働くのではなく、誰かの役に立つことではないかと思いました。この機会を生かして、仕事について深く考えたい」と口々に感想を語っていました。

なお、就職委員会では1月に各学部で行う就職出陣式で、地元企業に就職した本学卒業生によるシンポジウム開催を検討しています。小野教授は、「人事担当者による明解なプレゼンは、学生にとって面接時の自己PRの参考にもなる見事なものでした。学生たちには、先輩から臨場感ある貴重なアドバイスを、今後の活動に生かしてもらいたい」と語っています。



実施したシンポジウム、活発な質疑応答が行われた

経営学部と基盤工学部の3年次生を対象に就職出陣式を開催しました【2017年01月26日掲載】



熊本キャンパスの経営学部と基盤工学部では、3年次生と大学院の1年次生を対象とした就職出陣式を1月17日に開催しました。企業の採用情報公開が3月から始まることから、本格的に活動の始まる直前のこの時期に、学生たちの就職に向けた意欲を高めると同時に活動に臨む心構えを知ってもらおうと、両学部と熊本教学課キャリア就職担当が共同で実施したものです。

当日はリクルートスーツに身を包んだ学生ら約230名が出席。まず、経営学部就職委員長の小野豊和教授が登壇し、熊本県内の企業から人事担当者や本学卒業生を招いて行っている「業界研究 地元企業発見～就活推進シンポジウム」といったキャリア支援の取り組みについて紹介するとともに、「長い人生のうちでも数カ月間ですが、頑張るのみです。期末試験も迫る中ですが、ぜひ乗り切ってください」と激励しました。続いて基盤工学部就職委員長の藤本邦昭教授が、「就職活動ではなにより自分自身のよさをアピールすることが大切です。これから半年から1年間にか

けて、自分を見つめ直し、企業の採用担当者に魅力が伝わるよう努力し、それぞれに合った内定先を獲得してください」と語りかけました。その後、小野教授の音頭で学生たちは拳を突き上げながら「頑張ろう!」と三唱。来る就職活動開始に向けて気持ちを盛り上げました。

また、同日は株式会社マイナビ就職情報事業企画広報統括部九州ブロックから担当者を招いて、「就活直前対策講座」も実施。リクルートスーツの着こなし方から各種企業説明会への予約方法をはじめ、今後のスケジュール確認や自己分析、企業研究の方法、筆記試験対策の重要性などについて話がありました。熱心に聞き入った学生たちからは、「会社を選ぶときに大企業に偏らないことの話が印象的だった」「何をすべきか、やっておいたほうがいかに把握できた。受講してよかった!」「大変だけれど部活との両立は可能だということもわかり安心した」と口々に意欲を語っていました。

終了後には学内合同企業説明会の資料が配布されたほか、研究室ごとに個人面談も実施。本格化する就職活動への備えをはじめています

資料③ 業界研究「地元企業発見～就活推進シンポジウム(11/29分)学生の感想

学生番号	感想内容(基本的にそのまま記載、一部漢字に修正)
1110	今日の業界研究、地元企業ということで大きくはないが地元根付いた企業が多くて、そういつたところで働くのも良いなと感じた。それぞれの企業、それぞれの人が自分仕事にやりがいや魅力を伝えてくれていて楽しい面を多く知ることができたと感じる。
1112	頭が柔らかい人、堅い人がわかった。考えている人の顔は全然違う。
2110	様々な業種の話が聞けてためになった。この話を参考の一つにして就活できれいと思う。
2115 2125	それぞれ企業の特色が聞けてとても良かった。どのような仕事をしていて、他の企業とどのようなつながりがあるか、交流をとっているか、会社があるような人材が必要かなど就活で大事な事が聞けたのも良かった。これからインターン、就活とどのように行動・考え方・企業の見方など自分が一生働いて行ける会社を選ばなければならぬので業界研究に参加して勉強になりました。
2217	様々なジャンルから話を聞いて、他(多?)方面で求めている人物だったりと卒業生の話を聞いていろいろ求めている物があるんだなと思った。
1221	今日のシンポジウムを受けて感じたものは6社全てに言える事だが、仕事として扱っている対象が人にしても、物にしても、非常に強い敬意を持っていると感じた。仕事をするという事はただ働くということではなく誰かの役に立つことではないかと思った。今回の機会を生かして仕事というものを考えていきたい。
1310	就職先として考えていない業界の話でしたが聞いていて働いてみたいと思うような事も感じたので、今後は考えていなかった業界でも調べていきたいと思えます。
1332	今後こういう業界研究会があれば他の地域の会社も呼んでもらえるなと思います。自分が就職しないのですが、いろんな話を聞いていろいろ勉強できました。(留学生)
2127	今回の業界研究で様々な話を聞き沢山のことを知ることができた。これから就職活動が始まるため、行動をし、たくさん話を聞きしっかりと自分に合った勉強をしっかりとできるように取り組んでいきたいと改めて感じました。企業研究を知って面接で話すポイントになる。行動は早め早めに!新しい物をつくるが発展させるため! 社会は未来の自分たちが作る!自分はそのように役に立つのか! どのようなお客様につながっていくかを考える。
2210	様々な業種の話を聞き自分もどの分野に行きたいかを考え始めた。企業の

	ために自分は何ができるのか? その企業はどういったお客様を…
2223	就職活動にとても役に立っていきそうです。みなさんの話がわかりやすく社風が浮かびました。もう時間が限られています。しっかりと肝に銘じていこうと思った。
2319	人事を行っている人達のプレゼン能力を体験し就職活動の自分のアピール、プレゼンの時の良い例としてためになった。何が自分の方向性か考えた気がする。
1106	本日の業界研究に参加していろいろ勉強になりました(留学生)
1113	今日の時間で感じたことは、自分から手をあげることがこれほど難しいとは思わなかったです。もっと自分らしさを出すために練習が必要と思いました。
1119	短い時間でためになるお話が聞けて良かったと思った。これからのことをしっかりと考えながら行きたいと思った。
1210	企業の方の話を聞いてあと数か月で始まる就職活動で自分に合ったところを探し、その企業のことを調べることににより仕事に就いた時にやりがいを感じる事ができたらということに魅力を感じました。
1218	6社の説明やOBさんの経験聞いてとても参考になりました。最近では就職関係のセミナーが多く現在在席をもらっている人がリクナビ、マイナビの方などいろいろな方からお話を聞かせてもらいましたが、現職の話を聞けることが無かったので貴重でした。
1223	地元就職と自分興味はある。しかし、もし選ぶならば中国企業でもいいです。(留学生)
1305	今日は様々な会社の説明があった。まだ自分はやりたい仕事してみたい仕事が決まっていなくてとても参考に勉強になった。職種にもいろいろあり気になる仕事を見つけやすくなったと思う。
1314	面接のことなど詳しく教えてくださったり、社会の厳しさを知れてよかったです。
1319	熊本の様々な業種の会社の人からお話を聞くことができ良かったです。面接で重要な事など参考になりました。
2109	先輩方の話を聞いてみると、自分が興味なかった分野、自分が学んできた分野とは違う職種に就いておられる方も多くいらっしゃったので驚いた。また今後就職活動をする際、その会社で働く自分の姿を考えて行動していきたいと感じた。
2128	各会社によって5分間決められた時間の中で内容をしっかりとまとめられていてさすがだなと思った。他の会社が話している時も興味を持ち聞いて

	いて、聞く態度や話す態度もしっかりしていた。
2203	いろんな業界の話を聞いて面接の時の姿勢や声の大きさなどが一番印象に残ることはわかったし、どの会社も、自分が面接を受ける際は、受ける会社の仕事内容を最低限覚えていこうと思えました。そして、できれば人生設計をして、業界、自分がしたい仕事とリンクさせて決めようと思えます。
2302	木之内農園、コスギ不動産が気になりました。
2317	今日の話を聞いて就活を早く、そしてなるべく沢山しようと感じた。自分達の大学の中だけでも人数がかなりいて、さらに他の良い大学、熊本大学や県立大学といった自分達の大学より偏差値が高い所などもあるので、そういった所に負けないような自己PRなどを準備したいと思った。一つ一つの会社を自分の手で見て選んで行こうと思った。
1125	いろいろな業界のはなしが聞けて良かった。
1208	今日の授業を通して、日本生命の方の話を聞いて、いろんな説明会に行くことは、幅広い視野でも見れるから大切だと思えました。だから積極的に説明会に行こうと思えました。
1216	いろいろな職種の話が聞けて参考になりました。就職活動に向けて準備していきたいと思えます。
1308	今回、各企業さんのお話を聞かせていただいて思ったことは、どの企業さんも生徒からのどんな質問が来ても、他の生徒にもわかりやすいように説明してくださっていて、対応力が自分と比べてレベルが違うなと思えました。自分も対応力のある人を目標に今から勉強していきたいと思えます。
1312	就活をするに当たっていくつかのイメージをつかめたんじゃないかと思う。自分は地元の熊本で就職をしようと考えているので、今日のこの機会はとてもためになった。
2108	いろいろな話が基本的にフレンドリーに聞けてよかった。(留学生)
2111	それぞれの企業の概要と就活の際の心構えであったり、仕事のやりがい、魅力などを知ることができました。現状としては将来の事は漠然としているので、興味を持った企業や、それ以外の面でも調べていこうかなと思えた時間でした。また、それぞれの企業への固定観念なども解消され、より深く知れたことで、今日お起こしただけの企業への興味が薄いたので自分のスキルから考える前に情報を収集することから始めたいと思えました。
2114	まず社会人の姿を見て、今の自分とは全く違って自分のあのような大人になりたいと思えました。また、会社によって働く内容や、人数などが違う

	ため自分が会社を選ぶ際には、イメージや周りの意見などに流されず自ら情報を集めて見極めていくことが大切と思った。
2122	話しを聞くと沢山受けるだけではだめなんだと思った。自分がしたい仕事をしっかりと調べてそこを受けた方がいいと思った。
2205	社会人の人たちは話し方がとても上手です。ましてや人事の方々の話で見本となるような話し方で、就活の際には話し方、伝え方を気をつけなければなりません。身につけなければならぬと思いました。このようなセミナーに参加した時には就活を頑張ろうと思うので、こういう機会に学んでおこうと思います。
2207 2209	いろいろな企業のプレゼンを見て面白い企業があるなと思いました。プレゼンされている企業の方々の話しを聞くと、それぞれ接点のないところから仕事をされている方がいていろいろな選択肢が増えたと少し思いました。そろそろ自分がしたい仕事を見つけて就職活動をしていきたいと思えます。
2307	私の一番の印象としては、人事の皆さんはハキハキして話ができていることや、アドリブや話の構成がとても分かりやすいと思えました。そして私は将来営業職に就きたいと考えています。営業においては沢山の人に自分を知らせてもらうことが重要ということで、人間性や人に好かれる人間になることが今以上に必要と思えました。今日自分の知らなかった企業や職種の話が聞けたことは今後の就職活動の参考にしようと思えます。自分は保険会社に興味があり、日本生命の話を聞いて良かったです。今以上に興味が高まりました。
2309	今日の就活シンポジウムでの話を聞いて就職について考える機会になった。熊本県内でも知らなかった企業や、どういったことをしているのかが分からない部分もあったので、その部分を知れて良かった。私はそういつたところに就職したいか、どんな仕事をしたいのかまだ決めることができないので、こういった機会に話をしっかりと聞いて様々な企業を知ることは今後就職していく上で役に立つと感じた。まだどんな企業に就職したいかはわからないが、こういった機会に話を聞いて、自分で他の企業の事を調べたりして、やりたい事を決めようと思った。
2330	今回の就職シンポジウムでは6社から説明をいただいた。東海大学をはじめ他の大学から就職された先輩方の話を聞くことで、来年から始まる就職活動に対しての心構えや、どのような基準で企業を選んでいけばいいかということが分かったので良い機会になったと感じた。今回各社の事業内容を少しでも具体的に知ることができた。今回のような就活についての研究会やセミナーなどがあれば積極的に参加する必要があると感じた。

	いよいよ来年から就職活動が始まるので今のうちから準備しておこうと思った。	
1215	就活がこれから始まるに当たってこのスタートとなるのは、会社とはどういふものなのか、働くとはどういふものなのかを知ることだと思うので、今日は少しでも知ることができようと思った。	
1228	熊本企業の皆さんがたくさん来ていただいて、普段分らないことなどを聞いて興味を引く話もありました。就活も、もう少しで本格的に始まるに当たって心配もある中ではありますが、このような企業の声が開ける機会があれば説明会等に積極的に参加できたらと思います。	
2101	実際に企業の方の話や面接のことのできる機会というのは多くないので貴重な経験になりました。その企業に勤めている方々の話や言うのは実体験も込みの話なので、もっとこういふ話を聞ける場を率先して自分から行くべきだと思いました。	
2103	今回いくつかの企業の方に来ていただき詳しく企業の話や、やはり分からない所など直接聞いた分かった事は良かったと思い、年明けから説明会など積極的に参加していきたいです。	
2120	就職について考える良いきっかけになった	
2206	様々な会社の話を聞いてそれぞれの会社について少しは分かることができた。自分がどこで働きたいかとか具体的に決めないと、これから沢山の会社の話を聞くようにしたい。そこで自分が働きたいと思える会社を見つけてしっかりと職が決まるようにしたい。	
2220	日本生命さんの話を聞いて、保険の事は全然わからなかったと聞いた時は入社するに当たってそういう人もいるのだと思いました。KISは少し聞いたことはあったが具体的には知らなかったがインターネット系ということを開けてすぐ興味が出た。初任給なども知れて良い経験になった。面接の時などの態度、対応を聞いて勉強になった。就活に活かしたい。	
2225	多種多様な会社があって面白いなと思いました。自分の家の近くにコスギ不動産があり身近に感じました。自分自身、営業の仕事をしてみたいので日本生命の人が言っていた営業成績関係なく固定でもらえると思って安心して働けると思いました。	
1115	今日の地元企業発見〜就活シンポジウムの説明会を受けて熊本企業について今までより詳しく知ることができ、今から自分たちのする事が少しは分かった気がする。最後に自分たちが後悔しないようにしっかりと取り組みたいと思った。	
1122	今日は6社のプレゼンを開いたけれど6社ともそれぞれ違う分野の話だったのでとても良かったと思う。違う分野でも共通している部分も探そう	

	と思った結果、男女平等の会社が多いのがわかった。学歴など関係なく行けるのは熊本放送さんだったので興味が湧いた。面接の際は入社したイメージで質問すればいいという話も良かった。	
1128	感想なし	
1225	いろんな企業の話や、大学卒の学部出身とか聞いていると大学時代の学部と今の仕事でも全然違った形で話しているなど思った。自分が好きな感じの所に入れたら一番いいと思った。	
1303	感想なし	
1309	企業の話や面接を聞いて良かった。来店は4年生で就活があるのでいろいろな企業を知ることができ少しは幅が広がると思うので、その点でもプレゼンは今後必要になるので勉強になりました。こういう話を聞くことが多くなると自分がそういう立場、社会人になるのかということが実感できています。そろそろ自分の中でいきたいと思えることを決めたいと思います。	
1321	沢山の企業の人たちの話を聞いて楽しかったです。また一つ一つの企業が次のステップを考えているんだなと思いました。	
2226	一口に営業といっても幅広く様々な業種があるなと実感した。何か営業といえど外回り、接待等が真っ先に思い浮かぶけど、それだけではなく深い業務であると思う。人と付き合う事が嫌いな私には縁が無いものと思っていたが、興味が湧いた。学生に求めるものが具体的に今分らなかったがこれから役に立つと思う。	
2303	様々な会社の話を聞いて良かった。今回見た会社の皆さんはみんな良い人ばかりで、働いてみたいという気持ちが少し湧いた。各会社、多種多様な良い所、悪い所もあると思うので就職活動の際などにはしっかりと調べてその会社を知ることが大事だなと感じた。	
2312	地元熊本で多種多様な企業について知れた。多くの業界の中から自分が行きたい、行くべきものをしっかり見極め、早く丁寧になければならないと思った。現役の社会人の方から直接話やアドバイスを聞いて良かった。	
2315	6社卒業生の話を聞いて、それぞれがどのような会社かよく分かりました。なかなか無い機会だったので聞いて良かった。	
2327	様々な企業の方の話や、社会(会社?)の風土や考え方を感ずることができた。自分に合う企業を見つけようという思いと共に業に就職は出来ないということを改めて感じた。	
1103	今回の業界研究で6社の話を聞いて、普段聞くことができないような詳しいことや就職するにあたっての大事なポイントなど知ることができたと思う。ホームページだけの情報と直接企業の方から聞くことでは全然違うし、直接だからわかる事もたくさんあったと思うので、これから就職活動	

	をしていく上で参考にしていきたいと思った。	
1108	熊本の会社にあまり興味がなかったけど、少しだけ興味が引かれるような話が多かった。エントリーシートがやっぱり大事なんだと思った。	
1114	本日は大変貴重な話を聞くことができた。あともう少しすれば自分たちも前で話をしてくれた人たちみたいになるのかなと思うと、今できることを少しずつやらなければいけないと思った。だけど不思議と不安は全くない。自分ならやれるという強い気持ちを持っていきたい。	
1213	今日の6社の全然違う職種のお話を聞きこういふ機会がないと業界研究しなかったらどう思った職種もあったので、なるべく早めに興味のある職種をしぼり、その企業について企業研究をすることが面接でも強みになることだったので、しっかりとやらなければいけないと思いました。	
2323	今日の説明を聞いて様々な業種が開けて良かった。自分が興味のある職種だけでなく興味のない職種も幅広く見ていこうと思った。今後の就活のために自己分析、業界研究は怠らないものだと改めて感じた。	
1102	会社の名前とイメージの違いの仕事がたくさんあって各会社はしっかりと調べる必要があると思いました。調べてみないと分からないことが多いと思うのでしっかりと調べたいと思いました。	
1204	各業界の仕事内容や採用基準、卒業生の話を詳しく聞くことができ改めて実感できるものもあり、よくCMで流れているような企業等だったのでこれから注意深く見ながら、どのような業界にしようか考えようと思いました。	
1214	様々な会社の様々な特徴があり自分に合った風土や組織を選ぶことの大切さを知った。それは逆に企業側からも会社に合った人選ぶという事なので、どのような会社かを調べる事が大切。	
1316	こういった話が聞ける機会をいただきたいに本当にありがたいです。実際にその企業で働いていって先輩の方の話も聞いて自分と同じ大学出身などということもあり本当に刺激をもらいました。	
2113	自分が行きたい業界は決まっているが様々な業界の話や聞いている幅広い知識を身に付けたいと思った。実際に働いている社会人の話を聞くこと納得することが多くてためになった。エントリーシートや面接の話が出たが、人事の人の印象や思っていることが聞けて面白かった。	
2121	様々な企業があってその中日本生命さんにはすごく興味を持つ事ができた。たとえ保険の事を何も知らなくても充実した1日を送れると言われていたので仕事をすることは大変かもしれないけれど1日1日を充実させるような企業を選んでいきたいと思った。	
2124	今日は6つの企業さんのお話を聞かせていただき「就職」というものにつ	

	いてより詳しく考えたり、掘り下げることができ、今後自分が直面していく場面についてとても良く勉強させていただくことができました。自分としては多分「農業」に興味があり、木之内農園(有)代表取締役社長の村上さん、井野千晶さんのお話がとても勉強になりました。今後の自分の進路を決めていく上でとても重要な話をよいタイミングで聞くことができても良かったです。今後には活かしていきたいと思います。	
2208	業界研究「地元企業発見〜就活シンポジウム」に出席しました。参加企業は えがお、木之内農園、熊本放送、コスギ不動産、日本生命、KISなどの企業に来ていただきました。自分はインターンシップでコスギ不動産にお世話になったのでどこか懐かしい感じでした。今回の就活シンポジウムに参加したことはとても良い機会となりました。様々な企業の話や聞いて自分がどういふ職業が合うか見つけていけたらいいなと思いました。	
2227	自分は公務員希望だが様々な職種の特徴やどういふ人材を必要としているかなどを聞くことができた。社会人の方の話やきくことはとても貴重な経験なのでとても良かった。	
2314	今日の企業の話はリアルな話だから自分の考えを変えてくれる言葉が沢山あった。これから気を引き締めてやっていかなければいけないと思った。	
2316	様々な業種の仕事があり自分が一番合う仕事をみつけるべきだと思いました。どれにしても自分自身が大事だと思いました。	
2321	様々な業界があることが分かった。就職は自分の人生を変えていくような進路選択になってくると思うので、しっかりと考えたいと思いました。今のうちに自分は何をしたいのか考え直し、それに見合うような業界、職種に就けるように頑張りたいと思いました。	
2326	これから就活していく中でいい話を聞くことができた。	
1129	基調な話を聞いて、とても参考になりました。自分にプラスになるように今後しっかりと考えをまとめる。	
1211	いろいろな企業の貴重な話を聞く事ができました。入社3年目程度で店長などの役職を与えられる人もいて自分の頑張りが次第だと感じました。初めて聞いた名前の企業があったが面白い話を聞くことができました。まだまだ自分の知らない企業で興味が湧く所がいっぱいあると思うしたくさん調べていきたい。	
1217	いろいろなジャンルの人事の方の話は面白かった。自分としては、放送は面白そうだなと思った。	
1219	1つ1つの企業がそれぞれ異なる理念や思想があり就活の際にはそれらをしっかりと考える必要があると思った。就職する際に何を基準にその企業	

	を選んだのかを知りたいと思った。	
1304	どの会社もお客様のことを考えている会社ばかりだなと感じました。そして、この企業説明を聞いて自分の行きたい会社や、やりたいことや、興味ある事を見つけて自分で調べることが大切だと思います。また、いろいろな会社の事を知って企業の話も聞いたり、知っていくことが良いと思いました。人生設計を詳しく立てられるようになりました。	
1306	まだどんな業界に行きたいのか決まっていな状況なので複数の企業の話をもとめて聞くことができ良かった。	
1317	6社の説明を聞き、どのくらい売り上げを上げているかや、何を主に会社を運営しているかを知り興味を持った。KISさんや他は知っていたが、KISさんがITの関係のある仕事をしていると聞くことを聞き新たな発見ができ、真剣に話を聞いたので、会社の社風がとても良さそうとお客と向き合っていることが一番強い印象があり、飽きない仕事でいいと思います。今のところコソギ不動産を受けてみたいと考えるようになりました。	
1323	今日の企業の人たちの話を聞いて人の前で話すのが上手だと思った。聞いている私にはとても記憶に残るお話でした。私は個人的に就職する種類が違いますがコソギ不動産のPRを見たらとても楽しそうに仕事ができそうだと思います。	
1324	企業の生の声を聞いて良かったです。こういった機会を多く設けていただけたらありがたいです。ただ希望者だけが参加できる形にした方が良いと思います。全員参加にすると気の無い者もいるわけですから企業側も良い気持ちはしないと思うのでやる気のある希望者のみが参加する形にして欲しいです。	
2102	職種の違う5社(6社?)なので当然と言えば当然ですが、社風や社員構成といった会社での特色が十社十色で今日は少しでもそれを各会社で働く先輩の話から知ることができた。熊本のような地方の企業は決して大きくはないが大企業に負けにくい元気と勢いがあり地方創生もあって、若い人たちが頑張っているの、それに続けるようなやりがいのある企業が多そうだなと感じました。スポーツメーカーのこういう場も作ってほしいです。	
2112	正直どんな仕事内容なのかわからないところの話を聞いて良かったです。就職活動をする上でわからないことばかりだと改めて思いました。	
2123	様々な企業がありとてもいい話になりました。各企業いろいろな特徴があり、東海大学出身もいてこういう分野に進んだ人もいて分かりました。いろいろなゼミナーに参加して分野を決めていきたいです。	

2129	各会社の自己PRは、自分たちが未来検定をプレゼン発表する上でとても参考になった。熊本放送さんは今話題の話しをしたり、私たちの興味を引く発表をしていたので凄いなと思った。	
2204	今日の就職推進シンポジウムを聞いていると熊本が地元ではないが、ここ東海大学九州の出身の人たちが多く知っている企業などに入っていることに対して就活を頑張れば行きたいとこに行けると感じた。就活はそう簡単ではないが自分が行きたいとこに行けるような気がした。	
2211	今回企業の方の話を直接聞くことができその企業にどのような人が就職しているのか、どのような人を求めている、どのような仕事をしているのか少しは分かったかなと思いました。僕は人の力になれる職業に就職したいと思っているので、今からちゃんと将来を見つめて考えて行きたいと思えます。	
2216	今、全く興味がない企業でも、合同企業説明会などで多くの業種の企業の説明を聞こうと思いました。私は金融業界の仕事に就きたいと考えているが、企業研究を進める一方、まだ業界を絞り過ぎずに就職活動を進めたいと思いました。	
2222	私は地元である熊本で就職したいと思っているので今日の就活シンポジウムは熊本企業のことをたくさん知れたのでとても為になりました。自分の全く知らない企業や業種の話が聞けたので今まで興味のなかった分野も業界研究してみようと思いました。また、そろそろ就活も本格的になってくるのでしっかりと早めに準備しようと思いました。	
2308	いろいろな業種の企業があり全く興味が無い業種もあったけど、今日話を聞いてみて興味が出てくることもありました。それぞれの企業の内容が分かったので、もう少し詳しく調べてみようと思いました。私は県外に就職することを考えていたけれど、今日のシンポジウムに参加して県内就職も良いかなと考えられるようになりました。今日の就活シンポジウムに参加できて良かったです。	
2322	営業活動をしている人の話が多く、話し方が上手だなという印象が強かったです。会社の興味というよりはプレゼンなどの話し方がすごく勉強になりました。人と関わる仕事をしている人はコミュニケーションをとることが大前提なので、自分も会話が上手になりたいと思いました。私自身、人前で話すことが苦手なので経験していきたいです。	
1118	企業が求めている所の違いがあって良い勉強になりました。職を選ぶ時は自分の長所を生かしたものが良いと思った。自分の知らない仕事が多いから多くの事を知らうとすることが大事。	
1201	福岡出身で熊本企業に興味は今までなく、全く知らなかったけど、木之	

	内農園はじめ魅力的な企業ばかりでした。年明ければすぐ就職活動がはじまるのでプレ合同説明会のようでもいい経験になった。	
1203	就職の話を聞く度に考えさせられる。みなさん仕事を楽しそうだなと思った。	
1212	各企業のプレゼンを聞いてそれぞれの特色があり、自分が職を選ぶ幅も広がった。いろいろな話を聞くことでこれから自分のためになると思ったから違うジャンルの職種を聞いて良かった。先輩方の話も職を決めたきっかけややりがいなどを聞いて自分もそういうことを基準にしたいと思った。	
1227	今日の業界研究ゼミナーを受けて自分の就職先を福岡だけにしようと思ったけど、熊本にある会社にも行きたいと思いました。世の中にはいろいろな企業があるということがわかり、会社自体が楽しくない所と想ったけど、とても楽しそうでやりがいのある企業さんたちだと思いました。	
1302	年齢、性別の違う6社の企業の方の話を聞いての感想。就職にとても役に立つ話を聞いてとても良かったです。このような企業の方々話を聞くことはあまりできない貴重な事なのでとてもいい勉強ができて良かったです。質問の時、面接の時笑いで受けるのがいいですか。について自分と同じ事が気になっていたので良かったです。	
1313	いろいろな業種の方々のお話が聞けてより就活の意識が高まりました。自分が何がしたいかを明確にして自分に合った仕事を見つけたいと思います。みなさんの会社の雰囲気も少し感じ取れました。どこの会社も活気がある人、元気ある人を求めており自分も元気の良さをアピールしていきたいと思いました。	
1322	こういった機会があると来年から自分が就職活動が始まると思うと大学3年間とても早く感じました。来年から自分が活動していけるか不安が出てきました。先輩の活動の話も聞いたりしたけれどとてもしんどいなど、とてもつかれている所の話を多く聞いたりして、とても過酷な事だと思いました。自分の将来につながる人生であるので危機感をもって行くべきだと思いました。熊本も探したいのでこういった地元の企業の大切で貴重な話を聞いてありがとうございます。とても勉強になりました。	
1327	今日の6社の話を聞いて僕は熊本に住んでいるので地元で働くことを考えていますが、熊本を出て九州内で働くことも考えています。企業研究はとても大事だと改めて思えます。あと約3カ月後には説明会も始まるし、エントリーシートも書かないといけないので残りの時間を大切にしていきたいです。	
1328	沢山の社会人の方の話を聞いて、まず就活の大変さを知りました。また、会社を慎重に選ぶ事も大事だと思った。	

2115	とてもうまくアピールしてくれてとても勉強になりました。エントリーシートや面接の分でも、指摘などが聞くことができたのでとても良かった。企業経営についても話を聞くことができて良かった。	
2117	どこの会社も魅力的でとても良い印象を持ちました。会社選びで自分の一生が決まると思うので自分がしたい事、就きたい職業を決めて、そのために勉強や面接などの準備をして、これから就職活動をしていきたい。また、他の会社のことを知りたいと思ったので、インターネットなどを利用して他の会社の情報も収集していきたいと思いました。	
2132	様々な意見を聞きまして自分ももっとちゃんとしなれと思いました。会社の説明の際、こういった説明をする人事の方も圧倒されるんだなーと思いました。私は公務員を希望してます。ですので面接をしっかりしたいと思いました。	
2207	今の時期に地元企業のインターンシップ説明ではなく、企業の説明を開けたことは貴重であると感じた。個人的には企業の業種がすべて異なっていると言う事だったが「グローバル化」という目標がある KIS 様が一番印象に残っている。どの企業も若い人材を求めているという印象があったため他の地元企業についても企業研究を行う必要を強く感じた。	
2304	6つの企業の方の話を聞いていろいろな企業があったのは嬉しいと思えた。興味がある企業を見つけるのも難いから今日みたいに企業説明を多く受けて見つけられたらいいなと思った。初めて企業の人たちの話を聞くことができた良かったと思うし、こういう機会があった良かった。	
2306	地元企業より説明会で各々の紹介を聴きましたが職種は違えど、良い所、興味が湧く紹介が多々ありました。また、今企業は若い人材を募集しており、東海大学卒業者が活躍しており、今後始まる就職活動において勢いになりました。	
2311	えがお、コソギ不動産、木之内農園、熊本放送、KIS、NISSAYの6つの話を聞いて初めて聞いた企業もよく聞く企業もあり新しく興味をもった仕事があったので良かったです。このような知らないことがまだ沢山あるので、沢山の企業の話も聞き、興味をもったものはより深く知りたいと思いました。	
2313	えがお、コソギ不動産、木之内農園、熊本放送、KIS、NISSAYの6つの話を聞くことなど無いため、今日聞いて良かったと思う。来年、年明けから就活が始まるため、これからたくさん企業の話しを聞かなければならないが、このような場を開いてもらい良いスタートを切れば良かった。	

資料④ 業界研究「地元企業発見～就活推進シンポジウム」(12/5 実施分)学生の感想

学生番号	感想内容 (基本的にそのまま記載、一部漢字に修正)	ゼミ
1111	地域産業に貢献できる受注生産 (ものづくり) に魅力を感じた。	村上
1112	今日は6社の会社説明、概要を聞いて一番興味を持った会社は KIS でした。ソフトウェア関係に就きたいと考えていたのでとても貴重でした。やはりニーズに沿った開発、メンテナンスをしていかなければいけないことも聞けて良かったです。会社説明とは別に、会社側が学生達に求めること、求める人材、就職活動に向けて今からどのようなことをすればいいのかも聞くことができました。やはり自分から動ける人、最後までやり通す、グローバルに考え活動していく人たちが求められているのだと再確認しました。	
1115	今回の講義では6つの企業の説明があり、様々な情報と理念をいただきました。私はオムロンア蘇株式会社では、求める人材として、積極性、協調性を持った自律行動ができること、また、経験、こだわり、思いやりの3つを心がけるというアドバイスもいただきました。KIS では NEC グループ会社ということを知りました。会社の理念は「私たちは今日よりも明日を楽しくさせる情報サービスパートナーになります」ということ。正面から見ることだけをせず他の視点からの見方もするべきというのを聞かせていただきました。他の会社のこともありますが、統一して自分たちに求めるものは、「自ら行動すること、考え・発信し世の中をよりよくしたいと考えたりなど、とにかく自分からアクションを起こすということ」が大事というのが伝わってきました。それに企業研究も大事というのは自分を知ることもつながることだと思いましたので真面目に取り組んでいきたいと思えます。	
1125	各企業のお話が聞けて良かったと思います。でも、未だにやりたいことは見つからないです。福利厚生で選んでいこうと思います。	
2108	どの会社でも、求める人材は自ら考えて行動することなので、私もそのような人材になれるように今後の生活を意識しながら生活していきたいと思う。	
2110	熊本に拠点を置く6企業のお話を聴くことができました。どのような企業か、特色は、など短い時間の中でしたが沢山説明がありとても有意義な時間を過ごせました。特に最後に一言づついただいた言葉がこれからの就職活動をしていく心構えになりました。	
2114	いろいろな企業の話聞いて、どの企業がどういったことをしているか小盛(?)ではあるが知る事が出来たことは良かった。ソフトウェアの製作やプラスチックの開発、移動棚の開発などいろいろなものに携わっている	

	ことが分かり、どういった過程で製作しているか興味が出た。オムロン、KIS、金剛、野田市電子などといったいろいろな企業がある事を知らず、 県外に就職するのだと漠然と考えていたが、まず今自分が出る地域を調べてみるのも良いのではと感じた。	
2119	KIS : NEC のグループ会社 (ソフトウェア業界、SI 企業) 金剛社 : 移動棚を製造 野田市電子社 : 半導体事業、環境分析事業、人材ソリューション事業 & ソリューション事業 平田機工社 : 生産設備を製造 KIS 社と平田機工社は、社内で TOEIC 実施	
2122	自分のしたい事をしっかりと考えて企業の研究をしないとダメだと改めて思った。その企業でも自分から動くことができる人が求められているので動けるようになりたい。	
1102	全部の企業がやっている事は違うけど求める人材はどの会社も一緒で、仕事を楽しくやる、チャレンジ精神、目標に向かう心が大切。一つ一つの物づくりが大切に地元の人が必要な物を作り地元へ貢献。	岩崎
1103	どの企業さんも自分で動く力を重要にしているので、バイトでも学校生活でも、意識していこうと思いました。最後までやり遂げようと思ったので就活も最後までやり遂げようと思います。	
1107	今回のシンポジウムで多くの企業の説明を聞きどの企業も魅力があり、関心を持つことができました。「T 型になれば」を聞いた時はどういった意味だ?と思ったが、説明を聞くと「幅広い知識を身に付け、そこから深く掘り下げること」とおっしゃって、より「なるほど」と関心が持った。	
1108	就職に対する気持ちがさらに高まりました。小森プラスチックさんのオリジナル商品に興味を持ち、地元に対する気持ちにも共感しました。一つ一つの言葉が心に残り勉強になりました。	
1120	採用された方が話している話など、行って良かったと思える内容だった。全ての話に通じていたのが、自分から動いていかなければダメということ、これから頑張っていきたいと思った。	
1123	数十年前の開発された技術でも現代にも取り入れて改良しながら性能向上する傾向が見られた。主に地震大国の日本でもあり耐震に特化した造りもあり、素晴らしい技術面を兼ね備えていると思った (KONGO)	
2107?	自分が進む道とは関係が無かったので興味をひかれなかった。	
数字不明		
2121	オムロン : 一番自分の知ってて企業でいるんな機器の開発をしているのですごいと思った。	

	KIS : クラウドサービスや ICT 業界などとても興味を持った会社だった。最後まで諦めない所に胸を打たれた。 金剛 : 大学の図書館やその他周辺にあるものを製造して物づくりのこだわりを感じた。 野田市電子 : 半導体や学科に近い事や学科から離れた事などもあったがとても興味深かった。 平田機工 : 沢山の企業と提携していてとてもグローバルな会社だと感じた。	
1106	様々な企業の話聞いて良かった。企業について知れて良かった。就活について知れて良かった。	清田
1113	どの会社でも求めている人材は自分で考えて行動する人間が欲しいということが分かった。いろいろ良い言葉があったけど私は T 型の人間になろうと思う。	
1131	長く続けること オムロン : 求める人材、物事を前向きに捉え、自己成長に欠かせない物を考える。ポジティブに受け止められる人。 金剛 : 自分で考えて動く人 平田機工 : 即戦力より会社で考え育てていくスタイル。	
1135	熊本県内でも魅力的な企業が多くあることが分かった。企業が求めている人材はマクロに見るとあまり分らないと思った。	
2113	熊本県内にある日本を代表する企業の方々の話を聴くことができるとも良い機会になった。	
2115	知っている会社もあれば聞いた事のない会社もありましたが、興味深い会社何社もありました。これもやりたいから、この会社に行きたいと思う所があったので、今回の講演会に参加しているいる考えたり、分かっていると思うことが見つかりそうです。	
2123	オムロンア蘇衛とは商品の開発、設計、ものづくりを主にする。 クラウドサービス : 情報を守るということを主に開発している。熊本地震などで会社にとっては情報が一番大事ということ。 事業の特徴 生産エンジニアリング : 性能、コスト、品質、安全性、生産効率などを実現する。 サポート力 : グローバルで手厚い支援 Hirata : 様々な製品を生み出す会社	
2124	若い人の柔軟な考えが必要だという事が分かった。どの職業も自分自身での自己開花・挑戦が必要だと思った。地元・熊本にいろいろな企業があることは知っていたけど詳しくは知れていなかったのが知れて	

	よかったと思った。	
2111	感想なし	佐松
2116	熊 K I S さんのソフトウェア開発に興味を持った。特に S C 事業部の半導体とグローバルビジネスについて。東海の工学部に入った理由としても半導体のものづくりに興味があったからなので、もっと詳しく知りたいと思った。父の会社の関係で N E C や O M R O N の話はよく耳にしていたのでとても話が入ってきた。自分のやりたい事を心念 (信念) もって実行できる会社など数少ないと思う。資本金が多い大企業に入ってお金を沢山稼ぐよりも、自分で作った物で世の中が豊かになるようなスタイルの方が格好良いと思うし、自分やりたいと思うので、今後しっかり考えて企業について調べたいと思った。今回の説明会で少しはあったが情報を得ることが出来たので今後生かしたいと思う。	
2132	企業ごとに特色があり業務内容や社内理念など就職に必要な情報を得ることが出来た。特に O B や熊本出身の先輩のお話は地元のメリットなどを 知る良い機会になったと思う。	
2134	今回の業界研究では会社の生の声、社長さんたちの話を聞いてとても良い意識改善ができた。聞いた事のない企業でもやっている仕事は一つ一つ生活には欠かせない物ばかりで、どの仕事もやりがいがあると感じた。自分が一生かけて働く企業をしっかりと見極めて、就活をよりスムーズに効率的に進めるために、今回の業界研究はとてもためになった。今後、今日来てくださった会社を視野に入れつつ就活をしていきたいと思った。	
1110	様々な業種の企業に来ていただき熊本県にはどのような企業があって何をしているのかという事が分かりました。普段使っているスマートフォンなどの製品にはそれぞれの企業の技術力や努力があって、使われていると改めて知る事が出来ました。今後の就職活動の参考にしたいです。	高橋
1119	様々な企業の話聞いて、今後活かせる技術の開発に重点を置いているのがほとんどで、どのような物が必要になるかを考える発想力が必要だと思いました。なので、普段から何が世の中が便利になるのか考えることが今後の社会に貢献することにつながっていくのではないかと思います。	
1122	どの企業さんも「ものづくり」と言う点で共通していた。これからは技術が世の中で輝くんじゃないかなって思いました。どんなニュースにでも応えられる。自己形成に力を入れていこうと思いました。	
2109	地元以外にも企業の名前すら分かっていなかった。どれも若い人の力を欲しがっている。会社の未来を見据えて良いアイデア募集していた。	

	希望している職種、地域を明確にしておく必要がある。	
2112	今回の業界研究の説明会で様々な企業からの貴重な話を聞くことが出来たとともに光栄でした。熊本には沢山の企業があることが分かった。特に金剛、地震にも耐える棚はすごいなと思った。	
2126	仕事内容だけでなくオフの活動、求める人材を知り、これからの就活の悩みが少し解決した。職場、どのように取り組んでいけばいいかイメージできた。どこの企業もチャレンジ精神（精神）を持つ事が大切だと思った。自分の慎重な性格をどうにかしたいと考えた。	
1114	小森プラスチックさんの何でもやり事に対して失敗を恐れないのかという質問に成功するまで続ける、諦めないから失敗することはないという答えが堂々と、それでいて真っ先に出るのがすごいなと思った。どういった会社かと聞かされてよく分かったが、実際の話を聞くと、少しだけでも理解が深まった。やはり実際の話を聞くということが重要だと再認識することができた。	藤本
1133	オムロン、K I S、小森プラスチック、金剛、野田市電子、平田機工	
2101	今回、計6社による簡単な会社説明を受けたが、それぞれ違った分野に通じており大変参考になった。地元企業でありながら世界に向けた事業を進めていたり、と自分の予想していたよりも企業としての活動の幅は広がった。会社が求める人材として積極性のある人間や発想が豊かな人間など、学校の成績はもちろんだが、人間性の高い人材を期待しているようだ。今回学んだことは後の就活に役に立たいと思う。	
1101	移動棚の製作など、自分達の身近なものに関わる会社もあり、自分も人々の生活を支える仕事をしたいと考えました。	松本
1109	自分の知らない熊本の企業を知る事が出来ました。同じものづくりの会社でも会社が掲げている理念が違い、事業内容も理念に応じて様々な事を行っていることが分かりました。自ら考え行動する人材を会社が求めている理由が分かった気がする。今回の就活シンポジウムで聞いた話を参考にして自分の就活に生かしていきたいと思いました。	
1126	野田市電子さんの発表が分かりやすくて良かった。発表する姿勢を真似したいと思った。	
2127	T型人間と言う言葉が印象に残った。また人事が求めていることが分かって良かった。	
2130	様々な企業の事を実際に働いている方々から直接聞くことができ非常に良い経験となった。自分は情報サービス業界への就職を考えていたが、もっと幅広い視野を持って就活に臨みたいと思った。	
1116	金剛階：学校の図書室にもある。本収納システム（丸ハンドル）。すごく便	阿久津

	利で素晴らしい商品だろ思った。 平田機工：ダイソンや自動車などのいろいろな大手企業から受賞されている。 T型人間になれば、成長するにつれて分かってくる（聞かえてくる）言葉がある	
1117	今回は6つの会社の説明を聞きました。1つ1つの会社、それぞれの良さがありました。私は、この説明を聞き、今まで知らなかったことや、今の現状を知る事が出来ました。また、自分自身で調べていった時よりも自分のためになったと思いました。今回の説明会で、K I Sや Hirata などがとても分かりやすく、もっと知りたいと思った会社があり、今後の就職に生かしていきたいです。まだ、就職活動は始まったばかりですが、説明会があれば積極的に参加して自分の入りたい会社を見つけられるよう努力していきたいと思いました。	
1118	これからの行動の選択肢が増えた。他の熊本の企業を研究したいと思った	
2103	様々な企業の説明を聞いて思ったことは、相手のことについて考えると言うことです。仕事をしていたらお客が欲しい物を作らないと商品は売れないと思います。そのため、どれだけ追求できるかが大切だと思いました。他に思ったことは、自分自身の知識が乏しいと思うので、今、その中で起きていることぐらいは把握できるようにしたいと思いました。また、目標や夢がないので、やりたいことを見つけられるよう努力したいと思った。	
2104	格（各）企業の話聞いて、自分の将来、時間の使い方を真剣に考えなければならぬと思った。	
2117	各社の取り組み、求める人物が分かった。このシンポジウムを通し地元企業への研究を深めていこうと思った。	
2125	今回、沢山の企業さんの説明を聞き、熊本にも沢山の会社があることがわかった。	
1124	どの企業も自ら考える力や能動的に動く人材を必要としていた。TOEICが必要となる企業もある。仕事は断らない。	無線信号処理
5BIG	自分の進路を決めるために参考になった。こういったシンポジウムを今後	記載なし
2117	も開催して欲しい（2年生）	
4BFR	熊本にも様々な企業があると勉強になった。求める人材について言及してくださった野田市電子、オムロンさん等は親切だなと思った。物づくりの人は面白くて、それぞれ理念があって好きなタイプの人種だと思った。九州はシリコンアイランドと呼ばれるくらい半導体について先端を行っている場所で一度は工場見学したいと思った。	的場
1329		経営学 科

資料⑤ <学内案内ポスター>

<p>2016年度 東海大学</p> <p>業界研究 </p> <p>地元企業発見 就活推進シンポジウム</p> <p>就職委員会</p> <p>2016年 11月29日 火 15:00-16:30</p> <p>会場：東海大学 熊本キャンパス 本館5階 視聴覚教室 対象：経営学部・経営学科3年生を中心としますが 他学部・他学科どなたでも参加OKです。 熊本県内への就職を考える機会として2年生、1年生も</p> <p>参加企業 是非参加してください！</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎(株) えがお 人事担当 内村 智里 満田 麻友 ◎(有) 木之内農園 代表取締役社長 村上 進 井野 千晶 ◎(株) 熊本放送 人事担当 浦谷 英明 営業局(文学部出身) 市原 直明 ◎(株) KIS 人事担当 園田 晃弘 取締役 竹下 力 ◎(株) コスギ不動産 総務人事課 林田 昌治 取締役営業戦略室 小杉 堅太 ◎日本生命(相)熊本支社 育成センター 上田 聡美 熊本法人2課 林田 至織 <p>【お問い合わせ】キャリア就職担当 経営学部 就職委員長 小野堂和 内線:5710 ℓ: 090-5553-3234</p>	<p>2016年度 東海大学</p> <p>業界研究 </p> <p>業界地元企業発見 就活推進シンポジウム</p> <p>就職委員会</p> <p>2016年 12月5日 月 16:30-18:00</p> <p>会場：東海大学 熊本キャンパス 本館5階 視聴覚教室 対象：基盤工学部3年生を中心としますが 他学部・他学科どなたでも参加OKです。 熊本県内への就職を考える機会として2年生、1年生も</p> <p>参加企業 是非参加してください！</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎オムロン阿蘇 株式会社 人事担当 村山 真紀子 エンジニア 堂本 和宏 ◎(株) KIS 人事担当 園田 晃弘 取締役 竹下 力 ◎小森プラスチック 株式会社 人事担当 村上 史郎 代表者 小森 信房 ◎金剛 株式会社 総務人事グループ 赤石 健太 執行役員営業本部長 岩崎 輝信 ◎野田市電子 株式会社 総務課 中川 剛 専務取締役 野田 和宏 ◎平田機工 株式会社 総務人事課 木村 美幸 川田 真也 <p>【お問い合わせ】キャリア就職担当 経営学部 就職委員長 小野堂和 内線:5710 ℓ: 090-5553-3234</p>
<p>2016年度 東海大学</p> <p>業界研究 </p> <p>地元企業発見 就活推進シンポジウム</p> <p>就職委員会</p> <p>2017年 1月18日 水 16:30-17:30</p> <p>会場：東海大学 熊本キャンパス 2号館 2401教室 対象：農学部3年生を中心としますが 他学部・他学科どなたでも参加OKです。 熊本県内への就職を考える機会として2年生、1年生も</p> <p>参加企業 是非参加してください！</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎(株) 興農園 人事課長 玉春 恵美子 種苗部 眞弓 尚也 ◎熊本乳業 株式会社 製造部長 戸次 孝裕 ◎熊本製粉 株式会社 人事労務課長 永岡 宗章 人事労務課 佐藤 優宇 <p>【お問い合わせ】キャリア就職担当 経営学部 就職委員長 小野堂和 内線:5710 ℓ: 090-5553-3234</p>	<p>2016年度 東海大学</p> <p>業界研究 </p> <p>地元企業発見 就活推進シンポジウム</p> <p>就職委員会</p> <p>2017年 1月27日 金 16:30-18:00</p> <p>会場：東海大学 熊本キャンパス 本館5階 視聴覚教室 対象：経営学部・基盤工学部 3年生だけでなく 2年生・1年生も歓迎！ どなたでも参加OKです。 熊本県内への就職を考える機会として 是非参加してください！</p> <p>参加企業</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎熊本トヨタ自動車 株式会社 総務部 今村 信介 ◎(株) エムロード 業務部総務課 境屋 吉蔵 (卒業生) 上園領周平 ◎熊本酸素 株式会社 管理部総務課 山口 宏明 (卒業生) 中島 圭 (卒業生) 山本 高德 <p>【お問い合わせ】キャリア就職担当 経営学部 就職委員長 小野堂和 内線:5710 ℓ: 090-5553-3234</p>

“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人材育成講座

- (1) サイバーセキュリティ及びネットワークマーケティングに係る実践的人材育成、
(2) 地域再発見・郷土志向育成、(3) インターンシップ、(4) 国際化

プロジェクトメンバー

熊本高等専門学校 地域イノベーションセンター（代表）センター長 / 教授・小田川裕之

連携機関：熊本県工業連合会、熊本県警本部サイバー対策課、WIX.com 社等

プロジェクトの概要・目的

熊本高専では、より実践的な研究や技術者の育成を行っており、COC+ においては「“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人材育成講座」と題した特別プロジェクトを実施することとした。

情報化社会である現代において、サイバー攻撃に対するセキュリティ対策は喫緊の問題となっており、公的機関、企業等においても、この問題に対応できる人材育成が急務となっている。また、他方ではネットワークを活用して熊本の魅力を発信し、全国的なマーケティングと結びつけることが出来る人材の育成も必要不可欠な状況となっている。

本プロジェクトは、都市圏での雇用集中により、多くの優秀な人材が県外に流出している現状において、県内でニーズがありながら不足しているサイバーセキュリティとネットワークマーケティングに対応できる人材育成を行い、将来的な県内の雇用拡大を図ることを目的としている。

活動内容と成果・効果

本プロジェクトは、次年度以降も継続して取り組むこととしており、初年度となる平成28年度においては次の活動を行った。（詳細は添付資料参照）

①サイバーセキュリティネットワーク構築

サーバー 1 台、クライアント 17 台等からなるクローズ型バーチャルネットワークを構築した。次年度より実際にウイルスが混入した環境をつくり、実践的なサイバーセキュリティ講習を実施する。

②実践的ネットワークスペシャリスト人材育成講座（1 回目 29 人参加、2 回目 22 人参加）

11月5日、12日に熊本高専熊本Cにおいて開催。長崎県立大及びWix.comから講師を招き、サイバーセキュリティとネットワークマーケティングに関する講習を行った。なお、企業職員及び高専学生が主な参加者だったため、3月11日に熊本学園大学において大学生を主な対象とした2回目の本講座を開催した。

③地方創生公開講座「天草下浦石工の活動」（11人参加）

11月19日に熊本高専八代Cにおいて、地域再発見・郷土志向育成の一環として開催した。

④地方創生公開講座「熊本市周辺の湧泉めぐり」（15人参加）

12月10日に地域再発見・郷土志向育成の一環として開催。熊本市内を中心に借上バスにて移動、現地にて水資源の現状について解説を行った。

①クローズ型バーチャルサイバーネットワーク構築

サーバー1台、クライアント17台等からなるクローズ型バーチャルネットワークを構築しました。
平成29年度からこのバーチャルネットワークの中で実際にウイルスが混入した環境等をつくり、PBL手法を取り入れた実践的なサイバーセキュリティに対応できる人材の育成を推進します。



②“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座

平成28年11月5日(土)と12日(土)の2回に別けて、熊本キャンパスにて『“オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座』を実施しました。

この講座では、熊本の産業創生と雇用創出のため、熊本県内の大学等高等教育機関や自治体と連携しCOC+事業(地(知)の拠点大学による地方創生推進事業)に取り組んでおり、この一環として、熊本の情報発信の基点となる人財の育成を目的として開講することとしました。

本講座は、現代社会において大きな問題であるにも関わらず、不足しているサイバーセキュリティとネットワークマーケティングのスキルを有する人材(財)の

育成を行うもので、講師として、サイバーセキュリティに長崎県立大・情報セキュリティ学科の加藤雅彦教授、Webコンテンツ開発に、Wix.comの日本人公式WixProの第一人者である神戸洋平氏、柳澤 輝氏を招聘し、PBL(課題解決型学習)手法を取り入れた実践的なプログラムを実施しました。熊本地震等で地方創成を担うNPO法人の主宰されている方など、多くの社会人の方にも参加していただき、情報発信の場において今後、有効活用が期待できる講座となりました。



講座の様子

③ 天草下浦石工の活動

平成28年11月19日(土)、八代キャンパスにて地方創生公開講座第8回『天草下浦石工の活動』を実施し、当日は11名が参加しました。内容は天草市の下浦石工が製作した石造物(主に神社の鳥居)がどの地域に分布しているか、また石の魅力や活用策について実際に神社の鳥居に使われていた石材を紹介しながら話をしました。参加した方々の半数以上が天草から来校され、中には現役の石工さんも参加されたということもあって、講演が始まる前から当日配布した資料について質問があり、講演終了後も活発な質疑応答や意見交換がなされました。現在天草市では下浦石工の調査を本格的に始めているということもあって、本講座は地方創生にふさわしいものとなりました。



講座の様子

④ 熊本市周辺の湧泉めぐり

平成28年12月10日(土)、熊本キャンパスにて地方創生公開講座第10回「熊本市周辺の湧泉めぐり」を実施しました。

この講座では、熊本市周辺の湧水地を訪れ、現地観察することで熊本の水環境について解説していききました。訪れた湧泉は、次の6箇所でした。

- 八景水谷（熊本市北区）
- 水前寺江津湖公園（熊本市東区）
- 浮島・天然プール（嘉島町）
- 前ん川の出水・姫井乙姫神社（菊池市旭志）

熊本県内 1333 箇所の湧泉調査に基づき、県内の地下水の現状を概説した後に、豊富な地下水のメカニズム、生活密集地の湧水の枯渇の問題、忍び寄る地下水汚濁、特に硝酸性窒素濃度の上昇などを現地で解説しました。また、熊本地震の際に飲用水の不足が喫緊の課題となった点を取り上げ、地震災害時における湧水の利用について具体例を提案しました。珍しい現象として、熊本地震の影響でゲートボール場に湧き出した小さな湧水を紹介すると、参加者から歓声が上がりました。アンケートの結果でも”大変興味深かった” ”湧水の大切さを知った”との声が多く寄せられ、熊本の豊富な地下水を実感する講座となりました。



【アンケート】

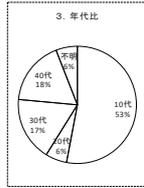
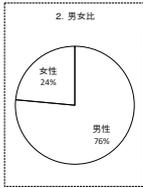
② “オール熊本”で取り巻く地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人材育成講座（1回目）

1. アンケート回答率

参加者	29人	アンケート回答数	17人	回答率	58.6%
-----	-----	----------	-----	-----	-------

2. 男女別

男性	13人
女性	4人
合計	17人

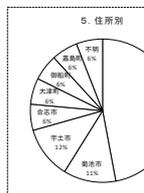
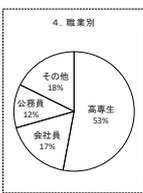


3. 年代別

10代	9人
20代	1人
30代	3人
40代	3人
不明	1人
合計	17人

4. 職業別

高校生	9人
会社員	3人
公務員	2人
その他	3人
合計	17人



5. 住所別

熊本市	8人
菊池市	2人
宇土市	2人
合志市	1人
大津町	1人
新井町	1人
喜島町	1人
不明	1人
合計	17人

6. 時間数について

多い	2人	妥当	15人	少ない	0人
----	----	----	-----	-----	----

7. 内容はいかがでしたか

分かりやすかった	16人	普通	1人	わかりにくかった	0人
----------	-----	----	----	----------	----

【コメント】

- 初めにもしっかりと説明がわかりやすかった。
- Wk自体がとても簡単であった。
- 初めてのことも多かったが、講師の方の丁寧な説明のおかげで、分からないところは随時質問してもらえた。
- 資料の作り方を事前に教えてくれたので、自分たちで作れるようになった。
- 実践的な内容で、講師の方の丁寧な説明のおかげで、とても分かりやすかった。
- デザインについて基礎的なことから、応用的なところまで丁寧に説明してもらえた。
- 難しい内容を簡単に説明された。
- Wkの作りが早く、実践的な作業ができることと説明のペースも丁度よかった。
- こういった知識がないにも思われる内容だと感じた。
- 非常にわかりやすい説明で勉強になった。
- 実践を聞いての経験だったので、とても分かりやすかった。
- 丁寧に説明してもらってわかりやすかった。
- おおまかにWkでできること、できないことが分かった。

8. 満足度はいかがでしたか

満足	7人	概ね満足	7人	普通	3人
あまり満足できなかった	0人	全く満足できなかった	0人		

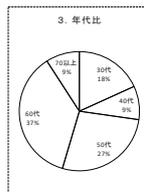
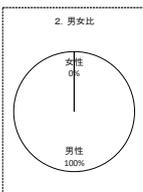
③ 地方創生公開講座「天草下浦石工の活動」

1. アンケート回答率

アンケート配付枚数	11	アンケート回答数	11	回答率	100.0%
-----------	----	----------	----	-----	--------

2. 男女別

男性	11
女性	0
合計	11



3. 年代別

30代	2
40代	1
50代	3
60代	4
70代以上	1
合計	11

4. 職業別

石材関係	3
教員	1
会社員	1
公務員	4
その他	1
無回答	1
合計	11



5. 住所別

天草地域	8
熊本市	2
八代市	2
合計	12

6. 時間数について

多い	0	妥当	9	少ない	0	無回答	2
----	---	----	---	-----	---	-----	---

7. 内容はいかがでしたか

分かりやすかった	9	普通	2	わかりにくかった	0
----------	---	----	---	----------	---

【コメント】

- 作者名を刻むべき、下浦石工の活動が重ならない中継ぎっていた。
- 石工についての知識がなかったので、プロジェクトによる映像等非常に分かりやすかった。
- 動画に多くの石工が映っているのは良かった。
- スライドを利用して良かった。
- 大変ありがたく理解できました。また受講したいものです。
- 企画・運営がなかなか好評の開催をこれから注目して見ようと思います。
- 最後まで聴き終えることなく楽しく講演を聴くことができました。

8. 満足度はいかがでしたか

満足	9	概ね満足	1	普通	0
あまり満足できなかった	0	全く満足できなかった	0	無回答	1

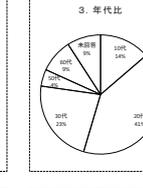
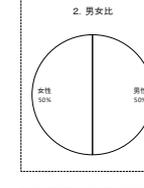
② “オール熊本”で取り巻く地方創生の情報発信拠点化のための実践的ネットワークスペシャリスト人材育成講座（2回目）

1. アンケート回答率

アンケート配付枚数	22	アンケート回答数	22	回答率	100.0%
-----------	----	----------	----	-----	--------

2. 男女別

男性	11
女性	11
合計	22

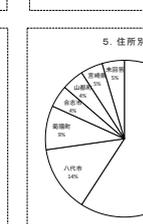


3. 年代別

10代	3
20代	9
30代	5
40代	2
50代	2
未回答	1
合計	22

4. 職業別

高校生（熊本高専）	2
大学生（学卒大）	6
公務員	1
自営業	6
フリーランス	3
その他	3
未回答	1
合計	22



5. 住所別

熊本市	13
八代市	3
菊池市	2
合志市	1
山形市	1
喜島町	1
未回答	1
合計	22

6. 時間数について

多い	1	妥当	20	少ない	1
----	---	----	----	-----	---

7. 内容はいかがでしたか

分かりやすかった	17	普通	5	わかりにくかった	0
----------	----	----	---	----------	---

【コメント】

- ゆっくり進み、だれにでも分かるようになっていた。講師以外にも教えてくれる人がいたので質問しやすかった。
- 進捗スピードが適切だった。
- 体験的に学ぶことができ、つまづきそうになってもすぐ質問できた点がよかった。
- 説明が丁寧でとても楽しみなが、作成することができました。もっと詳しいところまで勉強したいです。
- Wkを使うのは初めてだったが、しっかり理解できました。
- エンターを近くで指導していただいた。専門的な知識も分かりやすく説明していただいた。
- 実践的に1ステップずつ教えていただいた。また中継ぎーターもあって巡回のスタッフの力にも感謝したい。
- すでにWkを一人で調べて勉強していましたが、すぐに時間がかかりました。1日であっさり覚えることができた。
- 無駄話もなく、Wkを中心に説明されて、知識も操作方法も身につきました。
- 画面の移動がわかりやすかった。
- 機能がとても多いことが良い点にも悪い点にもなっているため、わかりやすかったが、弱として質問についていけない場面がありました。
- 実践しながらの学習なのでわかりやすい。
- 普段の学校の授業で学ぶことができないことを学んだのでよかったと思う。
- プロでないし出来ないようなことがWkを使用することにより出来るようになるのだと希望が持てました。

8. 満足度はいかがでしたか

満足	11	概ね満足	9	普通	0
あまり満足できなかった	0	全く満足できなかった	0	未回答	2

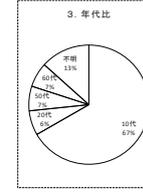
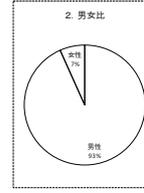
④ 地方創生公開講座「熊本市周辺の湧泉めぐり」

1. アンケート回答率

アンケート配付枚数	15	アンケート回答数	13	回答率	86.7%
-----------	----	----------	----	-----	-------

2. 男女別

男性	14
女性	1
合計	15

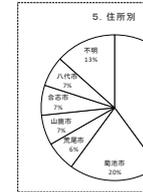
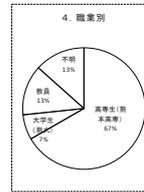


3. 年代別

10代	10
20代	1
30代	1
40代	1
50代	1
60代	2
不明	1
合計	15

4. 職業別

高校生（熊本高専）	10
大学生（学卒大）	1
教員	2
不明	2
合計	15



5. 住所別

熊本市	6
菊池市	3
新井町	1
山形市	1
合志市	1
八代市	2
不明	1
合計	15

6. 時間数について

多い	1	妥当	12	少ない	0	不明	2
----	---	----	----	-----	---	----	---

7. 内容はいかがでしたか

分かりやすかった	12	普通	1	わかりにくかった	0	不明	2
----------	----	----	---	----------	---	----	---

【コメント】

- 説明が丁寧
- 1日を過ぎてから参加者がきちんとして聞いてくれたことなど分かりやすかった。
- 先生の話が上手く、詳しく学べた。
- 実際に足を運んで、その地域の生活の様子などを知ることが出来た。
- 各スポットのルーツ等を詳しく解説してくださった。
- 説明が楽しかった。
- 説明を聞きながら実際に歩いてみて、よく分かりました。
- 難しいこともあったが、ひとつひとつ例を出しながら丁寧に教えてもらった。
- 普段知らない風景の中、湧泉保全のための工夫がなされているという説明など知らないことを知ることが出来た。
- 実際に歩いてくれているのがとても良かった。
- 丁寧に説明してくださり、皆さんが上手で、さすがの先生だと思った。
- 目の前に広がる自然があつて、興味を惹き付けられた。

8. 満足度はいかがでしたか

満足	12	概ね満足	1	普通	0
あまり満足できなかった	0	全く満足できなかった	0	不明	2

ホームページ作り学ぶ

熊本高専が育成講座



ホームページ作りやネットのウイルス対策などを学ぶ参加者。合志市の熊本高専

合志市の熊本高等専門学校は5日、インターネットのホームページ作りやウイルス対策を学ぶ講座を開いた。新たな産業づくりと雇用創出を目指す文部科学省の地方創生推進事業「COC+（プラス）」の一環で、県内8の大学や高専が自治体や企業と連携してそれぞれ事業を展開する。

同講座はネット上のマーケティングやセキュリティ対策に詳しい人材を育成するのが狙い。学生や会社員、県警のサイバー犯罪対策課などから約30人が参加し

た。

熊本市北区のホームページ制作会社「KAN TAI」（カンタイ）の神戸洋平社長（34）が、制作ツールを使ったホームページの作り方を指導。検索上位に表示される仕組みなども紹介した。安全対策ではパスワードの定期的な変更を勧めた。

受講した御船町の陶芸家、津金日人詩さん（43）は「黒元や町のPRをはじめ、熊本地震の復興支援の呼び掛けに活用できないかと思って参加した。ホームページを作って情報を発信したい」と話した。

講座は全3回で、既に参加申し込みは締め切っている。

（宮崎あずさ）

COC+
特別プロジェクト
2017年度

01. "Amakusa Medical Students (AMS)" プロジェクト

天草出身医療系学生が主導する、次世代の地域医療担い手を育むための基盤づくり

プロジェクト メンバー

熊本大学大学院生命科学研究部（薬学系）教授・入江 徹美

連携機関等

天草市、上天草市、苓北町、天草郡市薬剤師会、上天草総合病院、
上天草看護専門学校

プロジェクトの概要・目的

熊本県地域医療再生計画地域に指定されている天草は、高齢化・人口減少に伴い、医療提供体制に多くの問題を抱えている。これまで、熊本大学の医療系大学院 HIGO プログラムの学生は天草で現地調査を行い、行政・医療関係者との多職種連携のもとに地域医療の課題抽出・分析を行ってきた。

本プロジェクトでは、これまでの取り組みから見えた課題「地域医療人材の確保」に向けた新たな取り組みに挑戦する。具体的には、天草から熊本市内に進学した医療系大学生・専門学校生から成る” Amakusa Medical Students (AMS)”を介して学生間の交流の場をつくり、地域医療の課題解決に携わってきた天草出身の HIGO プログラム生をアドバイザーとして、より成熟した知識や考えを後輩に伝え、次世代の地域医療の担い手としての育成を図る。さらに、天草地域の行政・医療関係者と連携してワークショップや健康フェアを開催し、学生が地元の地域医療の実情を現地で学び、故郷のためにできることを共に考える機会を創出する。

具体的な活動内容と成果・効果

本プロジェクトでは、主に 5 回のイベントを実施した。(1) 地域医療勉強会 (H29.9.13-15) : 上天草市・天草市役所、湯島（離島）診療所、上天草総合病院、上天草市の診療所・保険薬局・特老を訪問し、天草地域の医療の現状や課題を学んだ。(2) 上天草市健康フェア (H29.11.23) : 小学生を対象にした薬剤師体験ブース・くすり実験教室を天草郡市薬剤師会と共同で出展した。また、中高生を対象とした熊本の医療系大学・専門学校の紹介ブースを出展した。(3) AMS ワークショップ (H29.12.16) : AMS メンバーと地元の高校生が参加し、地域医療の課題に対する解決策をグループにわかれて考えた。(4) A-1 グランプリ (H30.2.3) : 天草地域の医療・行政関係者に 12.16 に開催したワークショップで出た解決策を提案した。(5) AMS 活動報告会 (H30.3.4) : 熊本大学薬学部にて AMS 活動報告会 (天草地域の医療従事者とのパネルディスカッション、A-1 グランプリのポスター発表) を開催した。本プロジェクトのイベントを通して、25 名の AMS メンバーを集めることに成功した。また、具体的な地域医療の課題解決に向けた提案を行うことができた。来年度は提案された案の実現化を目指して取り組んでいきたい。

COC+事業「特別プロジェクト経費」完了報告書

【イベント実施の写真】

(1) 地域医療勉強会(H29.9.13-15)



上天草市健康福祉部・天草市健康福祉部職員による講演（上天草市松島庁舎）



上天草市立湯島へき地診療所に訪問



上天草市の保険薬局に訪問



小児科医師 島田 康 先生・上天草市立上天草総合病院院長 蓮尾 友伸 先生による講演

(2) 上天草市健康フェア(H29.11.23)



薬剤師体験ブース



くすり実験教室

(3) AMS ワークショップ(H29.12.16)



グループディスカッション

(4) A-1 グランプリ(H30.2.3)



A-1 グランプリ発表・質疑応答



参加者集合写真

(5) AMS 活動報告会(H30.3.4)



パネルディスカッション



ポスター発表

02. COC+事業特別プロジェクトによる産学連携の推進支援

COC+ 事業特別プロジェクト (産学連携) シンポジウムの開催

プロジェクト
メンバー

熊本大学くまもと地方産業創生センター COC+ 推進コーディネータ・
林田 安生

プロジェクトの概要・目的

県内企業が抱える問題を把握しその解決に向けた課題設定等について検討する、熊本大学における地方創生フィールドワーク (COC+科目)、崇城大学でのキャリア科目等の平成28年度から平成29年度にかけての取り組みに関してシンポジウムを開催する。

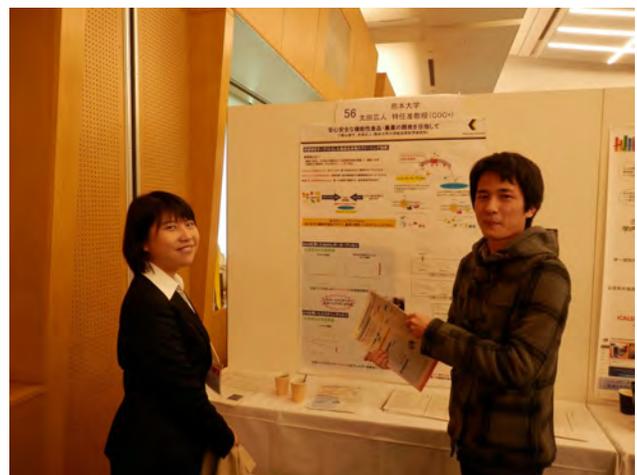
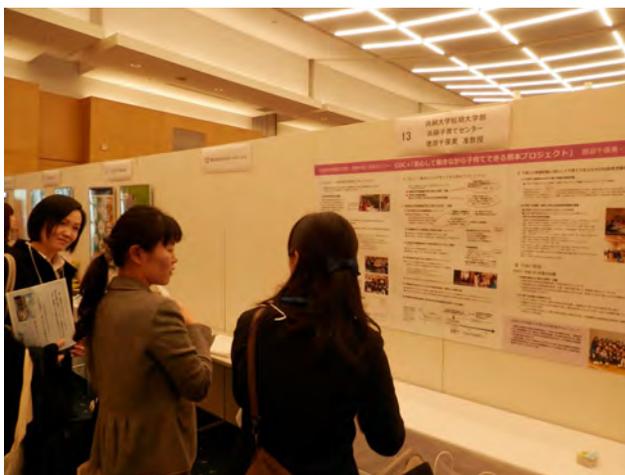
これらの取り組みでは教員、企業、学生が連携して密に検討を行うため、学生の県内企業への理解の深化が効果的に促進され、引いては、地域企業への就職による地元定着率の向上にもつながるものと期待される。本プロジェクトでは、シンポジウムの内容を大学内部、企業、マスコミを対象に情報発信し、これらの取り組みの更なる発展を図る。

具体的な活動内容と成果・効果

COC+ 特別プロジェクトを実施している熊本県立大学、崇城大学、尚絅大学、東海大学、熊本学園大学の COC+ 担当窓口に対してプロジェクトの趣旨を説明し、プロジェクトへの協力を依頼した。また、シンポジウムでの発表案件について、当該窓口を介してとりまとめを行った。

開催については、プロジェクトの目的である学内外への情報発信についてシンポジウム開催での実効性を高めるため、平成28年度より開催している「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム」の中でのポスター発表等として実施することとし、フォーラムの開催担当の熊本大学イノベーション推進センターとの協議で同センターから了解を得ると共に、平成29年度第9回熊本地方 COC+ 推進協議会企画委員会 (H29.11.15 開催) で承認を得た。

平成30年3月2日にグランメッセ熊本で開催された上記フォーラムにおいて、「行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証」(尚絅大学短期大学部 増淵千保美准教授(尚絅子育て研究センター長))等16件の発表があり、担当教員や学生がフォーラムに参加した企業職員等に対し説明や意見交換を行った。また、熊本大学工学部佐々木満准教授他はセミナー「九州特産物を有効活用した産業創生と地域活性化」を開催し、後の産学連携プロジェクトの立案に関する意見交換を実施した。なお、フォーラムの中で、熊本大学文学部牧野厚史教授、崇城大学芸術学部デザイン学科岩上孝二教授は、連携している天草漁協水産加工部会と成果の活用等について協議を行い取り組みを推進した。





**くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム (H30.3.2, グランメッセ熊本) での
COC+関連発表**

No	ブース	発表代表者所属・役職	発表代表者氏名	発表内容
1	13	尚綱大学短期大学部・准教授	増淵千穂子	行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証
2	19	熊本県立大学・特任講師	本田 藍	地域・大学が連携して大学生と地域住民に食育を
3	23	熊本学園大学・教授	波積真理	大学生による着地型観光の企画
4	26	尚綱大学・准教授	狩生 徹	食に関する産学連携と地域貢献事例紹介
5	32	熊本県立大学・准教授	友寄博子	地域農産物の機能性を探索して新たな価値を創造
6	37	熊本県立大学・准教授	佐藤 哲	調査・研究活動の中心に"ものづくり"を
7	41	熊本県立大学・教授	石橋康弘	廃棄物に関することは何でもご相談下さい
8	47	崇城大学・教授	辻田祐純	欲しい人財を一緒に育てませんか？
9	56	熊本大学・特任准教授	太田広人	安全安心な機能性食品・農業の開発を目指して
10	66	熊本学園大学・教授	境 章	ICT で地域活性
11	67	崇城大学・教授	寺本祐司	地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援
12	68	尚綱大学短期大学部・教授	菊池秀彦	食品成分による白血球機能修飾機構の解析を行う
13	69	熊本学園大学・大学院生	呂 宜静 他	日台文化交流ネットワークー異国から始まる生活ー
14	70	熊本県立大学・教授	松崎弘美	微生物の機能を食・健康・環境分野に応用する
15	85	尚綱大学・准教授	北口英穂 他	若者目線でインバウンド観光促進
16	86	熊本大学・教授	牧野厚史 他	地域産業活性化に向けた産業調査及び PR プロジェクト
セミナー		熊本大学・准教授	佐々木満	九州特産物を有効活用した産業創生と地域活性化

03. 地域産業活性化に向けた産業調査及びPRプロジェクト (地方創生フィールドワークの推進)

天草の水産加工の歴史文化に関する調査研究 (熊本大学)

天草雑節製造業界と連携したPRコンテンツ (公開用) 開発 (崇城大学)

プロジェクト
メンバー

熊本大学文学部教授・牧野 厚史

連携機関等

崇城大学芸術学部教授・岩上孝二、熊本県立大学総合管理学部教授・丸山 泰 (アドバイザー)、天草水産加工協同組合、(株) 談、くまもと地方創生産業創生センター 他

プロジェクトの概要・目的

天草市牛深地域では、サバ等複数の魚種を原料に、うどんのダシ等として使用される雑節の製造が盛んに行われている。雑節は主に業務用として流通し、製造企業や地域名が消費者の目に触れることは少なかったが、近年、雑節人気が高まる中で、製造地域の歴史文化といった商品の背景と結合した商品の展開を推進することが業界の課題となっている。本プロジェクトでは、この業界が抱える課題の達成を支援するため、昨年度の取り組みを踏まえ、製造地域の歴史文化等の調査を進め、論文等の形態としてとりまとめると共に、調査結果等を地域内外で公開し普及を図ることを目的とする。

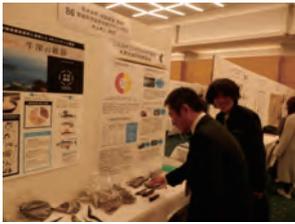
具体的な活動内容と成果・効果

天草市の水産加工 (雑節製造業界) への産業調査について、産業調査票の作成、配布、回収、集計、成果としてのとりまとめを行い、天草地域で生産される雑節が国内で大きなシェアを持つこと、また、雇用面からも当該産業が地域にとって重要であること等を明らかにした。これらの結果については業界団体 (天草漁協水産加工部会) と協議しつつ資料としてとりまとめ、熊本県立牛深高等学校、熊本県立拓心高等学校マリン校舎及び本渡校舎で高校生及び地方自治体職員等を対象にしたセミナーを行い、成果の普及を図った。また、PR 資料の作成については、昨年度の取り組み成果も参考に、業界団体等と協議を行いつつ、その意向を踏まえてパンフレット及びポスター案を作成、業界に提示した。

上記の取り組みに先立ち、学生が地域産業をよりよく理解しつつプロジェクトを推進できるよう、当該学生を対象にした企業への取材等に係る研修会を実施した。

なお、これらの取組みの成果について、くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム (3/2 グランメッセ熊本) でポスター発表を行い、学生と参加した企業等との出会いの場を創出した。

業界団体は、本プロジェクトの成果について業界を対象にした講演により普及を図ると共に、その活用について協議していきたいとしている。



USHIBUKA ZASTUBUSHI

雑節日本一 牛深の雑節

牛深雑節

USHIBUKA ZASTUBUSHI

天草・牛深は雑節の生産量が日本一!

圧倒的な全国シェア

天草で作られた雑節は、県外客の訪来者を通して全国のうどん屋さんなどで上物の出汁節として使われています。

牛深雑節のここがすごい!

- 種類が豊富**
年間採れる魚が多いのでサバ・アジ・イワシ・ソウダガツオなど様々な種類の節を作っています。それぞれの魚に適した機械を使うことができます。
- 燻製の本は地元の水**
燻す水も天草産。燻すことで長持ちします。燻製に使わないので臭いがない。材料の味も地元産です。
- 海水吹き**
燻水で燻るのは年々減り、海がきれいな天草だからこその味です。臭いがないので、体に優しいお土産ができます。

天草で作られた雑節は、県外客の訪来者を通して全国のうどん屋さんなどで上物の出汁節として使われています。

牛深雑節とは

日本では昔から、魚以外のさまざまな魚類でも節が作られてきました。サバ・アジ・イワシ・ソウダガツオなどで作った節が、昔から天草地域でも製造されています。節類以外を総称して雑節と呼びます。

魚の種類

- サバ
- イワシ
- アジ
- ソウダガツオ

崇城大学
SOJO UNIVERSITY
崇城大学 芸術学部デザイン学科
岩上孝二 教授
〒860-0802 熊本県天草市牛深町1-1-1
制作 伊藤 洋平

天草で作られた雑節は、県外等の訪来者を通して、全国のうどん屋さんなどで上物の出汁節として使われています。

牛深節

うどん出汁

牛深節は、全国のうどん屋さん、そば屋さんで上物の出汁節として広く使われています。

そば出汁

牛深節

USHIBUKA BUSHI

こんなすごいビジネスがある
天草地域の雑節製造

熊本大学 牧野厚史
修士1年 中谷芳子
文学部3年 谷崎実梨

何が入っている?

出汁

ダシと聞くと皆さんは

- ・ 雑節をイメージするでしょう。

牛深節

USHIBUKA BUSHI

牛深節のここがすごい!

- 種類が豊富**
牛深は採れる魚が多いのでサバ・アジ・イワシ・ソウダガツオなど様々な種類の節を作っています。それぞれの魚に適した機械を使うことができます。
- 燻製の本は地元の水**
燻す水も天草産。燻すことで長持ちします。燻製に使わないので臭いがない。材料の味も地元産です。
- 海水吹き**
燻水で燻するのは年々減り、海がきれいな天草だからこその味です。臭いがないので、体に優しいお土産ができます。

天草・牛深は雑節の生産量が日本一!

圧倒的な全国シェア

天草で作られた雑節は、県外客の訪来者を通して全国のうどん屋さんなどで上物の出汁節として使われています。

牛深節とは

日本では昔から、魚以外のさまざまな魚類でも節が作られてきました。サバ・アジ・イワシ・ソウダガツオなどで作った節が、昔から天草地域でも製造されています。節類以外を総称して雑節と呼びます。

魚の種類

- サバ
- イワシ
- アジ
- ソウダガツオ

「節」とは何か?

- ・ 2つの説がある
 - ①製法(焙乾)由来説 カツオイブシ・ソウダガツオ節
 - ②名称由来説 魚類の乾燥品を節(フシ)と呼ぶことから
 - ・ 参考文献: 2000「雑節」法政大学出版局
- ・ 煮干しは文字通り煮た魚を乾燥したもの
- ・ 節は魚を割いて、薪で燻製(「焙乾」)したものと

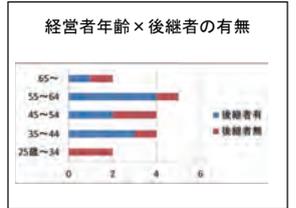
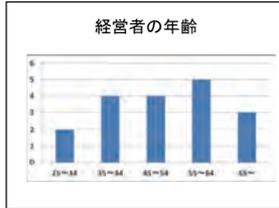
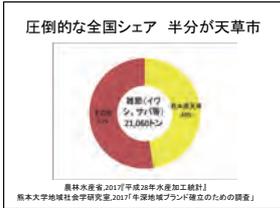
煮干しイワシ、サバ・イワシ節(「雑節」)

- ・ 通説では雑節は高価なカツオ節の代用品?
 - 匿名・関係 - 二宮編著, 2014「しゅうま味の事典」東洋堂出版
 - かつお、古くから使われてきた。
 - 煮干しイワシ、期にかつお節利用するよう

カツオの代わりなのか?

庶民のダン 天草の雑節製造

- ここがすごい
- ①全国総生産量のほぼ半分が天草地域
- ②牛深地域の製造業で働いている人の約1/3が雑節製造
- ③若者がビジネスの主役(当主)
- その他...

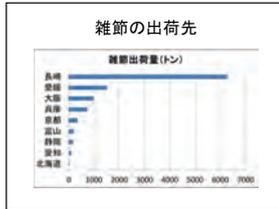


天草地域雑節地域ブランド確立のための調査

- 実施主体 熊本大学文学部地域社会学研究室
- 調査対象 天草地域 雑節製造所(20社)
- 調査時期 平成29年12月
- 調査方法 留め置き法
- 回収数 18社 一部データ提供2社

生産量

製品名	全国 トン	天草 トン	天草シェア率 (%)	
いわし	18,988	1,881	9.9	
魚干品(いわし・こぶこ)	1,765	130	6.9	
その他の魚干品	2,381	183	7.7	
かつお節	29,252	69	0.2	
雑節	12,129	4,857	40.0	
計	6,931	5,149	72.7	
合計	21,067	10,006	47.5	
けずり節	かつおけずり節	17,405	1	0.0



雑節生産の舞台、天草地域

- 天草は漁業からみると
 - ①不知火海に面した地方
 - ②有明海に面した地方
 - ③牛深のように外洋に面した地方
- 外洋に面した地域
 - サバ、イワシなどの雑節は牛深を中心に生産されている



地域経済における重要性

年齢	従業員数(人)		うち定員数(人)	
	男性	女性	男性	女性
15歳~24	5	3	1	1
25~34	7	7	7	4
35~44	17	14	5	5
45~54	15	21	4	2
55~64	23	54	6	8
65~	15	42	7	5
合計	82	141	30	25

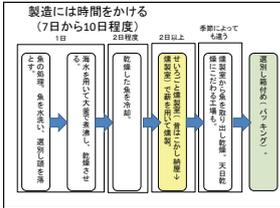
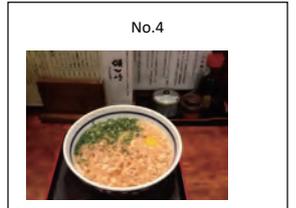
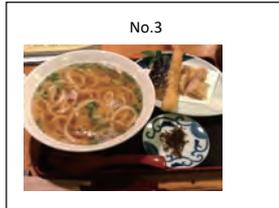
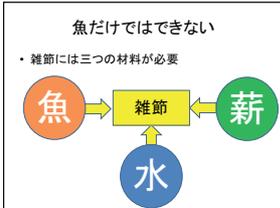
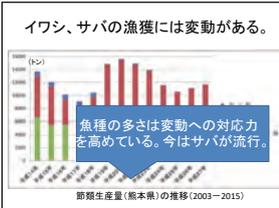
旧牛深市の製造工程体系のシフトが雑節産地に発生
製造工程体系は平成27年度調査
雑節製造所を調査対象とした
2017年地域ブランド確立のための調査(熊本大学地域社会学部)



原料となる魚類

- マサバ
- ゴマ
- ムロ
- ウル
- 平

雑節製造
使える魚の種類が多い。



なぜ天草地域が雑節の王者に?

- 三つの物語
 - 第1章 天草地域雑節誕生の物語 明治・大正
 - 第2章 庶民の食卓の物語 戦前の都市生活
 - 第3章 雑節復活の物語 戦後から現在



第1章 牛深雑節誕生の物語

カツオ節生産からそれは始まった

明治前期(1883年)の牛深村

- 1883年(明治16)『熊本縣水産誌』熊本県
 - 総人口 7,742人 漁戸 1,009軒
 - 漁業専業者 男性 183人 女性 1,113人
 - 魚捕獲 26軒
 - 水産物総生産額 7万9400円
 - カツオ節の生産額は2千340円 生産額の10%以上がカツオ節 むろんイワシやサバの雑節はない。
- ※ただし調査事項は1881年(明治14)のもの

牛深カツオ節生産と深川家

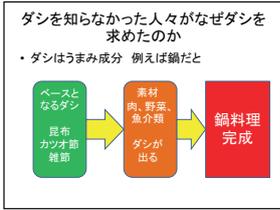
- 牛深のカツオ漁の起源
 - カツオ漁の起源は江戸時代に遡る
 - 深川家は、明治時代に創業を開始
 - カツオ漁で資産を増やし、明治中期には、カツオ船11艘を持つ勢力となり、大規模にカツオ漁とカツオ節生産を行った
 - ・熊本県豊高課、1890(明治23)『熊本縣漁業誌』(上・下)

カツオが獲れない、ではどうするか？

- イワシ節の登場(ちょうど100年前)
 - 『寺より20年前(筆者=大正8(1919)の)天草郡牛深町(深川)の次郎(イワシ)節の研究に望を懐し製法の研究に意を致すこと年あり漸く発展の曙光を窺むるや恰もよし鹿児島県に籍(サバ)節の製造に広く転移するに至りて世人の雑節節に注意するもの次第に多く藍(イワシ)節亦年と共に需要を増加し今日の隆盛を招致し今や製造家牛深町のみにて70余名あり』
 - ・熊本県水産組合、1919年(大正8)『熊本県水産』熊本県水産組合

庶民の生活とダシ

- 『かつお節と日本人』(宮内・藤林)は
 - ①戦前はカツオ節をダシにしている事例はそれほど多くはない。
 - ②ただし、カツオ節は急速に普及し始めている
 - そもそも庶民にはあらかじめダシをとるという習慣があまりなかったようだ(同書 17頁)。



第2章 庶民の食卓の物語 「雑節」を買い求めた人々

雑節は京都・大阪・神戸に送られた

- ①煮干しイワシ:大阪、神戸周辺で消費
- ②大阪付近 煮干しとは異なる大型のイワシで製造された節の売れ行きがよい
 - 安井耐策(南溟)、大和地由太郎校訂1919(大正8年)『鯉の製造』大阪水産製造研究学会



まとめ:明治~大正期、大阪・神戸は人口急増

- 日本の大半の人々が住んでいた農村では
 - ダシはカツオ節というイワシがあるが、カツオダシはあまり使われていないし、そもそもダシをとって使うという習慣もあまりなかった
 - 一方、田んぼや水路の魚を食べていた農家は魚から出るダシのうまみを十分知っていた人々だった
 - また、都市に出てくる川魚も農村の生活体験を持つ庶民のそこで新しく登場し、文化が「雑節」の急速な普及を支えた
 - ・カツオ節が「高橋村」で漁師と郊外の農村のさ購入した。

当時の大阪

- 「東洋のマンチェスター」
- 工場が増え、働くために、農村から出てきた人々が急増
- 都市に出てきた新しい住民が歓迎

しかし

- 大きな謎がある
- ・ダシをとって使う習慣、って本当に庶民にあったのでしょうか？

第3章 雑節復活の物語 煮干しイワシからの出発

未曾有のイワシ豊漁と「節」生産の組織

- 戦後
 - 未曾有のイワシ豊漁のため、獲ったイワシの加工に膨大な人手が必要となり、規模の小さい加工工場が増加(戦後一時500軒近くあったと言われている)
 - 豊漁のなかで、手間のかかる雑節よりも、手早くできる煮干しが主流となった。

昭和40年代、危機が語られる状況に

- イワシは豊凶を繰り返す魚
 - 昭和30年代からしばらくは不漁
 - 昭和50年代は豊漁

獲れる時期、獲れない時期が交互にやってくる

1960年代~「雑節」生産の復活

- 様々なダシ製品が登場し、煮干しの売れ行きは細り始める
- ・そのなかで

雑節製造が主力に

最後に

- 「雑節」が天草地域に根付いた背景
 - ①危機を創意で乗り切る
 - カツオがだめ→イワシ節
 - イワシが不安定→広く魚が使える雑節に
 - ②消費者のニーズに応えた
 - 農村から出てきた人々の嗜好(しこう)にあった
 - ③地元にあるものを組み合わせる
 - 薪、水、魚(牛深港という有数の港)

04. 地域農林水産資源を活用した県内企業等の連携及び連携による商品開発の推進

小国杉等を活用した商品開発に向けた連携

プロジェクトメンバー	熊本大学パルスパワー科学研究所 大学院自然科学研究科複合新領域科学専攻 准教授 佐々木 満
連携機関等	(株) FOREQUE、南小国町、(研) 森林総合研究所 九州支所 所長 木口実 (アドバイザー)、星薬科大学 特任教授 塩田清二 (アドバイザー)、崇城大学芸術学部 教授 岩上考二 (アドバイザー)、くまもと地方産業創生センター 他

プロジェクトの概要・目的

熊本県内では各地域の農林水産資源を生かした様々な商品・サービスが地域内外で展開されており、地域振興にとって重要なものとなっている。

南小国町では、地域企業等が行うこのような商品・サービス開発を支援するため、国が実施する地方創生加速化プロジェクトにより、3DCADデータを用いて木材をNC加工、レーザー加工できる高度な加工機器や植物より精油を取得できる蒸留器を備えた実験的地域工房「FABLAB」を開所する。その中で、FABLABの活用に関する地域企業等のネットワークづくりや連携による商品・サービスの開発推進が次の課題となっている。

そこで、本プロジェクトでは、当該地域の振興に向けたFABLABの活用、杉精油を活用した高付加価値商品の可能性について検討し、地域企業等の連携や連携による商品・サービス開発の推進に資する。

具体的な活動内容と成果・効果

FabLab南小国の取り組みについて、平成29年前期に実施者が担当する授業「ものづくりとの科学と技術D」（対象：主に熊本大学学部1年）で紹介した。当該授業では、次年度以降、県内企業等の参画による問題解決等を内容に盛り込みたいと考えており、本プロジェクトにおいてFabLab南小国の取り組みを企画段階から支援し産学連携を強化しつつ、当該授業において学生への産業における問題の提示にも活用できるノウハウの蓄積や資料の作成も行った。

具体的には、FabLab南小国が計画している製品等の試作（設計）等への支援を行いつつ、当該施設に関する調査を行い、施設利用関連の映像資料を試作した。

その他、プロジェクト担当からの提案により地域産木材を利用した蒸留酒熟成器の試作も行ったが、崇城大学が球磨焼酎酒造組合等と連携して実施しているプロジェクトセミナーで紹介したところ反響があり、プロジェクトに係る大学、企業等のネットワークが拡大しているところである。

本プロジェクトの取組みのを踏まえ、今後の県内企業等との共同研究開発事業の立案に向けて、くまもと産業復興支援フォーラムシンポジウム（3/2 グランメッセ熊本）会場内で、シンポジウム「九州特産物を有効活用した産業創生と地域活性化」を開催した。



FabLab 南小国での取り組みの支援等で作成した試作品

 **Fablab**
AsaInamioguni
beta

山と森を感じながら、アイデアを形に！

Tel: 0967-42-1010
Website URL: <http://fabmog.net/>



九州大学情報学部のFabLabにて、

FabLab 南小国関連映像資料



シンポジウム「九州特産品を有効活用した産業創生と地域活性化」開催風景等

05. 学生の就職活動支援事業

学生への就職関係情報の提供、企業との交流機会を創出する

プロジェクト
メンバー

熊本学園大学学術文化部事務次長・東 勇一

プロジェクトの概要・目的

本事業の主旨は、「地元志向の涵養と地元定着・就業」であり、学生の地元定着を促進することが主な目的である。そこで、平成 29 年度の本事業の特別プロジェクトでは前年度に引き続き、学生の就職活動支援に重点を置いた事業を実施した。主な取組みは「ゲスト講義」、「企業訪問」と「就活準備セミナー」である。従来から実施していた学内会社説明会に加え、地元企業から講師を招く「ゲスト講義」や実際に企業（事業所等）を訪問することにより企業の現場環境を体感してもらうための「企業訪問」（バスツアー）を企画、実施した。更に主な地元企業が参加する「就活準備セミナー」は県内他大学にも案内を行ない、広く参加者を募った。また、学生の就職に関して保護者の意向が反映される傾向もあることから、保護者に対する働きかけや支援の必要性を考慮し、昨年に引き続き保護者を対象とする「保護者向け就活準備セミナー」も開催した。学生が就職活動を行う際に地元企業がその活動の選択肢となるように情報提供の機会を設けた。

具体的な活動内容と成果・効果

学生が県内企業の現状把握を行うための支援活動を行った。昨年に引き続き熊本県工業連合会の協力の下に地元企業の社長、役員等を講師に迎えて「ゲスト講義」（90 分）を 6 回（6 社）実施した。講義では、直接経営者の声を聞くことで（学生にとって）当該企業への関心喚起のみならず、今後の就職活動や企業情報の収集活動に役立つものと思われる。「企業訪問」は実際に現場（事業所）を訪ね、環境を知るために必要であり、現場での「発見や気づき」は学生の「仕事」に対する様々な想いの解決の一助ともなることが期待される。また、学生・保護者を対象とした「就活準備セミナー」は保護者向けの講演会と学生向けの企業セミナーを同時に開催し、保護者向け講演会は最近の企業の採用動向や保護者の学生への係わり方等に関する内容であった。参加した保護者の感想としてはセミナー会場へも参加することができ、学生の就職活動の様子が体感できたということで好評であった。他大学の就職関連部署にも学生への周知を依頼し、当日は他大学からの参加もみられた。



06. くまもと Festival (仮称) によるDMO創生プロジェクト

熊本県、近畿日本ツーリスト、エイベックス・トラベル・クリエイティブとの連携により、熊本地震からの復興に向けてコンサートを契機としたDMO観光商品開発及び観光情報発信を通じて観光産業の振興に貢献する。

プロジェクト メンバー

熊本学園大学商学部教授・波積 真理

連携機関等

熊本大学、熊本県、(株)近畿日本ツーリスト

プロジェクトの概要・目的

熊本県及び近畿日本ツーリスト等（以下「近ツリ等」という）の要請を受け、熊本学園大学商学部ホスピタルマネジメント学科及び熊本大学 Kumarism が共同で、熊本地震で疲弊した観光地の復活を支援するため、近ツリ等が開催する大規模コンサートの企画及びそれを契機としたDMO旅行商品の開発及び観光情報の発信を行う。

この取り組みを通して、熊本地震による経済的影響を最も受けている観光産業の復興を支援するとともに、学生には企業や地域と連携した課題解決プログラムとして位置付け熊本の魅力の再認識の契機とし県内就職の動機づけとする。

大規模コンサートは当面実施が見送られたが、近畿日本ツーリストの協力により、「DMO創生プロジェクト『きなっせ！くまもと』」の実現に向けてDMO旅行商品開発に関するセミナーを2回実施し、その成果を踏まえて人吉球磨地域と菊池・山鹿・玉名地域の現地調査を実施し同社商品開発システムを活用した企画を作成した。また、次年度以降の具体的な取り組みの協議に向けて上京し関係機関との調整を実施した。

具体的な活動内容と成果・効果

近畿日本ツーリストの協力により、熊本学園大学波積研究室及び熊本大学 Kumarism の学生を対象とした次の事業を実施した。

(1) 熊本魅力発信プロジェクト(仮) 着地型商品創出ワークショップ

- ①開催時期及び場所：12月9日(土) 熊本学園大学図書館、1月13日(土) 熊本大学くまもと地域産業創生センター内会議室、2月22日(木) 熊本学園大学図書館
- ②講師：KNT-CTホールディング(株)富澤地域振興部長
- ③セミナーの内容：第1回は商品づくりのポイントとマーケティングの考え方に関する座学、第2回は地域資源の洗い出しワークと視察先の話し合い、第3回は現地調査を踏まえた企画づくり

(2) 現地調査

- ①人吉・球磨地域：2月15日(木) 相良村雨宮神社、JRしんべい号体験、人吉市大村横穴古墳群、鍛冶屋町、人吉城址、永国寺、武家屋敷当を関係市町測の担当者の案内で調査。
- ②菊池・山鹿・玉名地域：2月16日(金) 大津町上井手、下井手遺構、ツインスター、八千代座界隈、トンカラリン、江田船山古墳当を関係町の担当者の案内で調査した。

(3) 東京地域関係企業との協議

次年度以降の具体的な取り組みに関して協議するために次の企業を訪問した。

- ①ミュージックセキュリティーズ：近畿日本ツーリストと提携して被災地応援ファンド出資者ツアーを計画しておりその進め方について協議した。
- ②(株)MARUKU：熊本の魅力発信にあたってSNSマーケティングのノウハウを有する同社と今後の取組について協議した。
- ③近畿日本ツーリスト：ミュージックセキュリティーズのツアー及び本プロジェクトの次年度の取組について協議した。

DMO創生プロジェクト「きなっせ！くまもと」現地調査報告書

《経緯》

平成 28 年 11 月に熊本県観光課（当時）の呼びかけにより始まった「くまもと Festival（仮称）によるDMO創生プロジェクト」は、近畿日本ツーリスト㈱とエイベックス・トラベル・クリエイティブ㈱との調整が整わずに、音楽イベントの開催は先送りとなったものの、KNT-GTホールディング㈱（以下「KNT」という）単独で「DMO創生プロジェクト「きなっせ！くまもと」として実施することとなった。

今年度は、KNTにより、熊本学園大学商学部ホスピタルマネージメント学科波積研究室と熊本大学学生グループ Kumarism を中心とした学生を対象に着地型旅行商品開発のノウハウを学ぶワークショップを2回、観光資源の現地調査を2回実施した。

今回実施した現地調査の概要はかきのとおりである。

《日程》

2月15日（木）人吉地域
2月16日（金）大津、山鹿、和木地域
詳細スケジュールは別添のとおり

《参加メンバー》

2月15日	
〈熊本学園大学 商学部〉	
神山翼央	
清田鮎史	
高田万由子	
佐々木彩乃	
峯さこ	
丸尾日菜乃	
〈熊本大学 文学部〉	
宇都優梨	
江川舞	
寺林咲	
久保七海	
10名	

2月16日	
〈熊本学園大学 商学部〉	
神山翼央	
清田鮎史	
高田万由子	
峯さこ	
丸尾日菜乃	
〈熊本大学 文学部〉	
宇都優梨	
笠原祥	
江川舞	
寺林咲	
久保七海	
湊雪花音	
11名	

引率 熊本大学高口義幸
KNTから畠澤地域事業部長、熊本支店山崎

《調査概要》

【2月15日（木）】

◎相良村

・対応者 企画情報課参事 福山慎司
・内容：

役場で、同村が取り組んでいるバレンタイン村（フランス）との交流、及び関係イベントに関する説明を受けた後、雨宮神社の現地調査を実施した。



相良村でのレク



雨宮神社

（学生コメント）相良村はハートの形をしていて、村名にちなんで「相性が良くなる村」と呼ばれています。世界的な愛の聖地フランスの「セント・バレンタイン村」との交流も深く、愛をテーマに様々な試みで観光客を魅了する素晴らしい「愛の村」へと変化してきました。

今年度は2月11日（日）に「バレンタインフェスティバル2018」が開催されハートあふれるイベントやグルメで盛り上がりました。また相良村には愛が深まる数々のスポットがあり、恋人同士はもちろん家族、友人とも楽しめます。

- ① 雨宮神社 ② 相良温泉 ③ 十島菅原神社
④ 恋人の丘 ⑤ 夫婦橋 ⑥ 北嶽神社

◎JRしんべい号体験
吉松～人吉間を乗車体験



真幸駅



大畑駅



矢岳駅

◎人吉市

・対応者：歴史文化課主任 岸田裕一
・内容：大村横穴古墳群、鍛冶屋町、人吉城址、永国寺、武家屋敷を散策しながら説明を受けた。



大村横穴古墳群
（学生コメント）



鍛冶屋町入口

人吉市は、人吉城跡をはじめ、武家屋敷や昭和の銭湯、ゆうれい寺でおなじみの永国寺などが集まっており、どこか懐かしさを感じる、独特の雰囲気を感じます。職人町として栄えた鍛冶屋町通りには、風情のある石畳の通りに茶屋や工房が軒を連ねています。程よい大きさの城下町で、サクッと散策できます。なかにはなんと1本30円の焼き鳥を売るお肉屋さんもあります。みそ・しょうゆ蔵を見学するのもいいですね。人吉城跡から永国寺までは徒歩15分ほどで、一本道のなかには織月酒造や銭湯、武家屋敷があり、人吉観光にうってつけです。また、織月酒造では見学と試飲もできます。人吉駅裏にある横穴墓。しかもその穴には三角模様や兵士の壁画など様々な装飾が施されている、そういった穴が崖一面に空いています。それらの模様がどういった意味でなされたのか、ロマン溢れます。



人吉城址



武家屋敷

【2月16日（金）】

◎大津町

・対応者 就航観光課長 梅田博隆、桐原智之
・内容：

灌漑用水としての利用だけでなく多用途で活用されている下井手、上井手の歴史等について同町文化財保護委員の案内により視察。



水車



上井手取水口

（学生コメント）

大津町は、阿蘇山と市内中心部のちょうど中央に位置する町です。唐芋が特産品として有名ですね。でも、それだけではないんです。大津町は、なんと70以上の水車が点在している水車のまちなのです。大津の銘菓「銅銭糖」も、水車でひいた粉を使っています。水車を見て大津のむかしを感じる綿屋製菓に立ち寄ってお菓子を購入光尊寺でお茶をする水車物語でちょっとゆっくり肥後大津駅徒歩5分の上井手沿いに直径5メートルもの大きな水車があります。水車は、古くから水車の動力を使ってきた大津のシンボルともいえます。綿屋製菓は、大津町伝統の銘菓「銅銭糖」を作っているお店です。ほろりとした食感が特徴の銅銭糖、なんと160年以上前から親しまれています。上井手沿いには、趣深いお寺があります。その名も光尊寺。銅銭糖をおやつに、散歩で疲れた足を休めるのもいいかもしれません。水車物語は、以前使用されていた大きな水車や写真などが展示されているカフェ&ギャラリー。おいしいスイーツやお茶を手に、ぜひ、ゆっくりとしたひとときを。

◎ツインスター
手作りアイス工房



◎山鹿市
八千代産界隈を散策



(学生コメント)

山鹿市は、「八千代座」をはじめ、灯籠祭りやさくら湯が有名なまちです。和菓が特産品で、和洋問わず様々な和菓スイーツを堪能できるのも魅力の一つです。豊前街道を歩く当時の面影が残る江戸時代の街並みを散策。八千代座はもちろん、温泉や菓子など、「和」を存分に楽しむことができます。さくら湯
上村屋
江戸の大浴場を再生させた温泉。
少しぬるめのお湯は小さなお子様でも安心！
山鹿の名産和菓子である「山鹿羊羹」を味わうことが八千代座 できます。甘さは控えめで、上品な味わいの羊羹です。

◎和水町

- ・対応者：和水町教育委員会社会教育課益永浩仁
- ・内容：トンカラリン及び江田船山古墳を案内



トンカラリン



江田船山古墳石棺

(学生コメント)

江田船山古墳 5世紀末～6世紀初頭に築造されたと推測される前方後円墳。たくさんの副葬品が出土しています。誰が葬られているのか、何のためにつくられたのか、どれだけ研究が進んでも、その謎は解けないのかもしれませんが。もしかしら、この古墳がつけられた時代に生きていた人たちは、私たちと何ら変わらない生活をしていたのかもしれませんが。

DMO創生プロジェクト「きなっせ！くまもと」に係る関係企業調査

《経緯》

平成28年11月に熊本県観光課(当時)の呼びかけにより始まった「くまもと Festa (仮称)によるDMO創生プロジェクト」は、近畿日本ツーリスト㈱とエイベックス・トラベル・クリエイティブ㈱との調整が整わずに、音楽イベントの開催は先送りとなったもののKNR-C-Tホールディング㈱(以下「KNT」という。)単独で「DMO創生プロジェクト『きなっせ！くまもと』として実施することとなった。

今年度は、KNTにより、熊本学園大学商学部ホスピタルマネジメント学科波積研究室と熊本大学学生グループ Kumarism を中心とした学生を対象に着地型旅行商品開発のノウハウを学ぶワークショップを2回、観光資源の現地調査を2回実施した。今年度の成果については、3月2日に実施される「くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム」で発表予定である。

今後、この取り組みを継続的に実施するため、東京地区の関係企業の訪問を実施した。

《調査日程等》

- ・日時：2月19日(月)～20日(火)
- ・参加者：(熊大)久保七海、笠原桜、宇都優梨
(熊本学園大)神山菜央 4名
※熊本学園大神山は日程の関係で2月19日のみ参加。

・スケジュール

《2月19日(月)》

9:30 → 11:00 → 12:50 13:00～14:00
熊本 JAL624 羽田 (待合) ミュージックセキュリティーズ(大手町)

訪問先1：ミュージックセキュリティーズ㈱
東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル



[宿泊]品川東武ホテル

《2月20日(火)》

9:50 10:00 → 11:00 → 13:00 → 14:00 (解散)
(集合) ㈱MARUKU(渋谷区神宮前) 近畿日本ツーリスト

トンカラリン

トンカラリンは、和水町にある地蔵や人工的に作られたトンネルからなる全長464.6mの遺跡です。古代に造られたとされていますが、未だに定説はなく、排水路説や信仰遺跡説、邪馬台国の卑弥呼の鬼道だったとも言われています。実際にトンネルを通ってみると(※現在見学中止) どうしてこんなものが作られたのか、想像が膨らんでワクワクします。

以上

18:55 20:50
羽田 JAL639 熊本

訪問先2：㈱MARUKU
東京都渋谷区神宮前1-10-34 原宿コーポ別館110

訪問先3：KNT-C-Tホールディング㈱
東京都千代田区東神田1-7-8 ユニゾ東神田一丁目ビル(旧 東神田フコク生命ビル)



《引率者》熊本大学くまもと地方産業創生センター 内山、高口

《調査結果の概要》

1. ミュージックセキュリティーズ㈱

(1) 面談対応者：同社代表取締役社長 小松真実

(2) 面談概要：

同社は近畿日本ツーリストと連携して今年夏頃に熊本地震被災地応援ファンド出資者ツアーの実施を計画しており、同ツアーの企画、運営等に本プロジェクト参加学生の関与を依頼するために訪問。

小松さんからは本ツアーをやるときに学生のアイデアを盛り込むことについて了解を得た。支援企業5社の訪問を含むツアープランの企画案策定、ツアー実施に係る現地アテンドの協力要請もあった。

ツアー実施時期は6月中旬を軸に検討し、3月中にツアー候補地の選定、3がつから4月に現調査を実施したうえで、SNSによる情報発信を実施することで合意。

2. ㈱MARUKU

(1) 面談対応者：同社代表取締役社長 小山光由樹

(2) 面談概要：

上記ツアーに周知のためのSNS等による情報発信のノウハウを活用し、熊本の魅力発信を継続的に実施するための、SNSマーケティングで顕著な実績があり、昨秋、本県山都町に立地した㈱MARUKUの助言をもらうために訪問した。

今後、本県の関係企業等と連携して熊本の魅力を発信する事業を同社の主力事業として実施する予定であり、その中で連携していくことで合意。

3. KNT-CTホールディング㈱

(1) 面談対応者：同社地域事業部長 富澤美津男他1名

(2) 面談概要：

①被災地応援ファンド出資者ツアー

両校メンバー及び関係企業関係者でLINEグループを作りツアー企画を検討。

KNTは、千葉支店が対応。

②平成30年度の本プロジェクトの実施

当方からは、来年度は、具体的なツアー企画につなげられるようしたい。上記ファンドツアーはその足がかりとした。

継続性を確保するために1年生でワークショップを開催、勉強、2年生から、具体的な旅行プランを実現するといった杏奈はどうだろうか。検討してほしい。

③COC+課題解決プロジェクトへの協力要請

本学のCOC+課題解決プロジェクト（30時間の実習）は、来年度は集中講義方式として実施するが、KNTで引き受けてもらえないか。実施に当たってはKRIDCとKNTの協定（覚書）締結を検討してほしいとのこと。実施する方向で調整することで合意。

④産業復興フォーラムについて

2/22に学園大学で実施する検討会で、当該イベント向けのポスターについても作成することで合意。

訪問先打ち合わせ状況



水軍のまち 大津町

1500年前の日本が

和水町

1500年前の日本が

山鹿市

「和」と伝統のまち

相良村

相性が良くなる村

人吉市

懐かしきを感じる風景

水軍を見て大津のむかしを感じる

歴史館に立ち寄りお菓子を購入

完結までお茶をする

水軍物語でもよっとゆっくり

「和」と伝統のまち

山鹿市

山鹿市

相性が良くなる村

懐かしきを感じる風景

人吉市

懐かしきを感じる風景

企画検討シート		商品タイトル(Product)		
スケジュール表	この企画のセールスポイント(売り文句)	最少進行人員	名	
		業務人員	名	
		コンセプト		
		ターゲット		
		活用資源		
		写真①	写真②	手配に必要なモノ、コト
		項目	原価	この旅行を作ったチーム
		合計		メンバー氏名
		販売価格)	円	コメント

資源票

■資源番号

■資源名

■資源の所在地

■資源の特徴

■資源の現状

image

(現状)

■資源の評価 :5段階評価(1点~5点)

①ユニークさ

②稀少性

③活用しやすさ

熊本魅力発信プロジェクト(仮)

着地型商品創出 ワークショップ

企画作りのポイント

2017年12月9日
NNT-CTコンサルティング株式会社
地域事業部長 宮澤 美津男

商品開発実績

- 「工場構えクッキー」
2008年神奈川県農産物振興局助成事業により開発。京浜コンテナ埠頭の工場敷地をクッキー工場として活用。2009年より生産販売をスタート。
- 「南産フーズ」
2009年、県産産物の多量消費+平定産品とのコラボによる販路拡大策として「南産フーズ」を試験的に開発。
- 「南産漬物」
2010年、平定産品の魅力の最大化と販路拡大の両立を図るべく「南産漬物」を開発。県産品の活用と販路拡大を図るべく「南産漬物」を開発。
- 「熊本産物水産物」
2011年神奈川県農産物振興局助成事業により、熊本産物の活用と販路拡大を図るべく「熊本産物水産物」を開発。

自己紹介

宮澤 美津男 (とみざわ みつお)
NNT-CTコンサルティング 地域事業部長

1997年 4月 近畿日本ツーリスト東入社 千葉市の教育旅行団長
1998年10月 近畿日本ツーリスト労働組合より労務部長に就任
2007年10月 近畿日本ツーリスト入社 地域事業部長
2008年 3月 南川グループの合併会社である「南川グループ」の設立と同時に同社に異動
2012年 4月 同社 ニューリズムコンサルティング部長
2013年 1月 同社 熊本産物水産物センターの立ち上げ
2014年 1月 近畿日本ツーリスト東地域事業部長
2015年 4月 NNT-CTコンサルティング株式会社 地域事業部長
2017年 6月 現職

株式会社ディー・ゲート

(主な事業内容)
①全国の観光地や観光地観光客向けに「観光客」の接客
②南川グループの情報誌やウェブサイト、アプリなどのコンテンツを利用したプロモーション
③観光地振興のための組織作り人材づくり、商品開発を支援するコンサルティング・開発

事業実績

コンサルティング・調査に関わる主な受託事業

No.	事業名	所在地	実施期間
1	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
2	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
3	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
4	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
5	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
6	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
7	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
8	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
9	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
10	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
11	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
12	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
13	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
14	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
15	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23
16	熊本産物水産物センターの立ち上げ	熊本市	H21~H23

地域の観光振興が求められる背景

■少子高齢化が進み、地域は人口が加速的に減少

■定住人口の減少を交流人口の拡大により地域活力の維持を図る

人口減少に直結する状況において、地域は交流人口の拡大により地域での経済活動を刺激し衰退を食い止めるようとしていく。

■地方創生と観光

「まち」として、創成本拠地は地域からの人材の流出を食い止め、若年層を定着させるための施策として観光を活用
⇒ 日本DMO

このまま放置すれば、地方は消滅する！

地域の活力を維持するために

- 来訪客(特にインバウンド)を増加させ消費喚起
- 観光産業を地域に根付き若者の就業の場を創出
- 人口流出を防ぎ地方の消滅を回避

【主要旅行会社の取扱額推移】

着地型観光＝地域を魅せる観光

「着地型観光」とは(観光庁HP)

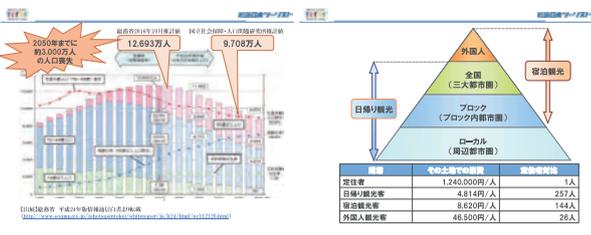
旅行者を受け入れる側の地域(着地)側が、その地域をおすすめる観光資源を基にした旅行商品や体験プログラムを企画・運営する形態を「着地型観光」と言います。

独自性が高く、ニューリズムを軸として、その地域ならではのさまざまな体験ができることから、各地域の魅力を味わう上でおすすめです。

地域に根付いた価値をプログラム化することにより地域の共有財産として定着させる。

地域に根付く価値

- 自然環境や地形
- 食文化
- 名産品
- 生活様式
- 伝統や習慣
- その他
- 地産産物
- 伝統芸能
- その他



団体旅行型から脱却できなかった観光地

腐敗化する観光関連施設

観光客が消え、街全体の活気が失われた

着地型観光の事例

～着地型観光商品の考え方～

3,000万人の人口喪失インパクト

①東京都、神奈川県、埼玉県が消失

東京都	13,513,000人	29,901,000人
神奈川県	8,127,000人	
埼玉県	7,261,000人	

※平成28年10月1日推計値

②37兆0140億円の消費が消失

定住者1人当たりの年間消費額＝124万円
124万円 × 2,985万人＝37,014,000,000,000円

トヨタ自動車	28,403,118円	8,105,712円
ソニー		

トヨタ自動車、ソニーの連結売上高合計額

1990年代前半までの国内観光地

大量仕入れ大量送客のビジネスモデルによる旅行会社に依存

観光バス

観光地

景勝地

大型旅館

大型ホテル

旅行会社に依存しない、地域主体の観光の有り方が求められる。

↓

着地型観光が目される

ポイント①: フィルターをはずして素材を探せ

素材は何でもアリ！何がネタになるかはわからない、フィルター(こんなものはダメだろう)を過ぎずに見つめることで地域の価値は見える！

■地元的生活文化(祭り・食習慣・風物・遊びなど)

■環境・景観(美しいかどうかは問題ではない)

■近代化遺産、土木遺産、建築物(有名かどうかは問題ではない)

伝統産業「海女小屋体験」

伝統産業である「海女の生活」にスポットをあて、地元産物で贈れる海の食料に付加価値を与えてプログラム化

ポイント②：ウリを考える！

フックは何かを考えよう！ 異業種だけではなくポイントを入れ、地域愛が溢るせて貰わなければならない素材をこんごりするツアー

あなたの地域の魅力ある原産品を考えてください

- ・新しい田舎風産物、産山、山形、標高
- ・取組メニュー、季節、心付け、歴史、由来、お礼のつくりなど、資料、写真、音取り、録音
- ・食文化、川、田舎暮らし、漁業、観光、自然、歴史、お祭り、お祭り、お祭り
- ・自然、文化、食文化、お祭り、お祭り、お祭り
- ・自然、文化、食文化、お祭り、お祭り、お祭り

〇〇町の魅力をめぐる！
美しい風景をながらるる海産物、地元産物と温泉で仕上げの〇〇温泉ツアー

ポイント④：ターゲットのリサーチ

ターゲットによって編集の仕方は変わるもの。

使う素材、設定のテーマが決まっても、ターゲットにあわせて編集があって、初めて企画が成立する。

ステップ⑤：価格をどう考えるか？

価格設定：値ごころ感を意識しよう

競合するあらゆるモノ・コトと比べて競争力があるかどうかを見極めて価格を決めよう！

- 競合と同じ商品やサービスなのに、買うタイミングによって価格は違う
- 競合と同じ商品やサービスなのに、買う場所は店舗によって価格は違う
- 競合と同じ商品やサービスなのに、買う時期によって価格は違う
- 競合と同じ商品やサービスなのに、買う方法によって価格は違う

手配事項：旅行者の利便性を考えた手配と価格転嫁を考えた

何を手配しなくてはならないかを検討しよう！ 不必要な手配事項を加えるのは価格を上げてしまう。

環境・景観：工場見学コース

黄色い電気車が走る工場見学コース

ポイント③：資源を売り出すストーリー

資源が溢れるかどうかは編集次第！

- 観光資源でないものもストーリーで資源化
- 観光資源でないものもストーリーで資源化
- 観光資源でないものもストーリーで資源化

ストーリーがなければ創造する
もともとあったお菓子の名前からストーリーを始める
鎌倉箱楽家のホストハイ。

この人は誰でしょう？

一徹の成長巻
純正ASASARAユーザーの成長巻

【商品の経費構成】

企画・企画費	・ 商売調査経費 (交通費・資料費)
企画費	・ 仕入れ経費
企画費	・ 参加費用 (材料費・送料・送料)
企画費	・ 送料・送料
企画費	・ 送料・送料

近代化遺産・土木遺産・建築

「旅の思い出」

ツクリアス

NPJ法人松江ツーリズム協会

プログラムの収益をどう考える？

①初期コストをどこで補うかを考慮

②消費者の値ごころ感を考慮

収益 = 旅行代金 - 値ごころ感

ステップ⑥：どうい流手法を考える？

お金をかけない情報発信が肝要

熊本魅力発信プロジェクト(仮)

着地型商品創出 ワークショップ

マーケティングの考え方

2017年12月9日
KNT-CTホールディングス株式会社
地域事業部 室澤 美津男

内強	内容	外強	内容
STRENGTH (強み)	観光客に魅力を伝える	OPPORTUNITY (機会)	観光客に魅力を伝える
WEAKNESS (弱み)	観光客に魅力を伝える	THREAT (脅威)	観光客に魅力を伝える

SNSで観光地になったフォロワーズ

マーケティング × 海戦ゲーム

「売れる」ための方程式ではなく「売れるための解を探そう」

商品とするためには消費者にとっての価値を見つけなければならぬ

マーケティング手法によって価値が何かを伝える

価値が正しいかどうかを確認する

検証結果を情報として蓄積する

ニューツーリズム商品を作成するために必要なマーケティングプロセス

- 市場の分析 = 市場の切り分けにより、どのような市場が有望なのかを見極める
- 商品とマッチするマーケットを特定する
- 自社商品の影響における地位の確保

分析

マーケティングの基本プロセス

分析

立案

展開

4P: Product, Price, Place, Promotion

大塚には、最上層(上から下、下から上、最上層)マーケティングプロセスは適用する

マーケティングの考え方

2017年12月9日
KNT-CTホールディングス株式会社
地域事業部 室澤 美津男

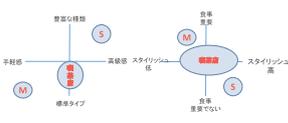
マーケティングの考え方

2017年12月9日
KNT-CTホールディングス株式会社
地域事業部 室澤 美津男

セグメンテーション & ターゲティング

- 市場を大きく異なる市場を細分化してある
- 各々の市場は互いに市場をつよめながら、おたがいの力、
- それほげか
- 表にしてみる

スターバックスとマクドナルドのポジショニング



練習

・コーヒー販売におけるスターバックスとマクドナルドのSTPの違いは

ターゲットとなる市場規模を推定する

- ・フェルミ推定
 - 安易に調査したり、検証することが難しい重的な判断を、様々な手掛かりをもとに、論理的に推定していく手法 (物理学者、エンリコフェルミ)
- 《有名なケース》
 - アメリカのシカゴにピアノの調律師は何人いるか
 - 参考情報:シカゴの人口300万人

《演習課題1》

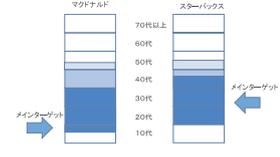
・日本の家庭用シャンプー製品の市場規模を推定しなさい

- スーツ着用はサラリーマン
- サラリーマン人口 1,278万人 × 20% ≒ 256万人
- ホワイトカラー 72% 2,540万人 × 7% ≒ 177万人
- スーツ着用 60% 1,778万人 × 60% ≒ 1,067万人
- 3日に1回 × 0.5回
- 車の単価 4万円程度
- 1067万人 × 0.5車 × 4万円 ≒ 2,134億円

(北海道大学観光学高等研究センター 日井特任教授作成資料より)

●矢野経済研究所のまとめによると、
・紳士用スーツの小売市場規模は2007年で2700億円
の裏込み。10年前の1997年の5335億円に比べほぼ半減

スターバックスとマクドナルド セグメンテーション&ターゲティング



シカゴのピアノ調律師の数の推定

- ・シカゴの人口300万人
- ・10階以上の高層ビルが平均3人程度と推定
- ・10階以上の高層ビルが平均100棟と推定している世帯があると推定
- ・ピアノの調律師は平均して1年に1回行うとする
- ・調律師が1日に調律師としてピアノの台数は3つとする
- ・週休二日とし、調律師は年間に約250日働くとする
- ・そして、これらの仮定を元に次のように推論する。
- シカゴの世帯数は、(300万人/3)=100万世帯程度
- シカゴでのピアノの総数は、(100万/100)100万台程度
- シカゴの調律師は、年間に100名程度と推定される
- それぞれ、(1人のピアノの調律師は年間に約250台程度を調律師する
- よって調律師の人数は100万/250=400名程度と推定される

《演習課題》

日本の紳士用スーツの市場規模(金額)を推定してください

- ・日本の総人口127百万人
- ・ポイント:
 - 対象者の割合
 - 年間の購入数
 - 単価

ケーススタディー(松江ゴーストツアー)



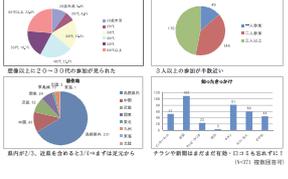
ケーススタディー(松江ゴーストツアー)

松江城周辺の、小泉八重が再訪した「怪談」ゆかりの地を訪ねて
へるんコース (ツアー部分は語り部によるナビゲート)

小泉八重の怪談を聞く。【旅行代金】5800円
小泉八重の怪談を聞く。【所要時間】約5時間
郷土料理を味わうコース。 16:00~21:00(8~10月)

カラコロコース
専門の語り部による怪談の【旅行代金】5000円
師匠。夜の文学散歩をナビ【所要時間】約3時間
ゲート。 18:00~21:00(8~10月)

ケーススタディー(松江ゴーストツアー)



地域資源を分類すると

自然資源	気象、水、風、土、木、石、山、川、湖、海、島、雪など
地理的資源	地形、土壌、地質、気候、気象、植生など
歴史資源	歴史、自然史、民俗、文化、芸術、学術など
産業資源	農業、漁業、林業、製造業、サービス業など
文化資源	伝統文化、芸術、学術、学術、学術など
人的資源	住民、観光客、ボランティア、専門家、研究者など
社会的資源	家族、学校、地域コミュニティ、NPO、NGO、企業など
経済資源	観光業、宿泊業、飲食業、小売業、サービス業など
環境資源	自然環境、文化環境、社会環境、経済環境など
情報資源	観光情報、歴史情報、民俗情報、学術情報など
制度資源	観光業、宿泊業、飲食業、小売業、サービス業など
管理資源	観光業、宿泊業、飲食業、小売業、サービス業など

地域資源の発掘手順



ケーススタディー(松江ゴーストツアー)

- ①「怪談」をテーマにする
- ②「怪談」をテーマにする
- ③「怪談」をテーマにする
- ④「怪談」をテーマにする
- ⑤「怪談」をテーマにする
- ⑥「怪談」をテーマにする
- ⑦「怪談」をテーマにする

ケーススタディー(松江ゴーストツアー)

- Product: ベース、小泉八重ゆかりの地を訪ねる松江ゴーストツアー
- Price: ベース、所要時間1.5時間、約1,000円
- Place: ベース、松江城周辺
- Promotion: ベース、SNSでの発信による認知向上



大原町市街の観光バス乗降場

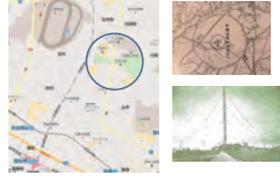
ケーススタディー(松江ゴーストツアー)

- ①松江城周辺の観光資源を調査
- ②松江城周辺の観光資源を調査
- ③松江城周辺の観光資源を調査
- ④松江城周辺の観光資源を調査
- ⑤松江城周辺の観光資源を調査
- ⑥松江城周辺の観光資源を調査
- ⑦松江城周辺の観光資源を調査

ケーススタディー(松江ゴーストツアー)

- ①松江城周辺の観光資源を調査
- ②松江城周辺の観光資源を調査
- ③松江城周辺の観光資源を調査
- ④松江城周辺の観光資源を調査
- ⑤松江城周辺の観光資源を調査
- ⑥松江城周辺の観光資源を調査
- ⑦松江城周辺の観光資源を調査

千歳市街の観光バス乗降場



07. ”オール熊本”で取り組む地方創生の情報発信拠点化のための人財育成講座

(1) サイバーセキュリティ及びネットワークマーケティングに係る実践的人財育成、(2) 地域再発見・郷土志向育成、(3) インターンシップ、(4) 国際化

プロジェクト
メンバー

熊本高等専門学校地域イノベーションセンター長 教授・小田川裕之

連携機関等

熊本県工業連合会、熊本県警本部サイバー対策課、Wix.com 社等

プロジェクトの概要・目的

平成28年度COC+特別プロジェクトを継続し、地方創生の情報発信拠点化のため次の人財育成講座を実施する。

1. IT利活用者向けセキュリティコース

- (1) 専門の講師によるサイバーセキュリティの動向、対応の解説
- (2) サイバー攻撃への対応実習

2. ネットワークマーケティング実戦コース

- (1) くまもとの地方創生と地産地消の情報発信のための Web 作成実践実習
- (2) 地域活性化とビジネスモデル教育

3. 地域再発見コース

- (1) 地方創生公開講座の実施

1については、高専の特性を活かし、県警サイバー対策課、ネットワーク企業等の協力の下、講義及びPBL手法を取り入れた実践的なスキル実習等を行い、情報発信に必須な ICT 技術（コミュニケーション性を強調した情報通信技術）を有し、サイバーセキュリティに対応できる人財の育成を行う。

2については、情報発信・ネットワークマーケティングに必須な最新の Web 作成について実践的教育を行う。

3については、地域志向を育成するための地方創生公開講座を行う。

具体的な活動内容と成果・効果

上記1について

- ・1月29日(月)に熊本高専熊本キャンパスにて「サイバーセキュリティ・トレーニング」を開催(社会人等を中心に校外から21名参加)

・実施内容

講演「サイバーセキュリティの動向とサイバー人材教育」(鶴岡高専 佐藤淳 教授)

演習「サイバーセキュリティ・トレーニング」(カスペルスキー社 松岡正人 氏)

・成果・効果

情報セキュリティにおけるリスクの予見、攻撃の発見、攻撃からの防御、インシデントへの対処などの演習を行い、地方創生の情報発信の拠点となる人材に必要な専門的スキルの向上を図った。

上記2について

- ・10月20日(金)、11月10日(金)に熊本高専熊本キャンパスにて「実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座(ベーシックコース)」を開催(高専生を中心に約100名参加)

・実施内容

演習「Wix.comを活用したサイト制作の基礎とウェブマーケティング」(日本Wix振興プロジェクト 神戸洋平 氏ほか)

・成果・効果

モバイル端末にも対応し操作も簡単なWixを教材に、HP作成やウェブマーケティングについて演習などを行い、地方創生の情報発信の拠点となる人材に必要な基礎的スキルの育成を行った。

上記3について

- ・財源の都合もあり、当初予定していた地方創生公開講座は本校公開講座として実施

① 実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座（ベーシックコース）

平成 29 年 10 月 20 日（金）と 11 月 10 日（金）の 2 回に分け、熊本キャンパスにて「実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座（ベーシックコース）」を開催した。

本講座は、実践的な技術者を養成する高等専門学校の特徴を活かし、くまもとの地方創生と地産地消の情報発信の拠点となる人材（財）を育成することを目的としたもので、日本 Wix 振興プロジェクトの代表理事 神戸洋平氏と専務理事 柳澤輝氏を講師として招き、モバイル端末に対応し操作も簡単なソフトウェア（Wix）を教材に、ホームページの作成方法やウェブマーケティングについて講座及び実習を行った。

今回の受講者は約 100 名で、主に高専生が占めたが、熊本県警のサイバー対策課などからも参加があり、受講後は分りやすかったとの感想が多数寄せられた。



② サイバーセキュリティ・トレーニング

平成 30 年 1 月 29 日（月）、熊本キャンパスにて「サイバーセキュリティ・トレーニング」を開催した。

本講座も、秋季に開催したネットワークスペシャリスト人財育成講座と同様、本校 COC+ 事業の一環として情報発信の拠点となる人材の育成を目的としたもの。

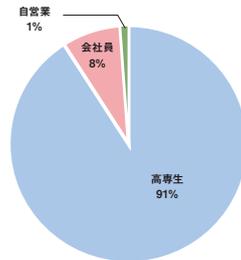
当日は、主に校外から 21 名の受講者があり、最初に鶴岡高等創造工学科教授の佐藤淳氏から「サイバーセキュリティの動向とサイバー人材教育」と題し講演が行われ、昨今の情報インシデントの傾向を踏まえて、最初から多様化するインシデントの全てに対応できる人材の育成は難しく、種々の問題を見据えつつも、まずは専門分野を持たせて教育を行っていくしかないなどの話があった。

講演に続き、世界的にも最高クラスのセキュリティソフトを有するカスペルスキー社のビジネスディベロップメントマネージャーである松岡正人氏から、同社のゲームフィクション理論に基づく教材を用いた演習が行われた。演習では、リスクの見え、攻撃の発見、攻撃からの防御、インシデントへの対処など様々な場面において自己のセキュリティ対応レベルがどの程度あるのかなど、セキュリティ意識の底上げがゲーム方式で行われ、受講者からは能動的に学べ、理解を深めることができ、実践を交えたもので今後の仕事に活かすことができるなどの感想が寄せられた。



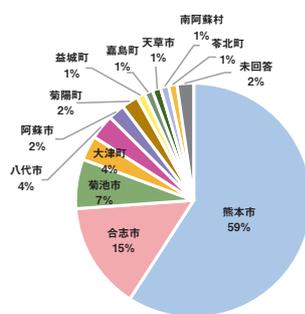
④ 職業別

高専生	80
公務員	7
自営業	1
合計	88



⑤ 住所別

熊本市	52
合志市	13
菊池市	6
大津町	3
八代市	3
阿蘇市	2
菊陽町	2
益城町	1
嘉島町	1
天草市	1
南阿蘇村	1
苓北町	1
未回答	2
合計	88



⑥ 時間数について

多い	適当	少ない	未回答
7	76	4	1

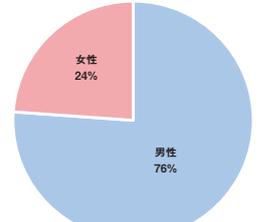
実践的ネットワークスペシャリスト人財育成講座（ベーシックコース）アンケート

① アンケート回答率

アンケート配付枚数	アンケート回答数	回答率
102	88	86.3%

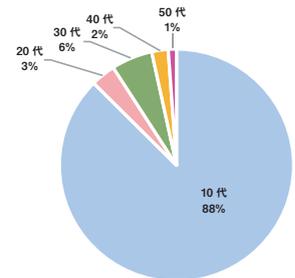
② 男女別

男性	67
女性	21
合計	88



③ 年代別

10代	77
20代	3
30代	5
40代	2
50代	1
60代	
合計	88



⑦ 内容はいかがでしたか

分りやすかった	普通	わかりにくかった
71	17	0

フリーコメント

とてもくだけた解説で聞きやすく分りやすかった
 詳しくいい説明で分りやすかった
 1つ1つ同時進行で説明していただいたので分りやすかった
 指導中に同時進行でやりながら教えてくれたので
 wixの操作が簡単で説明も分りやすかった
 wixで多くのことができることはわかったが、Webサイトといっても複数の種類があり、コーポレートなブログなのか1つの目的に絞ってもらうと理解できると思う
 説明が分りやすく、話も面白いので内容がしっかり入ってきた
 手順を1から説明してくれたから
 資料もわかりやすく、順番を説明してwixの使い方を理解できた
 専門性があると思う
 HTMLの授業を受けているが、それよりも便利だということが分かったから
 初めてでもついていけた
 wix自体の操作が簡単だったため
 プロジェクターを用いて1つ1つの動作を実演しながら説明していた
 必要な点をいつまんでいた
 詳しく教えてほしい
 wixの操作もそれ程むずかしくなく、また自分自身でやりながら受講できたので理解しやすかった
 ツールそのものが単純で分りやすかった
 簡単な事でもいかに教えてくださった
 進む速度がちょうどよかった
 詳しく説明してあった
 講座もとてもわかりやすかったが、wixが使いやすかったのもある
 作業もとても簡単で説明も分りやすかったから
 実践しながら進めてくれたから
 資料があったのでわかりやすかった
 スクリーンに映したりしてわかりやすかったから
 実際に見せてくれたスペースもこちらにあわせてくれたから
 普段やっていることに比べればとても簡単だったから
 説明がていねいだった
 まだまだ奥深く知りたい
 実録に使用している画面を見ながらなのでやりやすかった
 一つ一つ説明してくれたから
 とても聞きやすかった
 資料がわかりやすかった
 実際に講師の方に説明してもらったから

丁寧な説明だった
 やることに対しての説明が充分であったから
 Wix は使い方が簡単なので授業時間数は適当だと思う
 わかりやすく楽しい授業だったから
 モニターを使って説明していたところ
 スクリーンを使っていてよかった
 実録に話を聞きながらやってみること出来たから
 みんなのペースを確認しながら進めていた
 一番最初のところからひとつひとつ丁寧に説明されていた
 説明が丁寧だったので
 理解できたため
 楽しかったから
 一つ一つ丁寧に説明があったので分かりやすかった
 一つ一つの作業を丁寧に解説してくれた
 直感的な操作ができたため
 時間内で一定に理解出来る内容となっていました
 説明が丁寧で分かりやすかった、初めて使ったけど使いやすい
 自分でも簡単にホームページ作成できることが分かりやすく説明してあった
 丁寧な説明で理解することができた
 ホームページ作成、セキュリティなどわかりやすかった
 もっと難しいと思っていたので wix を知ってよかった
 PC の実機を使用していたので理解しやすかった
 実際に自分で動かしながら講座を受講できたためイメージしやすかった
 実際にパソコンを使用しながらの説明だったから分かりやすかった
 説明が長くても練習の時間が短くねむくなった
 操作の仕方など分かりやすく教えていただけたから
 分かっている事 (フォントサイズ変更等) は説明を省いてもいいと思ったから
 以前習った
 分かりやすいところと分かりにくいところが入り混じっていたため
 進行が少し早かった
 説明が多かったから
 少し触ったことがあったから
 聞きやすかったから
 使い方はだいたい分かったから

自分の知らない知識である HP 作成にとっても便利なツールを知ることができた
 多少説明が長く退屈したが、教えてもらって良かったため
 wix で一通りウェブページ作れるようになったから
 楽しかったから
 理解しやすかった
 自分で Web ページを作れるから概ね満足
 ホームページが比較的簡単に作れることがわかったから
 HTML 等のプログラミングで作ることがほとんどなので、あまり学ばない wix について学べたから
 無料で簡単にサイトを立ち上げることが出来ることは満足だが SEO 対策でドメインを取ったりする場合、料金が高く感じる。Wordpress なら 200GB が 500 円 / 月で運用しているこれまで Web 同作には難しいイメージがあったが、今回の講座で wix のことを知り、Web 制作に対するイメージが変わりました
 内容に不満はなかったが、自分が使うパソコンが不調で指示されたことができなかった
 楽しくてわかりやすかったです
 自分で自己紹介ページを作ることができた
 wix を扱う基本は理解できたから
 まあ普通に勉強になった
 初めてこのような作業をしたから
 Wix の内容をだいたい理解できたから
 分かりやすくスムーズに進めていくことができた
 理解しやすかったから
 自分の知らなかったことをたくさん知ることができたから
 新しいことを学ぶことができた
 時間が少なく基本的なことしか覚えなかった
 自分の好きなようにページを作れるのは面白いと思ったから
 簡単に取り組めたから
 わかりやすかったから
 wix について概ね理解できたため
 ある程度自分で理解できたから
 基本的な内容を理解できたため
 説明が途中で終わってしまったから
 説明が多かったから
 もっと詳しく知りたかった
 PC の問題か動作がうまくいかなかったことがあった
 パソコンの調子が悪く実際に動かすことができない部分もあったため
 PBL 研修室の PC で wix が何もできなかったため

⑧ 満足度はいかがでしたか

満足	概ね満足	普通
5	12	1
あまり満足できなかった	全く満足できなかった	未回答
0	0	0

フリーコメント

簡単に HP が作れるから
 自分のサイトを作れてクオリティが高かったの
 使いやすいとデザイン性でバランスもよかった
 普段 web ページ制作の授業を受けているので、とても興味を持ったし面白かった
 最新のことを学べている気がした
 ゆっくりしていかに説明があったから
 今後、自分で wix を使えるようになったから
 HTML を使わなくてもページが作れることを知ってよかった
 過不足がないから
 最初からある程度の出来の HP を作ることができたため
 簡単に Web サイトを作ることができた
 自分の知らなかった wix デザインツールを知ることができ、かつとても楽しかった
 もともと興味があったから
 分かりやすくて楽しかった
 自分だけのものを作ることができるとで楽しく満足した
 興味を引く内容で面白かった
 楽しかったから
 他の高校ではできない、良い体験ができた
 wix の使い方がわかった
 おもしろく作っていて楽しいから
 新しいことを知れてよかったから
 面白かった
 楽しかった
 色々な事ができて楽しかった、興味を持った
 Web サイトを作ったことがなかったので面白かった
 楽しかったから
 簡単にホームページを理解できたため
 講師の方の分かりやすい説明でとてもよく理解出来た
 難しいプログラムを知らなくても作成できる
 講師の先生と並行して作成していたので、これを参考にして応用できると思った
 基本的な使用方法が理解できたため
 今後普及していくであろうツールであり、知ることでよかった

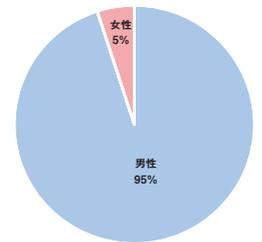
サイバーセキュリティ・トレーニング アンケート

① アンケート回答率

アンケート配付枚数	アンケート回答数	回答率
21	20	95.1%

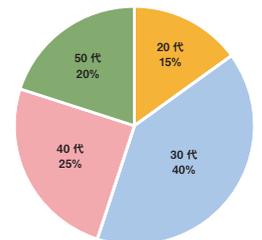
② 男女別

男性	19
女性	1
合計	20



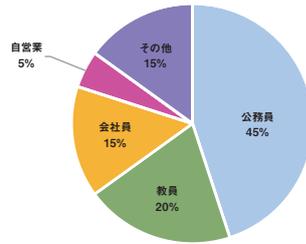
③ 年代別

10代	0
20代	3
30代	8
40代	5
50代	4
60代	0
合計	20



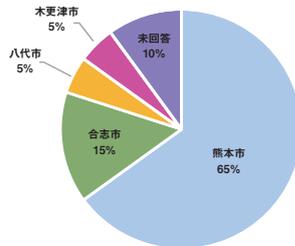
④ 職業別

公務員	9
教員	4
会社員	3
自営業	1
その他	3
合計	20



⑤ 住所別

熊本市	13
合志市	3
八代市	1
木更津市	1
未回答	2
合計	20



⑥ 時間数について

多い	適当	少ない
1	16	3

⑦ 内容はいかがでしたか

分かりやすかった	普通	わかりにくかった
14	5	1

フリーコメント

ゲーム形式で進んでいくので楽しかった。またリスクの事例も身近な内容で分かりやすかった。またリスクの事例も身近な内容で分かりやすかった。

ゲーム形式で自ら考えることにより、より理解を深めることができた。

簡単すぎる内容であったかと思えます。

説明が上手く理解しやすかったが、分からない単語があったため演習がゲーム形式で入りやすく勉強になった

一般的知識がついた

ボードゲームを使用していたので分かりやすく参考になりました

もう少し長くても良いと思えます。

実践を用いた講義だと分かりやすい

事例を交え、かつゲーム形式だったので考えながら講座を受けられてよかった

教材のシチュエーションが分かりにくかった、その後の説明についてはよく理解できた

色々なパターンでのセキュリティを判断できてとてもよかった

事例を挙げて説明されていたので分かりやすかった

講師の説明が明確

⑧ 満足度はいかがでしたか

満足	概ね満足	普通
5	12	1
あまり満足できなかった	全く満足できなかった	未回答
0	0	0

フリーコメント

状況が分かりにくいものがあった

身近なリスクがあり、思ってもいない事もリスクに繋がるのが分かった

とても勉強になり、今後の仕事にいかせようと思うため

セキュリティ対策として注意する点があったから

あと少しゲームの時間を増やしても良かったと思います

ロールの話をもっと少し聞きたかったです

時間の関係かかなり内容を省略していた

普段、セキュリティを甘く見ているところがあったため襟を正すことができた

実機を使いながらトレーニングできたので満足した

技術的な話ではなく、普段の生活の意識、防御スキル強化につながるので

08. 企業との連携による雇用創出と人材育成のためのプロジェクト

学生による「ものづくり(企画から販売まで)」体験

プロジェクト メンバー

熊本県立大学地域活力創生センター長・松添 直隆

連携機関等

熊本県立大学、熊本大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学、東海大学、尚綱大学・短期大学、熊本高専

プロジェクトの概要・目的

[目的]

COC+事業に取り組む大学・高等専門学校と熊本県内に所在する地場企業等との連携・協働により、学生に県内企業の魅力を知ってもらい、地元企業への就職に関心を持ってもらうとともに、学生時代に「ものづくり」の楽しさと厳しさを体験することによって、学生が将来、有能な社会人として活躍するための能力を高めることが目的である。

[概要]

企業の協力を得て、学生が実際に「ものづくり」を体験する取組であるが、製造品の企画から試作、製造、検査、販売、評価等、一連の流れをすべて経験する。今回は加工食品メーカーとの共同事業として実施する。この企業関係者の指導により、実際にその工場を使用して製造し、専属シェフの評価を経て、商品パッケージのデザイン等も検討し、各大学・高等専門学校の学園祭での販売を目指す。

具体的な活動内容と成果・効果

加工食品メーカーの株式会社釜屋の全面的な協力のもと、「うまかモン開発プロジェクト」を実施した。参加学生数は、尚綱大学短期大学部 12 名、崇城大学 6 名、尚綱大学 5 名、熊本県立大学 3 名、東海大学と熊本高専が各 1 名の合計 28 名だった。参加学生は 5 班に分かれて世界各地のカレーを製造した。

実習日程は以下の通り。

- ・第1回 平成29年6月10日(土) 9:00 ~ 15:15 (場所:熊本県立大学)
オリエンテーション(会社とプロジェクトの趣旨紹介)、社会人としての心構え、工場の品質管理、香辛料の説明、今後の予定の説明等
- ・第2回 平成29年6月17日(土) 9:00 ~ 16:30 (場所:ホシザキ熊本支店)
シェフから世界のカレーの特徴について講義、試食
- ・第3回 平成29年7月8日(土) 9:00 ~ 16:00 (場所:ホシザキ熊本支店)
前回試作品のレトルト加工したものを試食、味の調整、材料の計量、調理を体験。
- ・第4回 平成29年8月26日(土) 9:00 ~ 16:00 (場所:ホシザキ熊本支店)
味の最終決定。パッケージデザイン。原価計算をして売価決定
- ・第5回 平成29年9月16日(土) 9:00 ~ 16:30 ((株)釜屋第3工場(合志市栄))
試食・味の最終決定。仕込み、充填
- ・第6回 平成29年9月30日(土) 10:00 ~ 14:00 (場所:県立大学食堂)
各班から報告、試食、評価

完成した5種類のカレーはレトルトパックのセットで、10月27日、28日にグランメッセ熊本で開催された「2017 くまもと地域振興フェア WONDER MESSE KUMAMOTO」や県立大学の学園祭等で販売した。

売上金は、熊本城災害復旧の支援金「復興城主」として寄附され、参加学生には復興城主証が贈呈された。株式会社釜屋には六次産業化育成連絡会から感謝状が贈られた。



実習 1 (ホシザキ (株) 熊本支店)



実習 3 ((株) 釜屋第3工場)



実習 2 (ホシザキ (株) 熊本支店)



販売体験 (10月27日 くまもと地域振興フェア)

09. 自治体との連携による地方創生のための協働プロジェクト

震災復興・中山間地域サポート事業支援による地方創生

プロジェクト メンバー

熊本県立大学地域活力創生センター長・松添 直隆

連携機関等

熊本県立大学、熊本大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学、東海大学、尚綱大学・短期大学、熊本高専

プロジェクトの概要・目的

[目的]

産学官連携推進部会六次産業化育成連絡会と熊本県や県内市町村が連携して、地域の特産品の高付加価値化や販路開拓、食・観光・健康等の分野での連携強化等により、地域の雇用創出と所得の増加を支援することが、このプロジェクトの目的である。

[概要]

連携先自治体は、熊本県農林水産部流通アグリビジネス課及びむらづくり課、熊本県山都町等を想定している（今後、増加することもある）。いずれも地方創生事業の一環として自治体から提案される取組について、COC＋事業に取り組む大学・高等専門学校が応えるかたちとなる。

熊本県との連携事業については、いずれの取組も、県内の特定地域（市町村）を対象地区に設定し、そこでの住民や企業と大学・高等専門学校の教員・学生との協働によって、新商品の開発や地域づくりを支援する。

具体的な活動内容と成果・効果

①熊本県農林水産部流通アグリビジネス課との連携事業

キリンと日本財団の寄付による熊本地震復興支援事業の一つである「キリン絆プロジェクト 郷土の食材開発モデル事業」。熊本県内の市町村が地元の特産品を生かした新しい食品を開発して集客力を高め、地域の活性化を促進して地震の復興につなげる取組。甲佐町、南阿蘇村、西原村の3町村が取り組んだ。このうち甲佐町は熊本県立大学と尚綱大学・尚綱大学短期大学部が、南阿蘇村は東海大学がそれぞれ町・村の事業推進団体と連携し、教員が商品企画や製造段階で助言等を行い、学生や教職員が試作品の評価等を行って支援した。

完成品は平成30年2月21、22日に大阪で開催された「アグリフード EXPO 大阪」で紹介されたほか、甲佐町では地元のフェスティバルで販売された。

②くまもと県農林水産部むらづくり課との連携事業

むらづくり課が実施する「中山間地域サポート推進事業」に六次産業化育成連絡会が連携して支援した。美里町、苓北町、阿蘇地域、山都町、あさぎり町を対象に、熊本学園大学と熊本県立大学から各2教員とゼミ等に所属する学生、東海大学から1名の教員とその学生が参加した。

これらの成果発表会を平成30年2月16日に県立大学で開催し、大学生・高校生・対象地域住民・自治体職員・教職員など55名の参加があった。



キリン絆プロジェクト贈呈式



甲佐町フェスティバルでの販売



甲佐町開発商品のひとつ (1)



甲佐町開発商品のひとつ (2)



「アグリフード EXPO 大阪 2018」 出展 (甲佐町)



「アグリフード EXPO 大阪 2018」 出展 (南阿蘇村)



「中山間地域サポート推進事業」 成果発表会



「中山間地域サポート推進事業」 成果発表会

10. 自治体及び企業との連携による食品等の開発への支援事業

研究シーズの広報と研究者・研究内容へのアクセス促進

プロジェクト メンバー

熊本県立大学地域活力創生センター長・松添 直隆

連携機関等

熊本県立大学、熊本大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学、東海大学、尚綱大学・短期大学、熊本高専

プロジェクトの概要・目的

[目的]

地方創生が叫ばれる中、一次産業をはじめ、多くの地域資源に新たな付加価値を与えることで、地場産業の萌芽・育成・発展を図っていくことが求められている。このような地域課題の解決に対して、熊本県立大学研究者の役割や期待は高くなってきている。本事業は、本学研究者のポートフォリオを団体・自治体に周知することによって、新たな支援・発展に結び付けることが目的である。

[概要]

事業では、熊本県立大学が有する研究・教育シーズを広く広報し、それらの有効活用を促進させることを目指す。特に、熊本県立大学における6次産業化支援の具体例を携わった教員自身が紹介する。また、その他の研究者の紹介も行い、本学の研究が地域で活用され、より地域創生に寄与できるものとしてアピールする。さらに、連携（共同研究等）を円滑に行うための相談窓口を設置する。また、研究者の情報などにアクセスしやすいように、ホームページ等で周知を図る。

具体的な活動内容と成果・効果

[概要]

- ・イベント名：2017クマモト地域振興フェア ワンダーメッセ
- ・期日：平成29年10月26日、27日 午前9時～午後5時
- ・場所：グランメッセ熊本（熊本県上益城郡益城町福富1010）
- ・主催：株式会社肥後銀行、くまもと地域振興フェア実行委員会（熊本観光連盟、熊本県物産振興協会、熊本産業文化振興(株)、(株)くまもとDMC)

[目的]

熊本県立大学が有する6次産業化支援研究シーズの発表及びマッチングを行うために、2017クマモト地域振興フェアワンダーメッセに出展した。

[説明]

ブースでは、本学が昨年作成した研究シーズ集の配布及び研究者による研究説明。本学の食育活動パネル展示および実演。熊本地震で倒壊した文化財「ジェーンズ邸」の復興募金を募っている丸山ゼミ（総合管理学部）によるペーパークラフト作成体験コーナーや同ゼミが作成したVR技術による「ジェーンズ邸再現」。環境共生学部堤教授のマイクロバブル技術の展示説明会を開催した。

展示ブースには、本学の研究内容に興味を示した個人や企業の来場も多く。その中から、4件の問い合わせがあり、次年度の連携が決まった。

（4件の内訳：リコーイメージング、エース出版、九州財務局、九州農政局）



包括協定自治体からゆるぎゃらの応援



子どもたちはVR技術に大喜び



マイクロバブル技術には多くの来場者が



研究内容に興味をしめす来場者



ペーパークラフトを制作する子供達

11. 農林水産業の強化を支援するための COC+シンポジウム等開催事業

第1次産業の競争力強化と6次産業化育成を目指すシンポジウム等の開催

プロジェクト メンバー

熊本県立大学地域活力創生センター長・松添 直隆

連携機関等

熊本県立大学、熊本大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学、東海大学、尚綱大学・短期大学、熊本高専

プロジェクトの概要・目的

[目的]

COC+事業は地域協働機関の連携を重視している。それだけではなく、事業目的を達成するためには、地域に所在する、あるいは地域に関わりのあるさまざまな機関間の情報交換や協働も重要だと考えられる。そこで、地域の雇用創出と若者の地元定着を実現するために、その地域の課題の明確化とその解決策等を関係機関が一体となって検討し、より望ましい地域づくりを実現するためのシンポジウムを開催することが、本プロジェクトの目的である。

[概要]

シンポジウム等を開催して、第1次産業の競争力強化と6次産業化の分野で、地域で取り組まれている事業に関する情報交換や経験交流、あるいはそれらの課題を明らかにし、解決策を検討し合い、諸事業の新たな発展を目指す。

実施形態としては、シンポジウム、パネルディスカッション、フューチャーセッション、懇談会等のうち、最も効果的で効率的なものを採用することとする。

具体的な活動内容と成果・効果

①「地域創生円卓会議 in 天草」開催

平成29年8月25日(金)に天草信用金庫本店(天草市)で、六次産業化育成連絡会主催、天草信用金庫の共催による「地域創生円卓会議 in 天草」を開催した。一般社会人(天草地域2市1町の自治体職員を含む)42名、高校生42名、高校教職員13名、大学生20名、大学・高専の教職員12名、その他講師等19名の148名が参加した。

天草の「宝物」(雑節、ボタンボウフウ、ヒオウギ貝、観光)について担当者から報告があった後(ヒオウギ貝は天草拓心高校マリン校舎の高校生が報告した)、7つの班に分かれて、これら天草の宝物をさらにブラッシュアップするというテーマでワークショップを行い、その結果を全体で報告し合った。

ヒオウギ貝を報告した高校の担当教員は、後日さっそく、ワークショップの意見を参考に、廃棄していた貝殻を活用したアクセサリーを試作するなど、参加者の満足度は非常に高かった。

②「山都町シンポジウム」開催

平成29年12月16日(土)に矢部保健福祉センター(山都町)で「山の都で明日への活力増強! ~農泊で癒やしと新体験~」をテーマにシンポジウムを開催した。

須川一幸氏((株)地域振興研究所所長)の基調講演「農泊で、地域の宝物を活用せよ!」の後、「農泊と地域の活性化」をテーマにパネルディスカッションを行った。境章氏(熊本学園大学教授)の他、九州農政局課長補佐や講演者に地元の若者2名も加わって、宮崎県五ヶ瀬における農泊推進事業を参考にしつつ、農泊を通じた山都町の活性化について議論した。会場の学生から山都町の魅力に関する発言等もあった。



天草円卓会議 (会場風景)



天草円卓会議 (宝物の紹介)



天草円卓会議 (高校生・大学生・社会人混成のワークショップ)



ワークショップで話された内容を班毎に報告



山都町シンポジウム (会場風景)



山都町シンポジウム基調講演



山都町シンポジウム (パネルディスカッション)



山都町シンポジウム (会場からの発言)

12. 農林水産業の成長のための高等学校との連携事業

高等学校と大学・高等専門学校との連携による第1次産業の競争力強化支援

プロジェクト メンバー

熊本県立大学地域活力創生センター長・松添 直隆

連携機関等

熊本県立大学、熊本大学、熊本学園大学、崇城大学、九州看護福祉大学、東海大学、尚綱大学・短期大学、熊本高専

プロジェクトの概要・目的

[目的]

農業・園芸・食品及び水産系のコースを持つ高等学校（以下、農業系高等学校）は、新商品の開発や試作・販売、農業技術や品種の改良などで、優れた教育実践を行っている。これら高等学校の取組や成果が、第1次産業の競争力強化と6次産業化にとって大きな効果を及ぼすことが期待できる。また、熊本市内にほぼ集中している大学・高等専門学校と異なって、高等学校は県内各地に広く散在し、地元産業との結びつきもある。

このような利点を有する高等学校と、本来大学が有する教育・研究シーズを連携させることが、このプロジェクトの第1の目的である。さらに、高等学校と大学・高等専門学校との連携強化によって、互いの教育・研究を刺激し、活性化させること、大学・高専生と高校生との交流が、高校生による地元大学・高等専門学校の理解の深化と大学・高専生の勉学・研究意欲の向上につなげることが、本プロジェクトの第2の目的である。

[概要]

他のプロジェクトを実施する際も、高等学校の協力や高校生の参加が得られるが、このプロジェクトは、高等学校との連携事業に焦点を当て、各農業系高等学校が持つ特色を、大学や地域自治体等との連携でさらにブラッシュアップし、持続的な雇用創出と若者の地元定着につなげるような施策を実施する。

具体的な活動内容と成果・効果

①「2017 高大連携勉強会」開催

平成29年12月1日（金）に県立大学総合管理学部大演習室で、農林水産業の成長を目指すための高大連携の意義を考える「平成29年度COC+事業 2017 高大連携勉強会」を開催した。高校教職員（30名）始め、大学・高専の教職員や学生、行政機関の職員等67名が参加した。

佐藤晋也氏（（株）アグリコミュニケーションズ津軽・代表取締役社長、青森県立五所川原農林高等学校・元校長）による基調講演「6次産業化推進と農業教育」と中宮光隆による事業報告「熊本県におけるCOC+事業について」のあと、「熊本県の農林水産業の成長を目指す高大連携の意義と課題を考える」をテーマにパネルディスカッションを行った。パネリストは、熊本県立菊池農業高校校長、熊本県教育委員会高校教育課主幹、阿蘇中央高校スーパーティーチャーの他、山内良一氏（熊本学園大学理事・教授）、大塚弘文氏（熊本高専副校長）が務めた。

②その他の高大連携の取組

年間を通じて高校（特に農業系高校）と六次産業化育成連絡会との連携を重視した。天草や山都町でのシンポジウムや中山間地サポート推進事業報告会（いずれも別件の特別プロジェクト）にも、高校生や高校教職員が参加した。



高大連携勉強会 (1)



高大連携勉強会 (2)



高大連携勉強会 (3)



高大連携勉強会 (4)



高大連携勉強会 (5)



高大連携勉強会 (6)

13. 杖立温泉地域フードツーリズム支援プロジェクト

杖立温泉の食の魅力を再発掘し、フードツーリズム開発へ向けたフィールドワークの実施

プロジェクト
メンバー

尚綱大学生生活科学部 准教授・狩生 徹

プロジェクトの概要・目的

熊本市近郊でも認知度が高いとは言えない小国・杖立温泉地域の郷土料理や薬草、ジビエ料理、温泉蒸気を利用した調理法は、熊本市や近郊に居住する観光客への高い訴求力が期待できることから、飲食・宿泊客増加につながる。また日帰り観光客向けの農産加工品開発は、観光オフシーズンの雇用維持につながることを期待できる。

本申請プロジェクトでは、管理栄養士養成課程である尚綱大学生生活科学部学生のフィールドワークを実施し、食に関する杖立温泉・小国地域の特産食材等を調査する。従来の地域での取り組みに不足していた域外からの目線、若年者や女性の感性、調理技術等が本学学生の持つ優位性であり、それらを活用した農産加工品開発や調理レシピ開発により、温泉観光地のフードツーリズム活性化を目指すものである。参画する学生にとっては、当該調査の経験により、地域食材や地産地消の意義、加工法の理解等の学修効果が期待できる。

具体的な活動内容と成果・効果

プロジェクトでは、管理栄養士養成課程である尚綱大学生生活科学部学生が、小国・杖立温泉地域の食材等について調査・調理のフィールドワークに取り組んだ。平成 29 年 10 月 22 日に道の駅小国ゆうステーション及び薬味野菜の里小国等を訪問し、小国地域の農産品、旬の食材等についての調査を行った。その後杖立温泉共同利用蒸し調理場を利用して、加熱調理時間や食材の組み合わせ等について検討を行った。平成 29 年 11 月 5 日には、杖立温泉会館で開催された杖立温泉みちくさ市に参加し、杖立地域振興に関する九州大学田北講師の取組内容について意見交換を行った。上記フィールドワークでの学習内容を基に、後日小国地域特産農産品を利用した蒸し調理レシピ例「里芋ポタージュ」や「フルーツプリン」等について学生・教員で検討を行った。

特別プロジェクト事業により、教員、学生共に小国、杖立地域の郷土料理、保存食、ジビエ料理、温泉蒸気蒸し料理などについて理解を深め、観光資源としての利用方法について検討することが出来た。具体的な波及効果の把握は単年度では難しいが、継続的な地域振興への取り組みを続けることにより、県内外からの観光客、宿泊客増加へとつながることが期待できる。今後は、フィールドワーク取り組み過程や調査結果を学生が参加する SNS などで情報周知することや、加工事業者が取り組みやすいレシピ提案などを成果として残すことで取り組み内容を紹介していきたい。参加学生には、地方創生の課題解決による地域食材や加工法の理解などの良い学修機会となったことから、今後も継続的に実践的な食に関する地域振興企画への参加を進めていきたい。



14. 学生の視点を生かした熊本インバウンド観光促進プロジェクト～教育プログラム連携

海外に知られていない熊本の魅力を再発見し、観光関係の業界を理解する

プロジェクト
メンバー

尚綱大学文化言語学部 准教授・北口 英穂

プロジェクトの概要・目的

日本全国でインバウンド観光が盛り上がりを見せているが、熊本も例外ではない。しかし、若者は必ずしもこの動きに積極的ではない。そこで、本プロジェクトでは学生（若者）の視点で熊本の魅力を再発見し、その情報を SNS などを通じて海外に情報発信することで、学生の熊本理解を促進し、インバウンド観光で盛り上がる熊本の観光関連の業界について理解することを目標とした。

具体的な活動内容と成果・効果

① インバウンド観光受入先進事例「八代市」の見学（「サービスマーケティング入門Ⅱ」連携）

[平成 29 年 12 月 10 日、参加者 15 名]

大型クルーズ船を受け入れている八代市内の既存の観光名所である八代城跡、松浜軒、八代神社を見学し、若者の視点から見た外国人観光客に新しいアピールポイントなりうる新しいグルメや魅力を再発見することを目的としてフィールドワークを実施した。受入で潤う人々と蚊帳の外に置かれる人々の現状を垣間見える貴重な機会となった。



② 特別講演会の実施（「サービスマーケティング入門Ⅱ」「サービスマーケティング演習Ⅱ」連携）

① インバウンド観光に関する特別講演会の実施（平成 30 年 1 月 25 日）受講者 20 名

マーケティングボイス代表取締役の鶴本浩司氏を講師にお招きし「デジタルを活用したマーケティングと熊本インバウンド促進」というタイトルで特別講演を実施した。

 地(知)の拠点
(COC+) 外部講師による特別講義のお知らせ

下記の日程で特別講義を行います。
観光地活性化におけるIT活用などに関するお話が聞ける
大変有意義な講義ですので是非出席してください！

- ・講義テーマ：観光とデジタルマーケティング
— 地方都市におけるインバウンド—
- ・講師：株式会社マーケティング・ボイス
代表取締役 鶴本浩司様

日時：平成30年 1月25日(木) 4限 14時40分～
場所：11講義室

※尚綱大学は熊本大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の参加校です。

鶴本氏講演会のお知らせ



鶴本氏の講演会の様子

②コンテンツツーリズムに関する特別講演会の実施（平成30年1月30日）受講者25名

株式会社佐竹の佐竹信彦氏を講師にお招きし「コンテンツツーリズム～持続可能な観光とビジネスの両立に向けた取り組み～」というタイトルで特別講演を実施した。

2つの講演を通じ、SNSなどを用いたインバウンド観光促進の現状と課題を把握し、コンテンツツーリズムの可能性を理解することができた。

 **地(知)の拠点**
(COC+)外部講師による特別講義のお知らせ

下記の日程で特別講義を行います。
アニメ、映画、コスプレなどのコンテンツを利用したコンテンツツーリズムについて聖地巡礼などの話を中心に分かりやすくお話しいただきます。
是非出席してください！

- ・講義テーマ：コンテンツ・ツーリズム
～持続可能な観光とビジネスの両立に向けた取り組み～
- ・講師：株式会社 佐竹代表取締役 佐竹信彦様

日時：平成30年 1月30日(火) 4限 14時40分～
場所：11講義室

※商科大学は熊本大学「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の参加校です。

佐竹氏講演会のお知らせ



佐竹氏の講演会の様子

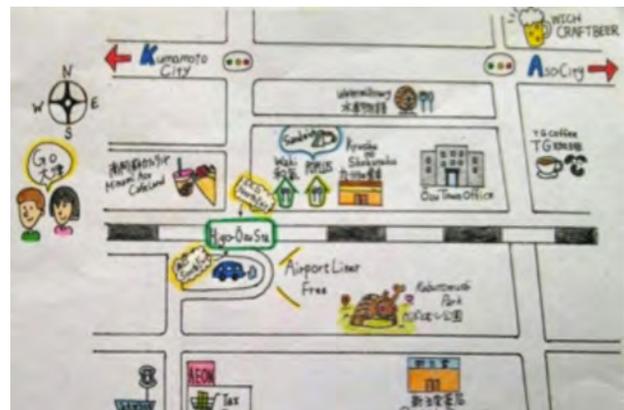
③大津町外国人旅行者向け情報発信と観光マップ作成（平成29年度内完成予定）

熊本の魅力を再発見し、外国人旅行者に発信する一つの形として、WEB上（「おるとくまもと」等）で記事を発信し、同時に外国人旅行者向け観光マップを作成している（3月納品予定）。

近年外国人旅行者が増加している肥後大津駅徒歩圏内のカフェ特集で取材を行い、記事は日英中韩で作成を予定している。この取り組みは次年度以降のSL、PBL系授業と連携して継続していく予定である。



マップの表紙



作成した英字版マップ

15. 安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト

行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証に向けた取り組み

プロジェクト メンバー

尚綱大学短期大学部幼児教育学科 准教授・増淵千保美

連携機関等

熊本県内の保育施設（中九州学園、中九州第二学園、清水ヶ丘保育園、認定こども園やまなみ、認定こども園双羽幼稚園、北部中央幼稚園、なぎさこども園、三気の里、はつのはつあそびの森こども園など）

プロジェクトの概要・目的

本プロジェクトの目的は、早期離職による保育士不足の解消を含めた保育環境を改善し、子育て世代が安心して働ける環境をつくることである。現在、保育施設では早期離職が問題となり、保育士不足により、保育の質が保てない状況がある。早期離職予防により、子育てしやすい環境をつくることは、子育て世代の地域の雇用促進・定着の一助になると考える。本プロジェクトの長期的な目的は、保育士不足の改善により熊本が働きやすい保育環境となり、女性の就労者の増加、子育て世代の就労者の他都道府県からのIターン・Jターンの増加である。

具体的な活動内容と成果・効果

連携施設におけるヒアリング調査（平成 29 年 11 月 30 日実施）では、新任職員をはじめとする年間の園内研修のシステムづくりと離職状況について聴き取りを行った。この調査結果の分析や保育施設との協議を踏まえて、新任保育者の育成プログラムにもつながる、保育施設内の保育の質保証及び保育者の相談支援活動に取り組んだ（5 施設：平成 29 年 11 月～平成 30 年 2 月）。そこでは、指導者からみた保育の現状・課題点、保育の質保証及び保育者への相談支援の実践についてヒアリング調査（平成 30 年 2 月 20 日）を行うことで、保育の質向上にもつながった。また、早期離職予防に関する講演会及びグループワーク（平成 30 年 3 月 10・11 日）を開催し、職場での平和的なコミュニケーション力の向上につなげることができた。

保育の質保証のもう一つの課題として、子育て支援を行っている団体・施設へのヒアリング調査を実施し、子育て家庭の現状と課題の把握を行った（平成 29 年 11 月～平成 30 年 3 月実施）。これらのヒアリング調査の結果をもとに、今日の子育て家庭の実態や子育ての悩みを抽出し、出前育児講座を自治体とも連携しながら開催することができた（平成 30 年 1 月～3 月）。これらの育児講座は、地域の保護者の学習保障につながり、子育てを支える一助となった。



自己肯定感を高めるワーク（尚綱）



出前育児講座（菊陽町）

COC+「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」

I はじめに—尚絅子育て研究センターについて

尚絅子育て研究センターでは、保育・教育現場を中心に地域との連携を大切にしながら、安心して子育てができる環境づくりに取り組んでいます。以下は、本報告の他にしている事業です。

1. 乳児保育研究会の開催

今年度で丸3年を迎える乳児保育研究会では、30名以上の保育者が集い、毎月定例(水曜日14～16時、尚絅大学武蔵ヶ丘キャンパス・尚絅子育て研究センター)で実践事例をもとにした共同研究を行っています。多くの参加者は、その日に話し合ったことや学んだことを翌日には職場の同僚に伝え実践するなど、当研究会の役割が実践と研究を結びつけるものとして定着しています。



(左)乳児保育研究会の様子。「子どもを中心に」据えた保育の議論
(右)実践をもとに研究報告

2. 地域との連携

現在、尚絅子育て研究センターの母体である地域連携推進センターでは、熊本市、菊陽町、合志市と包括連携協定を締結しています。地域との連携としては、子育て支援や地域活動に参加している市民を対象とした研修講師、地域住民を対象とした育児講座の共同開催などに取り組んでいます。

また、新たに新設された小規模保育や家庭的保育の連絡組織である熊本県地域型保育連絡協議会とも連携しながら、定例会議の開催や熊本県家庭的保育者現任者研修の企画・運営を行っています。今年度は、5回シリーズで右記研修会を開催しました。どの回も熱心に学ぶ保育者の皆さんの姿勢が印象深く、保育の質の向上に寄与することができました。



平成29年度研修会テーマ

- ①「わらべうた」(5 / 20)
- ②「子どもの安全と環境」「子どもの栄養管理」(7 / 30)
- ③「保護者理解と対応、保育者に求められる専門性」「子どもの脳は疲れている」(9 / 3)
- ④「子どもの心身の発達—足育」(12 / 3)
- ⑤「子どもの心身の発達と保育」(1 / 21)

3. 尚絅大学短期大学部附属こども園との連携

本学には、附属こども園があります。在園児の発達支援や保護者への相談体制の充実に向けて、本学科の専門教員によるスーパーバイズやカウンセリング等の対応を行っています。また、保育や子育てに関する専門知識を提供することで、附属こども園の乳幼児の保育・教育実践の向上に努めています。

地域の未就園児・保護者に対しては、附属こども園に設置されている子育て支援室「どんぐりルームころころ」にて、毎月、企画・運営に携わっています。育児講座の講師派遣(保育・栄養)や専門研究ゼミの学生との交流の場の設定など、大学との連携を深め、地域に向けた子育て支援の充実に取り組んでいます。その結果、顔の見える関係での日常的な子育て相談にも応じられる関係づくりができ、安心して子どもと親と一緒に過ごせる場所となっています。



育児講座—子育て井戸端会議

4. 公開シンポジウム・保育実践講演会の開催

平成29年度で第17回を迎えた公開シンポジウムは、毎年多くの保育関係者、子育てに関心のある市民の参加があります。今年度は、8月6日に今井和子氏(子どもとことば研究会代表)を講師に「大切にしたい0, 1, 2歳児の保育」という講演会とシンポジウムを行いました。230名以上の参加者に恵まれ、会場は熱気にあふれていました。県内3か所の保育施設からの実践報告もあり、会場の皆さんと乳幼児の保育について深め合うことができました。

また、今年度で第4回を迎える保育実践講演会では、保育現場の課題に対応した実践的な講演会を開催し、明日からの保育の質向上につながる研修の機会を提供しています。



第17回公開シンポジウム記念講演

6. 広報—「児やらい」第14巻、学園ウェブページによる情報発信

当センターの取り組みは、随時、活動記録として尚絅学園のウェブにて報告しています。さらに、毎年、センターの研究誌「児やらい」にも事業報告として掲載しています。今年度は、第14巻を発行し、平成30年2月には同別冊「幼児教育学科50周年記念誌」を刊行しました。

論文やすぐれた保育実践報告も掲載し、近年では、外部の研究者や保育現場からも注目されるようになりました。平成29年度の第三者評価(短期大学部)では、本誌について高い評価を受けることができました。



「児やらい」第14巻別冊
幼児教育学科50周年記念誌

II 「安心して働きながら子育てできる熊本プロジェクト」

「安心して働きながら子育てできる環境づくり」をテーマに
二つの研究に取り組む

- 保育者の早期離職予防に関する研究・活動
- 子育ての実態把握と安心して子育てできるための出前育児講座

「保育の質向上」をめざし、
新卒保育者の早期離職予防のための
新任育成のあり方について、アンケート
やインタビューで調査・検討

子育て中の親の悩みに
対応した学習・交流の場の提供し、
熊本の地で安心して子育てできる
環境づくりの実践的研究

1. 保育者の早期離職予防に関する研究・活動

(1) 近年の学生と保育の現状

① 平成19～29年度就職・内定状況など

平成30年2月15日現在

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
卒業生数	178	174	183	161	140	163	162	162	151	162	154	149	146
就職(内定)者数	168	160	168	149	129	150	155	155	145	155	150	143	136
こども園								1	2	2	10	25	24
幼稚園	30	35	33	20	20	17	17	20	11	12	22	6	11
保育園	122	103	125	118	99	119	122	128	123	121	115	105	94
施設	7	4	3	8	6	9	11	3	6	9	2	3	5
企業を含むその他	9	18	7	3	4	5	5	3	3	11	1	4	2
進学者数	3	3	1	0	1	0	1	2	1	1	1	1	2
未内定者数	4	4	6	6	6	7	5	1	2	2	1	0	6
就職を希望しない	3	7	6	6	4	6	2	4	3	4	2	5	2
就職(内定)率	97.7%	97.6%	95.5%	96.1%	95.6%	95.5%	97.5%	99.4%	98.6%	98.7%	99.3%	100.0%	95.8%
専門職就職(内定)率	94.6%	88.8%	95.8%	98.0%	96.9%	96.7%	96.8%	98.1%	97.9%	92.9%	99.3%	97.2%	98.5%

- 就職率は毎年約97%を達成
- そのうち、専門職への就職は約97%…本学の特徴

② 平成17～29年度 求人件数

平成30年2月15日現在

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
熊本県内求人件数 ()内は求人数	125 (218)	160 (280)	139 (241)	188 (249)	155 (264)	205 (341)	242 (367)	265 (523)	257 (464)	273 (576)	294 (621)	280 (571)	340 (665)
こども園				36	19	29	33	38	32	39	23	16	63
保育所				138	114	150	179	192	181	196	204	189	248
幼稚園				11	17	19	24	26	25	25	30	28	
その他(託児所など)				3	5	7	6	8	16	6	6	1	30

* 横山情報整備・広報委員、恵村、小山、甲斐就職課員調べ
施設こども園」は移行予定の園も含む
* 平成17～19年度は、幼・保・施・その他に分けた件数データはなし

- ここ数年、求人件数は急増しており、求人数に直すと学生数(定員150人)の約4倍の求人をいただいている

保育者不足の背景に保育者の早期離職も一因と考えられる
……1年目で離職率が30%近いという報告もある

早期離職予防の取組へ

(2)「先行研究からみる早期離職理由」(平成 27 年 10 月)

● 保育者の早期離職—3つの背景

- ① 個人的要因(結婚/精神的な不調/適性)
- ② 職場の状況(職場の雰囲気/職場の人間関係)
- ③ 労働条件(労働時間の長さ/残業が多い)

「職場の人間関係」が
離職理由として最も多い

…単に相性だけではない
複合的要因があるのでは？

特に新任保育者は、
同じ仕事も時間がかかる…
余裕がない職場環境
先輩保育者への気遣い

(3)「早期離職の少ない保育施設への聴き取り調査」(平成 28 年 3 月)

平成 28 年 3 月に熊本県内で本学卒業生の早期離職が少なかった 10 施設(規模や地域性も考慮しながら幼稚園、認定こども園、保育所の中から選定)を対象に、園として新任保育者を育成する際、保育現場ではどのような力が必要とされており、どのような研修が展開されているのか、また保育の実際・保育者の悩み・勤務状況、保育者の保育の質向上への取り組み等のインタビュー調査を行いました。研修に関しては、各園とも園内外の取り組みに参加しており、テーマ設定やそれぞれの内容に工夫をしていることがうかがえましたが、多くの園から語られたことは、何か特別な研修を実施しているわけではないということでした。

そのような中、強く印象に残ったことは、新任保育者を理解しようとする姿勢と、新任保育者を同僚の一人として受け入れようとする温かい雰囲気作りでした。「新任は何がわからないかがわからない」とか「わからないことを尋ねたり、事前に確認したり、相談する余裕もない」という新任理解などは、新任 1 年目の姿を的確に表していて、新任保育者に対して、ゆっくりと経験する時間を保証するか積極的にチャレンジしてもらうかの違いはありますが、あまり最初から多くを求めすぎずに、長い目で保育者としての育ちを見守り、同じ仲間として認めている姿が、早期離職の少ない園からは感じられました。これは、就職を目指す学生が職場を選択するポイントの上位に挙げる「職場の雰囲気」への取り組みを、早期離職が少ない園が丁寧に意識的に実施していることの証左として考えられます。新任保育者にとっても全職員にとってもコミュニケーションがとりやすい雰囲気作りはとても大切で、そこから日常の保育が円滑に運ぶ土壌が作られていると感じられます。それらの園からは、新任から中堅、そしてベテランまで保育者同士の育ち合う様子が伺えました。

(4)「保育者の早期離職理由とその背景に関するインタビュー調査」(平成 28 年 3 月)

平成 28 年 9 月から 10 月にかけて保育施設における離職した当事者からの聴き取りも行いました。具体的には、平成 26 年度に尚絅大学短期大学部幼児教育学科を卒業し、新任一年目(平成 27 年 3 月までに)で保育職を離職した 7 名に対してインタビューし、離職時期、経緯、新任保育者を育成する仕組みや保育環境、離職した理由や経緯について語っていただきました。(2)「早期離職の少ない保育施設への聴き取り調査」の結果と比較分析し、早期離職の要因とその防止のための条件や課題をトータルにとらえ、質量ともに重層的な問題の構造把握を行ってきました。

具体的な成果として、離職の少ない保育施設に対するインタビューでは、各園で独自に行っている新任保育者の育成の取り組みや姿勢・心構えについての共通項を把握することができ、今後の新任保育者育成にむけての課題が明らかになりました。さらに、離職者インタビューでは、当事者が語る離職要因から、「勤務環境」「子どもへの対応を含む保育観の違い」「職場の人間関係」「相談体制」「施設内の新任保育者への研修体制」「新任保育者理解」「自信喪失」「就職活動の不十分さ(ミスマッチ)」「職場の意志決定の仕組み」など、今後の離職予防の課題を明らかにすることができました。

(5)「新任保育者の成長に向けた環境づくり」(平成 29 年 3 月 19 日)

それまでの調査研究を踏まえて行政・保育施設・養成校の協働した保育環境の質保証に向けての取り組みをすすめていくために、平成 29 年 3 月 19 日に「新任保育者の成長に向けた環境づくり」についての講演会・セッションを開催しました。これらの成果を報告した講演会では、113 名(73 施設)の参加があり、本プロジェクトへの理解を広げることができました。

参加者アンケートでは、「貴学のこの課題に対する取り組みが具体的によく理解でき、非常に心強く感じた」という感想もいただき、年度当初、協力・連携園として登録していただいた園に加えて、新たに 10 ヶ所以上の研究協力の申し出を得ることができました。

また、講演会では、大阪府豊中市にあるせんりひじりこども園の副園長、学年主任、3 歳児クラス担任から実践を交えた講話をいただき、その内容を踏まえてセッションを設けたことにより、それぞれの参加者がより具体的・実践的な課題を各職場に持ち帰ることができ、有意義な会となった。参加者アンケートでは、「新人のみならず、中途採用者などの就業意識の向上など悩んでいる時なので、実践できることもあり、大変参考になった。」「他園の取り組みや色々な先生方の悩みや意見、話を聴くことができとてもよかった」などの意見が多数あり、今後、保育施設と養成校とが連携した新任保育者の早期離職予防モデルの構築に繋がる効果を得ることができました。



「新任保育者の成長に向けた環境づくり」講演会

(6)「連携施設におけるヒアリングおよび保育の質保証・保育者への相談支援」

連携施設におけるヒアリング調査(熊本市N園：平成29年11月30日実施)では、新任職員をはじめとする年間の園内研修のシステムづくりと離職状況について聴き取りを行いました。その中で特徴的だったのは、①職員間の共通理解を深めるための学習・研修に加えて、各クラスの保育課題について実践研究を深めていくことができるバックアップ体制(勤務時間内の外部の研究會への参加など)、②クラス毎のチーム編成に加えて、保育経験年数別にもグループをつくり同世代の職員同士の支え合い、③趣味や特技を活かしたサークル活動を通じた職員の関係づくりを行っています。このような体制のもとで保育の楽しさを実感し遣り甲斐をもてるような職場づくりに取り組んでいます。今後の新任保育者の育成プログラムの貴重な参考資料となりました。

これまでの調査結果の分析や保育施設との協議を踏まえて、新任保育者の育成プログラムにもつながる、保育施設内の保育の質保証及び保育者の相談支援活動に取り組みました。具体的には、40年以上の保育経験をもつ乳幼児保育の専門家に保育現場(5施設：平成29年11月～平成30年2月)に出向いていただき、実際の保育場面での助言・指導をいただきながら、保育者の悩みや保育の困難場面に対する相談支援を行いました。

また、指導者からみた保育の現状・課題点、保育の質保証及び保育者への相談支援の実状についてヒアリング調査しました(H30年2月20日)。そこでは、①子どもの姿からどのように保育を創造していくか、②実践課題を明らかにし、発達や子ども理解などの共通理解を深めていくこと(共通文献の学習会も必要)、③管理者の保育方針・理念と現場保育者の思い・願いを橋渡ししていく第三者の役割等、多くの課題点が浮き彫りになり、今後の保育の質向上に向けた取り組みの一助となりました。

(7) 早期離職予防に関する講演会の開催

(6)の調査研究をもとに、保育者同士のチームワーク力の育成と併せて、保育者自身のセルフケア力の向上や共感的なコミュニケーションのスキルアップについて研修の場を提供し、早期離職予防につなげていきたいと考えています。平成30年3月10日(土)に「保育に生かそう！つながりのスキル」というテーマで講演会を開催します。講師は、教育学博士でホリスティック教育を実践している野沢綾子氏です。10日午後、11日午前・午後には、同講師による「コネクションプラクティス講座」も開催し、少人数でのグループワークを通して、職場での平和的なコミュニケーションの実践力の向上につなげていきたいと企画しています。



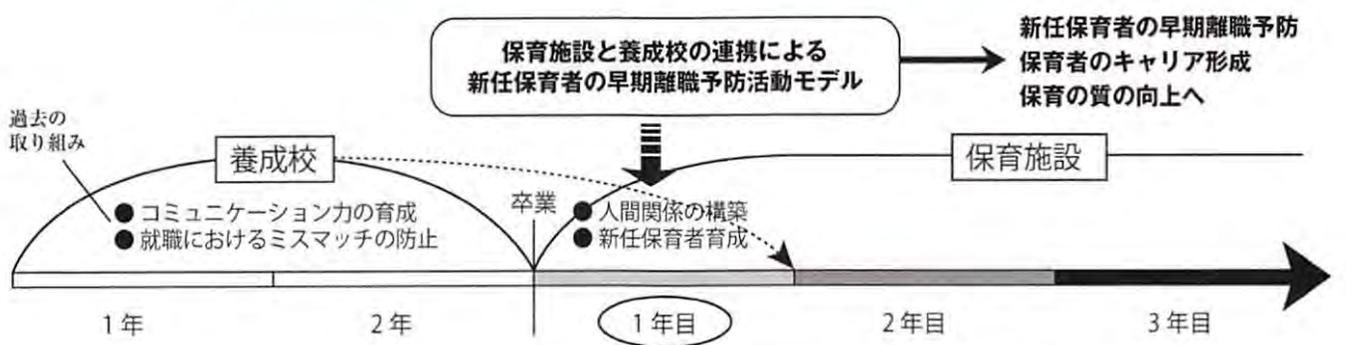
「保育に生かそう！つながりのスキル」講演会

(8) 保育施設と養成校が連携して新任保育者の早期離職予防活動モデルの構築へ

これからも早期離職予防のために現場との連携を続け、養成校(学生の質の変化)の現状の理解をいただきながら、職員間における新しい保育者集団の在り方や、新人の育成について、ともに考えていく必要を感じています。

さらに離職する割合が最も高い新卒1年目に着目し、養成校から卒後1年目、現場から新人1年目という、養成校から保育現場への新任保育者の受け渡しの時期を両者が連携して支援をすることで、早期離職予防につながる事が期待できます。これまでの調査をさらに深め、新任保育者育成と早期離職予防のための活動モデルを構築していく方を今後の課題として考えています。

養成校と保育現場が互いの領域に乗り出し、「ケア」と「トレーニング」を行っていくシステムの構築をめざしたい



最も離職する……卒後1年目の壁を乗り越えれば、割合が高い(※) 長く就労できる可能性が高くなる!

※ 卒後1～3年までの間に、それぞれの年に離職する割合は、
1年目 15.4%、2年目 11.1%、3年目 9.2% (平成16年度卒業生～学生離職状況調査・尚綱大学短期大学部)

2. 子育ての実態把握と安心して子育てできるための出前育児講座

(1) 子育て支援者からみた子育て家庭の実態把握

保育の質保証のもう一つの課題としては、保護者が安心して子育てできる環境づくりにどう取り組んでいくかも今日的課題としてあげられます。そこで、子育て支援を行っている団体・施設へのヒアリング調査を実施し、子育て家庭の現状と課題の把握に努めています(平成29年11月～3月まで実施中)。調査協力施設は、子育て支援センター(2カ所)、地域の子育てネットワーク(2ヶ所)、家庭支援を実施している保育施設(1ヶ所)、ひとり親家庭の支援団体(1ヶ所)の計6ヶ所です。

現時点で明らかになりつつことは、上記の支援を利用している家庭は、その多くが就園前の子をもつ親であるため、子育ての悩みは「排泄(おむつはずし)」「睡眠に関する悩み」「食生活(食べない・嘔めない)」「しつけの仕方・叱り方、接し方」など、どれも基本的な課題に関することが多く、日常的な関わりの中で相談支援をしていく必要があります。また、ひとり親家庭や親自身が疾患を抱えている場合は、さらに生活支援や制度利用に結びつけた支援も不可欠となり、妊娠・出産期から成人するまでの継続的な親子の支援体制の構築も課題となっています。

(2) 子育ての実態・悩みに応じた出前育児講座の開催

(1)のヒアリング調査の結果をもとに、今日の子育て家庭の実態や子育ての悩み(しつけや接し方、食生活、睡眠など)を抽出し、その内容に対応した保護者向けの出前育児講座を開催しました。また、今回は、包括連携協定を締結している菊陽町や合志市とも、子育て家庭の課題について協議し、出前育児講座を共同開催することができました。今後は、地域の子育て支援センターと連携しながら、大学の専門知識を活かしてフォローアップしてける体制づくりに取り組んでいきたいです。具体的には、以下の通りです。

●「お母さんの自己肯定感を高めるワークショップ」(子育て・しつけ)

開催日：平成30年1月17日

場 所：尚綱大学短期大学部附属子ども園子育て支援室「どんぐりルームころころ」

講 師：田中京子氏(元小学校教諭37年、コーチング・カウンセラー)、参加：親子10組



H30.1.17「自己肯定感を高める」ワーク

●「子どもの口の発達から全身の健康へつなげましょう」(身体発達)

開催日：平成30年2月5日

場 所：菊陽町光の森子育て支援センター

講 師：矢島由紀氏(ユキデンタルクリニック院長：佐賀市)、参加：親子20組、その他10名

●「親子でみそ作り」(食生活の改善)

開催日：平成30年2月15日

場 所：尚綱大学短期大学部附属子ども園子育て支援室「どんぐりルームころころ」

講 師：よかあんばい JAPAN、参加：親子9組

●「みんなでつくって食べて、遊ぼう会」(働く親と子の交流会)

開催日：平成30年2月24日

場 所：尚綱大学短期大学部武蔵ヶ丘キャンパス、参加：親子12組

●「こどもの夜更かしはなぜ悪い?」(子どもの睡眠時間と睡眠の質)

開催日：平成30年3月19日

場 所：合志市

講 師：三池輝久氏(熊本大学名誉教授、小児科医)



H 30.2.5「子どもの口の発達」講座(菊陽町)

平成30年2月24日に開催した育児講座終了後の働く保護者からの感想では、子どもの食事、睡眠、子どもの急病(発熱等)など、「基本的な生活習慣や子どもの健康に関すること」、きょうだい関係、上の子と下の子への対応、保育施設と家庭での育て方の共通理解などの「子どもへの接し方」、親子の時間、家庭の生活時間、食事を作る時間がないなどの「仕事と生活の両立」が課題としてあげられていた。

また、「病気になったとき、サポートしてくれる体制、病後に預けられる施設の充実や職場に休みを取りやすい雰囲気などがあれば助かる」「夫婦間の仕事の割合や社会自体に子育て、家庭間の充実を浸透させてほしい」「生活、食事、睡眠、きょうだい短時間勤務、フレックスタイム制、家庭内勤務、看護休暇、小学生までの育児時間、学童保育の充実」、「育児休業給付金の延長」、「仕事が遅くなった時、土日に仕事が入った時に預かってくれる施設がほしい」「子どものために休んだとき、それ以外の人にしわよせがいかないような制度が広く普及してほしい」など、安心して子育てするためには、働く条件や社会の意識、男女の協力関係なども課題としてあげられていた。

以上のような育児講座や親子の交流の場を提供しながら、当事者同士が話し合い、気づき、学び合う機会が生まれることによって、子育ての悩みや困難を乗り越えながら、互いに安心して子育てができる仲間づくりにつながるよう実践的に研究をしていく必要があります。さらに、「働く」環境として職場内外の条件や意識改革も必要です。その両視点をもちながら、今後も研究をすすめていきたいと思っております。

Ⅲ 今後の展望

COC+ 平成 30 年度の目標

(1) 保育の質向上に関する研究・活動

平成 30 年度は、連携施設等と協力しながら、研修から実践場面での助言・指導、省察、相談対応までの一連の過程を実践的に行い、保育者の早期離職を防止し保育の質向上につなげていく取り組みを進めていきます。また、そのために保育施設の訪問調査を行い保育の質向上への取り組みの参考資料としていきます。

具体的な目標は、以下の 3 点です。

- ① 保育に関する研修会の開催を通して保育の質向上につなげる
- ② 保育施設における保育実践の助言・指導・相談活動を通して、保育者の質向上につなげる
- ③ 保育者が気軽に相談でき、中立的な立場を保持しながら共感・助言ができる「保育 café」の開催を通して早期離職予防の取り組みにつなげる

以上の目標に向けて取り組むことにより、保育に関する研修から実践の助言・指導、さらには保育者が気軽に相談できる体制づくりまでの一連のプロセスをモデルとして構築することが期待できます。そのことにより、離職予防及び保育の質が向上し、保護者が働きながら安心して子育てできる環境づくりへとつながると考えています。

(2) 子育てを応援する環境づくり

働きながら安心して育てられる環境づくりの一環として、①と連動させながら、保護者の子育て不安や困難を共有し合える「子育て café」の開催や、子育ての悩みに具体的に対応した研修・学習の機会を提供していきます。これらの取り組みを通じて、子どもの成長・発達を理解し、保護者自身が子育ての見通しをもって、仕事と両立させながら子どもと向き合う関係をつくっていきけるよう行政・保育施設等とも連携しながら取り組みを進めていきます。

具体的な目標は、以下の 3 点です。

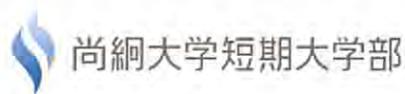
- ① 子どもとの関わり方や育ちに関する研修の場を設置し、保護者の子育て不安の解消に取り組む
- ② 保護者の子育てや生活の不安や困難を共有し、適切な助言ができる「子育て café」の開催を通して子育ての応援体制のモデル化に取り組む
- ③ ①と②の取り組みを通して、子育て家庭の現状と課題を共有し、行政機関や保育施設と養成校が連携した子育ての応援体制づくりに取り組む

保護者への研修や相談活動を通して、子育ての不安や悩みを随時解消することができ、保護者同士が互いに子育てを支え合える関係づくりにもつながります。このような活動を行政機関・保育施設とも共有しながら、子育てを応援できる体制づくりのモデルとして構築することが期待できます。

尚綱大学短期大学部幼児教育学科について

尚綱大学短期大学部幼児教育学科は、1968 年の開学科以来、人間性豊かな「幼稚園教諭」及び「保育士」の育成を目指し 50 周年を迎えました。現在(平成 30 年 3 月)まで 9,629 名の卒業生を送り出し、今でも県内の保育者の約 3 割が本学卒業生です。

「保育は尚綱」。そういう声も多くいただいています。私たち尚綱大学短期大学部幼児教育学科は、これからも保育現場に、そして学生に対しても責任ある養成校でありたいと思っています。



尚綱大学短期大学部武蔵ヶ丘キャンパス
〒861-8538
熊本県菊池郡菊陽町武蔵ヶ丘北 2 丁目 8-1

TEL : 096-338-8840
FAX : 096-338-9301

幼児教育学科の最新ニュースは、
こちらをご覧ください

<http://www.shokei-gakuen.ac.jp/univ/yokyo>



16. 熊本県内企業における多文化共生実現のための調査研究

熊本における多文化共生社会の実現

プロジェクト
メンバー

尚綱大学文化言語学部 准教授・山川 仁子

プロジェクトの概要・目的

熊本県内の企業における外国人労働者の受け入れ実態に関する調査研究を実施して、受け入れの問題点を明らかにするとともに、外国人労働者及び受け入れ企業に対するサポート体制や、留学生・外国語を学ぶ学生と企業のマッチング・サポート体制の提案を行う。これにより、熊本県における中小企業の生産性の向上・活性化、学生の雇用拡大、および多文化共生社会の実現を目指す。

熊本市商工会議所が平成 27 年度に実施した調査では、外国人労働者の受け入れに関心はあるが、人材やノウハウの不足、漠然とした不安などにより実施に踏み出せないと回答する企業が多くみられた。本調査の結果は、ホームページ及び報告書等で公開するとともに調査協力企業へフィードバックして、情報を共有する。また、熊本県の企業が求める外国人受け入れに関わる人材やスキルを明らかにして教育機関と情報を共有し、人材育成および雇用促進を目指す。

具体的な活動内容と成果・効果

熊本県内の中小企業等における外国人労働者の受け入れに関する問題点や取り組みについて、熊本工業連合会および熊本市商工会議所にインタビュー調査を実施した。また、インタビュー調査の結果をもとに、熊本県工業連合会会員 324 件に外国人労働者の受け入れに関するアンケート調査を実施した。アンケート内容については熊本市商工会議所の協力を得た。

調査の結果、外国人労働者の雇用経験がある企業は全体の約 2 割であることが明らかになった。また、「雇用を計画している・機会があれば外国人を雇用したい」と考えている企業は 3 割を超えていた。雇用・受け入れの経験がある企業では、雇用・受け入れにあたっての問題・課題として、外国人の「日本語能力」を挙げる企業が大半を占めた。しかし、企業が求める「日本語能力」の水準についてはさまざまであった。例えば、社内コミュニケーションができる程度の日本語力、客とのコミュニケーションが取れる日本語力、専門用語・専門知識に基づく指示が理解できる日本語力を求める企業などが見られた。さらに、高齢者とのコミュニケーションをとるために、方言の理解を求める企業も見られた。一方、現在、雇用・受け入れを実施していない企業で、今後も雇用・受け入れを考えていない理由として多かった回答は「受け入れ体制への不安」と「外国人の日本語能力への不安」であった。

今回得られた調査結果をもとに、今後も熊本県工業連合会や商工会議所等と意見交換を行いながら、外国人の受け入れを実施・検討している企業へのサポート体制や、外国人労働者へのサポート体制の検討・提案を行う予定である。また、調査結果は、ホームページ等で公開するとともに、調査協力企業・団体へフィードバックする予定である。

H29 COC+事業 特別プロジェクト

「熊本県内企業における多文化共生実現のための調査研究」アンケート概要

実施者: 尚綱大学 山川仁子

アンケート送付先: 熊本県工業連合会 平成 29 年度会員企業 324 件

実施方法: 質問紙調査(無記名), 選択式(一部自由記述)

回答方法: ①調査用紙(別紙)による回答(郵送, FAX)②インターネットからの回答

調査内容: 外国人労働者の受け入れに関する意見(別紙)全 14 問

回答数: 162 件(郵送: 141 件, FAX: 6 件, インターネット: 15 件), 回収率 50%

結果の公開方法: ①熊本工業連合会会報, ②アンケート回答者のうち希望者, ③尚綱大学地域連携センター平成 29 年度報告書, ④外部講演(平成 30 年 4 月 25 日ラウンドテーブルなど)

結果概要(抜粋):

【外国人労働者を受け入れ経験がある企業】

問 6: 外国人を雇用または受け入れた理由

1 位: 人手不足を補うため, 2 位: 外部からの依頼, 3 位: 語学力を補うため

問 7: 外国人労働者の雇用・受け入れの苦勞・問題点

1 位: 日本語能力, 2 位: 特にない, 3 位: 日本文化や慣習に対する理解

【外国人労働者を受け入れる予定・検討中の企業】

問 11: 今後, 外国人労働者の雇用・受け入れにあたっての問題・課題

1 位: 日本語能力, 2 位: 日本文化や慣習に対する理解, 3 位: 法律・制度上の制約

問 14: 受け入れ希望, 受け入れ経験についての意見

- ・コミュニケーションに不安がある
 - ・互いに言葉がわからず苦勞した
 - ・言葉があまり通じなかったため作業の連携がうまくいかず怪我をした
 - ・日本語教師の派遣を希望
- など, コミュニケーションの問題・不安が多数。

今後の予定:

- ・結果の公開①②の実施(現在準備中)
- ・熊本市, 工業連合会, 商工会議所等と連携した中小企業支援策の提案(現在関係各所と提携し, 進行中)
- ・熊本市, 国際交流事業団, 日本語学校と連携した外国人労働者への日本語フォロー策の提案(現在, 関係各所と提携し, 準備中)

17. 地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援

地域高校での技術支援と発酵・醸造、食品衛生管理関連セミナーの開催

プロジェクトメンバー	崇城大学生物生命学部応用微生物工学科 教授・寺本 祐司 崇城大学生物生命学部応用微生物工学科 教授・三枝 敬明
連携機関等	県立南稜高校、くまもと地方産業創生センター 等

プロジェクトの概要・目的

熊本県球磨地方での一次産業の競争力強化、6次産業化への支援を推進することを目的に県立南稜高校や球磨焼酎酒造組合等と連携し、南稜高校を拠点とした当該地域の農業及び食品産業の振興に向けて、当該高校や産業が取り組む研究開発活動への支援を行いつつ、高校生及び地域の産業界を対象としたセミナーを学生参画により実施する。

具体的な活動内容と成果・効果

熊本大学、東海大学と共同で、地域の高校生及び球磨・人吉地域の企業関係者を対象としたセミナーを、発酵、一般食品加工、食品機能性といった幅広い内容で、学生参画(①②)により下のとおり4回(5日)開催した。

- ① 2017.11.20 中小企業大学校人吉校 対象 球磨・人吉地域の企業関係者 9名
【講師】 崇大 寺本祐司、三枝敬明、熊大 林田安生、【講師補佐】 崇大 学生3名、熊大 池崎健介
【内容】 講演「世界の珍しい発酵食品」他
- ② 2017.11.20 熊本県立南稜高等学校 対象 食品科学科学生 28名 人吉球磨地域の企業関係者 1名
【講師】 崇大 寺本祐司、三枝敬明、【講師補佐】 崇大 学生3名、熊大 池崎健介、林田安生
【内容】 講演「発酵食品製造における音波の活用」他
- ③ 2017.12.8 県立南稜高等学校 対象 食品科学科学生他 35名
【講師】 東海大 安田 伸、【講師補佐】 熊大 林田安生
【内容】 講演「農学とフードサイエンス」他
- ④ 2018. 1.26 及び 29 (2日) 県立南稜高等学校 対象 食品科学科学生 28名 人吉球磨地域の企業関係者2名
【講師】 熊大 林田安生、【内容】 講演「産業における酵母の利用」他

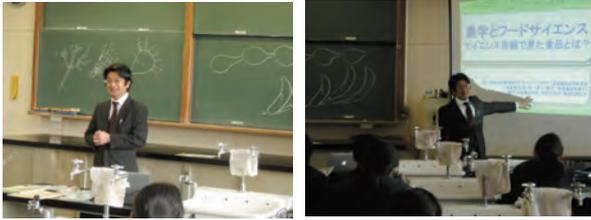
※講師敬称略

また、くまもと地方産業創生センターが球磨・人吉地域の企業からの球磨焼酎酒造業者等からの新製品開発や製品製造に関する経営技術相談11件(相談者名等詳細は部外秘)を受け、必要に応じ連携機関等と共同で対応した。その中で、県立南稜高等学校でのカリキュラムによる対応の検討や本学による酵母育種に係る技術指導を行った。

今後、強化した連携により共同研究の実施等を検討していく。

寺本教授・三枝教授がCOC+「地域の人材育成と産業支援」セミナー開催

「日本学術振興会(JSPS)の地(知)の拠点大学による地方創生推進事業」
 Program for Promoting Regional Revitalization by Universities as Centers of CommunityCOC+Program (COC+)
 のもと、本学 生物生命学部応用微生物工学科の寺本祐司教授・三枝敬明教授が「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援」セミナーを、11月20日(月)21日(火)の2日間で開催しました。



中小企業大学校人吉校で講演する本学の三枝教授。人吉の焼酎メーカーの方々がお見えでした。(11月20日)



人吉の焼酎メーカーの方々とディスカッションする熊本大学林田博士(写真中央)。(11月20日)



南陵高校生に講義する三枝教授。(11月21日)



講義に聞き入る南陵高校生。(11月21日)



南陵高校生に講義する熊本大学の林田博士。(11月21日)

「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援」セミナー

- ▽1日目 地域企業対象セミナー
 (日時) 2017年11月20日(月)
 (会場) 中小企業大学校 人吉校
 (対象) 球磨焼酎酒造組合および関連企業の方々、南陵高等学校教職員
 (講演)
 ○15:00~「COC+プロジェクトによる産学連携」 熊本大学 林田 安生 氏
 ○15:40~「世界の珍しい発酵食品」 崇城大学 寺本 祐司 氏
 ○16:10~「発酵食品製造における音波の活用」 崇城大学 三枝 敬明 氏
 ○16:55~ 質疑応答等
- ▽2日目 教育機関対象セミナー
 (日時) 2017年11月21日(火)
 (会場) 南陵高等学校 球磨郡あさぎり町
 (対象) 南陵高等学校の生徒と教職員
 (講演)
 ○13:15~ 「カビの形態観察について」 熊本大学 林田 安生 氏
 ○13:30~ 「おもしろい発酵食品と微生物」 崇城大学 寺本 祐司 氏

○14:20～ 「麹のはなし」 崇城大学 三枝 敬明 氏
○15:10～ 質疑応答等

活発な討論も行われ、セミナーは両日とも盛会に終わりました。

■過去のニュース

寺本教授・三枝教授がCOC+米麹関連技術検討会 開催
http://www.sojo-u.ac.jp/faculty/department/microbial/news/161104_007483.html

崇城大学 HP 記事 2018年03月07日
http://www.sojo-u.ac.jp/faculty/department/microbial/news/180307_008578.html

くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラムで応徴長濱教授、三枝教授が発表

くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム2018
日時：平成30年3月2日
会場：グランメッセ熊本

長濱一弘教授は「地域の問題を微生物で活かし、持続可能社会を目指す」をテーマに発表した。研究室の学生たちも手伝い、活気に満ちたブースには沢山の訪問者があった。
三枝教授は、COC+ 事業特別プロジェクト「地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援」について発表した。このプロジェクトは崇城大学寺本・三枝研究室、東海大学の安田伸准教授、熊本大学くまもと地方産業創生センターとともにやっている。



左より甲斐さん（応徴3年）、船越（応徴4年）さん、長濱教授、眞崎さん（応徴4年）



左より三枝教授、八代高専弓原教授（応徴専攻平成4年修了）、長濱教授

研究・技術の特徴

JAVAによるシステム開発、Android 端末で利用できるアプリケーションの作成を行う。ある自治体でコミュニティベースの運行表とGPSデータを組み合わせたアプリを作成。

Keywords: 情報案内作成 / インディアビュ / 地域PRビデオ制作 / オープンデータ

技術や知財、得意分野のアピール

地域課題の解決を目的に、地方自治体を中心とする公共データを活用した活動を行っている。地域貢献活動として、自治体と協力して情報案内講座を開催し、情報弱者といわれる高齢者にスマホの上手な利用方法などを教えている。また、ストリートビューの室内版インタビューを作成し、実績を上げている。今後も自治体と協力して情報案内講座を開催していきたい。



ICTで地域活性

熊本学園大学
熊本学園大学
境塚教授
<https://www.facebook.com/WGUERILAB/>

〒862-8680 熊本中央区大江 2-5-4
Email: akr-sakai@kumagaku.ac.jp

所属名 経済学部
情報メディアの活用、
地域情報化に関する分野の研究

くまもと産業復興支援プロジェクトフォーラム2018

研究・技術の特徴

地域産業及び教育機関と連携した地域の人材育成と産業支援
共同実施機関：崇城大学、東海大学、県立南陵高等学校、熊本大学くまもと地方創生センター
本プロジェクトでは、崇城大学、東海大学、熊本大学、県立南陵高等学校が連携し、産業界からの技術相談等に対応しつつ、発酵・醸造や食品衛生管理に関するセミナー（実習を含む）を実施した。

Keywords: 発酵・人畜 / 地域産業 / スーパープロフェッショナルハイスクール / SPH

技術や知財、得意分野のアピール

熊本県球磨地方は県を代表する酒類である米焼酎の産地であると共に、味噌・醤油や豆腐の味噌漬け等、様々な発酵食品が製造販売されている他、菓等の農作物の生産が盛んな地域である。本プロジェクトでは、当該地域での一次産業の競争力強化、6次産業化への変遷を推進することを目的に、平成28年度よりスーパープロフェッショナルハイスクールの認定を受け、地域の食品開発センターとしての確立や食の6次産業化を担う人材の育成等に取り組んでいる県立南陵高校や球磨発酵酒造組合等と連携し、南陵高校を拠点とした当該地域の農業及び食品産業の振興に向けて、当該高校や産業が取り組む研究開発活動への支援を行いつつ、高校生及び地域の産業界を対象としたセミナーを実施した。

共同研究者



COC+ 事業特別プロジェクト

崇城大学
崇城大学
寺本祐司教授

〒860-0082 熊本市西区池田 4-22-1
Email:

所属名 生物生産学部 応用微生物工学科
専門分野 応用微生物学、食品機能学

18. ココプロジェクト (COC+PROJECT)

地元企業の魅力発見!シンポジウム

プロジェクト
メンバー

東海大学経営学部 教授(就職委員長)・木之内 均

連携機関等

東海大学キャリア就職センター

プロジェクトの概要・目的

[概要] 地元企業の魅力発見!シンポジウム (ココプロジェクト)

- ・東海大学熊本キャンパス学生の就職先として熊本地元企業を紹介し、その魅力から熊本県内就職率アップを目指す。
- ・シンポジウムを通じて、地(知)の拠点の大学として地元企業の活性化に寄与・貢献する人材を育てる。
- ・シンポジウム形式で1回3~4社の人事採用担当者・先輩社員を呼び学部別に4回開催する。
- ・開催時期:12月以降4回に分けて開催。
- ・対象:熊本キャンパスの経営学部・基盤工学部・農学部の3年次生を中心とするが、他学部・他学科の参加も可とする。また、熊本県内への就職を考える機会として2年次生、1年次生の参加も可とする。
- ・招聘企業は、健康食品の通信販売業務(えがお)、不動産(コスギ不動産)、ラジオ、テレビ放送(熊本放送)、情報サービス業(KIS)、種子・農業資材・農薬などの卸・販売(興農園)、牛乳・乳製品の製造・販売(熊本乳業)、食料品製造業(熊本製粉)、その他の製造業(金剛)、設備工事業(SYSKEN、電盛社)、広告業(熊日広告社)、宿泊業(くまもと新世紀)、観光業(くまもとDMC)

[目的]

- ・学生に熊本地元企業の認知度を高め、地元就職しようという意識高揚を図り地元就職希望者アップを目指す。
- ・地(知)の拠点としての強みを生かして、卒業生の地元就職率アップを目指す。
- ・全国に展開する東海大学の特徴を活かしJターン、Iターン、Uターン就職先としての熊本を印象付ける。
- ・地元企業側に東海大学の学生の魅力に直接触れてもらい会社説明会前に知り合いとなる。
- ・入学・卒業・就職の太い流れを構築する(卒業生、後援会組織の活用)。

具体的な活動内容と成果・効果

- ・『業界研究 地元企業発見 就活シンポジウム』と銘打って経営学部・基盤工学部・農学部学生を対象に4回開催した。就活を控えた3年次生を対象に約200人の学生が参加した。
- ・「地元企業で働く良さ」・「会社概要の説明」・「先輩社員による働く現場の話」等を聞き、その後のフリーディスカッションを通じて合同企業説明会では聞き難い細部にわたる質疑応答の機会を実現することができた。
- ・就活解禁の3月中旬に開催した学内合同企業説明会ではシンポジウム参加企業のブースに一番に行く学生もあり、本企画の効果を確認できた。
- ・先輩社員からの説明を受けることにより、学生と会社との距離が近づき就職についての理解が深まった。
- ・運営方法としては、1回当たり3~4社の人事採用担当・先輩社員を招聘、学部別を実施。
- ・招聘企業は(株)えがおホールディングス、(株)熊本放送、(株)KIS、(株)コスギ不動産、(株)興農社、熊本乳業(株)、熊本製粉(株)、金剛(株)、(株)SYSKEN、(株)電盛社、(株)熊日広告社、(株)くまもとDMC、くまもと新世紀(株)の13社。
- ・シンポジウムの模様を熊本キャンパスのホームページに掲載し、本COC+助成金を活用した活動を全学及び一般に知らしめた。さらに3月下旬に開催された全学就職委員長会議で熊本での成功事例として報告した。







業界研究

地元企業発見
就活推進シンポジウム
就職委員会

2017年

12月19日 火 15:00-17:00

会場：東海大学 熊本キャンパス 本館4階 0403教室

対象：経営学部・経営学科3年生を中心としますが
他学部・他学科どなたでも参加OKです。

熊本県内への就職を考える機会として2年生、1年生も

参加企業 是非参加してください！

- (株) えがおホールディングス
人事担当 内村 智里
酒匂 明彦
- (株) 熊本放送
人事担当 浦谷 英明
営業局 市原 直明
- (株) KIS
取締役 竹下 力
人事担当 園田 晃弘
- (株) コスギ不動産
総務人事課 林田 昌治
取締役営業戦略室 小杉 堅太

【お問い合わせ】 キャリア就職担当
経営学部 就職委員長 木之内 均 内線:5717 TEL 096-386-2831



業界研究

地元企業発見
就活推進シンポジウム
就職委員会

2018年

1月18日 木 16:30-18:00

会場：東海大学 熊本キャンパス 本館4階 0403教室

対象：農学部3年生を中心としますが
他学部・他学科どなたでも参加OKです。

熊本県内への就職を考える機会として2年生、1年生も

参加企業 是非参加してください！

- ◎ 株式会社 興農園
人事課長 玉春 恵美子
種苗部 眞弓 尚也
- ◎ 熊本乳業 株式会社
製造課長 山本 幸喜
製造部 瀬戸口 竜朗
- ◎ 熊本製粉 株式会社
人事労務課長 永隅 宗章
人事労務課 佐藤 優宇

【お問い合わせ】 キャリア就職担当
経営学部 就職委員長 木之内 均 内線:5717 TEL 096-386-2831



業界研究

COCプラス事業
地元企業発見
就活推進シンポジウム

2018年

1月29日 月 16:30-18:00

会場：東海大学 熊本キャンパス 新1号館 N1206教室

対象：基盤工学部3年次生を中心としますが、
他学部・他学科どなたでも参加OKです。

熊本県内への就職を考える機会として2年次生、1年次生も

参加企業 是非参加してください！

- 株式会社 KIS
取締役 竹下 力
人事担当 園田 晃弘
- 金剛 株式会社
総務・人事チーム チームリーダー 赤石 健太
システム室システムチーム 中島 義貴
- 株式会社 SYSKEN
総務部 人事部門 内之段 涉
総務部 人事部門 荒木 真由子
- 株式会社 電盛社
ET本部 組込ソフト開発部 担当部長 内山 正巳
総務部 主任 松永 しのぶ

【お問い合わせ】 キャリア就職担当
経営学部 就職委員長 木之内 均 内線:5717 TEL 096-386-2831



業界研究

COCプラス事業
地元企業発見
就活推進シンポジウム

2018年

2月1日 木 14:50-16:20

会場：東海大学 熊本キャンパス 新1号館 N1303教室

対象：経営学部3年次生を中心としますが、
他学部・他学科どなたでも参加OKです。

熊本県内への就職を考える機会として2年次生、1年次生も

参加企業 是非参加してください！

- 株式会社 熊日広告社
総務部長 平島 誠司
第一営業部 係長 青木 一郎
- 株式会社 くまもとDMC
マーケティング本部 マネージャー 野原 大介
管理本部 マネージャー 木下 浩昭
- くまもと新世紀 株式会社 (ホテル日航熊本)
総務部 人事・総務グループ マネージャー 下田 智輝
婚礼部 婚礼グループ 婚礼セールsteam マネージャー 浅井 大士

【お問い合わせ】 キャリア就職担当
経営学部 就職委員長 木之内 均 内線:5717 TEL 096-386-2831

19. 熊本地震からの創造的復興を目指した農業成長戦略

安心・安全な高付加価値農産物の安定生産と6次産業化を通じて熊本地震からの農業の創造的復興を目指す

プロジェクト メンバー

東海大学農学部応用植物科学科 准教授・松浦 朝奈

連携機関等

農研機構、九州沖縄農業研究センター

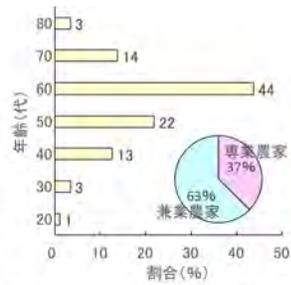
プロジェクトの概要・目的

熊本県の人口は毎年7千人ずつ減少しており、高齢人口率は毎年0.7%増加して平成25年度には27.2%となっている。このような状況から、若者を熊本県の地域や産業に取り込むことは急務の課題である。熊本県には世界農業遺産の阿蘇、名水百選となっている8か所の水源そして多種多様な農産物がある。これらは定住や観光にとって代えがたい価値を持っている。しかしながら、平成26年の熊本地震によって熊本県の農業は広範囲にわたって甚大な被害を受け、農業関係被害額は約1305億円(平成29年4月10日熊本県発表)となった。甚大な被害を受けた阿蘇地域の災害復旧事業は平成29年3月の時点においても1%しか完了していない。

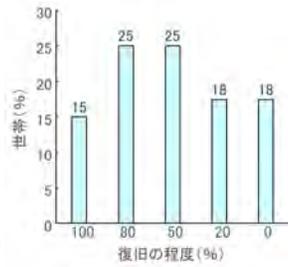
本学には情報交換や共同研究を実施するモニター農家制度がある。モニター農家の特色の一つは、後継者のある環境保全型農業を実施する専業農家が多いことであり、これは農業の成功例といえる。南阿蘇村で被災した東海大学農学部の学生たちは「熊本農業」の復興に携わりたいという学生が多い。販売業者は、環境保全型栽培の農産物や加工品の販売を促進することで熊本地震への復興に貢献したいと考えている。そこで本プロジェクトは学生、農家、販売業者とともに「熊本地震」というピンチを安心・安全な「環境保全型」農牧業の実施・加工・販売を通して熊本県の創生的農業復興のチャンスに変える事業を計画することとした。

具体的な活動内容と成果・効果

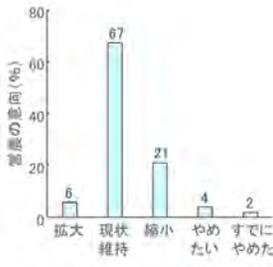
熊本地震の農家被害状況についてのアンケート調査を行った(第1~5図)。菊池と大津の地下水位の変動パターンは、例年、6月上旬まで低下し、10月頃にピークを示すのだが、熊本地震が発生した2016年4月16日を境に地下水位は上昇し、9月頃にピークを迎えた(第6図)。阿蘇地域の農家圃場の土壌の化学分析値は概して適正~少ない範囲であった(第1表)。阿蘇地域のダイズの収量は高原農業研究所における20年間の平均値の43~71%であった(第7図)。阿蘇地域の伝統品種「みさを大豆」は根粒が発達せず植物体の窒素濃度が低いことが明らかになった(第8・9図)。南小国と阿蘇校舎の周年放牧繁殖牛の血液性状から推察された栄養状態には大きな違いはなく、ストレスをあまり受けていないと考えられたが、冬には補助飼料の給与が必要であると考えられた(第10図)。牧野維持に不可欠な早春の野焼きを再開できず、特に南阿蘇村の被害の大きい地域での牧野の再開は困難を極め、放牧農家の廃業により、今後、野焼きの再開は極めて困難な状況にある地域もある(第11図)。全国的にも希少で生息地が限られ絶滅危惧種でもあるシジミチョウ科の1種であるオオルリシジミやキムラグモの生息環境も大きく影響を受けた(第12・13図)。以上の結果は、国外発表1、国内発表4、国内集会の開催1として報告した。熊本地震を農学的な観点から調査・解析し、多くの課題が明らかになった。今後も引き続き調査を継続していきたい。



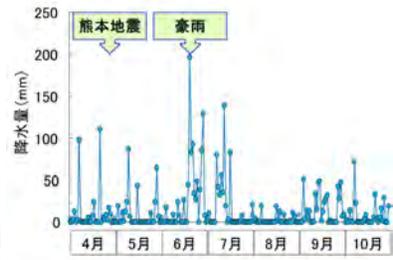
第1図 アンケート対象者の年代と農業形態



第2図 農地の復旧程度



第3図 営農意欲(2017年10月)



第4図 2016年の熊本の降水量



第5図 2016年熊本地震後の豪雨が農地に及ぼす影響

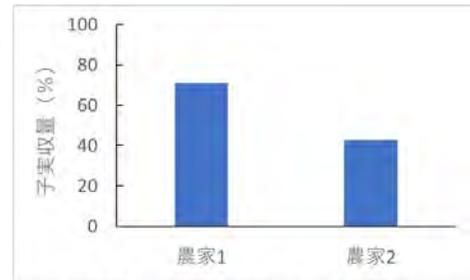


第6図 熊本地震が地下水位に及ぼす影響

第1表 ダイズ圃場の土壌の化学特性

栽培地	pH (H ₂ O)	pH (KCl)	EC (μS cm ⁻¹)	N (%)	C (%)	C/N比	NO ₃ (mg/kg)
農家1	5.47±0.13	5.11±0.15	44.0±4.3	0.45±0.04	6.95±0.58	15.6±0.08	9.1±1.16
農家2	5.31±0.20	4.79±0.07	53.9±7.8	0.51±0.02	8.17±0.54	16.1±0.35	10.0±0.61

平均値±標準偏差



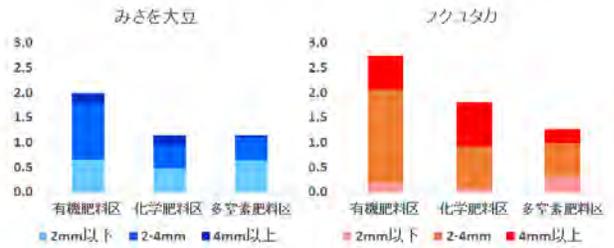
第7図 阿蘇地域の農家圃場のダイズ収量 (%)



第8図 2016年熊本地震後の豪雨が農地に及ぼす影響

根粒の着生数

みさを大豆は根粒のサイズ・数ともに小さい





第10回 南小国における牧場の様子



第11回 阿蘇地域の牧場被害の様子



第12回 オオルリシジミ九州亜種 (環境省絶滅危惧種 IB 類)



第13回 ヒゴキムラグモ

20. 乳酸発酵による熊本県の農畜産物への付加価値の創出と6次産業化への基盤作り

発酵で復興!農畜産物の新たな活用法の提案

プロジェクト
メンバー

東海大学農学部バイオサイエンス学科 講師・木下 英樹

プロジェクトの概要・目的

農業県である熊本は、多くの農畜産物を生産しているが6次産業化などの取り組みは発展途上であり、資源の有効活用の観点からみても「熊本の恵み」を十分に活かしてきれていないのが現状である。一方で乳酸菌は整腸作用、病原菌やウイルスの感染予防作用、抗がん作用、免疫賦活化能、デトックス作用など様々な機能性があり、分布も農産物、畜産物、土壌など幅広い。また、安全性が高く食品等への応用が容易であることも利点として挙げられる。さらに、発酵させることにより、乳酸菌自体の機能性に加え、新たに生み出される機能性が期待できる。そこで本研究では、熊本の農畜産物から乳酸菌を単離・同定し、農畜産物の発酵性試験を行ない新たな発酵食品の提案を行なうと共に、様々な機能性を試験し有用乳酸菌の選抜を行うことで、第1次産業の高付加価値に繋がる研究データの蓄積を行うことを目的とした。

具体的な活動内容と成果・効果

漬物、味噌、オカラなどから23菌株のグラム陽性菌を単離した。それらの乳及び豆乳における発酵性試験を行ったところ、乳に比べ豆乳が発酵に適している事が確認された(表1)。発酵豆乳のDPPHラジカル消去活性測定を行ったところ、全ての菌株で未発酵の豆乳より高い値を示したことより、発酵により抗酸化物質が産生されたと考えられた(図1)。さらにイソフラボンのアグリコン化に関わる菌体の β -グルコシダーゼ活性測定を行ったところ、特にTK35株にて非常に高い活性が見られた(図2)。また、抗菌物質の産生性を確認したところ12菌株で阻止円が見られ、バクテリオシンのような抗菌物質を産生していると考えられた(表2)。16S rDNA配列解析により、17菌株がWeissella属、Streptococcus属、Lactococcus属、Lactobacillus属、Leuconostoc属の乳酸菌であると同定された(表3)。最後に選抜菌において、5種類の食材における発酵性試験を行ったところTK35株が食材全てにおいて発酵を示した(表4)。これらのことから、TK35株を用いた新たな発酵食品の開発が期待される。

表1.乳及び豆乳における発酵性試験

	牛乳	脱脂粉乳	調製豆乳	無糖豆乳
発酵した菌株数 (23菌株中)	4	5	23	23
割合(%)	17.3	21.7	100.0	100.0

乳及び豆乳における発酵性試験の結果
牛乳、脱脂粉乳、調製豆乳、無糖豆乳に各菌株を追加し、pHの変化および凝固性の有無により発酵性を確認した。量は、20gあたり0.5gの菌株と同等量との割合で行った。
牛乳や脱脂粉乳では、5菌株しか発酵しなかったのに対し、豆乳では全ての菌株において発酵が確認された。よって、発酵から導出した菌株数は豆乳への発酵に限定しると考えられた。

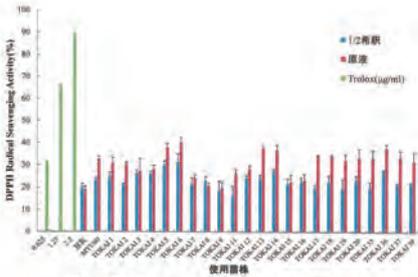


図1.発酵豆乳のDPPHラジカル消去活性測定

豆乳の高い発酵性が見られたので、発酵豆乳の抗酸化能の有無を確認するためにDPPHラジカル消去活性測定を行った。菌株は23菌株、菌株数は5菌株を100%として設定した。その結果、豆乳のみ、過去に報告で抗酸化能が確認された菌株の株、TKAI菌株である。活性率は20~40%と条件的に低かったが、豆乳のみ高い活性が見られたことより抗酸化物質が産生されたと考えられた。

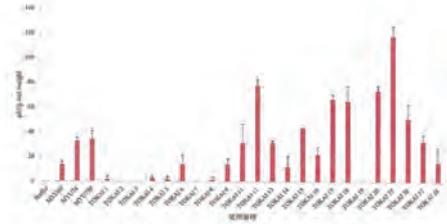


図2.菌株のβ-グルコシダーゼ活性測定

インフロンへのアグロニンに類似するβ-グルコシダーゼの活性測定の結果を示した。
菌株は重要菌株13株のみのユニット活性、検量は使用菌株を示している。
インフロンへのアグロニンが確認されている菌株 (MY40, 74, 75株) をポジティブコントロールとして使用した。
アグロニンとインフロンは酵母への吸収性が異なることが知られており、高い活性を示したTK3株等は互換の発酵によりアグロニンとインフロンが増えたと考えられた。

表2.抗菌活性試験

TOKAI No.	直径(mm)
1	0
2	0
3	0
4	0
5	0
6	0
7	0
8	0
9	0
10	0
11	0
12	0
13	9
14	0
15	0
16	0
17	0
18	0
19	0
20	15
21	0
22	0
23	0

菌が産生する抗菌物質の検出のためペニンシリンカップ法による抗菌活性試験を行った。
培養基には*Lactobacillus delbrueckii* subsp. *bulgaricus* ICM 31027を用いた。その結果、TK3, 4, 5, 20で高い抗菌活性が見られた。またその培養上清を0.5倍、5倍、10倍希釈したところ、菌に強く殺菌作用で活性のある抗菌物質を産生している事が分かった。このことからペニンシリンカップ法の検出結果と一致している菌株が確認された。ペニンシリンカップ法は食品検出として広く使用されており、バイオアグリカルチャー(食品由来の抗菌物質)としての利用の可能性が示された。

菌株名: *Lactobacillus delbrueckii* subsp. *Bulgaricus* ICM 31027

表3.16S rDNA相同性解析

TOKAI No.	菌株名	類似性	菌株名
1	<i>Weissella confusa</i>	100%	オカザ
2	<i>Weissella confusa</i>	100%	オカザ
3	グラム陽性菌	-	
4	グラム陽性菌	-	
5	グラム陽性菌	-	
6	<i>Weissella confusa</i>	100%	
7	<i>Lactococcus lactis</i>	99%	豆乳の発酵菌
8	<i>Streptococcus macedonicus</i>	100%	
9	<i>Streptococcus macedonicus</i>	100%	
11	<i>Lactococcus lactis</i>	100%	
12	<i>Lactococcus lactis</i>	100%	
13	<i>Lactobacillus casei/Lactobacillus paracasei</i>	100%	広くある菌
14	<i>Lactobacillus casei/Lactobacillus paracasei</i>	100%	
15	<i>Pediococcus pentosaceus</i>	100%	
16	<i>Pediococcus pentosaceus</i>	100%	
17	グラム陽性菌	-	5/7の菌株
18	グラム陽性菌	-	
19	<i>Lactobacillus plantarum</i>	100%	
20	<i>Lactobacillus pentosus</i>	100%	
21	<i>Lactobacillus pentosus</i>	100%	5/7の菌株
22	<i>Lactobacillus pentosus</i>	100%	
23	<i>Lactobacillus herbstoniae</i>	100%	広くある菌
24	<i>Lactobacillus casei/Lactobacillus paracasei</i>	100%	

※ Sol. 16613114
菌の同定のため、16S rDNA相同性解析を行った結果を示す。
この結果、27種の菌株がWeissella属、Lactococcus属、Streptococcus属、Lactobacillus属、Pediococcus属などの乳菌である事がわかった。TK3, 4, 5, 17, 18は同定できなかった。
また、TK3, 21は菌株が乳菌でない事が分かった(データは未定)。

表4.選抜菌による熊本産の食材の発酵性試験

使用菌株	トマト			カボチャ			サツマイモ			オカザ			菜の花		
	1/10発酵	1/5発酵	1/2発酵												
コントロール	4.42	4.22	4.31	4.35	4.17	4.21	9.15	5.80	6.66	6.87	3.88	6.42	5.78	4.10	4.10
TOKAI 1	4.21	3.83	3.90	4.14	4.11	4.00	3.84	3.97	4.34	5.13	3.28	4.78	4.32	4.48	4.10
TOKAI 4	4.27	4.19	4.18	4.29	4.21	4.23	3.87	3.93	4.71	4.32	4.38	4.32	4.48	4.48	4.10
TOKAI 6	4.21	4.27	4.17	4.36	4.18	4.13	3.84	4.03	4.88	4.52	4.58	4.78	4.32	4.32	4.10
TOKAI 7	4.24	4.18	4.16	4.25	4.18	4.22	4.19	4.04	4.27	4.43	4.31	4.32	4.32	4.32	4.10
TOKAI 8	4.23	4.27	4.25	4.32	4.22	4.20	4.20	4.05	4.18	4.51	4.28	4.18	4.48	4.48	4.10
TOKAI 9	4.25	4.30	4.18	4.28	4.21	4.23	3.88	3.87	4.53	4.48	4.21	4.22	4.48	4.48	4.10
TOKAI 11	4.22	3.83	3.89	4.08	3.89	3.84	3.83	3.90	4.25	4.78	4.62	4.78	4.48	4.48	4.10
TOKAI 13	3.40	3.18	3.45	3.31	3.32	3.43	3.71	3.88	3.78	4.88	4.88	3.80	3.88	3.88	4.10
TOKAI 16	3.70	3.70	3.85	3.88	3.88	3.78	4.28	4.38	4.77	5.90	6.84	4.88	4.58	4.58	4.10
TOKAI 18	3.41	3.28	3.25	3.21	3.23	3.18	3.48	3.48	2.77	4.58	4.28	4.58	4.58	4.58	4.10
TOKAI 20	3.43	3.58	3.32	3.28	3.24	3.28	3.38	3.41	3.81	4.41	4.28	4.08	4.48	4.48	4.10
TOKAI 25	3.40	3.38	3.38	3.18	3.24	3.28	3.38	3.48	3.78	4.44	4.27	3.81	4.01	4.01	4.10
TOKAI 27	3.31	3.32	3.34	3.45	3.58	3.75	3.87	3.89	4.00	4.20	4.08	4.08	4.08	4.08	4.10

選抜菌を用いて乳や豆乳以外に対する発酵性を確認するために熊本産の食材における発酵性試験を行った。サンプルは5キユーロにかけ12~18時間発酵させてペニンシリンカップ法を用いた。特にTK3株が食材全てにおいて発酵を示した。これらのことから、TK3株を用いた新たな発酵食品の開発が期待される。

連絡先:

熊本創生推進機構 地域連携部門



TEL : 096-342-3463

Email : coc-plus@jimu.kumamoto-u.ac.jp

〒 860-8555

熊本市中央区黒髪2丁目39番1号 黒髪南W3 2F

<http://www.kumamoto-cocplus.jp/>